

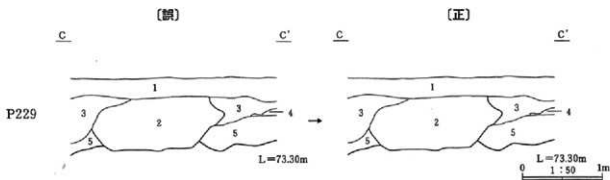
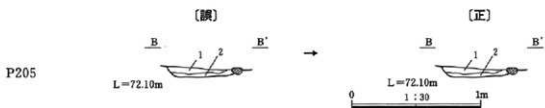
上 増 田 島 遺 跡 下 増 田 常 木 遺 跡

北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域
埋蔵文化財発掘調査報告書第22集

2 0 0 4

日 本 道 路 公 団
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

正誤表



P278 L6

【誤】 まいまいず井戸と共通の特徴を持つ。「まいまいず」

↓

【正】 まいまいず井戸と共通の特徴を持つ。
まいまいず井戸は武蔵野台地とその周辺に多く見

上 増 田 島 遺 跡 下 増 田 常 木 遺 跡

北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域
埋蔵文化財発掘調査報告書第22集

2 0 0 4

日 本 道 路 公 団
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団



下増田常木遺跡遠景(西から) 荒砥川を越えて下増田越波遺跡へと続く



301



346

上増田島遺跡出土龍泉窯系青磁
島遺跡ではこの他にも、土器・
瓦・石塔など多くの中世遺物が
出土している。



379



393



417

上増田島遺跡出土の陶磁器に記された文字



244



081



258



339



254



251



216



405

文字による焼継ぎ印

同じ筆跡で「増田」と読めるものが複数あり、同時に同じ焼継ぎ師に依頼したのであろう。他に数を記したものがあり、預かった製体番号を表していると考えられる。



347

磁器碗の見込みに釘書きで記した屋号



057

すり鉢片口部に施された刻印

この堺産すり鉢は18世紀前半に位置づけられる。

刻印は類例より扁に「上長」か。

序

北関東自動車道は、本県高崎市上滝の関越自動車道から分岐し、茨城県ひたちなか市に至る延長約150kmの高速自動車道であります。その間、群馬・栃木・茨城各県の主要都市及び東北自動車道・常磐自動車道を結び、地域社会の発展に大きな役割を果たすものと期待されております。

この北関東自動車道の高崎～伊勢崎間約15kmの建設に先立って、平成7年6月から36の遺跡で発掘調査が行われましたが、当事業団ではそのうち、31の遺跡の発掘調査を担当しました。また、それらの遺跡の整理事業は平成10年度から実施しており、本書『上増田島遺跡 下増田常木遺跡』は、その発掘調査報告書第22集として刊行するものです。

本遺跡は、前橋市上増田・下増田岡町内に所在し、弥生時代から近世にわたる遺構や遺物が発見されました。特に注目されるのは、上増田島遺跡において多量の中近世遺物、近世の屋敷に伴う溝や井戸が、下増田常木遺跡において弥生時代中期から古墳時代後期の住居及び遺物が発見された事です。今回の調査で明らかになった事実は、地域の歴史を明らかにする上で大いに役立つものと確信しております。

最後になりますが、日本道路公団東京建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会文化課、前橋市教育委員会、地元関係者の皆様には、発掘調査から本報告書刊行まで終始ご協力を賜り、心から感謝の意を表すとともに、発掘調査担当者、作業員及び整理業務担当者、整理補助員の方々の労をねぎらい序といたします。

平成16年1月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 小野 宇三郎

例 言

1. 本書は北関東自動車道(高崎～伊勢崎)に伴う、上増田島遺跡・下増田常木遺跡の発掘調査報告書である。
2. 上増田島遺跡は前橋市上増田町681・682・697・699・700・702・703番地、下増田町1455-1・1455-2・1463-1・1463-2・1474-1・1474-2番地に、下増田常木遺跡は前橋市下増田町1541・1542・1545・1546・1548・1525・1550番地に所在する。
3. 遺跡名は、遺跡が所在する主たる大字名にあたる上増田町・下増田町に、小字名である島・常木を組み合わせた。
4. 発掘調査及び整理事業は、日本道路公团から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が委託を受けて実施した。

5. 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

6. 調査期間

上増田島遺跡

平成10年10月1日～平成11年1月31日

平成11年7月1日～平成12年3月31日 平成11年11月と平成12年1・2月は中断。

下増田常木遺跡

平成9年2月12日～平成9年3月6日

平成10年4月20日～平成10年11月6日

6. 調査組織

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

事務担当

菅野 清 小野宇三郎 原田恒弘 赤山容造 神保侑史 蜂巣 実 渡辺 健 住谷 進

水田 稔 小淵 淳 坂本敏夫 中東耕志 西田健彦 笠原秀樹 小山建夫 須田朋子 吉田有光

柳岡良宏 岡島伸昌 宮崎忠司 片岡徳雄 大沢友治 吉田恵子 並木綾子 今井もと子 内山佳子

若田 誠 狩野真子 佐藤美佐子 本間久美子 北原おかり 本地友美 松井美智子 菅原淑子

山口陽子 松下次男 浅見宜記 山本正司 吉田 茂

調査担当

上増田島遺跡 飯田陽一 間庭 稔 蜂須賀里佳 勢藤曉美 齊藤幸男 前田和昭

下増田常木遺跡 飯田陽一 新倉明彦 蜂須賀里佳 須田貞崇 齊藤幸男

7. 整理主体

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

8. 整理期間

上増田島遺跡 平成14年4月1日～平成14年11月30日

下増田常木遺跡 平成14年12月1日～平成15年7月31日

9. 整理組織

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

事務担当

小野宇三郎 吉田 豊 住田永市 神保侑史 萩原利通 巾 隆之 右島和夫 植原恒夫 西田健彦
相京建史 国定 均 小山建夫 竹内 宏 高橋房夫 須田朋子 吉田有光 森下弘美
阿久澤玄洋 田中賢一 今井もと子 内山佳子 若田 誠 佐藤美佐子 本間久美子 北原かおり
狩野真子 松下次男 吉田 茂

整理担当

齊藤幸男 佐藤美代子 小野寺仁子 戸神晴美 萩原光枝 小淵トモ子 南雲繁子 廣津真希子
嶋崎しづ子 小池 緑

10. 本報告書作成の担当者は次のとおりである。

編 集 齊藤幸男

執 筆 「調査に至る経緯と経過」 中東耕志
まとめ「中世瓦について」 大江正行
自然科学分析は本文中に執筆者を記載。
上記以外 齊藤幸男

遺構・遺物図面整理、図版作成等

佐藤美代子 小野寺仁子 戸神晴美 萩原光枝 小淵トモ子 南雲繁子 廣津真希子
嶋崎しづ子 小池 緑

遺構写真 飯田陽一 間庭 稔 新倉明彦 蜂須賀里佳 勢藤映美 須田貞崇 齊藤幸男 前田和昭

遺物写真 佐藤元彦

遺物保存処理 関 邦一 土橋まり子 横倉知子 小村浩一 高橋初美 湯浅美枝子 大野谷子

機械実測 田中富子 富沢スミ江 伊東博子 岸 弘子 田中精子 酒井史恵 廣津真希子

遺物観察指導

弥生土器 大木伸一郎 中世以降の土器・陶磁器 大西雅広 瓦 大江正行 板碑 新倉明彦

石鏃 麻生敏隆 古代墨書 高島英之(以上(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団)

近世以降墨書 小澤賢二(群馬県立文書館)

11. 分析・委託

空中写真撮影・測量 技研測量設計(株)

遺構図・遺物図トレース (株)測研

樹種同定 (株)パレオ・ラボ

テフラ分析・プラントオパール分析 (株)古環境研究所




石材鑑定 飯高静男(群馬地質研究会会員)

12. 本遺跡出土遺物及び記録資料の一切は(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団で保管している。

13. 発掘調査及び本書の作成にあたり、下記の諸氏並びに機関に有益な指導、助言、協力を賜った。記して感謝の意を表したい。(敬称略)

赤熊浩一 石村崇史 植田弥生 生方英雄 木下裕雄 小林康幸 小峰 篤 近藤 薫 藤見和広
角田清美 富岡照民 福田貫之 堀内秀樹 R.S.mona 青梅市教育委員会 東京大学埋蔵文化財調査室
前橋市教育委員会 蓮華院

凡 例

- 調査区には国家座標(日本平面直角座標系第Ⅸ系)に基づき5m間隔のグリッドを設定した。X=74.000km台、Y=-69.000~-70.000km台である。
- 北方位は真北を示す。
- 本書で使用した地図は以下のとおりである。
「上増田島・下増田常木遺跡位置図」20万分の1地勢図「宇都宮」「長野」
「遺跡分布図」2万5千分の1地形図「大胡」「伊勢崎」
- セクション図・エレベーション図中の石は斜線で示す。また、土器には「P」と記した。
- 遺構図・遺物図の縮尺は原則として以下のとおりである。
住居・掘立柱建物・土坑 1:60 炉・竈 1:30 畚・道 1:80~100 水田 1:200 溝 1:60~200
焙烙・鉢・大甕・板碑・埴輪・礫石器・木器 1:4 石臼・石塔・大型土器・大型木器 1:6 金属製品 1:2
銭 1:1 石鏃 4:5 その他の遺物 1:3
- 遺構図・遺物図で使用したスクリーントーンは以下のとおりである。
焼土・土器の赤色塗彩・石製品磨面  葉付着部分  羽口の還元部分 
- 遺構図中の「P」はピット、「●」は土器、「▲」は金属製品、「■」は石器・石製品、「△」は鉄滓、「土」は土坑、「井」は井戸、「住」は住居、「掘」は掘立柱建物、「柱」は柱列を表す。
- 遺物写真の倍率は原則として遺物図の縮尺に近づけたが、この限りではない。
- 本文の記載方法は以下のとおりである。
「位置」はその遺構の含まれる全グリッドを記した。グリッド名は5mグリッド南東の国家座標下3桁をX-Yの順に記した。「重複」は重複する遺構の新旧関係を「旧→新」で示した。「→」の無いものは新旧関係が不明であることを示す。竪穴住居の「形状」は、方形・隅丸方形・長方形・隅丸長方形・台形に分類して記した。「規模」は遺構確認面の先端で計測した。土坑等は長軸×短軸×深さ、または径×深さで表した。竪穴住居の「面積」は下端を1:30図上でプランメーターにより3回計測した平均値を記した。方位は炉付設竪穴住居・掘立柱建物・土坑は長軸の、竈付設竪穴住居は竈(東竈)が付設された壁の、それぞれ真北から右回りの角度を記した。
- 土層注記の含有物の表現は、「微量」(<5%)「少量」(5<15%)「やや多量」(15<30%)「多量」(30<50%)「粒」(<2cm)「ブロック」(2cm<)を目安とする。
- 遺物観察表の記載方法は以下の通りである。
出土位置の数字は竪穴住居床面もしくは遺構底面からの高さを表し、単位は「cm」である。ピットからの出土は「P」と表記した。計測値の単位は「cm」「mm」とし、残存のものは「+」を、推定のもは()内に記した。胎土中の砂粒はその径により「細砂」(<0.5mm)「粗砂」(0.5<2.0mm)「細礫」(2.0<5.0mm)を目安とする。
- 本文中で使用したテフラの記号は以下のとおりである。
浅間C軽石 As-C (3世紀末~4世紀初) 榛名二ツ岳浅川テフラ FA (6世紀初頭)
榛名二ツ岳伊香保テフラ FP (6世紀中葉) 浅間Bテフラ As-B (天仁元年・1108年)
浅間柏川テフラ Kk (大治三年・1128年) 浅間A軽石 As-A (天明三年・1783年)

13. 本報告書の遺構名称は、発掘調査時に付したものを原則として使用しているため欠番がある。また、重複するものや遺構の種類を変更したもの等については、発掘調査時の名称を次の通り変更している。

上増田島遺跡

1号敷石→A区1号集石土坑 2号敷石→A区2号集石土坑 3号敷石→A区3号集石土坑
灰掻き坑→A区A号土坑 A区138号土坑→A区3号井戸 A区59～62号土坑→A区2号掘立柱建物
A区40・45・90号土坑→A区1号柱列 A区98・99・110号土坑→A区2号柱列
A区27・30・34号土坑→A区3号柱列 B区2号溝→B区58号土坑 B区3号溝→B区59号土坑
C区2号溝・D区10号溝→D区10号溝 D区168土→D区1号井戸 D区15号溝→D区399号土坑
D区3号ピット→D区59号土坑 D区70号ピット→D区400号土坑

下増田常木遺跡

C区砂層→C区包含層 A区4号溝・B区道下溝A→2面A号溝 B区道下溝B→B区2面B号溝
10号土坑・12号土坑→10号土坑

目 次

口 絵
序
例 言
凡 例

発掘調査と遺跡の概要

1. 調査に至る経緯と経過…………… 1
2. 遺跡の地理的歴史的環境…………… 3
3. 基本層序……………10

上増田島遺跡

I C・D区第1面の遺構と遺物

1. 掘立柱建物……………15
2. 溝……………16
3. 土坑……………18
4. 柱列……………21

II A・B区の遺構と遺物

1. 掘立柱建物、柱列……………23
2. 溝……………26
3. 井戸……………43
4. 畠、道……………57
5. 土坑……………59
6. 遺構外出土遺物……………99

III C・D区第2面の遺構と遺物

1. 掘立柱建物、柱列……………102
2. 溝……………109
3. 井戸……………118
4. 土坑……………126
5. ビット……………180
6. 遺構外出土遺物……………182

下増田常木遺跡

1. 住居……………192
2. 掘立柱建物……………222
3. 水田……………222
4. 畠……………227
5. 道、溝……………227
6. 土坑……………242
7. 包含層……………246
8. 遺構外出土遺物……………253

自然科学分析

1. 下増田常木遺跡の土層とテフラ ……257
2. 下増田常木遺跡のプラント・オパール
分析……………264
3. 上増田島・下増田常木遺跡出土木製品
の樹種同定……………272

まとめ……………277

写真図版

報告書抄録

付図

- 上増田島遺跡C・D区第1面全体図
(1/300)
上増田島遺跡A・B区、C・D区第2面全体図
(1/300)
下増田常木遺跡中近世遺構全体図
(1/400)
下増田常木遺跡古代以前遺構全体図
(1/400)

発掘調査と遺跡の概要

1. 調査に至る経緯と経過

上増田高遺跡

本遺跡の発掘調査は、平成10年4月1日付け群馬県教育委員会と本事業団の間で締結された、「北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域埋蔵文化財発掘調査」についての委託契約に基づいて、高崎起点 STA78・80から STA80・40付近、約160mの間を調査対象地として実施することになった。また、本遺跡以西の地点については、試掘調査を実施したが遺構の存在は確認されなかった。

本遺跡の発掘調査対象面積は8,250㎡であり、中世から近世の屋敷跡等、文化層1面が想定された。

発掘調査開始以前の平成10年9月の日本道路公団高崎工事事務所と群馬県教育委員会文化財保護課(現文化課)、本事業団の三者定例会議に於いて、同

年10月からの調査着手が計画された。なお、高崎起点 STA81前後の地点には遺構等の確認はできなかったため、調査事務所用地及び排土置き場とした。平成10年10月1日から既に用地買収が終了していた STA79・60から STA80・40付近をA・B・C区として着手し、平成11年1月31日で他遺跡の調査との調整もあり、本遺跡の調査は中断した。

第Ⅱ期の発掘調査は平成11年7月から再開し、同年12月31日(11月は中断)まで継続し、家屋等のあった最も西側の地点をD区とし調査を実施した。さらに、側道等の付帯工事の関連もあり、第Ⅲ期調査として平成12年3月に最終調査をおこない、本遺跡の調査は平成11年度で全て終了した。

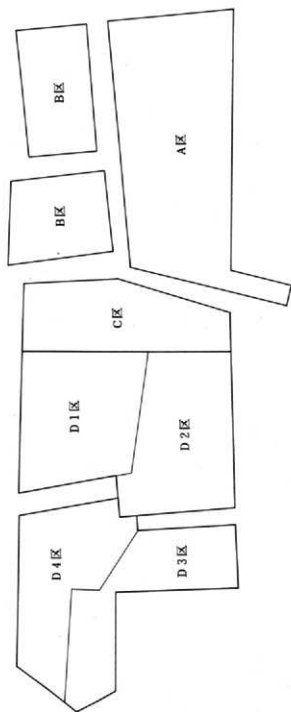
下増田常木遺跡

群馬県教育委員会文化財保護課(現文化課)では、日本道路公団高崎工事事務所によって平成9年3月下旬から荒砥川右岸の橋梁工事及びボックスカルバートに係わる地域の工事が予定されたことにより、平成8年12月中旬に事前の確認調査を実施した。その結果、古代水田の存在が予測され、本範囲をA区として緊急先行調査が計画された。緊急調査範囲は高崎起点 STA88・15から STA88・55付近、約40mの間で、調査対象面積約1,200㎡であった。本遺跡全体の調査範囲は高崎起点 STA86・50から STA88・55付近の約200m間、調査対象面積8,974㎡であり、弥生時代から平安時代の集落、及び古墳時代と平安時代、近世の水田・畠等、3面から4面の文化層が推定さ

れ、延べ面積として約15,322㎡の事業量が想定された。

荒砥川右岸の橋梁工事及びボックスカルバートに係わる地域の緊急先行調査は、伊勢崎インターチェンジ建設予定地の舞台遺跡の調査を一部中断し、隣接地の畑地を借地し調査事務所とするともに、表土除去及び遺構確認について、一部土木作業員を業務委託し、平成9年2月中旬から調査に着手した。本部分の調査は同年3月で終了した。

さらに、A区以外の地点については、用地解決状況の関係もあり平成10年4月から開始した。この第Ⅱ期調査は、B～D区に調査範囲を区分し、平成10年11月上旬に全て終了した。



上増田島遺跡調査区図



下増田常木遺跡調査区図

2. 遺跡の地理的歴史的環境

上増田島・下増田常木両遺跡は前橋市上増田町・下増田町に所在する。伊勢崎市との境に近い市域の南東部付近、市街地からおおよそ10kmほどに位置し、東に赤城山から南流する荒砥川、西に桃ノ木川及び広瀬川が流れる。遺跡周辺の地形は、赤城山麓・広瀬川低地帯・前橋台地に区分される。赤城山麓は、成層火山である赤城山の南斜面で、主に火山砕屑物が堆積し、関東平野に接する平均勾配2°程の緩い傾斜面である。前橋台地は、利根川が赤城・榛名両山麓の間から関東平野に流れ出したところに広がる緩傾斜の台地である。赤城山麓と前橋台地の間には、前橋市関根町付近から佐波郡境町付近まで、幅約3km、長さ約30kmの細長い沖積低地がのびている。これが広瀬川低地帯で、旧利根川の流路と考えられる。現在は、低地帯内を先述の広瀬川・桃ノ木川・荒砥川の他、小河川が幾筋も流れており、かつては網状流を成していたと推定される。そのために低地帯内は旧河川及び現河川の自然堤防、後背湿地、旧河川の中州など複雑な微地形が発達している。本遺跡も、高遺跡及び常木遺跡集落は旧河川の中州に、常木遺跡As-B下面より検出の水田・近代の水田は後背湿地に立地している。ただし、弘仁9年(818年)の洪水層下面より検出された常木遺跡B区水田は集落と同じ中州に立地し、さらに微少な地形を利用していたと思われる。

広瀬川低地帯内の遺跡は、密に分布する赤城山麓と前橋台地に比べて多くなく、利根川が変流したとされる中世応永年間から天文年間以後に、人々の本格的な活動が始まったと考えられた時期もあった。

しかし、1984年の『青柳寄居遺跡』の報告により、低地帯内における古代からの遺跡の存在は確実視されるようになる。その後、中原遺跡群、今井白山遺跡、笈井八日市遺跡、笈井中屋敷遺跡などの発掘調査が行われ、広瀬川低地帯は遅くとも縄文時代後期以降には人々の居住・生産の重要な場であったことが明らかになった。遺跡の分布を概観すると、

ほぼ全ての微高地上に遺跡が存在し、かつ前橋台地上の遺跡の動きと密接に関連していると考えられる。

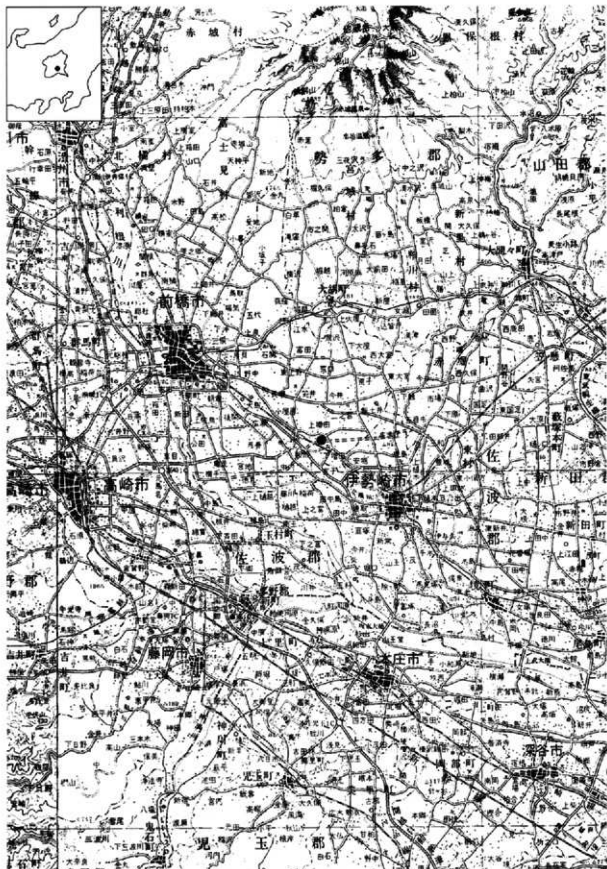
周辺でもっとも古い人々の足跡は、荒砥北三木堂遺跡(No.9)出土の槍先形尖頭器で、旧石器時代1万2千年前のものである。これに続く縄文時代では、県央部で初めての発見となった笈井八日市遺跡(No.6)出土の微隆起線文土器がある。この遺跡は草創期から後期まで続く拠点集落であることが明らかとなった。小島田八日市遺跡(No.5)でも草創期の土器片が出土している。

弥生時代に入ると活動が一旦途絶え、中期後半から徐々に集落が形成される。赤城山麓を南流する小河川沿いに分布する傾向が見られ、これら小河川が作る谷筋を水田化していったと考えられる。西太田遺跡(No.54)では低地帯に臨む台地上に中～後期の集落が形成され、中原遺跡群(No.32)や下増田越渡IV遺跡(No.42)でも後期樽式土器片が出土し、低地帯への進出を始めたことを窺わせる。

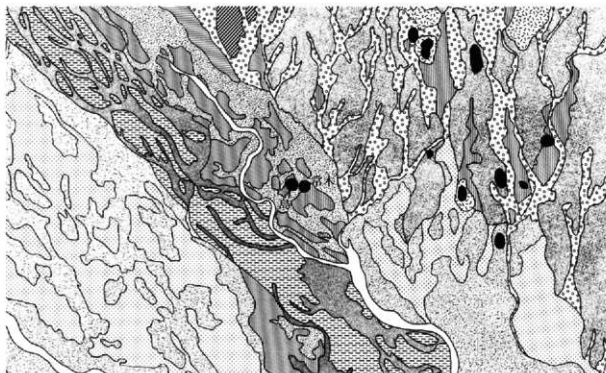
古墳時代も前期のうちは弥生時代同様の集落立地を見せる。今井白山(No.7)・荒砥高原(No.36)・中組・西太田・萩原II遺跡(No.45)などで数件の住居が検出されており、小規模ながら検出軒数は増加している。ただ、低地帯を西に越えた波志江中野面遺跡(No.50)や前橋台地上の徳丸仲田遺跡では10軒単位の検出であり、低地帯の集落はこれらに比べて明らかに弱い展開である。生産遺構では越渡III(No.43)・IV遺跡の水田が挙げられる。大型古墳は西5kmに位置する前橋台地東端の前橋八幡山古墳・前橋天神山古墳がある。周辺では下増田越渡(No.41)・中組・荒砥北原遺跡(No.3)などで方形周溝墓が発見されている。

中期以降になると、前期から続く中原遺跡群・中組遺跡・西太田遺跡などのほかに笈井中屋敷遺跡(No.8)などでも集落が形成され、低地帯内及びその周辺で強い集落展開が成されたことがわかる。常木遺跡の南東2kmに位置するお富士山古墳(No.55)と北

発掘調査と遺跡の概要



上増田島遺跡・下増田常木遺跡位置図



遺跡周辺の地形分類図 (『群馬県史』通史編1より作成)



上増田町・下増田町小字図 (『木瀬村誌』より作成)

発掘調査と遺跡の概要

2 kmに位置する今井神社古墳(No22)は5世紀後半に築造された大型の前方後円墳であり、一帯の開発はこれら古墳の被葬者の活動に起因すると考えるのが自然である。笄井八日市遺跡で発見された5世紀後半の大きな溝は、いわゆる豪族居館の可能性が指摘されており、今井神社古墳と関連して低地帯周辺の開発拠点であったとの推測が立つ。また、低地帯内の微高地や周辺の台地上には荒砥宮川遺跡(No33)などのように小円墳が築造される。

奈良・平安時代の集落も引き続き安定している。当時、赤城山南麓一帯は勢多郡に属し、前橋市上西原遺跡が勢多郡衙であると推定されている。郡内には深田・田邑・芳賀・桂堂・真壁・深溪・時沢・藤沢の8郷が置かれていた。二之宮洗橋遺跡(No26)からは「芳郷」の墨書土器が出土し、この遺跡周辺が芳賀郷であったと考えられる。このことにより、増田町付近も芳賀郷であった可能性がある。

中原遺跡群では方形に区画された水田が1 km四方にわたって確認されたほか、多くの遺跡で主に平安時代の水田が検出されている。水田周辺の微高地には集落が立地し、低地帯一帯が穀倉地帯を形成していたことが窺える。

中世の遺跡はあまり多くなく、人々の暮らしぶりを遺跡から追うことはなかなか難しい。笄井中屋敷・二之宮宮下東(No29)などで屋敷に伴う溝や建物などが確認している程度である。

文献では、『上杉氏上州所領目録』に増田村周辺に位置する大嶋村・小嶋田村・字坪井村・小屋原村が、『長楽寺文書』に野中村が記述されており、これらの村は鎌倉若しくは南北朝まで遡れるものの、増田村の記述はない。ただ、町内には以下に挙げる石造物が残されており、

上増田町 宮原薬師堂 阿弥陀如来座像 南北朝
上増田町 厄除地藏尊 阿弥陀如来座像 室町
上増田町 近戸神社 輪廻塔 室町末期
下増田町 蓮花院 赤城塔 室町初期
下増田町 今宮八幡宮 輪廻塔 室町末期
これらを造り、祀った人々が生活していたことは確

実である。周辺には16世紀の新土塚城(No51)・今井城(No4)があり、増田村内にも堀と土塁が現存する16世紀の下増田屋敷がある。現在も大姓の北爪氏の屋敷であり、中屋敷・元屋敷・明屋敷の小字が残る。また、字中屋敷にはやはり現在も大姓である深沢一族の屋敷があったとも伝えられており、今宮八幡宮本殿裏の寛永元年建立石宮に深沢一族4名の名が刻まれている。

近世の増田村は、寛文八年(1668年)の『上野国郷帳』によれば石高1493.2石(田方806.6石 畑方686.6石)で、勢多郡内でも大村に属していた。元禄一四年(1702年)の『郷帳』では上増田村・下増田村と記載され、分村されている。石高もそれぞれ746.6石と正確に二分されている。この間になぜ分村が行われたか理由ははっきりしないが、字鳥や字久薬師の複雑な境界をみると石高を二分することに苦心した様子が想像できる。なお、天明二年(1782年)の上増田村の人口は男379 女352 戸数176であった。

領主については鎌倉時代の資料はないが、
1580~1616年 大胡城主牧野氏
1616~1749年 前橋城主酒井氏
1749~1768年 前橋城主松平氏
1768~1867年 前橋陣屋 上増田村
1768~1867年 佐野城主堀田氏 下増田村
1868年 前橋城主松平氏 上・下増田村
と変遷した。分村後しばらくして、下増田村は飛び地となったことがわかる。この時期に当たる天保五年(1834年)の『郷帳』には上増田村 約1069石、下増田村 約1035石と、江戸時代後期における新田開発によって領主に関わらず共に石高を順調に伸ばしていった。

しかし、地形的に洪水の被害に悩まされていたように、享和三年(1803年)に下増田村から出された「定免願」には、広瀬川・桃木川・荒川・宮川の合流点付近で水害によって川砂が流れ込んだり、作土が流されたりしたこと、天明六年の水害で川欠けが多いことなどを年貢の減免理由に挙げている。また、天明三年の浅間山噴火による砂降り以後、変地して

2. 遺跡の地理的歴史的環境

取壊が減ったことも挙げられている。これらは、高遺跡の土層が砂質であることや、As-Aを密に含む遺構が存在することと符合する。

群馬県教育委員会『群馬県の中世城館跡』1989年
群馬県史編さん委員会『群馬県史』資料編8 1988年
前橋市史編さん委員会『前橋市史』第一・三・五巻 1971・1975・1984年
群馬県史編さん委員会『群馬県史』通史編1 1990年
木瀬村誌編纂委員会『木瀬村誌』1995年

【引用文献】

勢多郡誌編纂委員会『勢多郡誌』1958年



遺跡分布図

発掘調査と遺跡の概要

周辺遺跡一覧表

No	遺跡名	概 要	文 献
1	上増田島遺跡	本報告	本報告書
2	下増田島遺跡	本報告	本報告書
3	荒砥北原遺跡	縄文前～中期住居6・土坑6、古墳前期方形周溝墓4、古墳中～後期住居2、古墳後期円墳1、奈良・平安住居3、時期不明住居1・土坑6・溝7・竪立柱建物1・榎柱穴群	『荒砥北原遺跡・今井神社古墳群-荒砥背溝遺跡』86 群像文
4	今井城	中世城跡	『群馬県古城邑址の研究』上巻「71 山崎一」
5	小島田八日市遺跡	縄文土坑9、縄文草創～後期土器・石器、古墳溝1、古墳後期円墳1、中世住居2・竪穴状遺構1・墓1・井戸44・溝57	『小島田八日市遺跡』94 群像文
6	笈井八日市遺跡	縄文土坑2、古墳中期住居6・古墳1・方形区画溝、平安水田 時期不明溝17・土坑34・井戸3・道路状遺構	『笈井八日市遺跡』94 群像文
7	今井白山遺跡	縄文加曾利E3住居1、縄文土坑2、弥生土坑2、古墳前期住居1、古墳中期住居4、古墳後期住居20、古墳土坑1、奈良住居15、平安住居7、時期不明住居5・土坑41・溝4	『今井白山遺跡』93 群像文
8	笈井中屋敷遺跡	弥生土器集中箇所1、古墳後期～平安住居43・溝4、中世土坑墓4・井戸1・溝1・堀、時期不明溝13・土坑60	『笈井中屋敷遺跡』97 群像文
9	荒砥北三木堂遺跡	旧石器、縄文土坑a住居4・土坑1、溝磯c住居1、縄文住居2・土坑21・竪石、弥生中期住居5、古墳前期円形周溝墓1、古墳中期住居61・土坑6、古墳後期住居1・円墳1、奈良・平安住居10、平安以前土坑6、時期不明竪立柱建物3・溝2・溝土1	『荒砥北三木堂遺跡』1・91-92 群像文
10	熊谷遺跡群	縄文ピット2、弥生住居2、古墳時代住居104、奈良・平安住居62・ピット2・井戸4・溝5、中世墓群・ピット1・竪石4	『熊谷遺跡群』81 『熊谷遺跡群』82 前橋市教委
11	荒砥大日塚遺跡A区	古墳後期住居7、奈良住居12、奈良以前土坑1、平安住居3・竪穴状遺構1・井戸1・水田、時期不明住居2・溝7・土坑12	『荒砥大日塚遺跡』94 群像文
12	荒砥大日塚遺跡B区	古墳後期住居2、奈良住居2・土坑1、平安水田、近世井戸2・溝6、時期不明土坑4・溝列3	『荒砥大日塚遺跡』94 群像文
13	新谷遺跡	古墳前期住居1	『前橋市城南地区の土器使用遺跡』68 荒砥安楽会・前橋市教委
14	荒砥上ノ坊遺跡	縄文土坑b住居3、弥生末～古墳初住居32・土坑3・方形周溝墓6・中世伏遺構群4、古墳中～後期住居29・土坑1、奈良住居57、平安住居100・土坑4・溝戸2、中世後期竪立柱建物18・溝41・井戸31・土坑196・竪穴状遺構2・火葬墓4	『荒砥上ノ坊遺跡』1・9・10・91-96・97-98 群像文
15	元原堂遺跡	古墳～平安住居29、女塚	『舞台・西大塚山』91 県教委
16	岩出遺跡	平安住居1・溝2	『上城1・天神』90 県教委
17	女塚	中世水田跡	『女塚』84 群像文
18	東道	中世道	『歴史の道調査報告書』16「83 県教委
19	今井道上遺跡	古墳中～後期住居34、奈良・平安竪立柱建物1・方形区画溝2、中世竪穴状遺構6、時期不明竪立柱建物6・溝列1	『今井道上遺跡』94 群像文
20	荒砥洗橋遺跡	古墳後期住居24、奈良住居23・井戸1、平安住居29・水田、中世井戸1、近世溝1、時期不明竪立柱建物5・柱列5・溝4・土坑18	『荒砥洗橋-荒砥宮西遺跡』89 群像文
21	荒砥宮西遺跡	古墳後期住居9、奈良住居7、平安住居4、時期不明井戸1・溝4・土坑10	『荒砥洗橋-荒砥宮西遺跡』89 群像文
22	今井神社古墳	古墳中期前方埴間墳	『荒砥宮西遺跡-荒砥宮原遺跡』83 群像文
23	今井神社古墳群	古墳前期住居2、古墳後期円墳3、時期不明溝2	No.3に同じ
24	今井道上・道下遺跡	縄文前～後期土器・石器、古墳前期住居3・竪穴1、古墳後期住居45・竪立柱建物1、井戸2、奈良・平安住居15・小竪治1、方形区画溝2、古墳～平安竪立柱建物10・溝列2・柱土築築形8・井戸11、中世後期竪立柱建物4・溝7・井戸4・墓2、時期不明土坑195	『今井道上・道下遺跡』95 群像文
25	二之宮谷地遺跡	古墳後期住居9・土坑1、古墳後期～平安住居2・竪立柱建物2・水田7・溝井3・溝2、古墳～奈良住居1、奈良～平安住居1、奈良住居24、平安住居44・水田、時期不明住居4・溝28・井戸30・土坑85	『二之宮谷地遺跡』94 群像文
26	二之宮洗橋遺跡	縄文土器、奈良・平安住居12・竪立柱建物2・水田・墨書土器多数、中世後溝・土坑	『二之宮洗橋遺跡』94 群像文
27	二之宮千足遺跡	縄文陶器1・陥穴3・土坑12・竪石7、古墳水田5面・溝井1・水田・水路・祭祀・水堀遺構1・旧河道、奈良・平安住居27・小竪治1・竪穴遺構2、中世井戸1・墓、近世溝井2・溝	『二之宮千足遺跡』92 群像文
28	二之宮宮下西遺跡	旧石器土坑、縄文陥穴、古墳後期～平安住居65・水田、中世館	『二之宮宮下西遺跡』95 群像文
29	二之宮宮下東遺跡	縄文山上層～加曾利E3土器・石器、陥穴1・礎石土坑1、弥生中～前期土器、古墳時代住居約20・木製品、奈良・平安住居約30・水田・墓1・井戸3、中世館・堀・溝19・竪穴状遺構12・墓4・井戸38・土坑約350・水田・堀	『二之宮宮下東遺跡』94 群像文
30	二之宮宮東遺跡	縄文早～前期土器・石器、古墳土器、奈良・平安住居23・小竪治2・水路53・水田2、中世溝4・礎石建物1・堀溝2・井戸4、近世・近世代竪立柱建物26・井戸54・墓・竪石塚、他1・墓1	『二之宮宮東遺跡』94 群像文
31	飯土井上組遺跡	古墳前～中期住居4、平安住居2、中・近世溝、近世土坑墓1、時期不明縄文遺構1	『飯土井上組遺跡-波江中峰岸遺跡』95 群像文
32	中原遺跡群	古墳前期土器片、古墳前～中期住居2、古墳中期住居6、古墳中～後期住居7、古墳後期住居13・88伏遺構・溝1、古墳後期以降溝7・土坑1、奈良～平安住居4、平安以前竪立柱建物、平安住居10・水田・竪穴状遺構2面、溝20・川1、平安以降溝2・井戸3・土坑496・竪石1、中世以降竪立柱建物4・溝23、近世溝1・井戸4、近世以降溝池1	『中原遺跡群』I「93 『中原遺跡群』II「94 『中原遺跡群』IV「95 『中原遺跡群』V「96 前橋市埋蔵文化財発掘調査室
33	荒砥宮川遺跡	古墳前期住居15・高・竪穴状遺構1、古墳中～後期住居9・円墳4、古墳後期竪立柱建物1、奈良住居1、平安住居1・水田、平安以前道路状遺構1、中世以降土坑26・井戸13・溝2	『荒砥宮川遺跡-荒砥宮原遺跡』93 群像文
34	荒砥宮原遺跡	古墳前期住居3、中～期円墳2、時期不明溝4・土坑1	『荒砥宮川遺跡-荒砥宮原遺跡』93 群像文

2. 遺跡の地理的歴史的環境

35	寛紙天之宮遺跡	古墳中～後期住居73、奈良住居16、平安住居84・水田・溝井4、時期不明住居33・井戸4・溝3・土坑201	『寛紙天之宮遺跡』'88 群裡文
36	寛紙島原遺跡	弥生中期住居2、古墳前期住居8・方形周溝墓、古墳中期住居5、古墳後期住居6、奈良住居11、平安住居13・水田、時期不明住居1・掘立柱建物1・溝14・土坑13	『寛紙島原遺跡』'80 群裡文
37	寛紙青柳遺跡	奈良住居3・土坑2、平安住居1、時期不明竪穴状遺構2・土坑9・井戸4・溝状遺構7	No3に同じ
38	寛紙青柳Ⅱ遺跡	縄文土坑1、古墳後期住居12、奈良・平安住居3・竪穴状遺構1、中世後溝1・井戸1	『寛紙青柳Ⅱ遺跡』'96 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
39	東山遺	古代溝	No18に同じ
40	下増田常木Ⅱ遺跡	平安水田、近世以前溝7・道1・土坑3	No42に同じ
41	下増田越波遺跡	古墳時代方形周溝墓3・水田2面・溝、奈良・平安住居52・水田、中近世井戸・溝	『下増田越波遺跡』'03 群裡文
42	下増田越波Ⅱ遺跡	縄文石器、加曾利B2・安行3b～3c土器片、榑式土器片、古墳前期水田・溝2、古墳前～中期方形周溝墓1、古墳中期水田、9c前半以前掘立柱建物2・溝6・道路状遺構1、平安以前溝6、平安住居8・水田2面・高・溝6・土坑9、9c～中世土坑20、中世井戸2、中世以降土坑15・小ビット15、近世以前溝7・道1・土坑3、時期不明住居1、埴輪片、中世中国銭	『徳丸高塚Ⅱ遺跡・徳丸仲田Ⅱ遺跡・西善尺町Ⅱ遺跡・下増田常木Ⅱ遺跡・下増田越波Ⅱ遺跡』'99 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
43	下増田越波Ⅲ遺跡	古墳前期水田・溝3・窰井1、古墳中期水田・溝4、古墳後期水田・高、平安住居18・掘立柱建物4・水田2面・溝2・土坑24、中世以降溝8	『橋手湯田Ⅱ遺跡・徳丸仲田Ⅱ遺跡・西善尺町Ⅱ遺跡・下増田常木Ⅱ遺跡・下増田越波Ⅱ遺跡』'98 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
44	萩原遺跡	縄文石器、古墳～平安住居59・掘立柱建物2、平安水田・溝15、近世井戸4、近世以降の墓坑・土坑	『年報』16・17・18・19・'97・'98・'99・'00 群裡文
45	萩原Ⅱ遺跡	古墳前期住居1、古墳後期住居2、平安住居4・溝1・水田、時期不明住居1・土坑5	『萩原Ⅱ遺跡』'98 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
46	萩原Ⅲ遺跡	平安時代水田、時期不明遺物分布範囲2	『新井大田Ⅱ遺跡・萩原Ⅱ遺跡』'98 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
47	新井大田岡遺跡	古墳水田・溝、平安住居4	『年報』16・'97 群裡文
48	新井大田岡Ⅱ遺跡	古墳溝1、平安溝1・水田、近世溝1	No45に同じ
49	中野塚敷	中世塚敷	No4に同じ
50	波志江中野面遺跡	古墳前期住居28・掘立柱建物2・前方後方形周溝墓1・方形周溝墓18・井戸2・溝10・土坑、奈良・平安住居52・掘立柱建物6・井戸4・溝10・水田・土坑、中世土坑墓1、近世井戸17・溝35・土坑	『波志江中野面遺跡』(1)(2) '01 群裡文
51	新上塚城	中世城館	No4に同じ
52	寛紙原遺跡	縄文中期住居13(敷石2)・土坑1、弥生中期住居2・竪穴状遺構3、弥生後期住居3、古墳前期住居10、古墳Ⅱ墳1、時期不明土坑4	『寛紙原遺跡・赤石城址』'85 群裡文
53	八取遺跡	縄文加曾利B1・B2配石1、縄文後・晩期土器・石器	『八取遺跡調査概報』'73 東国文化研究所・前橋育英高校郷土部・伊勢崎市教委 『伊勢崎市史』'87 伊勢崎市
54	西太田遺跡	弥生中期住居3、弥生後期住居1、古墳住居約160、奈良・平安住居約40、奈良溝1・砂鉄集積遺構1、奈良?粘土集積遺構1、平安溝1、その他掘立柱建物9・井戸17・溝6・円形大型ビット10・土坑墓・土坑	『西太田遺跡』'83 伊勢崎市教委
55	お富上山古墳	5世紀中葉の大型前方後円墳	『お富上山古墳』'89 伊勢崎市教委

3. 基本層序

常木遺跡は基本的に微高地上に位置するA・B区と低地に位置するC・D区に分かれる。このため下層の礫層は共通するようだが、テフラなど基本層序に違いがみられる。鳥遺跡は微高地上に位置するが、確認した範囲では砂質土で構成されるテフラは見られない点で大きく常木遺跡と異なる。なお、テフラについては「自然科学分析」を参照されたい。

常木遺跡A区

- I. 暗褐色土。表土。
- II. 暗褐色砂質土。下層にB軽石を含む。
- III. As-Bの2次堆積層。
- IV. 暗褐色弱粘質土。上層にB軽石を含む。
- V. 明黄褐色細砂質土。
- VI. 暗灰黄色弱粘質土。
- VII. 灰褐色砂質土。
- VIII. 灰褐色砂質土。鈍い黄褐色砂質土・灰色砂質土が波状にラミナ堆積。
- IX. 礫。C・D区Ⅲ層に同一と推定。

常木遺跡B区

- I. 暗灰色土。表土。
- II. 灰黄褐色砂質土。上面が第1面(近世面)確認面。
- III. As-B混土層。一部でAs-B2次堆積層を形成。
畦畔検出部では確認できない。下面が第2面(平安時代以前面)確認面。
- IV. 灰黄褐色土。
- V. 黄灰色シルト。
- VI. 灰色粘質土。
- VII. 灰黄褐色砂。調査区南壁に沿って堆積。3層ほどに分層できる。上層は青灰色を呈し畦畔セクションの7層に相当。818年(弘仁九年)の洪水層と推定。下面より畦畔を検出。
- VIII. 暗灰色土。
- IX. 灰色砂。As-CとFAまたはFPを含み、FA降灰以後の堆積。

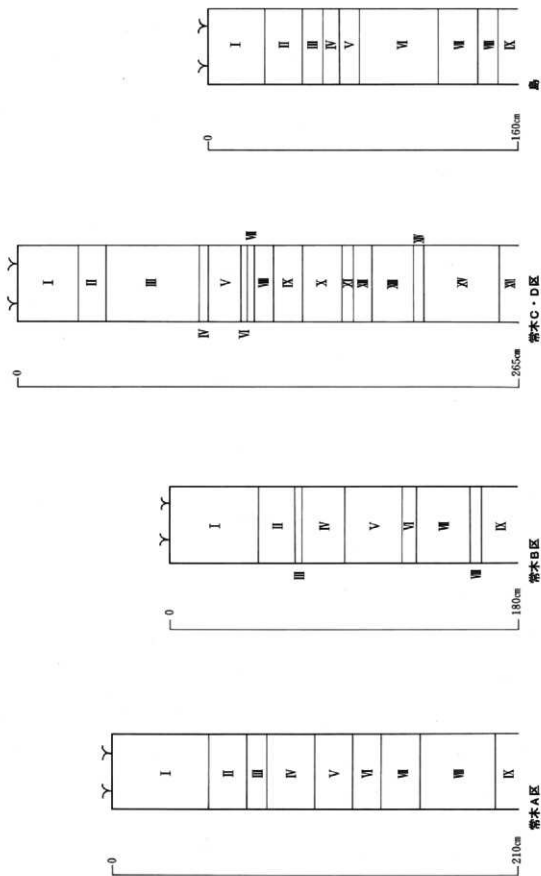
常木遺跡C・D区

- I. 灰黄褐色砂質土。表土。
- II. 黄灰色砂質土。洪水による堆積。下面が第1面(近世面)確認面。低地を中心に堆積。
- III. 暗褐色土。
- IV. 青灰色火山灰層。1281年の浅間山噴火に起源の可能性。
- V. 黒褐色土。
- VI. Kkの2次堆積層。
- VII. 暗褐色土。Ⅳ～Ⅶ層は低地の一部で確認。
- VIII. As-Bの2次堆積層。1次堆積のユニットが一部で確認できる。下面が第2面(平安時代以前面)確認面。
- IX. 暗褐色土。低地はⅧ層に続く。Ⅷ層上面の高低により層厚に5～40cm程の幅がある。
- X. 灰色砂質土。
- XI. FP泥流堆積物。
- XII. 黒褐色土。
- XIII. 灰色砂質土。
- XIV. FAの2次堆積層。X～XIV層は調査区東側微高地の一部で確認。
- XV. 灰色砂。包含層でのみ確認。
- XVI. 礫。A区IX層に同一と推定。

鳥遺跡

- I. 黒褐色土。表土。
- II. 灰褐色土。上面がC・D区第1面確認面。下面がA・B区及びC・D区第2面確認面。
- III. 暗褐色砂質土。
- IV. 黄色砂。
- V. 暗褐色砂質土。
- VI. 褐灰色砂質土。
- VII. 黄色砂質土。
- VIII. 暗褐色砂質土。
- IX. 暗褐色砂。

3. 基本顺序



基本顺序图

上増田島遺跡



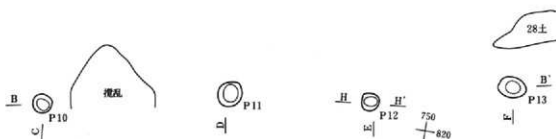
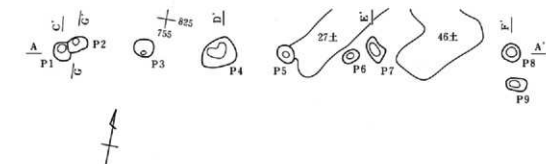
I C・D区第1面の遺構と遺物

1. 掘立柱建物

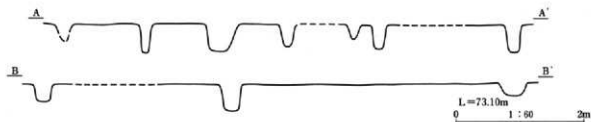
D区1面1号掘立柱建物(PL.4)

位置 815~825-745~755 重複 27号土坑、28号土坑、46号土坑 全て新旧関係は不明である。形状 3間×1間で、P10がやや南西に、P12がやや南に外れた位置にある。規模 7.33×4.92m P1 径31×深さ29cm P2 33×22×35cm P3 32×29×45cm P4 57×43×44cm P5 31×25×34cm P6 28×19×23cm P7 42×28×37cm P8 径29×深さ44cm P9 33×19×47cm P10 径30×深さ27cm P11 42×38×42cm P12 径29×深さ33cm P13

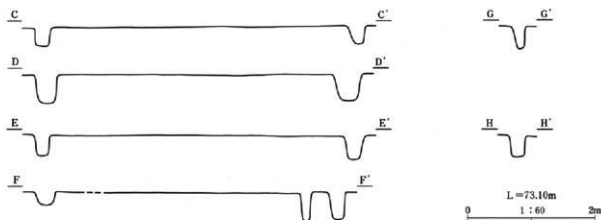
45×33×21cm 方位 80° 埋没土 堆積状況は不明であり、柱痕の有無は確認できない。遺物 出土しなかった。所見 遺構確認面より近世以降のものである。礎石や間仕切りのための施設は確認できなかったことから、小屋掛けのような建物を予想する。柱間に位置するP3・5・6・9は、遺構に伴うものか不明である。特にP5は、他の土坑の平面プランの例から27号土坑に伴う可能性がある。



D区1面1号掘立柱建物



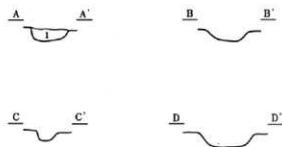
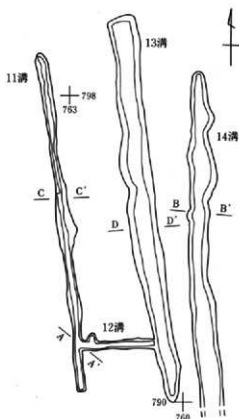
上増田島遺跡C・D区第1面



2. 溝

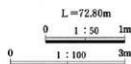
6条確認した。11～14号溝は調査区の南西に位置し、まとめて検出されている。13号溝は2面13号溝とほぼ同位置にあり、以前の地割りをトレースして掘削されたものであろう。11・14号溝はこれに併行し、12号溝は11・13号溝を連結するように直交している。35・36号溝はD区北東、1面1号掘立柱建物の南に位置し、主軸方向を同じくする。近接して併行するものの、12号溝のような連結する溝は検出

されなかった。全体に平坦な底面で、壁面は緩やかに立ち上がる。35号溝の東側には他の底面より10cmほど低い箇所と浅いピット状の落ち込みがあり、36号溝は西側に中段がある。遺物は少量の近現代陶磁器片のほか、14号溝より中世瓦が、35号溝より中世すり鉢が出土した。掘削時期は確認面より近世以降であるが、溝の用途は不明である。個別データは、P17の一覧表を参照されたい。

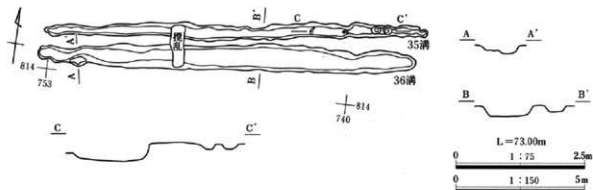


D区1面11・12溝

1. 黒褐色土。しまりがやや強い。灰黄褐色砂質土を少量含む。



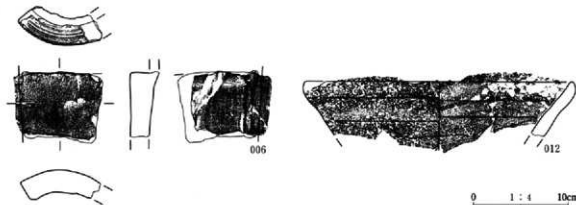
D区1面11～14号溝



D区1面溝35-36号溝

D区1面溝一覽表

番号	位置	規模(長さ×幅×深さ)m	重複	遺構図	遺物図	PL. No
D区11	790・795-760	8.97×0.19-0.51×0.02-0.17	12号溝	P16		
D区12	790-760	1.90×0.29-0.47×0.05-0.13	11・13号溝	P16		
D区13	790-800-760	10.29×0.54-0.81×0.02-0.20	12号溝	P16		
D区14	785-795-755	8.60×0.46-0.71×0.04-0.14	なし	P16	P17	47
D区35	815-735-750	10.04×0.20-0.40×0.11-0.36	なし	P17	P17	47
D区36	810・815-735-750	9.91×0.37-0.76×0.22-0.44	なし	P17		



D区1面溝出土遺物

D区1面溝遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴		残存状態 備考
012	軟質陶器 すり鉢	D区35溝 埋没土	口径 (28.0) 底径 - 器高 5.7+	口縁部下で器厚を減じた後、玉縁状とする。種し焼成。器表が一部剥離する。残存部下位は使用により摩滅する。		体部上位以上1/4残。 中世。
番号	種類 瓦種	出土 位置	計測値	①粘土 ②胎色 ③焼成 ④重さ	形状等の特徴	残存状態 備考
006	瓦 丸	D区14溝 埋没土	長さ 7.6+ 幅 8.8+ 厚さ 1.9- 2.4	①透明～白色灰物 微量 ②灰 ③ 還元・硬質 ④並	有段。布目細かい。布の縷り合わせ痕なし。粘土板の接合面不明。粘土板の測取条痕なし。同形条痕あり。側部面取回数2。芯型2枚割。界外履。	段縁周辺の破片。 13世紀。

3. 土坑

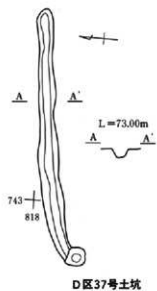
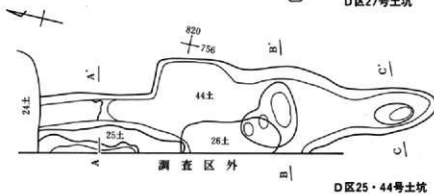
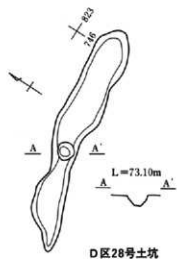
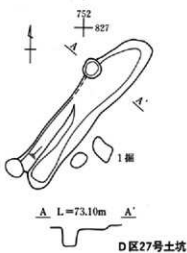
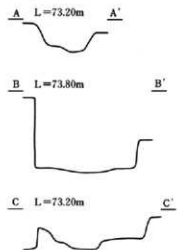
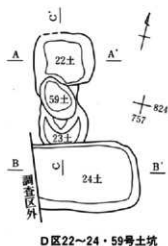
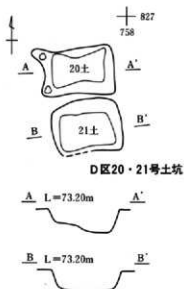
D区北東を中心に、21基の土坑を検出した。基本的に散在して分布するが、西側に隅丸方形の土坑が4基(20・21・22・24号土坑)南北に並ぶ。主な遺物は24号土坑肥前青磁皿、26号土坑中世軟質陶器鍋、

28号土坑瀬戸・美濃陶器水滴、37号土坑寛永通宝、56号土坑中世常滑甕?などである。遺構の時期は、確認面より近世以降と考えられる。個別データは土坑一覧表を参照されたい。

D区1面土坑一覧表

番号	位置	平面形	規模(m)	遺 産	遺構図	遺物図	Pl. No	備 考
D区20	825-755	隅丸方形	1.27×0.76×0.37	なし	P19			西隅部にビットをもつ
D区21	820・825-755	隅丸方形	1.11×0.83×0.33	なし	P19			
D区22	820-755	隅丸方形	0.98×0.96×0.42	59号土坑	P19			近現代磁器鍋、土器鉢
D区23	820-755	不整形円形	0.89×0.78×0.34	22・24・59号土坑	P19			肥前青磁皿、陶器碗
D区24	820-755	隅丸長方形	1.54×1.11×0.51	23・25・44号土坑	P19			平坦な底面、肥前青磁皿、腰鉋鍋、在地系焙烙
D区25	820-755	不明	1.59×0.30×?	24号土坑	P19			陶器急須、瀬戸・美濃磁器碗
D区26	815-755	不明	1.56×0.54×?	44号土坑	P19	P20	47	中段をもつ、中世軟質陶器鍋、在地系土器皿
D区27	820・825-750	長楕円形	2.90×0.79×0.07	1面1号掘立柱建物	P19			西上端にビットをもつ、陶器碗
D区28	820-745	長楕円形	3.68×0.62×0.03	なし	P19	P20	47	中央にビットをもつ、瀬戸・美濃陶器水滴、陶器鉢、在地系焙烙、D区78号土坑と接合するすり鉢
D区37	815-740	長楕円形	4.09×0.31×0.16	なし	P19	P20	47	西端にビットをもつ、寛永通寶、腰鉋鍋、近現代小坏
D区44	815・820-755	不明	6.27×1.51×0.43	24・26号土坑	P19			
D区46	820・825-750	不整形	1.43×1.16×0.46	なし	P20			隅部に中段をもつ、3層の性格不明
D区47	810-815-750-755	不整形	1.62×1.56×0.40	なし	P20			複数の土坑からなるか、陶器釜、瀬戸・美濃磁器碗
D区49	805-750	隅丸長方形	1.85×0.76×0.21	なし	P20			平坦な底面
D区50	815-730	不整形円形	1.33×1.12×0.35	なし	P20			
D区53	800-735	楕円形	1.17×0.87×0.23	なし	P20			平坦な底面
D区54	800・805-735	楕円形	1.27×0.75×0.15	なし	P20			
D区55	810-725	隅丸長方形	1.10×0.54×0.21	なし	P20			
D区56	805-810-720-725	不整形	2.86×1.53×0.41	なし	P20	P20	47	中世常滑甕?
D区58	805-720・725	楕円形?	1.06×0.96×0.33	なし	P20			
D区59	820-755	楕円形	0.71×0.49×0.56	22・23号土坑	P19			

3. 土坑



上増田島遺跡C・D区第1面

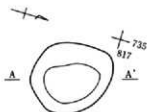


D区46号土坑



D区46号土坑

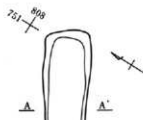
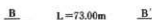
1. 黒褐色土。しまりが強い。
2. 暗褐色土。砂礫を含む。
3. 黒褐色土。しまりが弱い。腐食した木片を含む。



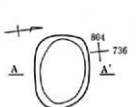
D区50号土坑



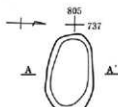
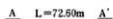
D区47号土坑



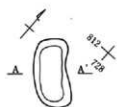
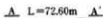
D区49号土坑



D区53号土坑



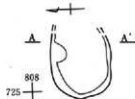
D区54号土坑



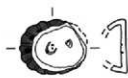
D区55号土坑



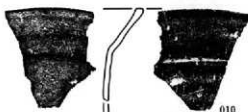
D区56号土坑



D区58号土坑

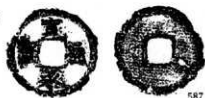


011

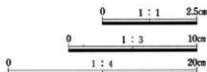


010

013



587



D区1面土坑出土遺物

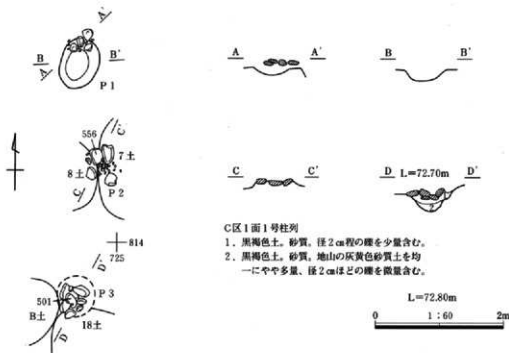
D区1面土坑遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態
010	軟質陶器 甕	D区26土 埋没土	口径 27.6 底径 — 器高 9.8+	器壁が薄い。口縁部は大きく外形する。	口縁～体部上半破片。 中底。
011	陶器 水筒	D区28土 埋没土	長さ 5.2 幅 4.2 器高 1.5+	瀬戸・美濃。上部欠損の為、形状不明。平面形は花卉状を為す。染め付け文様が一部残る。内面と底部を除き灰釉を施す。	体部下干～底部破片。御深井。
013	陶器 甕?	D区56土 埋没土	口径 — 底径 — 器高 3.6+	常滑。酸化焙焼成の甕か甕。	体部破片。 中底。
587	銅銭 寛永通寶	D区37土 埋没土	直径 2.46 孔径 0.66~0.67 厚さ 0.09 重量 1.8	無背。	ほぼ完形。小孔あり。 重む。

4. 柱列(PL.4-47)

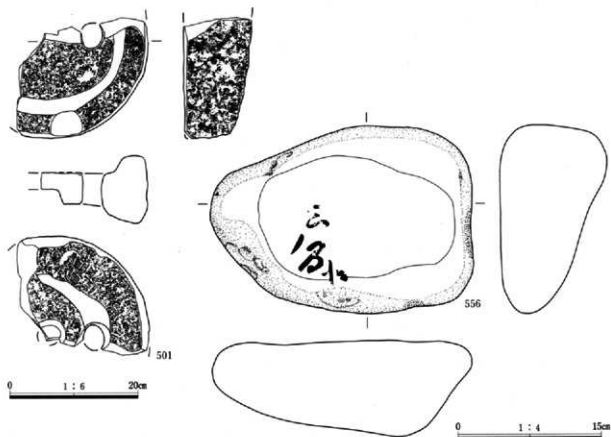
725ライン付近で礎を伴うピットを3基検出した。P2には掘り込みが認められないものの、南北に沿ってほぼ等間隔に並ぶこと、礎石が出土していることから、建物の柱穴と判断した。礎は礎石や根巻き石として使用されたものであろう。P1～P3間は約3.8m、P1～P2間は約1.7m、P2～P3間は約2.2mである。P1は81×59×29cmで、平坦な底部からなだらかに立ち上がる。確認面が低い為、礎はピットよりも高い位置で検出されたが、本来はこの高さまで遺構が存在したと思われる。礎は扁平な河床礎で、ピットの中心よりも北東に外れた位置にまともに出土した。P2はC区7・8号土坑の上層に位置する。

ピット状の掘り込みはもたず、径数cmの小石を大振りて扁平な河床礎が取り巻くように出土した。礎の出土レベルはP1とほぼ同一である。P3はC区18土・B土の上層に位置する。平面プランは記録されていないが、セクションより径67cm、深さ33cmを復元できる。湾曲した底面から、緩やかに立ち上がる壁面へ移行する。他の2基よりも30cmほど低いレベルから河床礎がまともに出土された。遺物はP2出土の番付の記された礎石とP3出土の石臼の2点のみであり、明確な時期は判断できないが、番付の書体及び確認面から江戸時代以降のものと思われる。



C区1面1号柱列

- C区1面1号柱列
1. 黒褐色土。砂質。径2cm程度の礎を少量含む。
 2. 黒褐色土。砂質。地山の灰黄色砂質土を均一にやや多量、径2cmほどの礎を微量含む。



C区1面1号柱列出土遺物

C区1面1号柱列遺物観察表

番号	種類 形態	出土 位置	計測値	器形等の特徴	残存状態 備考
501	石製品 駒ひき臼 上・白	3号ゼット +46cm	上面径 約31 高さ 7.1~10.5 上縁幅 3.0 同高さ 2.6 含み 3.1 供給口径 4.5 芯穴径 約5.0 重量 3671 構成地 石室山岩	器表は錆な仕上げ。上縁及び上面内部は厚城。底面すり合わせ部は厚減し、目は僅かに残る。もの配りは浅く約1/4周する。	供給口・芯穴を含む1/4残。
556	石製品 燧石	2号ゼット 72.54m	長さ 27.4 幅 19.8 厚さ 11.3 重量 7784 ひん岩	最大平面に薄く柱痕が残る。この面に墨で十字を切り、墨書「□ノ呂北」。	完形。墨書。

II A・B区の遺構と遺物

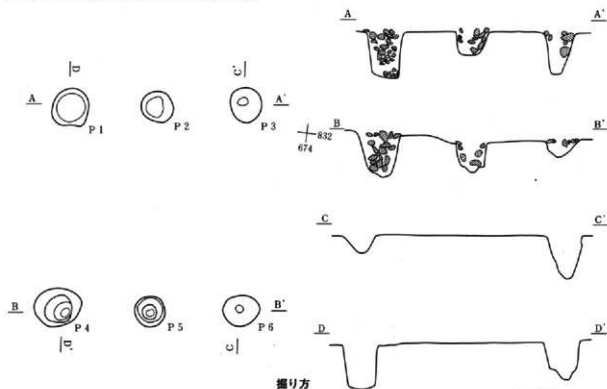
1. 掘立柱建物、柱列

B区1号掘立柱建物(PL5・6・47)

位置 825・830-670・675 重複 なし。形状・規模 1間×2間の正方形。3.25×2.74m P1 径62×深さ73cm P2 51×47×38cm P3 55×48×70cm P4 74×61×77cm P5 径49×深さ46cm P6 58×49×27cm。 隅部にあるP1・3・4はほぼ同じ深さだが、P6は浅い。柱間のP2・5は平面・断面とも同規模である。P4・5は底面付近で2段に掘り込まれ、柱を据え置くことを意識した造作であろう。 方位 -6° 埋没土 堆積状況は不明だが、柱痕は観察できなかった。礎石はないものの、上層から下層にわたって根巻き石が検出された。 遺物 P4の周辺より土器甕が出土したほか、図示していないがP1・P4より在地系焙烙が出土した。 所見 遺物より近世以降のものである。規模が小さいことや、礎石がないことから小屋掛けのような建物と思われる。



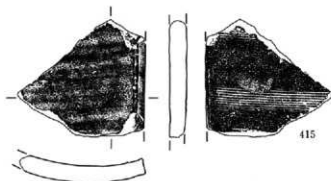
B区1号掘立柱建物



掘り方

L=72.50m

1:60



B区1号獨立柱建物出土遺物

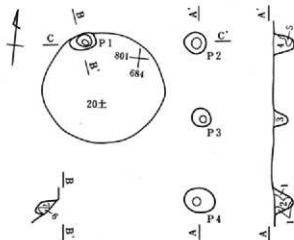
B区1号獨立柱建物遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態
415	土器	4号ピット 周辺+4cm	口径 — 底径 — 器高 9.3+	在地系。外面に掻き目を施す。	焼き口破片。

A区2号獨立柱建物

位置 795・800-680・685 重複 2号獨立柱建物
→20号土坑 形状・規模 P3・4に対応するピットは
検出できなかったが、2間×1間の整った長方形を
予想する。2.48×1.72m P1 49×38×33cm P2
31×28×22cm P3 径35×深さ32cm P4 41×24×

35cm。方位 -7° 埋没土 ピットごとに異なる
様相である。P1・4には柱痕の可能性のある土層(2・
6層)が確認でき、P2・3は粘質土が主体をなす。遺
物 出土しなかった。所見 詳細な時期は不明だ
が、他の遺構の状況から中世以降と思われる。



A区2号獨立柱建物



A区2号獨立柱建物

1. 暗灰黄色土。粒子が細かい。砂質。黄色土粒を少量含む。
2. 黒褐色土。砂質。柱痕か。
3. 灰黄褐色土。粘質土と砂の混土。炭粒を微量含む。
4. 暗灰黄色土。粒子が細かい。粘質。黄色砂粒を少量、パミス・炭粒を少量含む。
5. オリブ褐色土。4層と地山の黄色砂質土の混土。
6. 黒褐色土。しまりがやや弱い。柱痕か。
7. 黒褐色土。1層より黒味が強い。黄色土粒・鉄分凝集粒を少量含む。

L=72.40m
0 1:60 2m

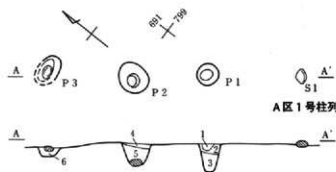
A区1号柱列(PL.6・7)

位置 795・800-690 重複 なし。形状・規模
長さ 3.98m S1~P1間 1.48m P1~P2間 1.14m

P2~P3間 1.36m P1 径35×深さ45cm P2 52×
45×38cm P3 (52)×33×16cm。礎石と思われるS1
にピット状の掘り込みは確認できなかった。確認面

1. 掘立柱建物、柱列

が低いために削られてしまったか、本来礫のみなのか不明である。方位 -36° 埋没土 明確な柱痕は確認できなかった。P2底面の礫は礎石であろう。P3確認面レベルの礫も6層中に埋め込まれており、礎石の可能性が高い。遺物 図示していないが



A区1号柱列

A区1号柱列

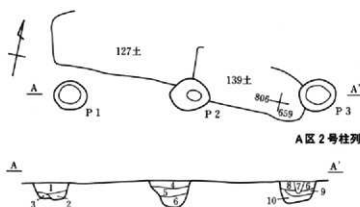
1. 黒褐色土。粒子が細かい。柱痕か。
2. 暗灰黄色土。砂質。黒褐色土ブロックを微量含む。
3. 暗灰黄色土。砂質。黒褐色土ブロックをやや多量含む。
4. 黄褐色土。粒子が細かい。バミス・砂を不均等に少量含む。
5. 灰黄褐色土。砂質。鉄分凝集粒をやや多量含む。
6. 暗褐色土。

L=72.50m
0 1:60 2m

A区2号柱列

位置 805-655・660 重複 ブラン確認より127・139号土坑→2号柱列 形状・規模 長さ 3.89m P1~P2間 1.94m P1 52×44×27cm P2 64×52×42 P3 58×50×35cm 方位 78° 埋没土 P1の底面に粘度のある土を用いる。P3に柱痕が観察できる。礎石・根固め石は検出されなかった。遺物 出土しなかった。所見 等間隔で直線的に配

置されていること、P3が柱痕をもつことから構列または建物の一部と判断する。P1から西への延長線上、および柱間2間ごとに104号土坑、102・101号土坑が、P3から北への延長上、柱間2間の位置に125号土坑が位置する。104号土坑には柱痕と思われる土層が確認でき、同一の建物の可能性がある。詳細な時期は不明だが、他の遺構の状況から中世以降と思われる。



A区2号柱列

A区2号柱列

1. 黄褐色土。しまりが強い。明黄褐色土ブロックをやや多量、バミスを微量含む。
2. 暗オリーブ褐色土。やや粘質。バミスを微量含む。
3. 黒褐色土。やや粘質。黄褐色土ブロックをやや多量含む。
4. 黄灰色土。バミス・明黄褐色土粒を微量含む。
5. 黒褐色土。しまりが強い。バミスを微量含む。
6. 暗灰黄色土。バミスを微量含む。
7. 黄灰色土。柱痕。
8. 暗灰黄色土。
9. 黒褐色土。しまりが強い。
10. 黒褐色土。

L=72.40m
0 1:60 2m

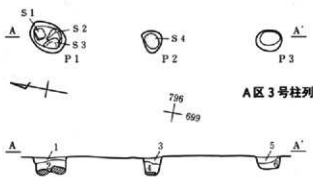
A区3号柱列(PL.7)

位置 790・795-695 重複 なし。形状・規模 長さ 3.48m P1~P2間 1.65m P1 60×45×29cm P2 35×33×28cm P3 40×32×19cm。P1・2底面よ

り扁平な河床礫を用いた礎石(S1・4)が検出された。重なって出土したS2・3は稜が強く、根固めに用いられたと思われる。方位 -10° 埋没土 全て地山の黄色系砂質土を含まない黒褐色土を主体と

し、他の掘立柱建物・柱列と異なる様相である。
遺物 出土しなかった。所見 等間隔で直線的に
配置されていること、礎石をもつことから建物の一

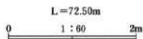
部と判断する。詳細な時期は不明だが、他の遺構の
状況から中世以降と思われる。



A区3号柱列

A区3号柱列

1. 黒褐色土。パミスを少量、径1cm程の礫を微量含む。
2. 黒褐色土。パミスを少量含む。
3. 黒褐色土。
4. 暗褐色土。しまりが強い。
5. 黒褐色土。しまりが強い。径1cm程の礫を微量含む。
6. 黒褐色土。しまりが強い。鈍い黄褐色細砂ブロックをやや多量含む。

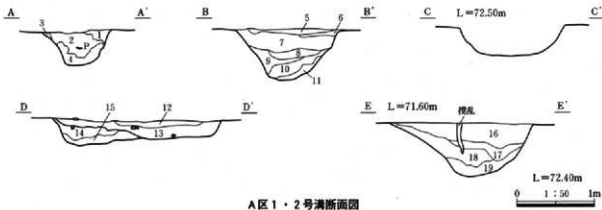


2. 溝

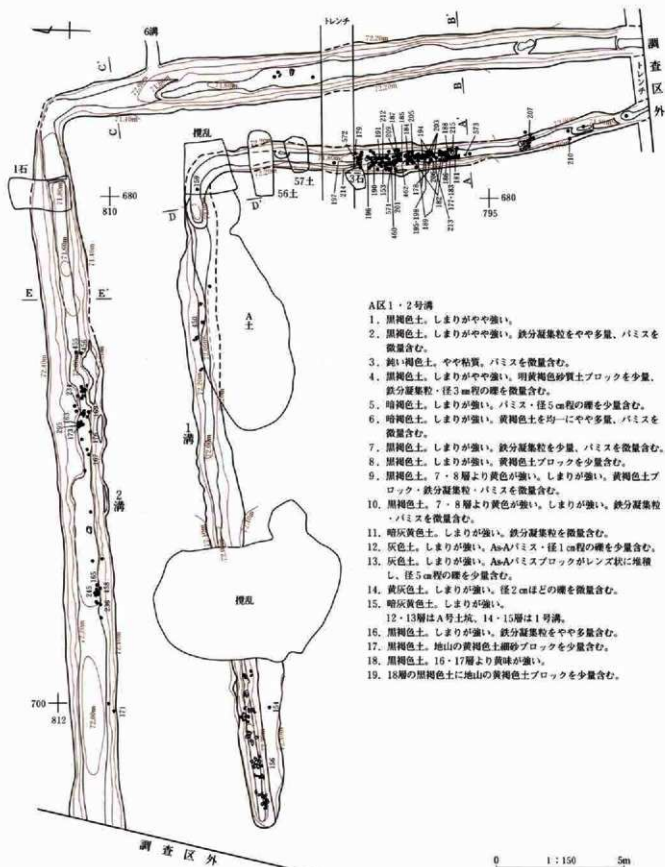
A区1号溝(PL.7・8・47~49)

位置 785~805-675~700 2号溝に併行し、最短で東側1.65m、北側3.41mの距離にある。重複 1号溝→A号土坑、56・57号土坑、3号集石土坑 形状・規模 長さ約43.7m 幅0.6~2.10m 深さ0.5m 全体に2号溝より規模が小さい。806~679付近を隔部とし、東西及び南北方向にのびる。795ライン付近でやや東寄りに走向を変える。西は705ライン付近で止まり、調査区外へ続かない。延長上に溝状のC区4号土坑が位置するが、規模が異なる。やや湾曲した平底と丸底の部分があり、壁面はなだらかに立ち上がる。681ライン付近で15cmほどの段をもって東側の底面が低くなる。埋没土 Aラインでは黒褐色土、Dラインでは黄灰色土を主体とする。い

ずれも自然堆積と考えられる。遺物 東側中央に集中している。肥前磁器碗・皿、肥前陶器碗・皿・鉢、瀬戸・美濃陶器碗・皿・すり鉢・花瓶、在地系土器香炉・皿、砥沢砥石、煙管、刀子などが出土した。154・155は17世紀のものである。西端付近では10~30cmほどの河床礫がまとまって出土した。所見 外側を巡る2号溝と同様、屋敷の外周を巡る区画溝であろう。二重で用いる例は少ないことから、新旧関係をもつ可能性があるが、人為による埋め戻しは認められない。出土遺物は2号溝が18世紀末から19世紀を中心とするのに対し、1号溝は18世紀代が中心となり、若干古い傾向を示す。遺構の時期は17世紀以降と思われる。



A区1・2号溝断面図

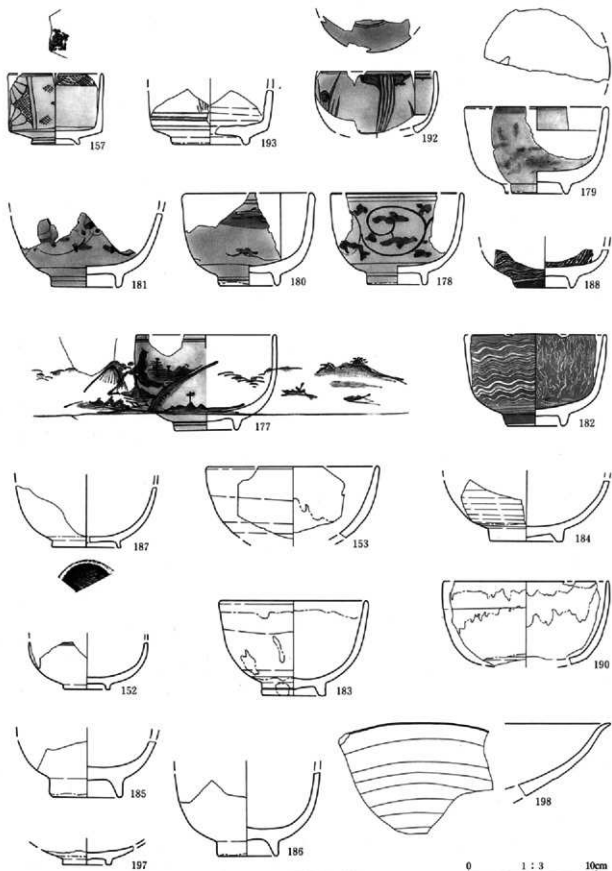


A区1・2号溝

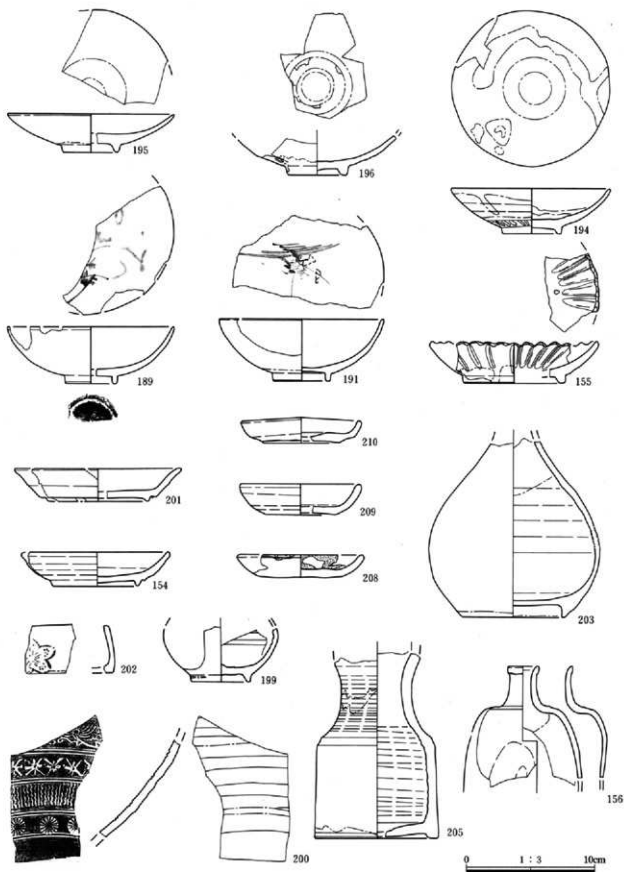
1. 黒褐色土。しまりがやや強い。
2. 黒褐色土。しまりがやや強い。鉄分凝集粒をやや多量、パミスを微量含む。
3. 鈍い褐色土。やや粘質。パミスを微量含む。
4. 黒褐色土。しまりがやや強い。明黄褐色砂質土ブロックを少量、鉄分凝集粒・径3mm程の礫を微量含む。
5. 暗褐色土。しまりが強い。パミス・径5cm程の礫を少量含む。
6. 暗褐色土。しまりが強い。黄褐色土を均一にやや多量、パミスを微量含む。
7. 黒褐色土。しまりが強い。鉄分凝集粒を少量、パミスを微量含む。
8. 黒褐色土。しまりが強い。黄褐色土ブロックを少量含む。
9. 黒褐色土。7・8層より黄色が強い。しまりが強い。黄褐色土ブロック・鉄分凝集粒・パミスを微量含む。
10. 黒褐色土。7・8層より黄色が強い。しまりが強い。鉄分凝集粒・パミスを微量含む。
11. 暗灰黄色土。しまりが強い。鉄分凝集粒を微量含む。
12. 灰色土。しまりが強い。As-Aパミス・径1cm程の礫を少量含む。
13. 灰色土。しまりが強い。As-Aパミスブロックがレンズ状に堆積し、径5cm程の礫を少量含む。
14. 黄灰色土。しまりが強い。径2cmほどの礫を微量含む。
15. 暗灰黄色土。しまりが強い。
- 12・13層はA号土坑。14・15層はI号溝。
16. 黒褐色土。しまりが強い。鉄分凝集粒をやや多量含む。
17. 黒褐色土。地山の黄褐色土細砂ブロックを少量含む。
18. 黒褐色土。16・17層より黄味が強い。
19. 18層の黒褐色土に地山の黄褐色土ブロックを少量含む。

A区1・2号溝

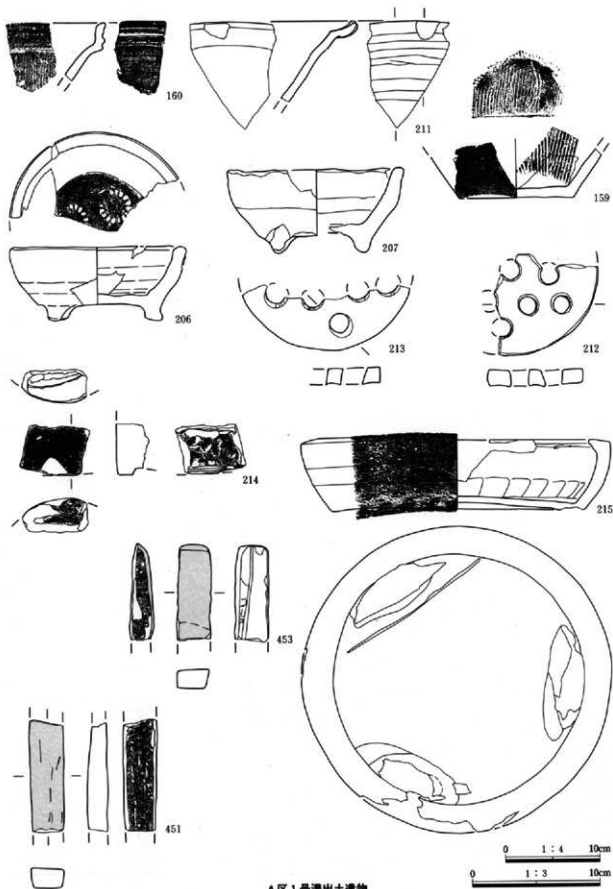
上増田島遺跡A・B区



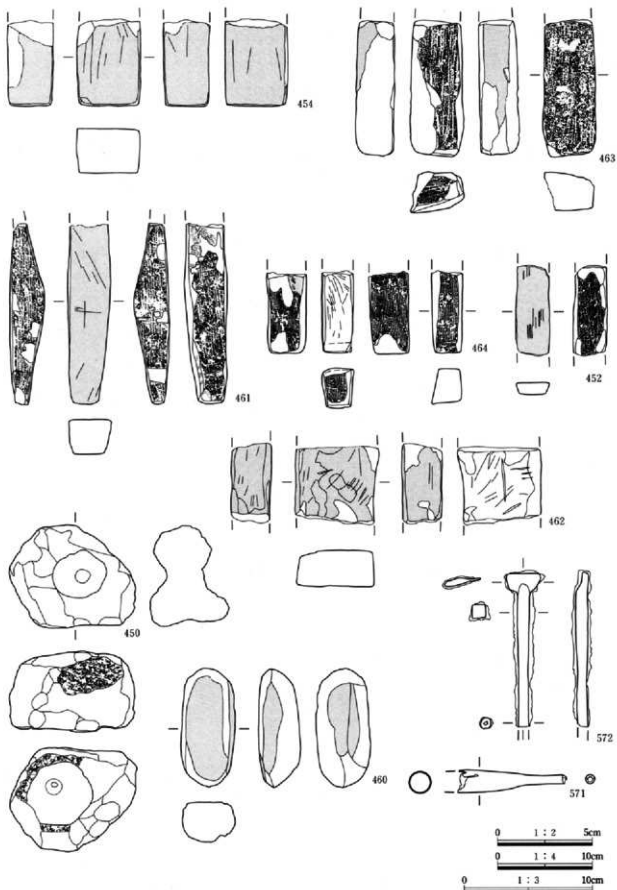
A区1号溝出土遺物



A区1号清出土遗物



A区1号清出土遺物



A区1号溝出土遺物



A区1号溝出土遺物

A区1号溝遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態
152	陶器 蓋鉢	埋没土	口径 - 底径 3.6 器高 3.7+	瀬戸・美濃。口縁部外面下位に線刻状凹線を巡らす。高台内から凹縁まで鉄軸を、内面から凹縁まで灰軸を施す。鉄軸は錆色の発色。高台端部無軸。	口縁部～体部上半欠。 19世紀。
153	陶器 尾呂茶碗	+27	口径 (13.6) 底径 - 器高 5.6+	瀬戸・美濃。胎輪の後口縁部内面を中心にウノフ軸を掛ける。	口縁～体部1/4。
154	陶器 皿	+2	口径 (11.6) 底径 6.6 器高 2.7	瀬戸・美濃。高台は断面三角形を呈する。全面に施軸するが、薄く白濁する。灰軸であろう。	口縁部5/6、体部～高台1/2欠。 17世紀。
155	陶器 菊皿	埋没土	口径 (13.2) 底径 (8.0) 器高 3.2	瀬戸・美濃。内面から高台脇灰軸。貫入入。見込み目痕1ヶ所。	底部を欠いて1/6残。 17世紀。
156	陶器 徳利	+18	口径 2.4 底径 - 器高 9.5+	瀬戸・美濃。体部外面塗ませる。外面施軸。	口縁～頸部、胴部上半の一部残。 19世紀。
157	磁器 筒形碗	埋没土	口径 (7.5) 底径 (3.8) 器高 5.6	肥前。外面菊花文。見込み五弁花コンコナ判。高台外に2条・胎に1条襷線を巡らす。	1/4残。 19世紀。
159	陶器 すり鉢	+30	口径 - 底径 (12.0) 器高 5.1+	瀬戸・美濃。底部回転切り無調整。錆軸を施し、底部外面の軸を拭う。	体部下位の一部、底部1/4残。
160	陶器 すり鉢	埋没土	口径 - 底径 - 器高 5.1+	丹波。口縁部外反した後、上方に立ち上がる。外面に凹線2条巡らす。	口縁部破片。
177	陶器 碗	+24	口径 11.0 底径 5.0 器高 7.6	肥前。外面東屋山水文を丁寧に描く。陶胎染付。	口縁部1/4欠。
178	陶器 碗	+11	口径 (10.4) 底径 4.8 器高 7.2	肥前。外面唐草文。底部器壁薄い。陶胎染付。	口縁～体部上半1/4、以下1/2残。
179	陶器 碗	+43、埋没土	口径 (11.4) 底径 (4.9) 器高 6.8	肥前。外面のぬめ付けはぬみかひどく文様不明瞭。陶胎染付。	口縁～体部上半の一部、以下1/2残。
180	陶器 碗	埋没土	口径 (10.4) 底径 (4.6) 器高 7.3	肥前。外面ぬめ付け。高台内は挟り込まれる。陶胎染付。	口縁部の一部、体部以下1/2残。
181	陶器 碗	+31	口径 - 底径 5.5 器高 5.8+	肥前。高台大きく外面の唐草文も丁寧に描く。須貝の発色も良。陶胎染付。	体部下半～底部残。
182	陶器 碗	+4～17	口径 (11.1) 底径 4.5 器高 7.3+	肥前。内面白土を襷状に、外面は皮状に施す。高台端部を除き透明軸。	口縁～体部上半1/4、以下3/4残。 割注。
183	陶器 尾呂茶碗	+24	口径 (11.4) 底径 5.0 器高 7.5	瀬戸・美濃。内面から高台脇に胎輪を施し、口縁部にウノフ軸を掛ける。	口縁～体部1/3、底部1/2残。
184	陶器 碗	+22、埋没土	口径 - 底径 5.8 器高 4.8+	瀬戸・美濃。内面から高台脇に貫入の入る灰軸を施す。	体部下半1/4、底部残。
185	陶器 呉器手碗	+13	口径 - 底径 5.5 器高 4.4+	肥前。高台の挟りは浅い。高台端部半透明。細い貫入の入る透明軸を施す。	体部下半～底部残。
186	陶器 呉器手碗	+25	口径 - 底径 4.6 器高 6.6+	肥前。高台内の挟りは深い。	口縁部欠。
187	陶器 碗	+19	口径 (5.2) 底径 - 器高 4.9+	肥前。京焼風。高台幅は狭く、高台内の挟りは浅い。内面から高台脇に貫入の入る透明軸を施す。高台内不明記押印。	体部下半～底部1/4残。

188	陶器 碗	+4	口径 底径 器高	- 4.4 3.0+	唐津。内面白土を鉄状に、外面は波状に施す。高台端部を除き透明釉。	体部下半～底部 1/2残。
189	陶器 皿	+3～26	口径 底径 器高	(13.0) (4.0) 4.5	肥前。内面から高台脇に細かい貫入の入る軸を施す。内面鉄絵具で山水文を描く。高台内不明押印。	3/8残。押印は「新」か。
190	陶器 尾呂茶碗	+49、遺構 外	口径 底径 器高	(13.0) - 6.6+	瀬戸・美濃。内面から高台脇に軸を施し、口縁部にウノフ軸を掛ける。貫入入る。	口縁～体部1/4。
191	陶器 皿	+32	口径 底径 器高	(12.9) 4.4 4.9	肥前。京焼風。高台幅狭い。内面鉄絵具で樹木を描く。内面から高台脇透明釉。細かい貫入入る。	口縁部1/4、体部下 半1/2、底部残。
192	磁器 丸碗	埋没土、2 井埋没土	口径 底径 器高	(9.2) - 4.9+	肥前。外面に花卉文を描く。内面二重圈線を二ヶ所に巡らす。	口縁～体部3/8残。
193	磁器 ?	埋没土	口径 底径 器高	- (6.0) 4.3+	肥前。内面施軸。外面染め付け。	体部下半以下1/4 残。
194	陶器 皿	+32～33	口径 底径 器高	12.4 4.6 3.6	肥前。青緑軸。見込み蛇の目軸割ぎ。	口縁部一部欠。 内野山。
195	磁器 青磁皿	+1	口径 底径 器高	(13.0) (4.4) 3.1	肥前。内面から高台脇青磁軸。見込み蛇の目軸割ぎ。軸厚が薄く轆割が青白磁的。	1/4残。波佐見系。
196	陶器 皿	+13、A土 埋没土	口径 底径 器高	- 4.5 3.2+	肥前。青緑軸。内面二重の蛇の目軸割ぎ。高台脇以下無軸。	体部下半1/2、底部 残。内野山系。
197	陶器 碗?	+52	口径 底径 器高	- 3.7 1.5+	京・信楽系。内面から高台脇に細かい貫入の入る鉄軸を施す。高台の傾り出しはシャープ。見込み円座ピン痕3ヶ所残る。	体部下半～高台 残。
198	磁器 青磁皿	+1	口径 底径 器高	(28.5) - 5.8+	肥前。口縁部小さく外反する。体部内面に浅い凹線巡る。外面に轆割の凹凸顯著。	口縁～体部破片。
199	磁器 碗?	埋没土	口径 底径 器高	- (4.6) 4.3+	肥前?。外面染め付け不明瞭。透明釉は薄る。内面無軸。胎土は鈍い橙色を呈する。	体部下半1/4、底部 1/2残。焼成不良。
200	陶器 三島手鉢	埋没土	口径 底径 器高	- - 7.6+	肥前。内面に文様をスタンプし、内面器壁全体に白化粧を施す。	体部破片。
201	陶器 皿	+35	口径 底径 器高	(13.2) (7.8) 2.5	瀬戸・美濃?。高台幅狭を為す。全面に施軸するが、軸が白濁し、種類不明。	1/6残。焼成不良。
202	陶器 製水入れ	埋没土	口径 底径 器高	- - 3.9	瀬戸・美濃。外面鉄絵具を使用した型紙摺りで桜を描く。底部外面を除き灰軸。	口縁～底部外縁破 片。
203	陶器 便利	+32～39	口径 底径 器高	- 8.0 14.9+	製作地不詳。胎土はやや緻密。高台は蕃笏底状を呈し端部は白土掛けで無軸。高台内と外面は天目軸を施す。頸部から体部上位は木目となる。	口縁～頸部、胴部 の一部欠。
205	陶器 花瓶	+36	口径 底径 器高	- (9.8) 14.7+	瀬戸・美濃。内外面に鉄沈を施す。内面の鉄沈は薄い。口縁部にウノフ軸を掛ける。底部外面無軸。	口縁部、胴部1/2欠。 口縁部は人為に打 ち欠いたか。
206	土器 香炉?	+31～35	口径 底径 器高	(13.9) (9.5) 5.9	在地系。底部外面摺り作り痕。底部に3ヶ所脚を貼り付けると考えられる。見込み菊花状押印2ヶ所。口縁部器表剥離。	脚1ヶ所を含む。 1/4残。
207	土器 香炉	+10	口径 底径 器高	(13.8) (8.6) 8.7	在地系。底部に3ヶ所脚を貼り付けると考えられる。器表剥離。断面灰黒色。	脚1ヶ所を含む。 3/8残。 二次被熱か。
208	土器 皿	埋没土	口径 底径 器高	(10.0) (6.4) 1.8	在地系。底部左回転糸切り無調整。見込み肩縁強い撫でにより凹線状に窪む。口縁部窪付着。	口縁～体部1/4、底 部ほぼ残。 江戸時代。
209	土器 皿	+26	口径 底径 器高	(9.6) (5.4) 2.4	在地系。底部左回転糸切り無調整。見込み壱段状に浅く凹線状に窪む。	1/4残。
210	土器 皿	+9、埋没 土	口径 底径 器高	(9.4) 6.0 2.0	在地系。底部回転糸切り無調整。見込み中央窪む。体部外湾した後に内湾して立ち上がる。	3/8残。
211	陶器 すり鉢	埋没土	口径 底径 器高	- - 8.6+	瀬戸・美濃。口縁部外反し、外方に折り返す。片口部は内面から小さく押し出すのみで不明瞭。	片口部を含む口縁 ～体部破片。
212	土器 さな	+19	径 厚さ 孔径	(14.0) 1.2 約1.5	在地系。下面に型作り痕残す。	1/4残。

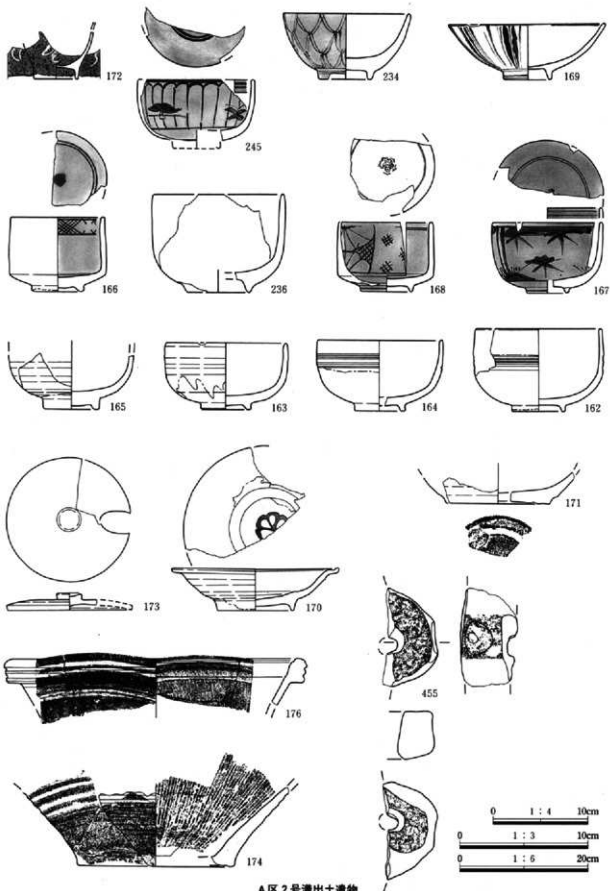
上増田鳥遺跡A・B区

番号	種類	出土位置	計測値	①胎土 ②胎色 ③焼成 ④重量	形状等の特徴	残存状態
213	土器 土器 土器	+10	径 (13.4) 厚さ 1.3 孔径 1.8		在地系。下面に型作り痕残す。	外縁1/4残。
215	土器 土器 土器	+8、A区 遺構外	口径 32.4 底径 26.4 器高 8.0		在地系。口縁部内側に張り出す。外面底部から体部下端に型作り痕残す。基本的な成形は焙烙と同じ。底部に3ヶ所の脚付き付け残る。	口縁～体部一部欠。
番号	種類	出土位置	計測値	①胎土 ②胎色 ③焼成 ④重量	形状等の特徴	残存状態
214	瓦 軒丸	+36	瓦当部幅 6.8 長さ 5.1+ 外縁幅 1.7 文様区深さ 0.6	①透明～白色磁物微量 ②灰 ③還元・硬質 ④赤	割れ口に丸瓦縁部合部あり。通しかり二次被熱か。胎外産。	残存状態 瓦当部縁辺を含む破片。 13世紀。
番号	種類	出土位置	計測値	器形等の特徴		残存状態
450	石製品	底面直上	長さ 10.8 幅 13.3 高さ 8.6 重量 1008.0 榎粒輝石安山岩	外形と思われる平坦な加工面が一部に残り、方形の製品か。2側面に円瓦縁部凹みを設ける。		破片。
451	石製品 砥石	埋没土	長さ 8.8+ 幅 2.6 厚さ 1.1～1.5 重量 68.6 砥沢石	主に1面を使用し、湾曲する。他の3面に製作時の平整痕が残る。		両端欠。
452	石製品 砥石	埋没土	長さ 7.2+ 幅 2.6 厚さ 0.8～1.0 重量 31.0 砥沢石	主に1面を使用し、反対面に製作時の磨面整形痕が残る。断面台形を呈す。		両端欠。
453	石製品 砥石	埋没土	長さ 7.6+ 幅 2.7 最大厚さ 1.9 重量 56.3 砥沢石	主に2面を使用し、1面は中央付近で使用により湾曲する。この反対面にも使用の痕跡があり、寬い筋が入る。1面に製作時の磨面整形痕が残る。		片端欠。
454	石製品 砥石	埋没土	長さ 6.8+ 幅 4.5～4.9 厚さ 3.4～3.6 重量 234.5 流紋岩	前面は主に4面で、僅かに湾曲する。		片端欠。
460	石製品 砥石?	+41	長さ 9.4 幅 4.2 最大厚さ 3.2 重量 100.0 ニッヒ軽石	細長い原石を使用し、広狭4面の磨面をもつ。機能・対象物不明。		完形。
461	石製品 砥石	埋没土	長さ 14.3+ 幅 2.1～3.4 厚さ 0.9～2.7 重量 173.3 砥沢石	前面は主に1面で、使用により中央付近で湾曲する。3面に製作時の磨面整形痕が残る。		片端欠。
462	石製品 砥石	+19	長さ 6.1+ 幅 6.1～6.6 厚さ 3.1 重量 207.3 砥沢石	前面は主に3面で、1面は使用により湾曲する。他の1面にも寛い筋状の使用痕が残る。		両端欠。器表の剥離が顕著。
463	石製品 砥石	埋没土	長さ 10.8+ 幅 3.7～4.1 厚さ 2.5～2.9 重量 187.5 砥沢石	前面は主に2面で、他の3面に製作時の磨面整形痕が残る。断面台形を呈す。		片端欠。大きく削れが入る。
464	石製品 砥石	埋没土	長さ 6.4+ 幅 2.2～2.5 厚さ 2.2～3.1 重量 82.0 砥沢石	前面は主に1面で、使用により端部が陥凹かつ全面全体が湾曲する。他の4面に製作時の磨面整形痕が残る。		片端欠。
571	金属製品 煙管吸口	+56	長さ 5.6+ 最大径 1.2 口付け径 0.5 重量 3.5	筒はなく口付けからなだらかに湾曲し小口側がやや窄まる。外面に緑青付着し内面は黒ずむ。		小口側と口付けの一部欠。
572	鉄製品 釘?	+32	長さ 8.2+ 平坦部幅 2.0 頭長さ 0.1～0.4 軸部幅・厚さ 0.5～0.6 頭部径 0.5 重量 12.9	頭部は平面三角で扁平な形状をなす。軸部は先端ほど細く断面が四角から扁平な円形へと移行する。頭部釘の頭部が欠けたものか。		軸端欠。
573	鉄製品 刀子	+11	長さ 19.6+ 刀身幅 2.2～2.6 刀身厚さ 0.4 茎幅 1.1～2.1 茎厚さ 0.3～0.5 重量 69.7	両区。刀身断面三角形。茎に目釘1ヶ所と僅かに柄の木質が残る。全体に錆の付着が顕著。		鋒欠。

A区2号溝(PL.7-8-49-50)

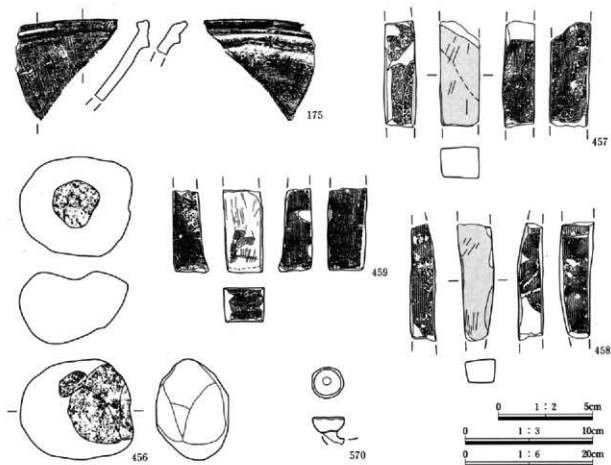
位置 785～810～670～700 1号溝に併行し、最長で西側1.65m、南側3.41mの距離にある。重複 2号溝→1号集石土坑、プラン確認より2号溝→1号道、6号溝 形状・規模 長さ 約51.5m 幅 1.11～2.21m 深さ 0.70m 全体に1号溝より規模が大きい。812～677付近を隔部とし、東西及び南北方向にのびる。西は調査区外へ続き、延長上にD区10号溝が位置するが、規模が異なることから同一の溝ではない可能性がある。その場合、1号溝同様に調査区外で止まるか、南へ走向を変えることが予想される。やや湾曲した平底と丸底の部分とがあり、壁面はなだらかに立ち上がる。684ライン付近で西側が約30cm、808ライン付近で南側が約15cm、794ライン付近でピット状に約10cm、790ライン付近で南側が約10

cmの段をもって底面が低くなる。埋没土 黒褐色土を主体とし、自然堆積と考えられる。遺物 北側中央に集中している。肥前磁器碗、瀬戸・美濃磁器碗、瀬戸・美濃陶器碗・皿・灯明具蓋、粉ひき臼、砥沢砥石などが出土した。170・171が17世紀のものである。295はA区69・70号土坑と接合。所見 内側を巡る1号溝と同様、屋敷の外周を巡る区画溝であろう。二重で用いる例は少ないことから新旧関係をもつ可能性があるが、人為による埋め戻しは認められない。出土遺物は1号溝が18世紀代を中心とするのに対し、2号溝は18世紀末から19世紀が中心となり、若干新しい傾向を示す。遺構の時期は17世紀以降と思われる。



A区2号清出土遺物

上増田島遺跡A・B区



A区2号溝出土遺物

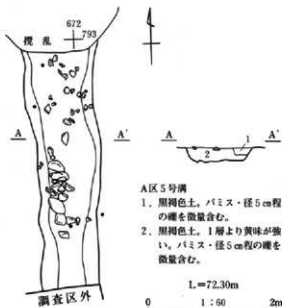
A区2号溝遺物観察表

番号	種別	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態
162	陶器 腰鉋碗	埋没土	口径 (10.0) 底径 4.2 器高 6.5	瀬戸・美濃。内面から口縁部外面に灰釉を、体外外面から高台内に銷軸を施す。外面胎境に螺旋状凹線を巡らす。	口縁部1/8、以下1/2残。
163	陶器 腰鉋碗	+22、A区埋没土	口径 (9.5) 底径 4.0 器高 5.3	瀬戸・美濃。下は銷軸を施す。高台端部のみ無軸。外面口縁部下に螺旋状凹線を3本巡らす。外面の灰釉は凹線下に達している。	口縁～体部上半3/4欠。
164	陶器 腰鉋碗	埋没土、A区68土埋没土	口径 (9.8) 底径 (4.0) 器高 5.6	瀬戸・美濃。口縁部外面下に螺旋状凹線を巡らす。高台内から凹線まで灰釉を、内面から凹線まで灰釉を施す。灰釉は胎軸に近い発色。高台端部無軸。	1/2残。
165	陶器 碗	+18	口径 4.4 底径 4.3+	瀬戸・美濃。高台径小さい。内面から高台脇銷軸。	体部下半3/8、高台残。
166	磁器 筒形碗	埋没土	口径 (7.4) 底径 (3.7) 器高 5.9	肥前。青磁染め付け。外面青磁釉。内面染め付け。見込み不明文様。胎土青灰色。	口縁～体部1/4、底部1/2残。焼成不良。
167	磁器 丸碗	+21、埋没土	口径 (8.7) 底径 (3.2) 器高 5.5	肥前。外面帯持ち竹文。見込み文様欠損のため不明。	1/2残。
168	磁器 筒形碗	埋没土	口径 (7.5) 底径 4.0 器高 5.5	肥前。外面菊文花。見込み五弁花。	口縁～底部外縁3/4欠。
169	磁器 碗	+38、825-700	口径 (12.3) 底径 3.8 器高 4.3	瀬戸・美濃。煎碗。外面変革手状の文様を片須で描く。口縁端部片須を施す。	口縁～体部1/4、底部1/2残。近現代。
170	陶器 輪壳皿	+33	口径 (13.1) 底径 (6.0) 器高 3.3	瀬戸・美濃。口縁部は聞き、端部を上方に小さく立ち上げる。見込み周縁を土手状に高くして軸を掻き取る。見込みに花卉状のスタンプ文を施す。内面から高台脇灰釉。スタンプ部に僅かに網絨輪軸かる。	口縁～体部1/4、高台1/2残。17世紀中頃。

171	陶器 志野丸皿	埋没土	口径 底径 器高	— (8.0) 2.5+	瀬戸・美濃。高台は低く高台内に凹線を返らす。高台内円縁にビーン1ヶ所残る。	体部下半～底部1/4残。 17世紀中頃。
172	陶器 小坏	埋没土	口径 底径 器高	— 3.5 3.7+	製作地不詳。胎土に黒色粒を多く含み灰釉を通して黒濁として見える。高台端部を除き灰釉を施す。高台端部は赤味がかって発色する。外面に白土による筒書き。	口縁一部上半欠。
173	陶器 灯明具蓋	+17	口径 底径 器高	(9.8) 2.0 1.3	瀬戸・美濃。扁平な蓋で、低い狭みを貼り付ける。口縁部の一部を深い「U」字状に抉る。	口縁～火井部1/4欠。
174	陶器 すり鉢	埋没土	口径 底径 器高	— (16.4) 8.4+	丹波・信楽系。底部外面砂付着。体部外面下位凹線彫削り。体部外面輪縁目顯著。底部内面周縁から体部下位使用により摩滅。	体部下位～底部周縁1/4残。
175	陶器 すり鉢	埋没土、1- 溝埋没土	口径 底径 器高	— — 8.5+	堺・明石。口縁部縁帯外面と内面尖帯はシャープ。外面口縁部下匱削り。すり目は細かい。	片口部を含む口縁部破片。
176	陶器 すり鉢	埋没土	口径 底径 器高	(31.6) — 4.9+	堺・明石。口縁部縁帯を為し、内面の尖帯は丸く僅かに盛り上がる程度となる。口縁端部内面は段を有する。外面口縁部下は彫削り。	口縁部1.8残。
234	磁器 碗	+15	口径 底径 器高	10.0 4.2 5.2	肥前。外面二重割目文。	口縁部・高台1/2欠。 波在見系。
236	陶器 碗	+31	口径 底径 器高	(10.3) (4.8) 7.8	肥前。外面東屋山水文。陶胎染付。	口縁部一部、以下1/4残。
245	磁器 丸碗	+18	口径 底径 器高	(9.2) — 4.8+	肥前。外面蓮華状の文様中に不明文様を描く。内面二重割縁を2ヶ所返らす。	口縁部1/4、体部1/2残。
455	石製品 粉挽き臼 上白	+37	長さ 手穴径 重さ	15.3 幅 7.9 厚さ 8.8 2.5~4.0 重量 922.1	上面を水平に、下面を本体に向かって斜面に仕上げ、断面台形を呈す。側部を楕円形にやや窪ませる。挽き手穴は側部から穿孔する。	挽き手部残。
456	石製品 ?	+37	長さ 幅 厚さ	10.4 幅 12.0 厚さ 7.5 重量 415.2 軽石	楕円状の内凹面加工。斜方向に平ら面を設け、反対面を凹形に窪ませる。用途不明。	定形?。
457	石製品 砥石	埋没土	長さ 幅 厚さ	8.2+ 幅 3.1 厚さ 1.9~ 2.4 重量 112.9 低沢石	磨面は主に1面で、使用により斜方向に湾曲する。他の3面に製作時の磨面痕が残り。	両端欠。
458	石製品 砥石	+20	長さ 幅 厚さ	9.2+ 幅 1.7~2.6 厚さ 1.1~ 1.9 重量 71.0 砥沢石	磨面は主に1面で、使用により湾曲する。他の3面に製作時の磨面痕が残り。	両端欠。
459	石製品 砥石	埋没土	長さ 幅 厚さ	6.5+ 幅 2.7~2.9 厚さ 1.9~ 2.4 重量 82.5 流紋岩	磨面は主に1面で、使用によりやや湾曲する。他の4面に製作時の磨面痕が残り。	片端欠。
570	金属製品 煙管重首	埋没土	長さ 高さ 重さ	1.7+ 高さ 0.9+ 補強帯 径 0.8 火風径 1.7 重量 2.7	火風の縁に敲打痕。火風の内面に製作時と思われる横方向の擦痕。首に輪軸帯。全体に緑青付着。	火風、指返しの上 半残。

A区5号溝(PL.8-50)

位置 785・790-670 重複 なし。北側を掘削で破壊される。形状・規模 長さ約4.0m 幅0.85~1.07m 深さ0.26mで、ほぼ南北にのびる。底面は平底で、壁面はなだらかに立ち上がる。埋没土 黒褐色土を主体とし、地山の黄色系砂質土が目立たない。遺物 肥前磁器碗・徳利、瀬戸・美濃陶器鉢り鉢、堺・明石すり鉢、砥沢砥石のほか、図示していないが肥前磁器皿、尾呂茶碗、在地系焙烙などが出土した。216が19世紀中～後半、他は18世紀末～19世紀である。また、北側に径10cmほどの隙が散在し、西上端の確認面レベル付近から径20~30cmの扁平な河床礫が並べて据え置かれていた。所見 遺物より18世紀末以降のものである。



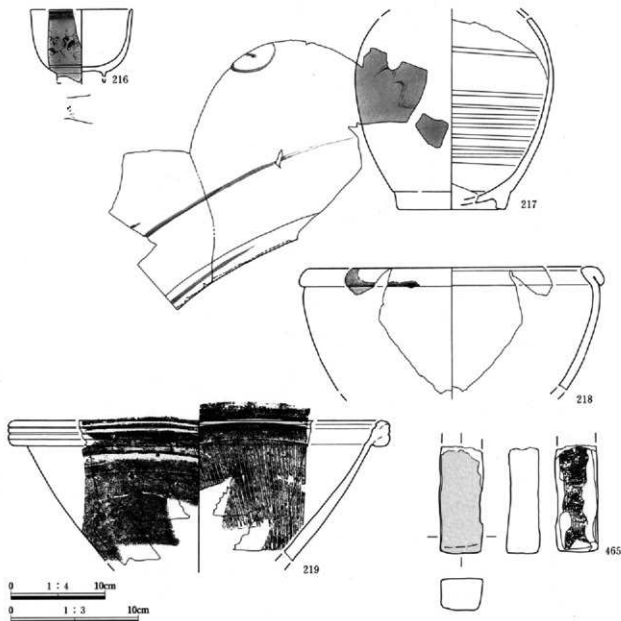
A区5号溝

- A区5号溝
1. 黒褐色土。バミス・径5cmの礫を微量含む。
2. 黒褐色土。1層より黄味が強い。バミス・径5cmの礫を微量含む。

L=72.30m

0 1:60 2m

上増田島遺跡A・B区



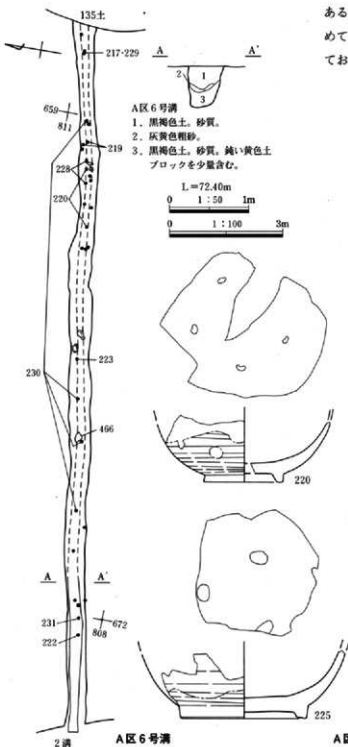
A区5号溝出土遺物

A区5号溝遺物観察表

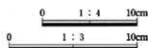
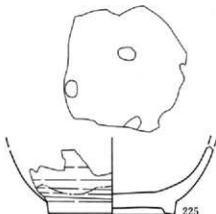
番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
216	磁器 赤絵碗	埋没土	口径 (8.0) 底径 — 器高 5.7+	肥前。口縁部外面に染め付けを施し、他は上絵付け。唐織は赤、主文様の輪郭は黒、他は桃色を使用。高台内に焼き継ぎ時に記した数字「213」? が赤で記される。	口縁～体部1/12、底部高台端を除き1/2残。焼き継ぎ。19世紀中～後半。
217	磁器 徳利	埋没土、A区6溝+45、2井+23	口径 — 底径 8.5 器高 15.1+	肥前。外面染め付け。内面と高台端部無縁。	胴部中位～底部外縁1/2残。焼き継ぎ。底欠見逃。
218	陶器 練り鉢	埋没土、A区6溝埋没土	口径 (32.0) 底径 — 器高 13.0	瀬戸・美濃。口縁部外方に折り返し、玉縁状にする。内外面に灰釉施し。口縁部外面に銅緑釉を流す。粗い貫入入る。	口縁～体部中位1/4残。
219	陶器 すり鉢	埋没土、A区6溝+53	口径 (40.0) 底径 — 器高 14.8+	厚・明石。口縁部縁帯をなし、内面の尖帯は消滅し凹縁のみとなる。外面口縁部下見削り。	口縁～体部中位1/4残。
465	石製品 砥石	埋没土	長さ 8.5+ 幅 3.3 厚さ 2.2-2.6 重量 127.3 砥石	磨面は主に1面で、使用により両面し、端部が僅かに屈曲する。他の4面に製作時の衝面筋が残る。磨面の刮削が顕著。	片断欠。

A区6号溝(PL.8-9-51-52)

位置 805・810-655-675 重複 2号溝、135号土
 坑 プラン確認より6号溝→1号道 形状・規模
 長さ約18.7m 幅0.35-0.55m 深さ0.55mでは
 ば東西にのびる。やや湾曲した平底で壁面は直に立



ち上がる。埋没土 黒褐色土を主体とし、間層(2層)に粗砂が堆積する。遺物 出土位置は散在するが、東寄りにやや多い。肥前磁器鉢、瀬戸・美濃陶器片口鉢・練り鉢・すり鉢・火入れ・瓶掛け、常滑陶器甕、粉ひき臼などのほか、在地系土器火鉢・焙烙などが出土した。18世紀後半から19世紀が中心である。所見 重複する2号溝との新旧関係はつかめていないが、中心となる出土遺物の時期は一致しており、ほぼ同時期のものと思われる。



A区6号溝出土遺物



A区6号清出土遺物

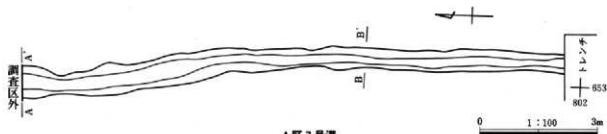
A区6号溝遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態
220	陶器 片口鉢?	+21	口径 — 底径 6.2 器高 5.3	瀬戸・美濃。内面から底部外面に灰釉を掛ける。見込み目煎4ヶ所残る。	体部下1/2以下残。
221	陶器 練り鉢	埋没土	口径 21.8 底径 13.8 器高 10.8	瀬戸・美濃。口縁部を折り返し玉縁状にする。内面から底部外面に灰釉を施す。見込み目煎5ヶ所残る。	口縁~体部5/8欠。
222	陶器 火入れ?	+10, 810~670	口径 (10.5) 底径 (10.0) 器高 8.5	瀬戸・美濃。口縁部外面にスタンプで文様を施す。内面口縁端部から外面体部下端に銅緑釉を施す。	口縁部1/4、体~底部外縁1/2残。
223	磁器 鉢	+32	口径 (5.0) 底径 4.5+	肥前。外面緑掻きで飛雲?を描く。主文様は不明。内面無文。	体~底部外縁1/6残。
224	陶器 土瓶	埋没土	口径 — 底径 (7.8) 器高 5.8+	益子・笠原。外面白土掛けの後、鉄絵具で施文する。内面から高台脇に灰釉を施す。底部外面から高台脇無釉。無釉部分に煤付着。	体部下1/2~底部外縁1/4残。
225	陶器 片口鉢	埋没土	口径 — 底径 9.8 器高 5.4+	瀬戸・美濃。体部は丸みを帯びて立ち上がる。内面から高台脇に灰釉を施す。軸端は黄瀬戸風。見込み目煎3ヶ所残る。	体部下1/4、底部3/4残。
226	陶器 すり鉢	埋没土	口径 (32.6) 底径 (14.6) 器高 13.7	瀬戸・美濃。口縁部は断面三角形を呈する。内面使用により摩滅する。全面銅緑釉施後底部外面の釉を拭く。	口縁~体部中位1/4、体部下1/2~底部1/2残。
227	陶器 すり鉢	埋没土	口径 — 底径 (11.0) 器高 4.1+	瀬戸・美濃。底部回転糸切り無調整。錯軸を施す。内面及び底部外面使用により摩滅する。	体部下1/2~底部3/8残。
228	陶器 すり鉢	+33~44, 2井+30	口径 — 底径 (18.0) 器高 3.6+	堺・明石。底部外面砂付着。	体部下1/2~底部1/2残。
229	陶器 飯盃?	+56, 800~665	口径 — 底径 16.6 器高 3.0+	瀬戸・美濃。見込みを除き錯軸を施す。底部外面に低い貼り付け脚が1ヶ所残る。銅緑釉が一部流れる。	体部下1/2~底部1/2残。
230	陶器 飯掛	+36~44, 埋没土、2井+53	口径 — 底径 20.7 器高 16.7+	瀬戸・美濃。高台内と底部外面に錯軸を刷毛塗りする。外面銅緑釉を施す。	体部中位1/4、以下高台内中央を欠いて3/4残。
231	陶器 花瓶	+30	口径 — 底径 (8.6) 器高 7.1+	瀬戸・美濃。脚部外面回転糸削り。内面右回転の絞りが残る。体部外面下位から脚部外面に錯軸、体部下位以上に灰釉を掛け分ける。底部外面の釉は拭く。	体部下位以下1/2残。
232	陶器 壺	埋没土	口径 — 底径 6.1+	常滑。口縁部「丁」字状を呈する。	口縁部破片。
233	陶器 壺?	埋没土	口径 — 底径 — 器高 5.3+	常滑。内面に自然釉が付着し、体部下位の破片であろう。内面使用により平滑となる。	体部下位破片。中世。
466	石製品 粉挽き臼 下白	埋没土	径 約18 芯穴径 約4 高さ 9.5 含み 0.3 挟り高 3.5 重量 5469 粗粒輝石安山岩	含みは浅く、目は摩滅が顕著だが6分割か。側面及び底面は粗く仕上げる。	1/4残。
574	銅銭 皇宋通寶	埋没土	銭径 2.48~2.50 内径 2.08~2.02 ~0.70 厚さ 0.12~0.13 重量 2.2	孔径 0.69 北宋、初铸1038年。篆書。	ほぼ完全。

A区7号溝(PL.9)

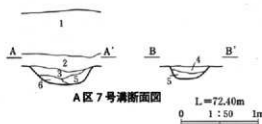
位置 800~815~650 北は調査区外へのびるがB区では検出されていない。重複 なし。形状・規模 長さ 約14.1m 幅 0.3~0.84m 深さ 0.25m ほぼ南北にのびる。平底で壁面はなだらかに立ち上

がる。埋没土 黒褐色土を主体とし、自然堆積と思われる。遺物 出土しなかった。所見 区画溝であろう。詳細な時期は不明だが、他の遺構の状況から中世以降と考えられる。



A区7号溝

上増田鳥遺跡 A・B区



A区7号溝断面図

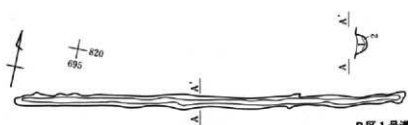
A区7号溝

1. 表土。
2. 黒褐色土。しまりが強い。パミスを微量含む。
3. 黒褐色土。しまりが強い。パミス・径3mm程度の礫を微量含む。
4. 黒褐色土。3層より黄味が強い。パミスを微量含む。
5. 黒褐色土。川砂状の粗砂ブロック・径5cm程度の礫を少量、パミスを微量含む。
6. 黒褐色土。鈍い黄褐色土ブロックを少量、パミスを微量含む。

B区1号溝(PL.9)

位置 815・820-685-695 重複 なし。形状・規模 長さ約10.2m 幅0.17~0.38m 深さ0.18mでほぼ東西にのびる。やや湾曲した底面から壁面へなだらかに立ち上がる。鳥遺跡の他の溝に比して幅が狭

い。埋没土 黒色土を主体とする。遺物 図示していないが、磁器形紙染付碗が出土した。所見 区画溝であろう。詳細な時期は不明だが、他の遺構の状況から中世以降と考えられる。



B区1号溝

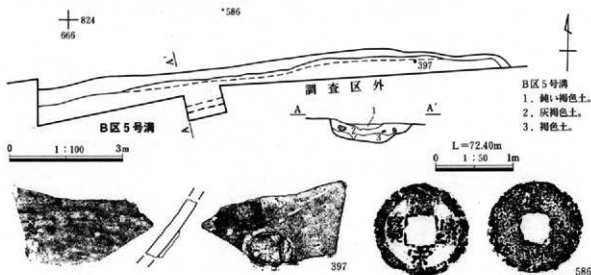
B区1号溝

1. 黒色土。しまりが強い。
2. 黒色土。しまりが強い。地山の褐色細砂ブロックを少量含む。

B区5号溝(PL.9-52)

位置 820-650-665 重複 なし。形状・規模 長さ約12.4m 幅約1.1m 深さ0.32mでほぼ東西にのびる。やや湾曲した平底で、壁面はなだらかに立ち上がる。南側の上端・下端は調査区外のために

セクションからの確認である。埋没土 他の溝が黒褐色土を主体とするのに対し、本遺構は褐色土を主体とする。遺物 中世常滑の甕?破片などが出土した。所見 区画溝であろう。詳細な時期は不明だが、他の遺構の状況から中世以降と思われる。



B区5号溝

B区5号溝

1. 鈍い褐色土。
2. 灰褐色土。
3. 褐色土。

B区5号溝出土遺物

B区5号溝遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
397	陶器 甕?	+16	口径 - 底径 - 器高 5.2+	常滑。外面に自然釉が底下し、漆台?とした破片と貼り付く。また、内面には菱状に自然釉が付着することから体部下位破片であろう。内面は使用により平滑となる。	体部破片。 中世。
586	銅銭 皇宋通寶	周辺	銭径 2.44-2.49 内径 1.95-2.01 孔径 0.81 ~0.83 厚さ 0.13-0.14 重量 2.4	鑄付着で判読困難。北宋。初鑄1038年。真書。	外縁・孔縁欠。

3. 井戸

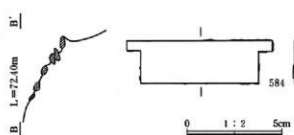
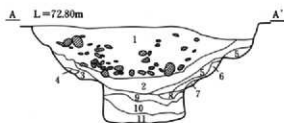
B区1号井戸(PL.10-52)

位置 825・830-695・700 重複 なし。規模
上端 3.85×3.63m 筒部上端 1.39×1.13m 下端
0.90×0.78m 深さ 1.58m 筒部深さ 0.64m 構造
平面は上端・筒部上端・下端とも不整形円形。底面は
平坦で、壁面は中端まで直に立ち上がって筒部をな
し、中端から上端にかけては全体がすり鉢状に内湾
しながら立ち上がる。アグリは観察できない。すり
鉢状の部分は、底面が平坦で外側の壁面が直に立ち
上がる通路状になっており、北から右回りの螺旋で
中端に達する。螺旋1段目底面の南西から傾斜に沿
って筒部上端まで扁平な河床礫が階段状に据え置か
れている。螺旋底面に踏み固めた様子はなく、階段

状の部分を使って筒部上端まで降り、水を汲み上げ
ていたものであろう。特に作業を行うためのスペー
スは設けられていない。筒部には木製の枠が施され
ていたと思われるが遺存しておらず、セクションで
もその痕跡、または掘り方部分の土層が観察できな
かった。埋没土 灰色・黄色系砂質土で埋没してお
り、地山由来の自然堆積である。1層下半に堆積する
河床礫は、処理のために埋没過程の本遺構に捨てら
れた可能性が高い。遺物 用途不明鉄製品のほか、
図示していないが肥前陶胎染付碗、砥石などが出土
した。所見 螺旋構造をもつ井戸である。詳細な時
期は不明だが、他の遺構の状況から中世以降であ
らう。



B区1号井戸



B区1号井戸出土遺物

B区1号井戸

1. 鈍い黄褐色土。しまりが弱い。塵・粗砂・細砂を多量含む。
2. 濁灰色土。しまりが強い。暗褐色砂質土粒を多量、径3cm程の礫を少量含む。
3. 黒褐色土。砂質。しまりが弱い。暗褐色砂質土粒を多量含む。
4. 灰黄褐色細砂。黄褐色細砂を均一に少量含む。
5. 鈍い黄褐色細砂。しまりが弱い。径3cm程の礫を少量含む。
6. 黒褐色土。砂質。しまりが強い。
7. 鈍い黄褐色細砂。しまりが弱い。
8. 黒褐色土。粒子が細かい。やや粘質。細砂を少量含む。
9. 灰黄褐色細砂。しまりが弱い。
10. 灰黄褐色細砂。しまりが弱い。黒褐色土(8層)ブロックをラミナ状に少量含む。
11. 灰オリブ砂。褐色粘質土粒を少量含む。



B区1号井戸遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形等の特徴	残存状態 備考
584	鉄製品 ?	埋没土	長さ 2.4 幅 7.65-6.25 厚さ 0.1 重量 15.7	均一な厚さの板状品。鑄造。	完形。

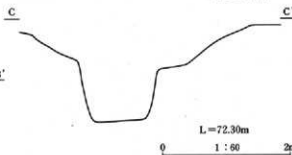
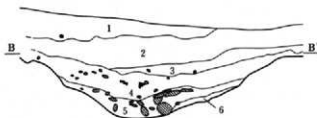
A区2号井戸(PL.11-52~55)

位置 785・790-665・670 **重複** なし。 **規模**
 上端 3.03×3.73m 筒部上端 1.23×1.36m 下端
 0.64×0.82m 深さ 1.52m 筒部深さ 0.81~0.95m
構造 南半が調査区外のため詳細不明だが、平面は
 上端・筒部上端・下端とも不整形を予想する。平坦な
 底面から壁面が直に立ち上がって筒部をなし、筒部上
 端から上端にかけては全体がすり鉢状に緩やかに立
 ち上がる。アグリは観察できない。筒部は地山の礫層に
 達し、また井戸全体の西寄り位置するため、すり鉢状部
 の西壁は傾斜が他よりややきつい。
埋没土 下半は粘度のある土が堆積する。北側を中心
 に5層付近から河床礫が出土したが、壁面に摺え

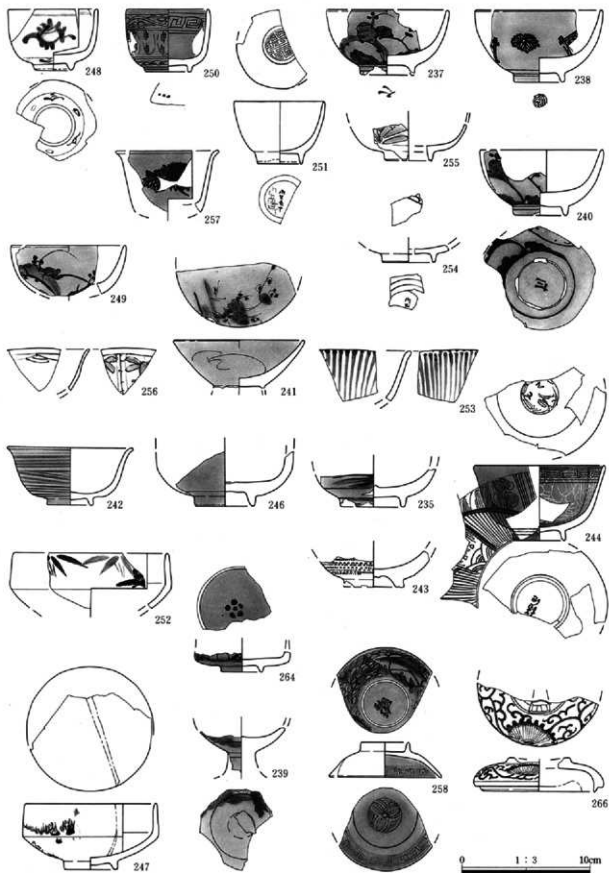
置かれた様子は見られず、処理のために捨てられた
 ものと思われる。筒部上層は河床礫が密に堆積し、
 これより下層から木製品が出土した。**遺物** 礫と
 共に肥前磁器・陶器碗、瀬戸・美濃陶器碗・皿、堺
 ・明石すり鉢、中世常滑甕などが出土した。筒部出
 土の木製品は幹を円筒状に切断し、中を削り抜いた
 ものである。底面を囲むような位置で一部内側に倒
 れ込むような出土状態から井戸枠に使用されていた
 可能性がある。その場合、表面の炭化は加工を容易
 にし、耐水性を高める目的が考えられる。217はA
 区5号溝、228・230はA区6号溝と接合。**所見**
 詳細な時期は不明だが、出土遺物は18世紀後半から
 幕末が中心である。

A区2号井戸

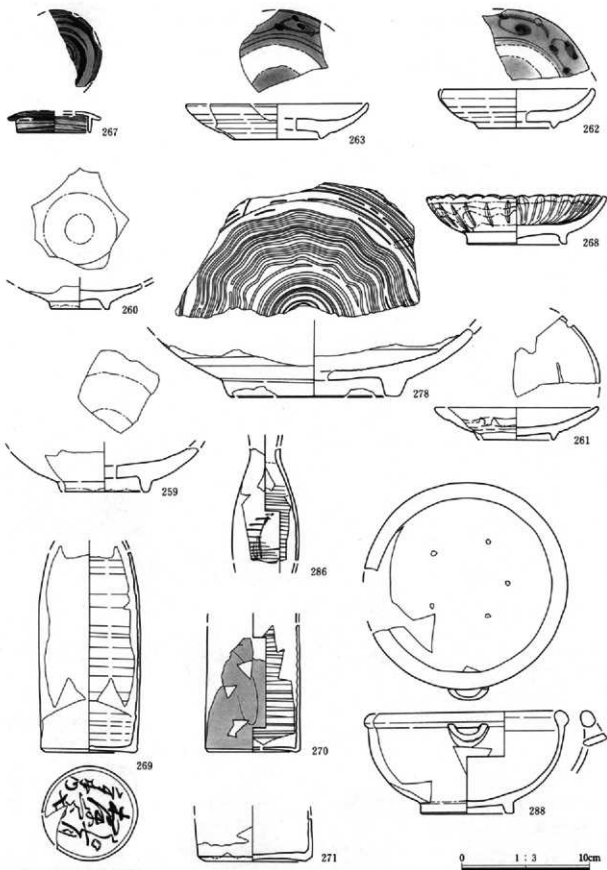
1. 黒褐色土。表土。
2. 極暗褐色土。バミス・炭化物を微量含む。
3. 極暗褐色土。明黄褐色土ブロックをやや多量、バミス・炭化物を微量含む。
4. オリーブ黒色土。やや粘質。しまりが強い。暗褐色土ブロックをやや多量、バミス・炭化物・径5cm程度の礫を少量含む。
5. オリーブ黒色土。やや粘質。しまりが強い。径5~30cm程度の礫を多量、暗褐色土ブロックをやや多量、バミス・炭化物を少量含む。
6. オリーブ黒色土。やや粘質。しまりが強い。炭化物を少量含む。



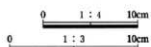
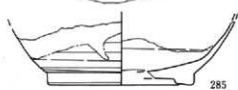
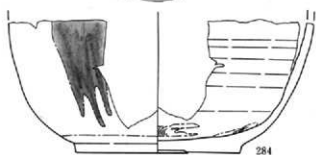
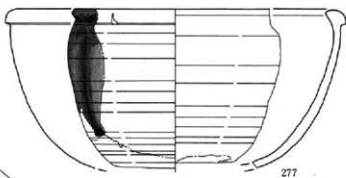
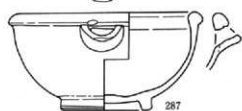
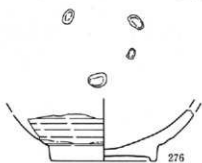
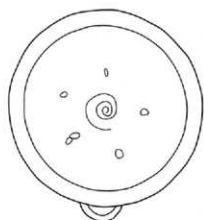
3. 井戸



A区2号井戸出土遺物

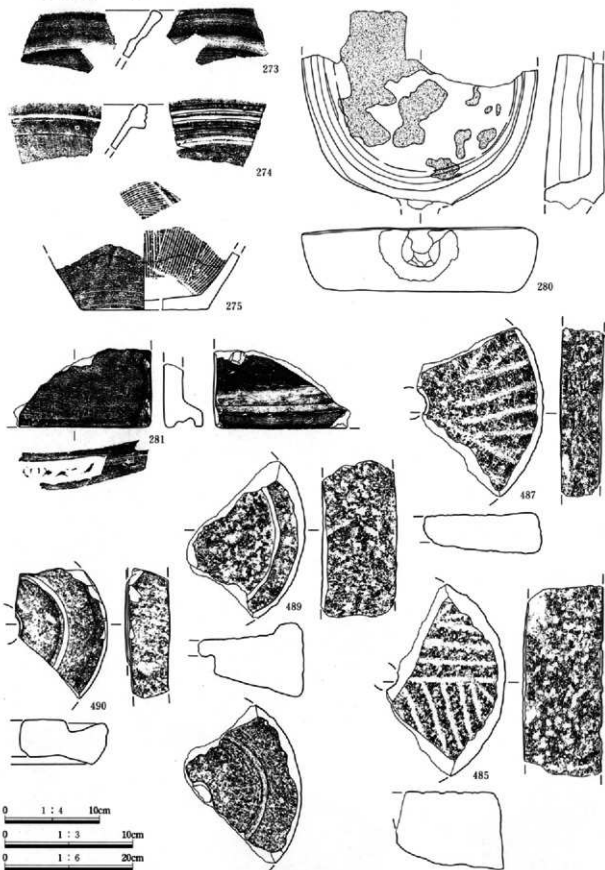


A区2号井戸出土遺物

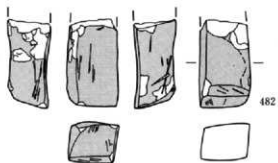


A区2号井戸出土遺物

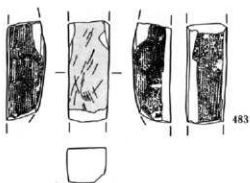
上増田島遺跡A・B区



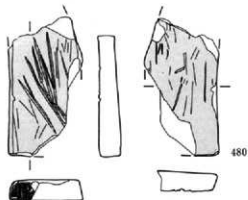
A区2号井戸出土遺物



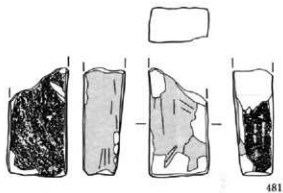
482



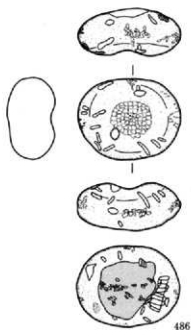
483



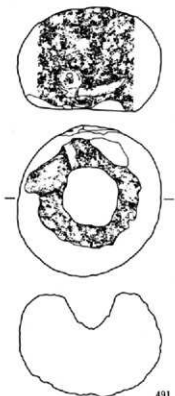
480



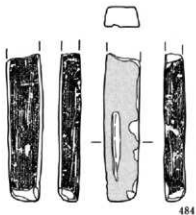
481



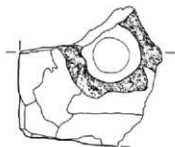
486



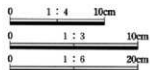
491



484



488



A区2号井戸出土遺物

上増田島遺跡A・B区



265



279



567



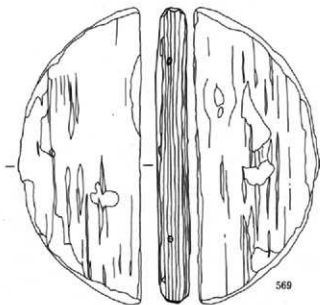
582



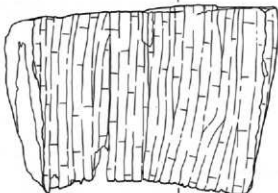
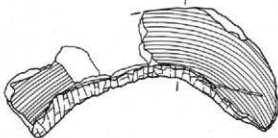
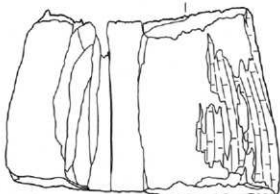
581



0 1:1 2cm



569



566-1

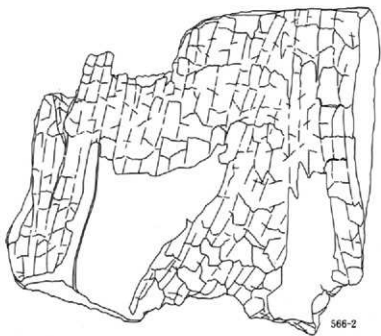
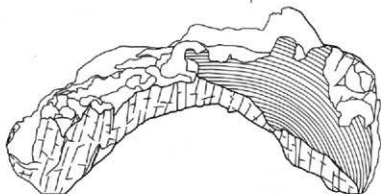
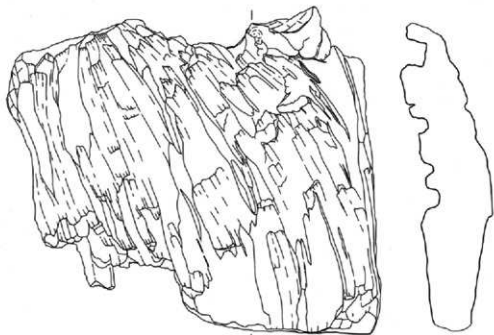
0 1:2 5cm

0 1:4 10cm

0 1:3 10cm

0 1:6 20cm

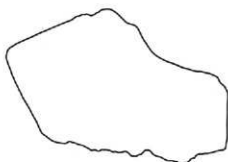
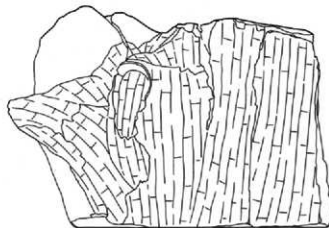
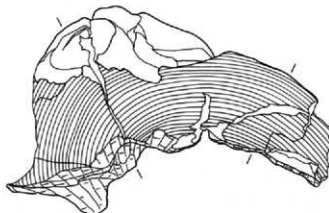
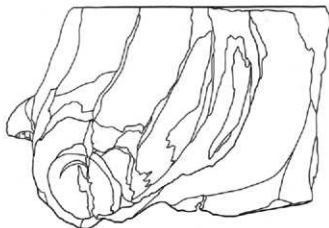
A区2号井戸出土遺物



566-2

0 1 : 6 20cm

A区2号井戸出土遺物



568

0 1:6 20m

A区2号井戸出土遺物

A区2号井戸遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態考
235	陶器 碗	+109, 埋没土、B区1井戸埋没土	口径 — 底径 5.1 器高 3.0+	肥前。外面東屋山水文か。陶胎染付。	高台端部を欠いて体部下位以下残。焼成不良。
237	磁器 碗	埋没土	口径 (9.7) 底径 4.2 器高 5.1	肥前。外面雪輪樹文。高台内不明跡。	体部3/4、高台端部の一部欠。渡佐見系。

3. 井戸

238	磁器 碗	+95	口径 底径 器高	(10.5) 3.9 5.7	肥前。外面コンニャク判による施文。高台内「湯桶」字執。	体部3/4、高台端部 1/4欠。
239	磁器 仏飯器	+136	口径 底径 器高	— — 3.8+	肥前。外面染め付け。	体部下位～脚部上 半残。 流注見系。
240	磁器 碗	+112	口径 底径 器高	(9.6) (4.1) 5.2	肥前。外面雪輪梅樹文。高台内不明読。	口縁～体部上半、 高台端部一部残。 流注見系。
241	磁器 碗	+38	口径 底径 器高	(10.3) — 3.8+	肥前。口縁部と体部が直線的に開く。外面に松葉状の文様を、内面に 梅樹文を細く。口縁部と高台の胎土は赤味を帯びる。体部下位に非常 に強い貫入入る。	口縁～底部1/2残。 焼成不良。 流注見系。
242	陶器 刷毛目碗	+104、埋没 土	口径 底径 器高	9.8 3.7 4.6	瀬戸・美濃。口縁部は端反り。内面は白土掛け、外面は刷毛で白土掛 けする。高台端部を除き透明釉を掛ける。	口縁部～高台上半 1/4欠。
243	陶器 飯手碗	埋没土	口径 底径 器高	— 4.8 2.8+	瀬戸・美濃。器壁厚い。高台内縁に括る。高台端部を除き灰釉を施す が、内外面で発色が異なる。	高台端部を一部欠 いて、体部下位 以下残。
244	磁器 端反碗	+96～125、 埋没土、A 土埋没土	口径 底径 器高	(10.4) 4.0 5.9	肥前？。見込み三友、口縁部内面雪文帯、口縁部から高台端に焼き継 ぎ。高台内に焼き継ぎ時の赤文字「増田」。	体部上半以下1/4、 以下1/2残。 焼き継ぎ。
246	陶器 碗	埋没土	口径 底径 器高	— (4.6) 4.3+	肥前。高台内僅かに括る。残存部の染め付けは外面の圈線のみ。陶胎 染付。	体部下半以下1/2 残。
247	陶器 碗	+123、埋没 土	口径 底径 器高	(10.3) 4.1 5.2	瀬戸・美濃。ほぼ中央から灰釉と柿釉を掛け分ける。高台端部のみ無 釉。	口縁～体部中位 1/2残。
248	磁器 小碗	埋没土	口径 底径 器高	(7.0) 2.8 4.8	瀬戸・美濃。外面の文様は宝珠か。	口縁～体部3/4欠。 19世紀中～後半。
249	磁器 碗	埋没土	口径 底径 器高	(8.9) — 4.0+	肥前。外面雪輪梅樹文。	口縁～体部中位 1/4残。 流注見系。
250	磁器 小碗	+104、埋没 土	口径 底径 器高	6.6 (3.6) 4.9	製作地不詳。体部外面を面取りする。染め付けは茶書き高台内に焼き 継ぎ時に記した赤色の符丁あり。	口縁部1/2残。 焼き継ぎ。
251	磁器 小碗	+123	口径 底径 器高	(7.2) (3.6) 5.0	瀬戸・美濃。口縁。見込み「荷」字の押印文。高台内焼き継ぎ時の透明 と青の文字。透明文字「内口五?十」、青文字「内口五?十」。高台内長方 形区画内に「天?山」押印。焼き継ぎ時に上るか。二次的加熱あり。	口縁部1/4、以下 1/2残。 焼き継ぎ。
252	陶器 上絵碗	+130、埋没 土	口径 底径 器高	(11.9) — 4.4+	京・信楽系。口縁部は屈曲して立ち上がる。口縁部外面に赤と緑で施 文を上絵付けする。黒の施文は鉄絵具による下絵付け。	口縁～体部上半 1/4残。
253	磁器 碗	+125	口径 底径 器高	— — 4.0+	瀬戸・美濃。内外面に表裏手状の文様を具帯で描く。	口縁～体部中位破 片。
254	磁器 上絵碗	埋没土	口径 底径 器高	(4.2) 1.4+	肥前。内外面の文様は赤色。高台内に焼き継ぎ時と思われる赤と緑の 文字「内口」。	体部下位～底部 1/4残。 焼き継ぎ。
255	磁器 碗	埋没土	口径 底径 器高	(3.6) 2.9+	肥前。外面に赤で圈線、黒で輪郭、青で輪郭内を上絵付けする。	体部下位～高台 1/4残。
256	磁器 上絵碗	+105	口径 底径 器高	(8.8) — 3.3+	肥前。内外面の圈線を赤、植物?文内を緑、植物?文の輪郭と軸を黒 で上絵付けする。	口縁～体部中位破 片。
257	磁器 小碗	埋没土	口径 底径 器高	(8.0) — 4.8+	肥前。外面にコンニャク判による染め付け。	口縁～体部1/4残。
258	磁器 端反碗蓋	+116、埋没 土	口径 挟み径 器高	(8.8) 3.7 3.7	肥前。焼き継ぎ部で割れる。挟み内に赤色ガラスで焼き継ぎ時の赤文 字「増田」。	体部以下1/2欠。 焼き継ぎ。
259	陶器 皿?	埋没土	口径 底径 器高	— (6.8) 3.2+	肥前。見込み蛇の目輪割ぎ。高台内括る。残存部に染め付けは認めら れない。陶胎染付?。	口縁部を欠いて 1/4残。
260	磁器 青磁皿	埋没土	口径 底径 器高	— 4.5 2.0+	肥前。見込み蛇の目輪割ぎ。内面から高台外面に青磁釉を施す。釉は 一部高台内に達する。輪厚が薄く、輪調は精白磁。	体部下半以下残。 流注見系。
261	陶器 皿	埋没土	口径 底径 器高	(12.9) (6.0) 2.6	瀬戸・美濃。高台断面三角形。高台断面基部は「V」字状に割る。口 縁端部を面取りする。内面から体部外面に灰釉を薄く施す。見込みに 高台端部の重ね痕が残る。	1/4残。
262	磁器 皿	埋没土	口径 底径 器高	(12.4) (6.0) 3.1	肥前。見込み蛇の目輪割ぎ。口縁部内面簡略化した唐草文。	1/4残。 流注見系。

上増田島遺跡A・B区

263	磁器 皿	埋没土	口径 底径 器高	(14.2) (7.0) 2.8	肥前。見込み蛇の目軸筋。高台基部形状に近い。	口縁部の一部、以下1/4残。
264	陶器 筒形甕	+117	口径 底径 器高	— 3.1 1.6+	瀬戸・美濃。見込み梅花状文様。外面は菊花文。高台部に圈線を1条施す。	高台を含んで体部最下位～底部1/3残。
265	陶器 灯明皿	埋没土	口径 底径 器高	(8.5) (2.8) 1.7	京・信楽系。外面丁寧な回転彫り。内面から口縁部外部に細かい貫入の入る透明釉を施す。	1/4残。
266	磁器 蓋	+110	最大径 積み長 器高	(10.2) 1.1+ 2.6+	肥前。染め付けの蓋。身受け部分無釉。天井部染め付け。リボン状の積み貼り付け。	1/2残。
267	陶器 蓋	埋没土	最大径 積み長 器高	(7.3) — 1.8+	製作地不詳。胎土は白色と灰黒色の練り込み。天井部外面に透明釉。急須の蓋か。	積みを欠いて1/2残。
268	陶器 茗皿	+111	口径 底径 器高	(14.1) (7.8) 3.9	瀬戸・美濃。外面の花弁は簡略化される。内面から高台部に灰釉を施す。口縁部に銅緑釉を施した為か、口縁部のみ釉が厚い。他の部分は釉が薄く、白濁する。	1/2残。 17世紀か。
269	陶器 燗徳利	埋没土、A区2溝埋没土	口径 底径 器高	— 7.6 15.9+	製作地不詳。体部外面灰釉を施す。釉に細かい貫入。底部外面丁寧な回転彫り。底部周縁は斜めに削る。底部外面書割「う七月お徳口や 三十木内」。	口縁部、体部1/4欠。墨書。幕末～明治。
270	陶器 燗徳利	+126、A区2溝埋没土	口径 底径 器高	— (7.4) 9.9+	瀬戸・美濃。残存部はやや窄まる円筒形を呈する。底部外面丁寧な回転彫り。底部周縁は斜めに削る。体部外面灰釉を施す。体部外面鉄絵。	胴部下半以下残。
271	陶器 燗徳利	埋没土	口径 底径 器高	— 8.0 3.4+	京・信楽系。外面底部と底部周縁回転彫り。内面から体部外面下端に透明釉を施す。細かい貫入。入る。	体部下位以下残。
273	陶器 すり鉢	埋没土	口径 底径 器高	— — 5.0+	瀬戸・美濃。錯軸を施す。	口縁部破片。
274	陶器 すり鉢	+110	口径 底径 器高	— — 4.7+	堺・明石。口縁部厚みのある縁帯をなす。内面の突帯は丸みを帯び、上部は凹線状に窪む。	口縁部破片。
275	陶器 すり鉢	埋没土	口径 底径 器高	— (13.0) 6.0+	瀬戸・美濃。錯軸を施す。	体部下位～底部1/4残。
276	陶器 片口鉢	+83	口径 底径 器高	— 8.0 4.1+	瀬戸・美濃。見込み径は小さく、体部は直線的に開く。内面から高台部に灰釉を施す。見込み目直3ヶ所残る。	体部下位以下残。 炬置質に近い焼きまじり。
277	陶器 練り鉢	+39	口径 底径 器高	(35.8) — 16.9+	瀬戸・美濃。口縁部内開し、端部は外方に折り返す。内面から高台部に灰釉を施す。口縁部外面から銅緑釉を流し掛ける。見込み団子状の目直1ヶ所残存。	口縁部1/6、体部1/4残。
278	陶器 皿	+130	口径 底径 器高	— (13.2) 5.3+	肥前。内面白土を波状に施す。内面の透明釉は薄く白濁する。二彩と思われ、他の釉が一部流れる。	口縁部を欠いて1/2残。 書法。
279	陶器 灯明具	埋没土	最大径 底径 器高	6.1 — 4.9+	製作地不詳。灯明台と皿が結合した器形。胎土は紫がかかる。受け部に2ヶ所流入穴を設ける。鉄軸を施す。	皿部・口縁部、受け部・口縁部1/4、脚部欠。
280	土器 土甕	埋没土	長さ 幅 器高	15.5+ 18.5+ 5.1+	在地系。外面製作り残れる。焼し焼成。	柄部、先端部欠。
282	陶器 鉢?	+63	口径 底径 器高	— — 6.7+	常滑。前面と外面下半部表鈍い褐色を呈する。内面は使用により器表が平滑となる。	胴部破片。 中重。283・402と同一個体か。
283	陶器 鉢	埋没土	口径 底径 器高	— — 11.1+	常滑。282と胎土・焼成・器厚が近似しており、同一個体の可能性がある。	胴部破片。 中重。282・402と同一個体か。
284	陶器 練り鉢	+95～121、埋没土	口径 底径 器高	— 17.3 13.5+	瀬戸・美濃。内面から高台部に灰釉、口縁部から体部外面に銅緑釉を流す。銅緑釉の流し掛けは、残存部の状態から4ヶ所と考えられる。見込み団子状の目直5ヶ所残る。	口縁部、体部5/6欠。
285	陶器 練り鉢	+126～130、埋没土、805～655	口径 底径 器高	— (15.5) 6.7+	瀬戸・美濃。内面から高台部に灰釉を施す。見込み団子状の目直5ヶ所。	底部中央を欠いて体部下位以下残。
286	陶器 燗徳利	埋没土	口径 底径 器高	— — 8.8+	京・信楽系。外面に鉄絵具で文様を描く。口縁部内面から外面に灰釉を施す。細かい貫入。入る。	体部1/6残。 幕末以降。
287	陶器 片口鉢	+87～95	口径 底径 器高	15.3 6.8 7.8	益子・笠間?。片口部を口縁部下に設ける。内面から高台部に灰釉を施す。内面に目直6ヶ所残る。	体部一部欠。 近現代。
288	陶器 片口鉢	+91～110、埋没土	口径 底径 器高	16.1 7.3 8.1	益子・笠間?。片口部を口縁部下に設ける。内面から高台部に灰釉を施す。内面に目直5ヶ所残る。	口縁～体部一部欠。 近現代。

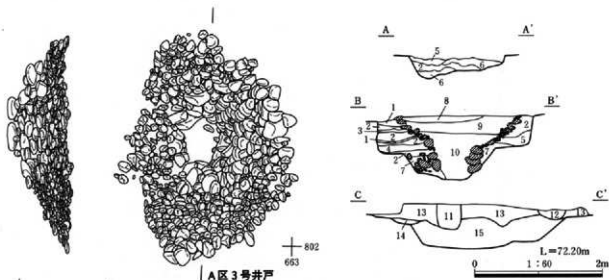
3. 井戸

番号	種類 瓦種	出土 位置	計測値	①胎土 ②胎色 ③焼成 ④重さ	形状等の特徴	残存状態 備考
281	瓦 軒平(枕)	+91	長さ 8.2+ 幅 14.3+ 厚さ 2.0 瓦当部厚さ 3.7~4.1	①透明~白色胎物 ・雲母粒 ②灰・糠 ③還元・粒 ④軽	表面無文。瓦当部対称唐草と印跡あり。側部 面取回数2。深谷継ぎ。	瓦当部L2を含む破 片。 19~20世紀。
480	石製品 砥石	埋没土	長さ 11.1+ 幅 5.7 厚さ 1.2~ 1.7 重量 136.9 珪質粘板岩		長椭圆形に自然面があり、縦状の自然面を適度な長さ に加工か。2面を使用し、溝状の使用痕が残る。 他の1面に製作時の磨削面を残す。	両端欠。
481	石製品 砥石	埋没土	長さ 8.6+ 幅 4.7 厚さ 2.5~3.2 重量 193.7 砥沢石		磨面は主に2面で使用により湾曲する。他の2面に 製作時の平磨面を残す。	片端欠。
482	石製品 砥石	+122	長さ 6.9+ 幅 3.6~4.0 厚さ 2.8 ~3.3 重量 125.3 砥沢石		磨面は全面に及び、使用により湾曲・屈曲する。	片端欠。
483	石製品 砥石	埋没土	長さ 8.0+ 幅 2.9~3.2 厚さ 2.5 ~2.9 重量 129.0 砥沢石		磨面は1面で使用により湾曲する。他の3面に製作 時の磨削面を残す。	両端欠。
484	石製品 砥石	埋没土	長さ 11.7+ 幅 2.7 厚さ 1.7 重量 84.7 砥沢石		1面を使用し、他の3面に製作時の磨削面を残す。	片端欠。
485	石製品 粉挽き白 下白	埋没土	上面径 約18 高さ 12.5 含み 0.5 挟り高 3.6 芯穴径 約4 重量 8460 粗粒輝石安山岩		目は粗い6分割で、含みはあまりない。側面及び底 面は粗く仕上げ。すり合わせ部の摩滅が少ない。	1/3残。
486	石製品 凹み石	埋没土	長さ 10.7 幅 8.6 厚さ 5.1 重量 5744 粗粒輝石安山岩		扁平な自然面を用いる。叩打痕は平面及び各頂部の 6ヶ所にあるが、内1面に集中し、その周囲に溝状 の痕が残る。反対面は磨面で、その外側に鑿等によ るとみられる長方形形状の加工痕が集中する。	完形。
487	石製品 粉挽き白 下白	埋没土	上面径 約20 高さ 6.6 挟り高 1.9 芯穴径 約5 重量 4125 粗粒輝石安山岩		目は粗い6分割で、すり面はほぼ平坦。側面及び底 面はやや平滑に仕上げ。すり面周縁は摩滅する。	1/5残。
488	石製品 五輪 火輪 燧輪	埋没土	底面幅 17.5+ 最大幅 19.2 高さ 14.2 穴径 9.2 同深さ 4.0 重量 5683 粗粒輝石安山岩		器表の割痕が顕著だが、残存する面は平坦な仕上 り。上面中央に穴を有する。割れ面を含めて一部が 赤化及び緑の付着。	1/3残。 二次的焼熱。
489	石製品 粉挽き白 上白	埋没土	上面径 約17 高さ 11.6 上縁幅 約4.5 同高 約2 含み 3.5 芯穴 径 約4 重量 4640 粗粒輝石安山 岩		上面及び側面はやや粗く仕上げ。目は全体に摩滅 するが6分割か。ものぼりは浅い溝状に僅かに残 る。	1/4残。
490	石製品 茶白 下白	+62	最大径 約15 上面径 約9 高さ 約7 周縁幅 約6 挟り 1.2 芯穴 径 約4 重量 2008 粗粒輝石安山 岩		上面及び受け皿部はやや粗く仕上げ。底面は平滑 化。受け皿縁部がなく、後に打ち欠いたか。底面を 利用した石皿への転用が可能性あり。	1/4残。
491	石製品 ?	+128	長さ 15.9 幅 15.0 高さ 11.0 重量 1372 ニッ岳軽石		扁平な球形を呈し、一部を平坦に仕上げた中央に円 錐形の穴を有する。この面を下端とし、突起部に載 せる為の遺作であろう。最大径や下寄り突起部の 加工痕を残す。	一部器表が剥離。
581	金属製品 燧輪燧首	+124	長さ 4.6+ 高さ 1.1+ 首最大径 1.05 小口径 0.9 重量 8.1		火眼と首の角度が直角に近い。首は中心や偏す寄 りに最大径をもち、羅字輪に筋形を重なる。首上 面が二次的にやや潰れる。	火眼欠。
582	銅鏡 寛永通寶	+132	鏡径 2.82~2.83 孔径 0.64 厚さ 0.10~0.11 重量 3.0	1769年初鋳。11度。		ほぼ完形。一部龜 裂で歪む。
566-1	木製品 井戸杵?	+118	幅 43.4 高さ 29.9 厚さ 10.8 樹種 マツ材		上下面は鋸等の工具で幹を切断した平坦面をもつが 腐食が進む。平坦面の一部に段差があり、工具痕と 思われる。外面の一部に削皮が残り、全て炭化して いる。内面は中心を削り抜き、表面が全て炭化。上 下面は炭化せず、被熱後に切断か?	一部欠。 用途不明。
566-2	木製品 井戸杵?	+46	幅 50.1 高さ 51.9 厚さ 19.3 樹種 マツ材		上下面は鋸等の工具で幹を切断した平坦面をもつが 腐食が進む。外面には削皮が残り、一部が炭化する。 内面は中心を削り抜き、腐食による割れを除いて全 て炭化。上下面は炭化せず、被熱後に切断か?	一部欠。 用途不明。
567	木製品 井戸杵?	埋没土	長さ 11.8 幅 4.9 樹種 ムクノキ		樹皮の付いた幹を鋸で斜めに切断する。切断面に連 続した種かな段差が認められ、工具痕であろう。他 の一端は腐食が進む。	片端欠か? 用途不明。
568	木製品 井戸杵?	+60	幅 51.3 高さ 35.4 厚さ 21.7 樹種 マツ材		上下面は鋸等の工具で幹の横分れ部分で切断した 平坦面を持つが腐食が進む。外面は腐食による割れ を除いて削皮が残る。内面は中心を削り抜き、表面 が全て炭化。内面以外は炭化せず、被熱後に切断か。	一部欠。 用途不明。
569	木製品 底板?	埋没土	直径 (31.6) 厚さ 3.2 樹種 スギ		平面扇形を呈し、上下面を平坦に仕上げ。外側面 は腐食が進んで丸くになっているが、一部に平坦面 が残り、本来は円錐状で直に立ち上がるものと思わ れる。内側面は平坦で、2ヶ所に長方形の物穴をも つ。3枚で構成されるか。	1/2残。 横等の底板か。

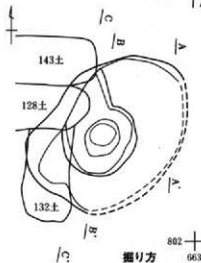
A区3号井戸(PL.12・口絵)

位置 800・805-660・665 重複 3号井戸→128・132・143号土坑 規模 上端 3.68×2.58m 筒部約0.80×0.60m 深さ 1.00m 筒部深さ 0.54~0.68m 構造 全体に河床礫を積み上げて裏込めの壁面を押さえる。筒部は長さ40~50cm、幅20cmほどの大振りな礫を底面より10cmほど上位から3・4段積み上げて基礎とし、すり鉢状の部分は主に10~20cm大の礫を用いる。上端平面は西辺がやや影らむ隅丸三角形で、筒部は平面五角形をなす。水平に揃えた最下段の礫から筒部壁面が直に立ち上がったのち、上端までおよそ40~50°の角度をもってすり鉢状の斜面をなす。西側中央付近の上端は他より30~50cmほど低く、平坦面となるように礫が敷かれている。一

段降りたこの場所が、水汲み等作業を行うためのスペースとして用いられたと推測する。掘り方 平面は北北東から南南西にのびる楕円形で、作業スペースと考えられる平坦面部分が西へ張り出す。50cmほど直に掘り込んだ後、底面に向かってすり鉢状に掘り込む。底面中央が周囲より5cmほど低くなっている。裏込めはセクション北側において黒褐色土と黄褐色土が互層をなす。筒部に相当する部分に砂礫を用いるのは湧水のための造作であろう。埋没土礫が多量に埋没しており(10層)、人為的に埋め戻されたと考えられる。遺物 龍泉系青磁碗が出土した。所見 詳細な時期は不明だが、他の遺構の状況から中世以降と思われる。



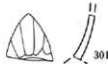
A区3号井戸



掘り方

A区3号井戸

1. 純い黄褐色土。しまりが強い。粘質。径3cm程の2層土ブロックを少量、バミスを微量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。1層土粒をやや多量、バミスを微量含む。
3. 純い黄褐色土。しまりが強い。粘質。
4. 純い黄褐色土。しまりが強い。粘質。径5cm前後の灰色粘質土ブロックを少量含む。
5. 黒褐色土。しまりが強い。1層土粒を少量、バミスを微量含む。
6. 黒褐色土。1層土粒を少量、バミスを微量含む。
7. 砂礫。
8. 黒褐色土。純い黄褐色土ブロック・粒をやや多量含む。
9. 純い黄褐色土。黒褐色土ブロック・粒を少量含む。
10. 径30cm以下の円礫を灰黄褐色土で充填。
11. 128号土坑埋没土。
12. 132号土坑埋没土。
13. 上面が128・132号土坑確認面。
下面が3号井戸・143号土坑確認面。
14. 143号土坑埋没土。
15. 3号井戸埋没土。



A区3号井戸出土遺物

A区3号井戸遺物観察表

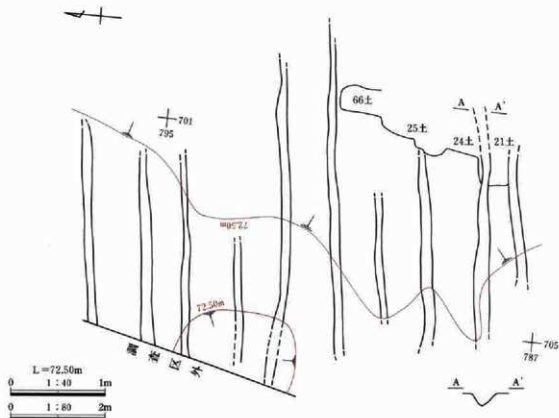
番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
301	磁器 青磁碗	埋没土	口径 - 底径 - 器高 22+	龍泉窯系青磁。軸はやや厚く、蓮弁輪は狭い。	体部～高台崩破片。 中世。

4. 畠、道

A区1号畠(PL13)

位置 785～795-695～705 重複 セクションより
21号土坑→1号畠 形状・規模 幅8～31cmのサク
を10条検出した。いずれも東西にのびる。サク間は
35～101cm、サクの深さは残りの良いところで10cm前

後である。埋没土 黄褐色系の地山に対し、やや黒
味の強い灰黄褐色土で埋没する。確認面が低く大部
分が平面のみの検出である。遺物 出土しなかつ
た。所見 A区21号土坑より新しく、近世以降の可
能性が高い。



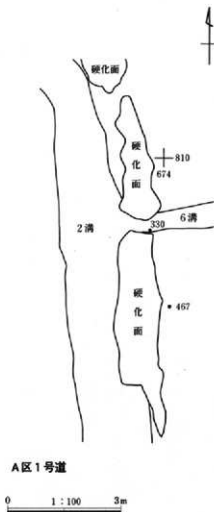
A区1号畠

上増田島遺跡A・B区

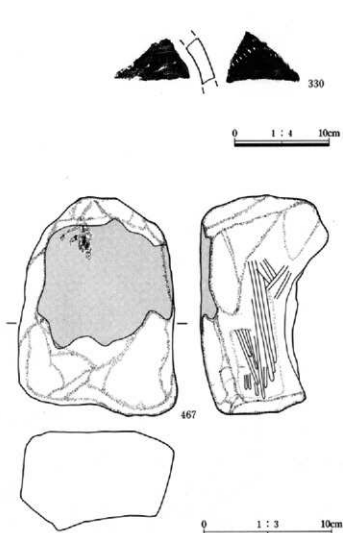
A区1号道(PL.13-55)

位置 800~810-670・675 重複 プラン確認より
2・6号溝→1号道、溝確認面より3cm前後上層での
検出である。形状・規模 長さ 約6.0m 最大幅
1.15m。平坦な硬化面として検出。埋没土 硬化
面上または同レベルにおいて河床礫がまとまって分

布するが、本遺構との関係は不明である。遺物 硬
化面上ではないが、周辺の同レベルにおいて中世常
滑甕、砥石が出土した。所見 重複する遺構より近
世以降のものと思われる。2号溝と走向が一致し、
位置も近いことから前代の地割りを利用して道とし
たものと考えられる。



A区1号道



A区1号道出土遺物

A区1号道遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態考
330	陶器 甕?	埋没土	口径 - 底径 - 器高 4.9+	常滑系。胎土灰白色。外面に叩きあり。	胴部破片。 中世。
467	石製品 砥石	埋没土	長さ 17.1 幅 12.3 厚さ 6.5~10.0 重量 2979 粗粒輝石安山岩	自然礫を用い、掘え置いた状態で比較的平坦な面を磨面とする。1側面にも筋状の擦痕あり。	完形。

5. 土坑

A区で129基、B区で52基検出した。分布には疎密が見られる。1号溝に囲まれた部分では東寄りに径1mを越える大型の円形土坑が集まり、調査区南寄りには溝状の土坑が分布する。畠部分と中央付近では疎である。1号溝・2号溝間及び溝と重複するものもそれぞれ2基・4基と少ない。2号溝・7号溝間では、北東から南西に掛けて分布し、特に6号溝寄りには2mを越える大型の円形土坑、長方形土坑が集中する。B区では現道を挟んだ位置と、655ライン付近に南北に連なるように分布する。溝状の土坑が円形土坑より多い傾向がある。遺物は18世紀から明治時代の土器・陶磁器が主体で、古代以前のものも少数である。B区50号土坑からは中世陶磁器が2点出土した。遺構の時期は、出土遺物や他の遺構の状況より江戸後期から近現代を主体とし、中世も存在する可能性があるが、詳細は不明である。

A区1号集石土坑(遺構P.67-68遺物P.85-86 PL13-14-55-56)
位置 810-675・680 **重複** 2号溝→1号集石土坑 **形状** 長辺が蛇行する長方形。 **規模** 2.49×1.52×0.51m **埋没土** 人為埋没である。中層以下は河床礫が主体で、上層は中層以下と同じ土だが礫を含まない。 **遺物** 礫と共に瀬戸・美濃陶器皿・碗、在地系焙烙、中世瓦、砥沢砥石のほか、図示していないが2号集石土坑と接合する在地系鍋などが出土した。 **所見** 2・3号集石土坑と共に、礫を処分するための土坑と思われる。遺物は瓦と石製品を除けば、324が17世紀のほかは18世紀に入り、遺構の時期を表している可能性が高い。

A区2号集石土坑(遺構P.67-68遺物P.86-87 PL13-14-56)
位置 810-675・680 **重複** なし。 **形状** 東辺が長い台形状で、西辺は外方に膨らむ。 **規模** 2.62×1.15×0.30m **埋没土** 人為埋没である。河床礫が主体だが、1号集石土坑と同様に礫を含まない上層が10cm程確認できた。 **遺物** 18世紀以降の在地系

焙烙、用途不明の石製品のほか、底面北東隅付近から径5mm前後の骨片が数十個出土した。人骨か否かは不明である。297はA区74号土坑と接合。 **所見** 礫主体の堆積状況や遺物の種類などから墓の可能性は低い。1・3号集石土坑と共に、礫を処分するための土坑かと思われる。北辺を除く縁辺に大型の礫を配している。北辺が2号溝との重複を避けるように位置し、埋没過程にある2号溝のプランが意識されている可能性がある。

A区3号集石土坑(遺構P.68遺物P.88-89 PL14-56)
位置 795・800-675 **重複** 1号溝→3号集石土坑 **形状** 西辺が短い台形状。 **規模** 約0.80×約0.70×0.21m **埋没土** 河床礫主体の下層に、礫を含まない上層があったことが写真で確認できる。1・2号集石土坑と同様の堆積状況であったと思われる。 **遺物** 砥沢砥石のほか、図示していないが瀬戸・美濃陶器菊皿、在地系土器香炉・焙烙などが出土した。 **所見** 1・2号集石土坑とは位置が離れ、規模も小さいが、下層が礫主体の堆積であることや特殊な遺物も出土しないことから、本遺構も礫を処分するための土坑と思われる。

A区A号土坑(遺構P.68遺物P.88-89 PL15-56~58)
位置 800・805-675~685 **重複** 1号溝→A号土坑 **形状** 1号溝の南側に沿って東西に長い不整形円形。下端は上端に対して南東方向に寄る。681ライン付近で括れ、これより東側の下端は円形で、西側より15cmほど高い。 **規模** (9.9)×1.51~3.59×0.27~0.50m **埋没土** 中層にAs-A軽石が堆積。1次堆積か人為によるものかは不明。 **遺物** 肥前磁器碗、瀬戸・美濃陶器碗・香炉・半明堂・灯明皿、丹波及び堺・明石すり鉢、在地系鍋・焙烙・皿、砥沢砥石などが出土した。そのほか、南西斜面に捨てられた様な状態で河床礫がまとまって出土した。293はA区48号土坑、294はA区57号土坑と接合。 **所見** As-Aの堆積は最下層でないことから復旧土坑とは考えにくい。不純物の混入が殆ど無く、降下

上増田島遺跡A・B区

からさほど時間をおかずには堆積したと思われる。遺物は確実に天明前といえるものはないものの、18世紀後半が主体で矛盾しない。なお、遺跡内で他にAs-Aが確認できるのはA区115号・B区27号土坑のみである。セクションより重複する1号溝がある程度埋没してから掘削されたことが窺える。

B区1号集石土坑(遺構P.69遺物P.91-92 PL.15-58-59)

位置 830・835-685・690 **重複** 攪乱(現代の家の土台)に切られるが、その範囲は不明である。**形状** 東西にのびる不整形円形で南辺が突出する。突出部付近の底面が15cmほど低くなる。**規模** 5.78×4.40×0.37m **埋没土** 河床礫を主体とした人為堆積。**遺物** 肥前磁器碗・猪口、瀬戸・美濃徳利・すり鉢、常滑陶器甕、製作地不詳行平・急須などのほか、図示していないがA区126号土坑と接合する瀬戸・美濃天目碗、動物(種類・部位不明)の焼骨2片が出土した。**所見** 礫を処分するための土坑と思われる。底面が1段低い箇所は平面プランの突出部と重なり、後からの掘り込みとも考えられるが、セクションからは把握できない。遺物は礫に混ざって出土し、18世紀中頃から近現代まで幅がある。遺構の時期は不明である。

A区14号土坑(遺構P.69 PL.17)

位置 800-700 **重複** なし。**形状** 隅丸長方形で底面は平坦である。中央やや南寄りにピットをもつ。**規模** 2.39×1.12×0.29m P1 36×30×5cm **埋没土** 黒褐色土を主体とする自然堆積。ピット内の堆積状況は不明である。**遺物** 図示していないが尾呂茶碗、在地系焙烙などのほか、ピット周辺から河床礫がまぎって出土した。**所見** ピットはプラン確認により土坑に伴うもの、もしくは先行するものである。遺構の用途・機能は不明である。

A区19号土坑(遺構P.69遺物P.96-97 PL.18-60-61)

位置 800-685 **重複** なし。**形状** 円形で壁面は外反しながら直に立ち上がる。底面は平坦である。

規模 1.32×1.19×0.55m **埋没土** 下層に粘度のある暗灰黄色土が堆積する。**遺物** 瀬戸・美濃陶器皿、金属製煙管などのほか、図示していないが堺・明石すり鉢などが出土した。**所見** 20号土坑と平面・断面形態が似ており、隣接した位置にあることから、同じ機能をもって近い時期に掘削されたと推測する。

A区20号土坑(遺構P.69 PL.18)

位置 795・800-680・685 **重複** プラン確認よりA区2号掘立柱建物→20号土坑 **形状** 円形で壁面は外反しながら直に立ち上がる。南側壁面上半は稜をもって強く外反する。底面は平坦だが、中央が周辺より5cmほど高い。**規模** 1.92×1.72×0.53m **埋没土** 下層に粘度のある黒褐色土が堆積する。**遺物** 図示していないが肥前陶胎染付碗が出土した。**所見** 19号土坑と平面・断面形態が似ており、隣接した位置にあることから、同じ機能をもって近い時期に掘削されたと推測する。

A区57号土坑(遺構P.69遺物P.96 PL.20-60)

位置 800-675 **重複** プラン確認より1号溝→57号土坑 **形状** 西辺が短い台形状で、東辺が膨らむ。底面は平坦だが、中央が南北方向に20cmほど低くなる。**規模** 1.49×0.66-0.90×0.46m **遺物** 肥前陶器碗のほか、図示していないが腰鉋碗などが出土した。**所見** 埋没土2層上面と遺構中段底面のレベルが近く、遺構が重複している可能性がある。

A区129号土坑(遺構P.70遺物P.96 PL.25-60)

位置 795・800-655 **重複** なし。**形状** 円形で東側がやや潰れる。壁面は緩やかに立ち上がり、中位で強く外反する。**規模** 3.23×3.02×0.87m **埋没土** 3-5層付近から河床礫が集中して出土する。**遺物** 在地系土器皿などが出土した。**所見** 上記の礫は、遺構埋没過程で人為的に廃棄されたものと思われる。

5. 土坑

A区135号土坑(遺構 P.70遺物 P.94 PL.25-59)

位置 805・810-650・655 **重複** 6号溝と重複するが新旧関係は不明である。**形状** 円形で底部は平坦である。壁面は直に立ち上がる。**規模** 径約2.5m 深さ約0.6m **埋没土** 上層に粘度のある土が堆積する。**遺物** 肥前陶器碗、堺・明石すり鉢、陶器徳利、寛永通宝などのほか、図示していないが肥前磁器染付碗、土器壺などが出土した。18世紀後半～近代までの遺物が層位にかかわらず認められる。**備考** セクション図及び写真のみの記録であり、用途・時期等詳細は不明である。

B区11号土坑(遺構 P.70 遺物 P.95 PL.27-59-60)

位置 835-680 **重複** なし。**形状** 調査区内では楕円状で、底部は平坦である。**規模** 1.0×0.71×0.69m **埋没土** 1層からなり、人為的に埋め戻される。**遺物** 肥前磁器碗・皿、瀬戸・美濃磁器

碗、肥前陶器碗、丹波すり鉢などのほか、図示していないが瀬戸・美濃陶器剪皿、志野皿、腰鑄碗、近現代磁器徳利、ガラス瓶などが出土した。333・335は幕末以降、331は18世紀、他は18世紀末～幕末のものである。**所見** 埋没土の堆積状況から一括廃棄されたものとする。遺構の時期は333により明治以降である。

B区12号土坑(遺構 P.70遺物 P.96-97 PL.27-60-61)

位置 820-695・700 **重複** なし。**形状** 不整形円形で底部からなだらかに立ち上がる。**規模** 0.86×0.75×0.18m **埋没土** 不明である。**遺物** 河床礫が密に埋められ、それと共に瀬戸・美濃磁器端反碗、砥石などが出土した。**所見** 礫が人為的に配列された様子は見られず、柱痕も観察できないことから、礫を廃棄するための土坑と推測する。

A・B区土坑一覧表

番号	位置	平面形	規模 (m)	重複	遺構図	遺物図	PL.No	備考
A区1	785-700	不整形円形	1.25×1.05×0.25			P70	16	
A区2	790-695	不整形円形	1.68×1.40×0.45	2土→3土		P71	16	瀬戸・美濃陶器皿・鉢などが出土
A区3	790-695	不整形	1.10×0.80×0.12	2土→3土→4土、29土		P71	16	瀬戸・美濃腰鑄碗などが出土
A区4	790-695	不整形円形	0.75×0.50×0.45	3・13-29土→4土		P71	16	
A区5	795-695	楕円形	1.10×0.95×0.28			P70 P97	16・61	
A区6	795-695	不整形円形	0.68×0.62×0.15			P71	16	
A区7	795-695	楕円形	0.76×0.58×0.16			P71	16・61	肥前陶器染付碗などが出土
A区8	785-800-695	不整形円形	1.00×0.85×0.24			P71	16	肥前磁器碗、尾呂茶碗、在地系捨格などが出土
A区9	795-690	不整形円形	0.98×0.92×0.38			P71	16	ビット状に10cm程度む
A区10	785-790-690	楕円形	1.55×1.25×0.38	11土→10土		P71	17	10土又は11土より在地系土器壺などが出土
A区11	785-790-690	不整形円形	1.38×1.35×0.40	11土→10土、12土		P71	17	
A区12	785-690	(長方形)	1.62×0.56×0.20	11土		P71	17	
A区13	790-795-695-700	不整形円形	1.75×1.35×0.25	44土→13土→4土		P71	17	
A区14	800-700	隅丸長方形	2.39×1.12×0.29			P69	17	

上増田高遺跡A・B区

A区15	790-690	隅丸長方形	0.58×0.32×0.20		P 72	P 96	17-90	
A区16	795-690-695	長楕円形・隅丸方形	2.25×0.70×0.30		P 72		17	2基の土域より成るか
A区17	790-695	不整形円形	1.00×0.80×0.50	18土	P 72		17	
A区18	790-690-695	不整形楕円形	1.58×0.78×0.35	17土	P 72		17	
A区19	800-685	円形	1.32×1.19×0.55		P 69	P 96・97	18-60・61	
A区20	795-800-680-685	円形	1.92×1.72×0.53	2掘→20土	P 69		18	
A区21	785-695-700	長方形	4.60×0.56×0.14	22・23・52土→21土→1畝、24土	P 73			在地系陪格などが出土
A区22	785-695	(隅丸方形)	1.00×0.75×0.45	22土→21土、52土、53土	P 73		20	
A区23	785-700	(隅丸長方形)	1.18×0.56×0.28	26土→23土→21・24土・1畝、25土	P 73			
A区24	785-790-695-700	(不整形楕円形)	2.20×1.05×0.06	26土→23土→24土→1畝 25土→24土、21・66・67土	P 73			
A区25	785-790-700	不明	0.75×0.62×0.05	25土→24・66土、23・67土	P 73			
A区26	785-695-700	不整形楕円形	0.48×0.35×0.35	26土→23土→24土	P 73			
A区28	795-695	円形	0.50×0.46×0.22		P 72			
A区29	790-695	楕円形	0.52×0.38×0.46	29土→4土、3土	P 71	P 96	18-60	
A区31	790-700	不整形円形	0.65×0.58×0.12		P 72		18	
A区32	790-700	円形	0.55×0.50×0.50		P 72		18	
A区33	800-695-700	隅丸長方形	1.24×0.75×0.16		P 72	P 96	18-60	1層に河床礫が集中
A区35	795-695	楕円形	0.40×0.32×0.29		P 72		18	在地系陪格などが出土
A区36	795-690-695	円形	0.50×0.48×0.16		P 72		19	礫石状の河床礫出土
A区37	795-690	円形	0.36×0.32×0.12		P 72		19	
A区38	795-690	円形	0.28×0.27×0.30		P 72			
A区39	795-695	楕円形・円形	0.65×0.26×0.35		P 72		19	
A区41	795-685-690	円形	0.68×0.52×0.20		P 73		19	
A区42	795-685	隅丸長方形	0.45×0.35×0.20	42土→43土	P 73		19	
A区43	795-685	楕円形	0.48×0.35×0.08	42土→43土	P 73		19	
A区44	795-695	円形	0.32×0.30×0.26	44土→13土	P 71		19	
A区46	795-685	円形	0.65×0.63×0.38		P 73		19	
A区47	800-680-685	隅丸長方形	2.92×0.48×0.05		P 74		19	48土に併行し、形状が似る
A区48	800-680	隅丸長方形	1.88×0.52×0.06		P 74	P 96	19-60	47土に併行し、形状が似る
A区49	790-795-680	円形	0.70×0.56×0.20	72土→49土	P 74		20	

5. 土坑

A区50	785-690-695	隅丸長方形	1.88×0.56×0.34		P74		
A区51	785-695	不整形円形	0.42×0.40×0.26	52土→51土	P73		20
A区52	785-695	(隅丸長方形)	0.78×0.80×0.48	52土→21・51土、22土	P73		20
A区53	785-695	(隅丸長方形)	0.50×0.45×0.15	22土	P73		20
A区54	805-675	隅丸長方形	1.80×0.80×0.18		P74		20
A区55	790-690	不整形円形	0.52×0.45×0.32		P74		20 底面付近より河床礫出土
A区56	800-675	隅丸長方形	2.56×0.96×0.48	1溝→56土	P74		20
A区57	800-675	台形	1.49×0.90×0.46	1溝→57土	P69	P96	20-60
A区58	785-790-685-690	長楕円形	3.00×0.38×0.14	154土	P74		20
A区63	790-685	楕円形	1.15×0.62×0.16	64土→63土、82土	P74		22
A区64	790-685	不明	0.50×0.48×0.15	64土→63・65土	P74		22 在地系土器調などが出土
A区65	790-680	隅丸長方形	1.30×0.48×0.17	64土→65土	P74		21
A区66	785-790-695-700	隅丸長方形	1.50×0.52×0.22	25・67土→66土、24土	P73		21
A区67	790-695-700	長方形	1.45×0.50×0.30	67土→66土、24・25土	P73		21
A区68	790-680-685	隅丸長方形	2.22×0.72×0.34	83土→68土	P75		中段をもつ
A区69	790-680	円形	0.34×0.32×0.38	70土→69土	P75	P96	21-60 69土又は70土より堺・明石すり鉢などが出土
A区70	790-680	隅丸長方形	1.46×0.42×0.22	70土→69土	P75	P96	21-60 69土又は70土より堺・明石すり鉢などが出土
A区71	790-680	円形	1.85×1.52×0.14		P75	P96	21-60-61 確認面より10cm下で中段をもつ、瀬戸・美濃陶器鉢・皿、在地系埴輪などが出土
A区72	790-795-680	円形	2.40×2.30×0.52	72土→49土	P75		21
A区73	790-680	円形	1.62×1.38×0.38		P75		21 肥前陶胎染付碗、在地系埴輪などが出土
A区76	785-790-680	不整形円形	0.60×0.52×0.36		P75		21
A区77	790-680	円形	0.48×0.42×0.60		P75		21 尾呂茶碗などが出土
A区78	790-680	円形	0.35×0.28×0.16		P76		22 底面直上に礫石状の河床礫が出土、志野皿などが出土
A区80	795-690	円形	0.48×0.42×0.42		P76		
A区81	790-690	楕円形	0.62×0.45×0.46		P76		
A区82	790-685	不整形円形	0.85×0.80×0.18	63土	P74		22
A区83	790-680	円形	0.50×0.42×0.20	83土→68土	P75		21
A区84	790-675	楕円形	0.78×0.63×0.30		P76	P96・97	20-60-61 在地系埴輪などが出土
A区85	795-665	隅丸長方形	3.25×0.88×0.40		P76		20

上増田高遺跡A・B区

A区86	795-660	楕円形	1.40×0.44×0.18	88土→86土	P76		22	
A区87	800-655-660	(隅丸長方形)	1.18×0.45×0.18	88土→87土	P76		22	
A区88	795-800-660	円形	1.25×1.18×0.25	88土→86・87土	P76		22	
A区89	795-665	楕円形	1.08×0.70×0.15		P76		22	
A区91	795-690	楕円形	0.62×0.42×0.30		P76		23	
A区92	795-660	隅丸長方形	1.36×0.50×0.18		P76		23	2基の土坑より成るか
A区93	795-660	隅丸長方形	1.02×0.53×0.22		P76		23	
A区94	795-665	隅丸長方形	2.04×0.78×0.38	117土→94土→95土	P77		23	瀬戸・美濃陶器類、肥前陶器片付碗などが出土
A区95	795-665	(楕円形)	(1.16)×0.72×0.25	94土→95土	P77		23	
A区97	790-795-670	不整形円形	1.12×0.78×0.18		P77		23	
A区101	800-665-670	隅丸方形	0.42×0.39×0.28		P77		23	
A区102	800-665	隅丸方形	0.55×0.54×0.28		P77		23	
A区104	800-805-665	円形	0.47×0.42×0.34	143土→104土	P77		23	柱穴の可能性
A区105	800-665	楕円形	0.68×0.45×0.62		P77		23	北壁が2段、肥前磁器類などが出土
A区107	795-665	円形	0.36×0.35×0.15	108土→107土	P77			
A区108	795-665	楕円形	0.50×0.30×0.17	108土→107土	P77			
A区109	790-795-660	楕円形	0.78×0.36×0.12		P77			
A区111	805-655	楕円形	0.68×0.47×0.48		P78		23	
A区113	795-800-660-665	隅丸方形	0.98×0.72×0.25		P78		24	
A区114	795-655-660	円形	1.12×1.02×0.18		P78		24	中段をもち、2基の土坑より成る可能性
A区115	790-650	(円形)	1.08×(1.08)×0.25		P78		24	雑土にAs-Aを含む、陶器すり鉢などが出土
A区116	790-645	(円形)	1.20×1.08×0.24		P78		24	
A区117	795-665-670	隅丸長方形	1.20×0.62×0.26	117土→94土	P77	P96	23-30	
A区118	795-800-665	楕円形	(0.75)×0.32×0.48		P78		24	確認面より40cm下で中段をもつ
A区120	790-665	楕円形	1.10×0.80×0.20	121土	P78			
A区121	790-660-665	楕円形	1.12×0.72×0.25	120土	P78			
A区122	790-660	円形	0.74×0.60×0.22		P77		24	
A区123	800-655-660	隅丸長方形	2.10×1.12×0.58	131土→123土	P78		25	
A区124	800-660	隅丸方形	(0.95)×0.86×0.26		P79		24	
A区125	805-655	楕円形	0.68×0.49×0.64		P80			

5. 土坑

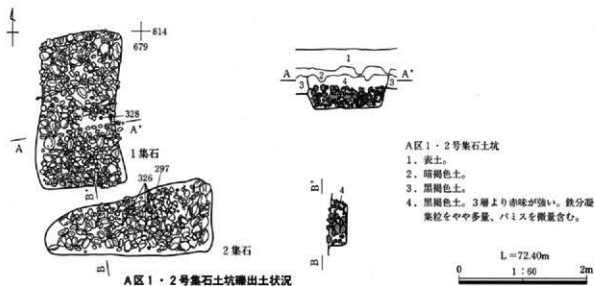
A区15	790-640~650	長楕円形	9.70×0.85×0.62		P 79		61	肥前陶胎染付碗、尾呂茶碗、1葉石と組合する瀬戸・美濃天目碗などが出土
A区17	805-660	隅丸長方形	2.52×0.86×0.60	127土→2柱列、139-141土	P 79			肥前陶器青緑釉皿などが出土
A区18	800-660-665	(楕円形)	(2.50)×0.72×0.46	3井-132-143土→128土、142土	P 79		24	
A区19	795-800-655	円形	3.23×3.02×0.87		P 70		25-60	
A区20	800-665	円形	0.60×0.46×0.20	142土→130土	P 79		25	扁平な河床礫が出土
A区21	800-655-660	隅丸長方形	3.12×1.18×0.22	136土→131土→123土	P 78		25	
A区22	800-660-665	(隅丸長方形)	1.46×(0.70)×0.10	3井→132土→128土	P 79		24	
A区24	805-660	円形	1.00×0.85×0.45		P 80		25	
A区25	805-810-650-655	円形	径(2.5)×0.56	6溝	P 70		25-59	
A区26	800-805-655-660	(円形)	1.02×0.50×0.18	136土→131土	P 78		25	
A区29	805-655-660	隅丸長方形	(1.86)×0.72×0.25	139土→2柱列、127-141土	P 79			
A区30	805-655-660	隅丸長方形	2.76×1.20×0.52	127-139土	P 79		25	
A区32	800-665	隅丸長方形	1.64×0.72×1.30	142土→130土、128-143土	P 79		25	
A区34	800-805-660-665	隅丸長方形	3.92×0.78×0.42	3井→143土→104・128・144土、142土	P 79		24	
A区36	805-665	(隅丸長方形)	(2.00)×1.05×0.25	143土→144土、148土	P 80			
A区38	805-655	楕円形	1.34×0.95×0.48		P 80		26	
A区37	805-660	(楕円形)	2.54×0.93×0.34	147土→153土	P 80		26	
A区38	805-660-665	楕円形	(2.00)×1.20×0.25	144土、153土	P 80		26	
A区39	805-655	不整形円形	0.44×0.37×0.23	149土→150土	P 80		26	
A区40	805-810-655	円形	0.68×0.60×0.20	149土→150土	P 80		26	
A区43	805-660-665	円形	1.72×1.52×0.48	147土→153土、148土	P 80		26	
A区49	785-790-690	長楕円形	2.68×0.58×0.30	58土	P 74			中段をもつ
B区1	815-820-695	楕円形	0.95×0.75×0.18		P 80			
B区2	820-685	楕円形	0.72×0.62×0.20		P 80			陶器火鉢などが出土
B区3	820-685	楕円形	0.96×0.63×0.13		P 81			陶器碗などが出土
B区4	820-685	楕円形	0.70×0.42×0.16		P 81		26	在地系土器火鉢などが出土
B区5	825-685	隅丸長方形	1.00×0.95×0.25		P 81			
B区6	820-685	楕円形	0.96×0.55×0.08	B7土→B6土	P 81		26	
B区7	820-685	隅丸長方形	1.12×0.58×0.20	B7土→B6土	P 81		26	在地系埴輪などが出土

上増田島遺跡A・B区

B区8	820-825-685	隅丸長方形	1.78×0.40×0.10	B9土→B8土	P81		27	瀬戸・美濃陶器類などが出土
B区9	820-680-685	隅丸長方形	1.36×0.80×0.25	B9土→B8土	P81		27	
B区10	830-685	不整形円形	0.85×0.64×0.24		P81		27	陶器類などが出土
B区11	835-680	不明	1.00×0.71×0.69		P70	P95	27-59-60	
B区12	820-685-700	不整形円形	0.86×0.75×0.18		P70	P96・97	27-60-61	
B区14	830-690	隅丸長方形	2.20×0.85×0.45	B15土→B14土	P81		27	
B区15	830-835-690	隅丸方形	1.92×1.58×0.50	B15土→B14土	P81		27	
B区16	(820-685)	(円形)	(0.60)×(0.52)×0.23		P81			遺構の正確な位置が不明
B区18	830-685	楕円形	0.67×0.40×0.22		P81		27	
B区19	825-685	(隅丸長方形)	2.92×1.03×0.18	B25-58土	P82		28	
B区20	830-680-685	隅丸方形	1.13×1.12×0.28		P82		28	
B区22	830-700	隅丸長方形	3.15×0.70×0.52		P82		28	
B区23	835-690	円形	0.54×0.44×?		P82	P96・97	28-60-61	陶器すり鉢などが出土
B区24	835-695	(隅丸方形)	1.40×0.58×0.25	B29土→B24土	P82		28	南端のピットは24土又は29土に伴う
B区25	825-685-690	長楕円形	(3.82)×0.78×0.48	B19土	P82		28	
B区26	835-690	円形	0.50×0.42×0.35		P82		28	
B区27	835-690	円形	1.18×1.02×0.12		P82			埋設土にAs-Aを含む
B区28	835-840-690-700	長楕円形	9.62×1.25×0.56	B28土→B29土	P83	P97	28-60	東側底面が四隅より10cmほど低い、2基の土坑より成るか、在地系堆積物などが出土
B区29	835-695	楕円形	1.55×(0.90)×0.45	B28土→B29土→B24土	P82	P97	28-61	南端のピットは24土又は28土に伴う、在地系堆積物などが出土
B区32	825-670	円形	1.38×1.20×0.16		P83		29	
B区33	825-670	円形	0.58×0.52×0.26		P83		29	
B区34	825-670	円形	0.72×0.68×0.10		P83		29	
B区35	820-670	楕円形	0.98×0.75×0.08		P83		29	
B区36	820-670	円形	0.50×0.42×0.45		P83			
B区37	830-670	円形	0.62×0.62×0.25		P83		29	
B区38	830-670	円形	1.20×1.18×0.18		P83		29	確認面より15cm程下に中段をもつ
B区39	830-665-675	隅丸長方形	5.83×0.95×0.33		P84		29	東端寄りの底面が15cmほど高い
B区41	835-650	隅丸長方形	2.72×0.58×0.35		P84	P96	29-61	
B区42	835-650-655	円形	0.62×0.55×0.34		P83		30	

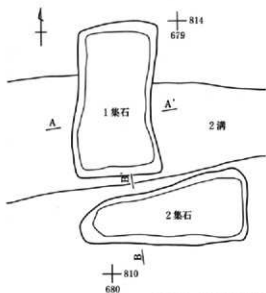
5. 土坑

B区43	830-835-650-655	楕円形	0.66×0.36×0.26		P84		30	
B区44	830-650	楕円形	0.38×0.28×0.18		P84		30	
B区45	830-655	楕円形	0.35×0.28×0.15		P84		30	
B区46	830-655	楕円形	0.45×0.34×0.15		P84		30	底面より地山の礫が露出
B区47	825-655	円形	0.32×0.32×0.10		P84			
B区48	825-655	円形	0.68×0.68×0.09		P84			
B区49	830-655	円形	0.60×0.46×0.10	B49土→B51土	P84			
B区50	825-830-655	隅丸長方形	2.18×1.18×0.22	B51土	P84	P96・97	60・ 口絵	ガラスおほじきなどが出土
B区51	830-655	(隅丸長方形)	2.25×0.62×0.14	B49土→B51土、B50・53土	P84			
B区52	830-650	隅丸長方形	2.58×1.45×0.40		P85		30	
B区53	830-650-655	不整円形	0.60×0.48×0.46	B54土→B53土、B50・51土	P84		30	
B区54	830-650	楕円形	0.52×0.32×0.10	B54土→B53土	P84		30	
B区57	825-655	隅丸長方形	2.35×1.02×0.30		P85		30	
B区58	820-825-685	隅丸長方形	4.46×0.65×0.25	B19土	P85		30	底面に5cmほどの段差が2ヶ所
B区59	830-680-685	(長楕円形)	3.96×0.50×0.15		P85		30	
A区A	800-805-675-685	不整楕円形	(9.9)×3.59×0.50	1溝→A土	P68	P88・89	15-56 -58	
A区1集石	810-675-680	長方形	2.49×1.52×0.51	2溝→1集石	P67・68	P85・86	13・14・ 55-56	
A区2集石	810-675-680	台形	2.62×1.15×0.30		P67・68	P86・87	13・14・ 56	
A区3集石	795-800-675	台形	0.80×0.70×0.21	1溝→3集石	P68	P86	14-56	
B区1集石	830-835-685-690	不整楕円形	5.78×4.40×0.37		P69	P91・92	15-58- 59	



A区1・2号集石土坑露出土状況

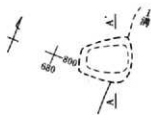
上増田島遺跡A・B区



A区1・2号集石土坑



A区3号集石土坑出土状況



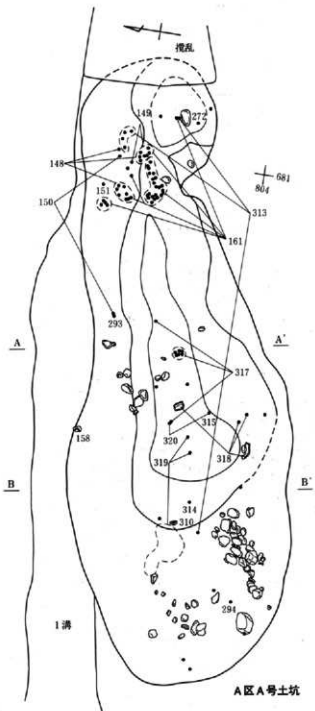
A区3号集石土坑

A区A号土坑

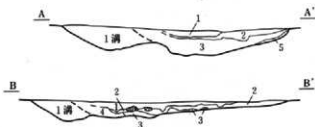
1. 灰黄褐色土。しまりが強い。
2. As-A層, 1層のブロックを微量含む。
3. 黄灰色土。しまりがやや強い。鈍い黄褐色土ブロックをやや多量含む。
4. 褐色土。鉄分凝集粒・径1cm程の礫を少量含む。
5. 鈍い黄褐色土。しまりが弱い。

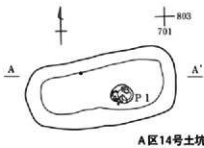
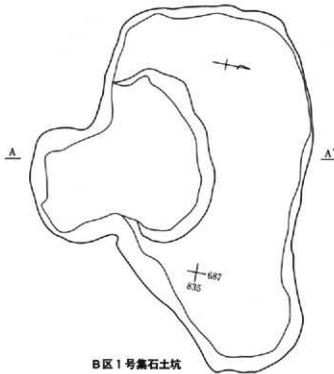
L=72.50m

0 1:60 2m



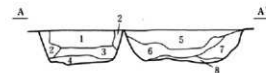
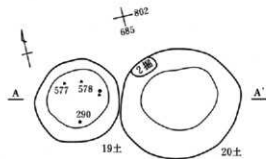
A区A号土坑





A区14号土坑

1. 黒褐色土。地山の明黄褐色土粒を少量含む。
2. 黒褐色土。地山の明黄褐色土ブロックを少量含む。
3. 褐灰色土。しまりが弱い。



A区19・20号土坑

1. 灰黄褐色土。砂質。粗砂・炭粒を不均等に少量含む。
2. 暗灰黄色土。粒子が細かい。しまりが強い。黄褐色砂質土ブロックを少量含む。
3. 暗灰黄色土。粒子が細かい。やや粘質。黄褐色砂質土・灰色砂を少量含む。
4. 暗灰黄色土。粒子が細かい。やや粘質。黄褐色砂質土を少量含む。
5. 灰黄褐色土。しまりが強い。鉄分凝集粒・灰色粘質土ブロックを少量含む。
6. 黒褐色土。粒子が細かい。やや粘質。鉄分凝集粒・灰色粘質土ブロックを少量含む。
7. 黒褐色土。粒子が細かい。やや粘質。黄褐色砂質土ブロックをやや多量。鉄分凝集粒・灰色粘質土ブロックを少量含む。
8. 6層と黄褐色砂質土の混土。

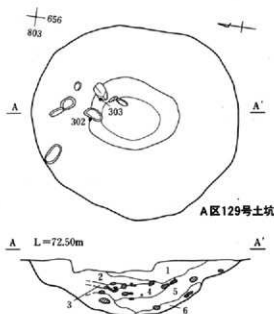


A区57号土坑

1. 黒褐色土。粒子が細かい。黄色味の強い粘質土粒を少量含む。
2. 灰黄褐色土。粒子が細かい。黄色味の強い粘質土粒を少量含む。



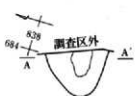
上増田島遺跡A・B区



A区129号土坑

A区129号土坑

1. 暗灰黄色土。粘質。粗砂を多量、黄褐色シルト質ブロックをやや多量含む。
2. 灰黄褐色土。川砂・暗灰黄色土(1層)・パミスをやや多量含む。
3. 暗灰黄色土。1層より黄色味が強い。地山の砂をラミナ状に多量含む。
4. 暗灰黄色土。粘質。3層土ブロックを不均等に少量含む。
5. 暗灰黄色土。粘質。粗砂を少量含む。
6. 黄褐色土。シルト質。炭粒・鉄分凝集粒を少量含む。

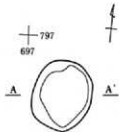


B区11号土坑

A L=73.10m A'

B区11号土坑

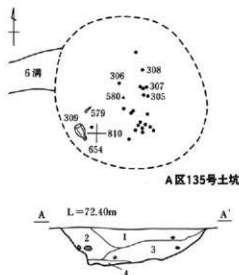
1. 表土。
2. 暗褐色土。しまりが強い。鈍い黄褐色土ブロックを少量含む。



A区5号土坑

A区5号土坑

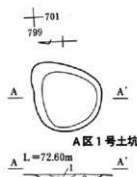
1. 暗灰黄色土。粒子が細かい。やや粘質。灰黄色土粒・炭素粒を微量含む。
2. 黒褐色土。粒子が細かい。砂質。褐色砂粒を少量含む。
3. 暗灰黄色土。粒子が細かい。やや粘質。灰黄色土粒・炭素粒を少量含む。



A区135号土坑

A区135号土坑

1. 暗褐色土。粘質。粒子が細かい。径3mm程の糠・パミス・炭粒を層降り状に含む。
2. 1層と2層の漸位層。1層と同じ混入物を含むが、1層より少ない。
3. 黒褐色土。粒子が細かい。しまりが強い。炭粒を微量。下層に鉄分凝集粒を微量含む。
4. 暗オリーブ褐色土。3層と地山の砂の混土。

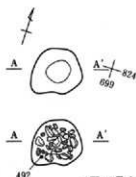


A区1号土坑

A L=72.60m A'

A区1号土坑

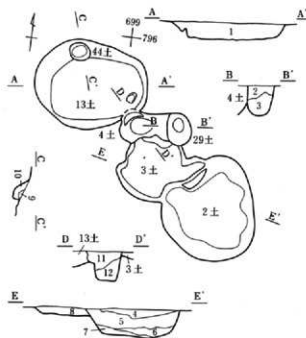
1. 褐灰色土。褐色土粒を微量含む。
2. 褐灰色土。褐色土・明黄褐色土ブロックを多量含む。
3. 褐灰色土。褐色土粒を少量含む。



B区12号土坑

A L=72.80m A'

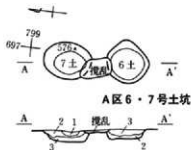
0 1:60 2m



A区2~4・13・29・44号土坑

1. 灰黄褐色土。粒子が細かい。やや粘質。地山の黄色砂質土ブロックを微量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。鈍い黄褐色細砂を均一に少量、パミス・炭粒を微量含む。
3. 黒褐色土。しまりが強い。鈍い黄褐色細砂を均一にやや多量含む。2・3層は29号土坑埋没土。
4. 灰黄褐色土。やや粘質。地山の黄色砂質土ブロックを少量、パミスを微量含む。
5. 灰黄褐色土。やや粘質で1層より強い。地山の黄色砂質土ブロックを少量。炭粒を微量含む。
6. 灰オリブ色土。やや砂質。鉄分凝集粒を少量。炭粒を微量含む。
7. 灰オリブ色土。3層より黒味が強い。鉄分凝集粒を少量。炭粒を微量含む。4~7層まで2号土坑埋没土。
8. 灰黄褐色土。やや粘質だが1層より砂質。地山の黄色砂質土ブロックを少量含む。3号土坑埋没土。
9. 黒褐色土。砂質。炭粒を微量含む。
10. 暗灰黄色土。砂質。黄褐色土ブロックを不均等に少量含む。
11. 灰黄褐色土。やや粘質。地山の黄色砂質土ブロックを少量。炭粒を微量含む。
12. 暗灰黄色土。粘質。鉄分凝集粒・粗砂粒を少量含む。11・12層は4号土坑埋没土。

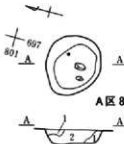
A区2~4・13・29・44号土坑



A区6・7号土坑

A区6・7号土坑

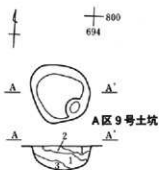
1. 黒褐色土。粒子が細かい。やや粘質。黒色砂をやや多量含む。
2. 黄灰色土。粒子が細かい。やや粘質。鉄分凝集粒を少量含む。
3. 暗灰黄色土。粒子が細かい。やや粘質。鉄分凝集粒を少量含む。



A区8号土坑

A区8号土坑

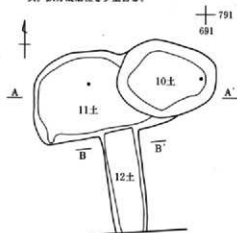
1. 黒褐色土。粒子が細かい。やや粘質。地山の灰黄色土粒を少量含む。
2. 黒褐色土。粒子が細かい。やや粘質。地山の灰黄色土粒を不均等に微量含む。



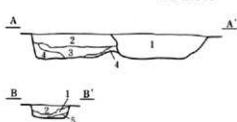
A区9号土坑

A区9号土坑

1. 暗灰黄色土。粒子が細かい。やや粘質。黄色土粒を不均等に少量含む。
2. 黄褐色土。砂質。1層のブロックを不均等にやや多量含む。
3. 暗灰黄色土。2層のブロックを不均等にやや多量含む。



A区10~12号土坑

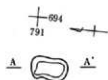


A区10~12号土坑

1. 灰オリブ色土。粒子が細かい。やや粘質。パミスを微量含む。10号土坑埋没土。
2. 灰オリブ色土。粒子が細かい。やや粘質。黄色砂質土ブロックをやや多量。パミスを微量含む。
3. オリブ灰色砂。粒子の不均等な川砂。東側がより径が大きい。
4. 黒褐色土。粒子が細かい。黄色砂質土粒を少量含む。
5. 黄褐色土。砂質。地山よりやや黒味が強い。地山の崩落。



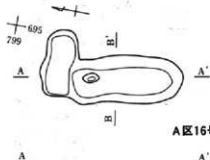
上増田島遺跡A・B区



A区15号土坑

A区15号土坑

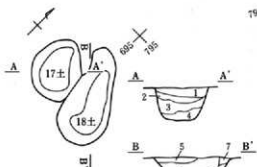
1. 黒褐色土。
2. 黒褐色土。1層よりしまりが有り、黒味が強い。



A区16号土坑

A区16号土坑

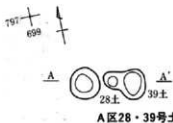
1. 褐色土。しまりが強い。褐色土粒・鈍い黄褐色土粒を多量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。褐色土粒・鈍い黄褐色土粒を少量含む。
3. 褐色土。しまりが強い。褐色土粒・鈍い黄褐色土粒を少量含む。



A区17・18号土坑

A区17・18号土坑

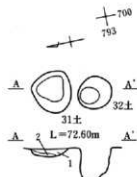
1. 黒褐色土。しまりが強い。径1cm程の礫を少量含む。
2. 黒褐色土。1層より黒味が強い。しまりが強い。
3. 黒褐色土。しまりが強い。暗褐色細砂を均一に少量含む。
4. 黒褐色土。しまりが強い。暗褐色細砂をやや多量含む。
5. 黒褐色土。褐色土粒を多量含む。
6. 黒褐色土。1層より明るい。暗褐色細砂を少量含む。
7. 黒褐色土。1層より明るい。暗褐色細砂をやや多量含む。
8. 黄褐色細砂。地山の崩落。



A区28・29号土坑

A区28・29号土坑

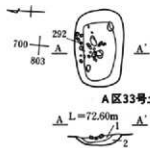
1. 黒褐色土。しまりが強い。バミスを微量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。黄褐色細砂ブロックをやや多量含む。
3. 黒褐色土。粒子が細かい。やや粘質。
4. 灰褐色土。黄色土ブロックを少量含む。
5. 3層と地山の砂質土の混土。しまりが強い。



A区31・32号土坑

A区31号土坑

1. 黒褐色土。褐色細砂ブロックを少量含む。
2. 黒色土。褐色細砂ブロックをやや多量含む。

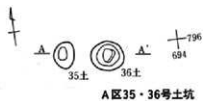
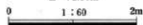


A区33号土坑

A区33号土坑

1. 鈍い黄褐色土。砂質。地山の黄褐色砂質土を均一に少量。バミスを微量含む。
2. 鈍い黄褐色土。砂質。しまりが強い。地山の黄褐色砂質土を均一に微量。バミスを微量含む。

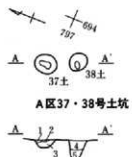
L=72.50m



A区35・36号土坑

A区35・36号土坑

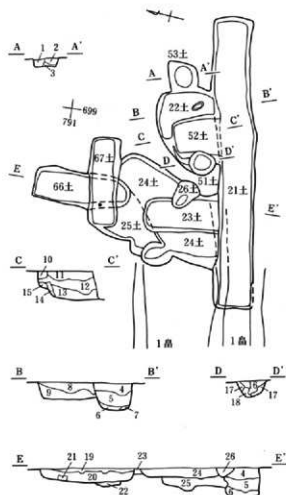
1. 黒褐色土。
2. 灰黄褐色土。褐色細砂ブロックを少量含む。
3. 黒褐色土。
4. 褐色土。砂質。



A区37・38号土坑

A区37・38号土坑

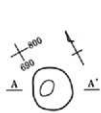
1. 黒褐色土。径2mm程の礫・粗砂を少量含む。
2. 鈍い黄褐色細砂。
3. 黒褐色土。粗砂を少量含む。
4. 灰黄褐色土。粒子が細かい。粘質。細砂・黄褐色土ブロックを少量含む。
5. 黒褐色土。砂質。4層と砂質土の混土。



A区21~26・51~53・66・67号土坑

1. 黒褐色土。粒子が細かい。
2. 黒褐色土。砂質。炭粒を微量含む。
3. 黄褐色土。砂質。地山の崩落ブロック。
4. 鈍い黄褐色土。粒子が細かい。黄色土・灰褐色土ブロックを不均等にやや多量含む。
5. 暗褐色土。粒子が細かい。黄色土・灰褐色土ブロックを不均等に少量含む。
6. 黒褐色土。しまりがやや弱い。
7. 黒褐色土。しまりがやや弱い。地山の黄褐色土粒を少量含む。4~7層は21号土坑埋没土。
8. 黒褐色土。黄褐色土粒を霏降り状に少量含む。
9. 黒褐色土。黄褐色土粒を霏降り状に少量。炭粒を少量含む。8・9層は22号土坑埋没土。
10. 鈍い黄褐色細砂。
11. 灰黄褐色土。
12. 灰黄褐色土。11層より固味が強い。
13. 黒褐色土。
14. 灰黄褐色土。砂質。
15. 鈍い黄褐色土。砂質。
16. 黒褐色土。炭化物をやや多量。黄色味を帯びる砂を均一に少量。焼土粒を少量含む。
17. 鈍い黄褐色細砂。
18. 黒褐色土。黄色身を帯びる砂をやや多量。炭化物・焼土粒を少量含む。
19. 灰黄褐色土。粒子が細かい。やや粘質。黄色土ブロックを不均等に少量含む。
20. 暗灰黄色土。砂を多量含む。
21. 灰黄色砂。19~21層は66号土坑埋没土。
22. 暗灰黄色土。20層よりやや固味が強い。砂を多量含む。67号土坑埋没土。
23. 鈍い黄褐色土。25号土坑埋没土。
24. 19層に同じ。24号土坑埋没土。
25. 灰黄褐色土。粒子が細かい。やや粘質。黄色土ブロック・炭粒を微量含む。23号土坑埋没土。
26. 灰黄褐色土。1号島のヤク。

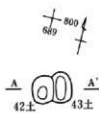
A区21~26・51~53・66・67号土坑



A区41号土坑

A区41号土坑

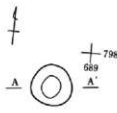
1. 黄褐色土。粒子が細かい。パミス・砂を不均等に少量含む。
2. 黄褐色土。粒子が細かい。砂をやや多量。パミスを少量。径1cm程度の礫を微量含む。
3. 黒褐色土。やや砂質。径2cmほどの礫を少量含む。



A区42・43号土坑

A区42・43号土坑

1. 黒褐色土。粒子が細かい。やや粘質。炭粒を少量含む。43号土坑埋没土。
2. 暗灰黄色土。砂質。パミスを微量含む。42号土坑埋没土。



A区46号土坑

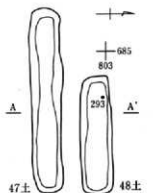
A区46号土坑

1. 黒褐色土。粒子が細かい。黄褐色土ブロックをやや多量含む。
2. 黒褐色土。粒子が細かい。黄褐色土ブロックを微量含む。
3. 暗灰黄色土。砂質。2層と砂の混土。

L=72.50m

0 1:60 2m

上増田島遺跡A・B区



A区47・48号土坑



A区47・48号土坑

1. 暗灰黄色土。粘質。黄色粘土粒をやや多量含む。



A区55号土坑

A区55号土坑

1. 暗灰黄色土。黄色土粒を少量。砂・炭粒を微量含む。



A区49号土坑

A区49号土坑

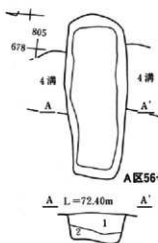
1. 暗灰黄色土。粘質。黄色土ブロックをやや多量、炭粒を微量含む。



A区50号土坑

A区50号土坑

1. 黒褐色粘質土と黄色砂質土の混土。
2. 黒褐色土。粘質。黄色砂質土粒・ブロックを均一に多量含む。
3. 黒褐色土。粘質。黄色砂質土ブロックを少量、炭粒を微量含む。



A区56号土坑

A区56号土坑

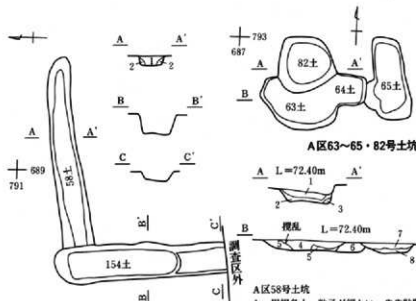
1. 灰黄褐色土。しまりが強い。粘質。黄色土ブロック・礫・炭粒をやや多量含む。
2. 暗灰黄色土。しまりがやや弱い。灰色味を帯びる粘質土と砂質土の混土。黄色土ブロック・礫・炭粒を少量含む。



A区54号土坑

A区54号土坑

1. 暗灰黄色土。やや粘質。パミス・炭粒を微量含む。



A区63~65・82号土坑

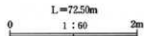
A区58号土坑

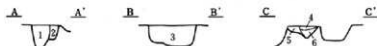
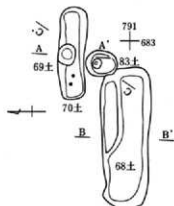
1. 黒褐色土。粒子が細かい。やや粘質。
2. 1層と地山の黄色砂質土との混土。

A区58・154号土坑

A区63~65・82号土坑

1. 褐色土。しまりが強い。褐色土・黄褐色土ブロックをやや多量、パミス・炭を少量含む。
 2. 褐色土。しまりが強い。褐色土をやや多量、パミスを少量含む。
 3. 黄灰色土。
 4. 灰黄褐色土。粘質。砂・黄褐色土粒を少量含む。
 5. 灰黄褐色土。1層より赤味が強い。やや粘質。砂質土粒を少量含む。
 6. 灰黄褐色土。粘質。黄褐色土粒をやや多量、砂を少量含む。
 7. 暗灰黄色土。粒子が細かい。やや粘質。
 8. 暗灰黄色土。粒子が細かい。やや粘質。黄褐色土粒を少量含む。
- 4・5層は63号土坑、6層は64号土坑、7・8層は65号土坑。

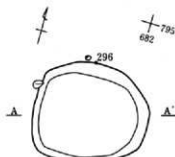




A区68~70・83号土坑

1. 鈍い黄褐色土。しまりが強い。径3cm程の黄褐色土ブロックを少量含む。69号土坑埋没土。
2. 鈍い黄褐色土。1層より赤味が強い。しまりが強い。70号土坑埋没土。
3. 灰黄褐色土。しまりが強い。パミス・黄褐色土粒を少量含む。
4. 黒褐色土。やや粘質。
5. 暗灰黄色土。
6. 黒褐色土。2層のブロックを少量含む。

A区68~70・83号土坑

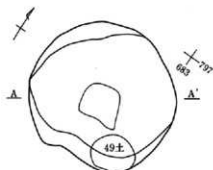


A区71号土坑



A区71号土坑

1. 黒褐色土。しまりが強い。暗褐色土粒をやや多量。炭粒を少量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。黄褐色土粒を均一に少量含む。

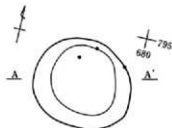


A区72号土坑



A区72号土坑

1. 鈍い黄褐色土。パミス・明黄褐色土粒・径1cm以下の礫を少量含む。
2. 鈍い黄褐色土。1層より赤味が強い。パミス・径1cm以下の礫を微量含む。



A区73号土坑



A区73号土坑

1. 黒褐色土。明黄褐色土ブロックをやや多量。パミス・径1cm程の礫を少量含む。
2. 黒褐色土。明黄褐色土ブロックを微量含む。
3. 鈍い黄褐色土。



A区76号土坑



A区76号土坑

1. 灰黄褐色土。褐色土粒・パミス・炭粒を微量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。パミス・径1cm程の礫を微量含む。
3. 黒褐色土。しまりが強い。黄褐色土ブロックを少量。パミス・径1cm程の礫を微量含む。



A区77号土坑



A区77号土坑

1. 黒褐色土。しまりが強い。
2. 黒褐色土。
3. 黒褐色土。明黄褐色土ブロックを少量含む。

L=72.40m
1:60
0 2m

上増田島遺跡 A・B区



A区78号土坑



A区78号土坑

1. 暗褐色土。パミス・径5m程の礫を微量含む。

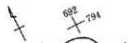


A区80号土坑



A区80号土坑

1. 暗褐色土。しまりが強い。径2cmほどの礫・粗砂を少量、パミスを微量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。パミスを微量含む。



A区81号土坑



A区81号土坑

1. 灰黄褐色土。パミスを微量含む。
2. 褐色土。地山の黄灰色土ブロックをやや多量、パミスを微量含む。



A区84号土坑

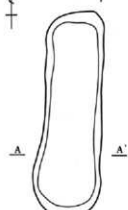


A区84号土坑

1. 暗褐色土。炭粒・地山の黄褐色砂粒を少量含む。

A区85号土坑

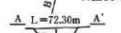
1. 黒褐色土。パミスを少量、墨粒を微量含む。
2. 黒褐色土。黄褐色土粒を均一にやや多量、パミスを少量、墨粒を微量含む。
3. 暗褐色土。しまりが強い。黄褐色土粒を均一にやや多量、パミスを少量、墨粒を微量含む。
4. 暗褐色土。しまりが強い。黄褐色土ブロック・粒をやや多量含む。



A区85号土坑

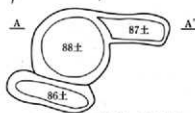


A区89号土坑



A区89号土坑

1. 褐色土。しまりが強い。パミス・明黄褐色土ブロックを少量、炭粒を微量含む。

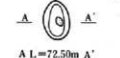
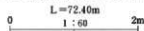


A区86~88号土坑



A区86~88号土坑

1. 黄灰色土。しまりが強い。パミス・炭粒を少量含む。86号土坑埋没土。
2. 暗褐色土。鈍い黄褐色土ブロックをやや多量、パミスを少量含む。87号土坑埋没土。
3. 黄灰色土。1層より明るい。しまりが強い。パミス・炭粒を少量含む。88号土坑埋没土。



A区91号土坑

A区91号土坑

1. 鈍い黄褐色土。黄褐色粗砂と黒褐色土の混土。パミス・礫を少量含む。
2. 鈍い黄褐色土。黄褐色粗砂と黒褐色土の混土。しまりが弱い。

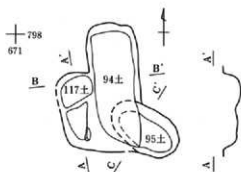


A区92・93号土坑

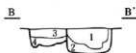


A区92・93号土坑

1. 黒褐色土。パミス・炭粒を微量含む。
2. 黒褐色土。粒子が細かい。
3. 黒褐色土。鈍い黄褐色土ブロックを少量含む。
4. 黒褐色土。パミス・鈍い黄褐色土ブロックを少量含む。

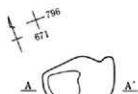


A区94・95・117号土坑



A区94・95・117号土坑

1. 暗灰黄色土。バミス・径5mm程の礫を少量含む。
2. 暗オリーブ褐色土。2層まで94号土坑埋没土。
3. オリーブ褐色土。やや粘質。バミス・炭粒を微量含む。
4. 黒褐色土。しまりが強い。砂質。黄褐色土ブロックを少量含む。3・4層は117号土坑埋没土。
5. 暗灰黄色土。やや粘質。黄褐色土と灰褐色土の混土。95号土坑埋没土。

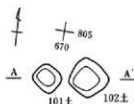


A区97号土坑



A区97号土坑

1. 暗灰黄色土。粘質。暗灰黄色土ブロック・粗砂を少量含む。
2. 黒褐色土。暗灰黄色土と粗砂の混土。
3. 暗灰黄色土。粘質。灰黄色土粒をやや多量含む。



A区101・102号土坑



A区101・102号土坑

1. 灰色土。やや粘質。鉄分凝集粒をやや多量。明黄褐色土粒・バミスを少量含む。
2. 灰色土。やや粘質。明黄褐色土粒をやや多量。鉄分凝集粒・バミスを微量含む。
3. 黄灰色土。やや粘質。しまりが強い。鉄分凝集粒・鈍い黄褐色土粒をやや多量。バミスを少量含む。



A区104号土坑



A区104号土坑

1. 黄灰色土。しまりが弱い。柱状か。
2. 黄灰色土。しまりが強い。明黄褐色土ブロック・粒を少量含む。
3. オリーブ褐色土。しまりが強い。
4. 黄灰色土。しまりが強い。



A区105号土坑



A区105号土坑

1. 黒褐色土。やや粘質。明黄褐色土ブロックを少量含む。
2. 黒褐色土。やや粘質。

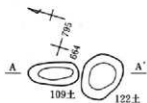


A区107・108号土坑



A区107・108号土坑

1. 黒褐色土。やや粘質。
2. 黒褐色土。やや粘質。明黄褐色土粒をやや多量含む。

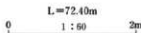


A区109・122号土坑



A区109・122号土坑

1. 黒褐色土。バミスを微量含む。
2. 褐灰色土。しまりが弱い。



上増田島遺跡 A・B区

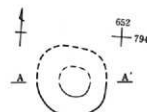


A区111号土坑



A区111号土坑

1. 灰色土。しまりが弱い。
2. 黄灰色土。明黄褐色粗砂を少量含む。
3. 黒褐色土。

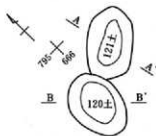


A区115号土坑

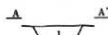


A区115号土坑

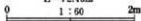
1. Aa-A層。黒褐色土ブロック・粒を少量含む。2次堆積。
2. 黒褐色土。しまりが弱い。Aa-Aを多量含む。
3. 黄灰色土。やや粘質。Aa-Aをやや多量含む。



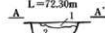
A区120・121号土坑



L=72.40m



A区113号土坑



A区113号土坑

1. オリーブ褐色土。しまりが強い。灰色土粒をやや多量、地山の明黄褐色細砂粒を少量含む。
2. オリーブ褐色土。しまりが強い。地山の明黄褐色細砂粒を少量含む。



A区114号土坑

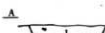


A区114号土坑

1. 黒褐色土。しまりが強い。パミスを微量含む。
2. 黒褐色土。1層より黒味が強い。パミスを微量含む。
3. 黄褐色土。しまりが強い。



A区116号土坑

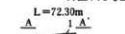


A区116号土坑

1. 灰色土。しまりが強い。明黄褐色土ブロック・径4cm程の礫を少量含む。



A区118号土坑

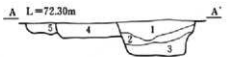


A区118号土坑

1. 黄灰色土。やや粘質。鈍い黄色ブロック・粒をやや多量含む。
2. 黒褐色土。鈍い黄色粒を少量含む。



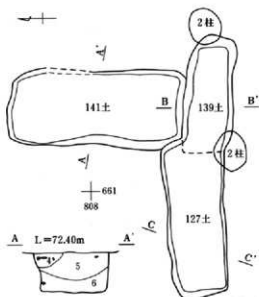
A区123・131・136号土坑



A区123・131・136号土坑

1. 黄褐色土。しまりが強い。径5mm程の礫・パミスを少量含む。
2. 灰色土。径5mm程の礫を少量含む。
3. 灰色土。しまりが強い。径5mm程の礫を少量含む。3層より123号土坑埋没土。
4. 暗灰黄色土。しまりが強い。明黄褐色土ブロックをやや多量含む。131号土坑埋没土。
5. 暗灰黄色土。しまりが強い。灰褐色シルト質土ブロックを含む。136号土坑埋没土。

5. 土坑

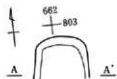


B L=72.00m B'

C L=72.40m C'

A区127・141号土坑

1. 灰黄褐色土。
2. 鈍い黄褐色土。
3. 褐灰色土。黄色粘質土ブロックをやや多量含む。
4. 黒褐色土。径4cm程の礫を少量含む。
5. 黄灰色土。しまりが強い。径5mm程の礫・パミス・炭粒を少量含む。
6. 黒褐色土。しまりが強い。径5cm以下の明黄褐色土ブロックを少量含む。

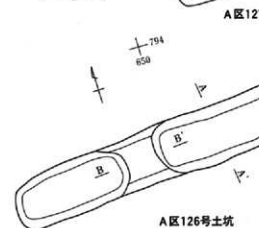


A区124号土坑

A L=72.20m A'

A区124号土坑

1. 黒褐色土。しまりが強い。



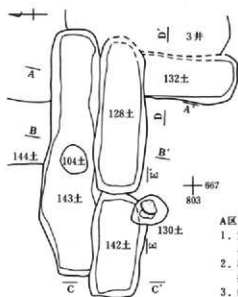
A区126号土坑

A L=72.40m A'

B L=72.00m B'

A区126号土坑

1. 灰褐色土。砂質。しまりが強い。径5cm以下の礫を少量含む。



A区128・130・132・143号土坑

1. 黄灰色土。しまりが強い。パミスを微量含む。
2. 灰褐色土。しまりが強い。礫混。
3. 鈍い黄褐色土。2層より赤味が強い。しまりが強い。
4. 褐灰色土。しまりが強い。
5. 灰黄褐色土。黄色粘質土ブロックをやや多量含む。
6. 褐灰色土。4層より明るい。しまりが強い。
7. 黒褐色土。パミスを微量含む。
8. 褐灰色土。しまりが強い。鈍い黄褐色粘質土ブロックを多量含む。

A区128・130・132・142・143号土坑

L=72.30m

0 1:60 2m

上増田島遺跡A・B区

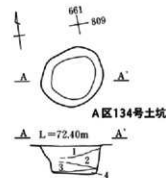


A区125号土坑

A L=72.40m A'

A区125号土坑

1. 褐灰色土。やや粘質。
2. 褐色土。やや粘質。黄色粘質土ブロックを下部を中心に少量含む。
3. 褐灰色土。しまりが弱い。
4. 黒褐色土。粘質。黄色粘質土ブロックを少量含む。



A区134号土坑

A L=72.40m A'

A区134号土坑

1. 黒色土。しまりが強い。径3m程の糠・パミス少量含む。
2. 黒褐色土。鈍い黄色土ブロック・パミス少量含む。
3. 暗灰黄色土。鈍い黄色土ブロックをやや多量、パミス少量含む。
4. 暗灰黄色土。パミス少量含む。

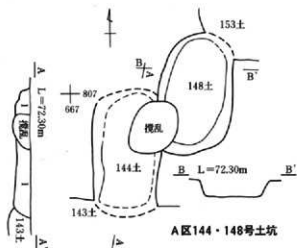


A区146号土坑

A L=72.20m A'

A区146号土坑

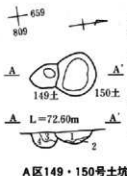
1. 黒褐色土。パミス・炭粒を微量含む。
2. 黒褐色土。灰褐色粗砂・灰黄褐色粗砂をやや多量、径3cm程の糠・パミス・炭粒を少量含む。



A区144・148号土坑

A区144号土坑

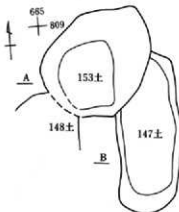
1. 黒褐色土。径5m程の糠・パミス少量含む。



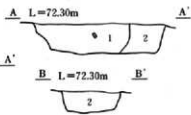
A区149・150号土坑

A区149・150号土坑

1. 黒褐色土。しまりが強い。地山の黄褐色土粒・パミス少量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。地山の黄褐色土粒をやや多量、パミス少量含む。1・2層は150号土坑。
3. 黒褐色土。しまりが強い。明黄褐色土粒・パミス少量含む。
4. 黒褐色土。しまりが強い。黄褐色土ブロックを少量、パミス微量含む。3・4層は149号土坑。

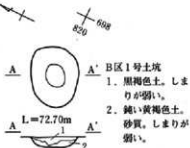


A区147・153号土坑



A区147・153号土坑

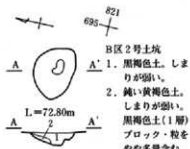
1. 黒褐色土。しまりが強い。鈍い黄褐色土ブロック・パミス・炭粒を微量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。径4mほどの糠・粗砂・黄褐色土粒・パミスを微量含む。



B区1号土坑

1. 黒褐色土。しまりが弱い。
2. 鈍い黄褐色土。砂質。しまりが弱い。

B区1号土坑

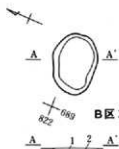


B区2号土坑

1. 黒褐色土。しまりが弱い。
2. 鈍い黄褐色土。しまりが強い。黒褐色土(1層)ブロック・粒をやや多量含む。

B区2号土坑

5. 土坑



B区3号土坑

B区3号土坑

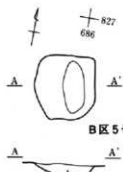
1. 褐灰色土。しまりが強い。炭粒を微量含む。
2. 褐色土。しまりが弱い。黄褐色土ブロックを多量含む。



B区4号土坑

B区4号土坑

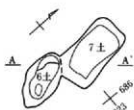
1. 黒褐色土。粒子が細かい。しまりが強い。



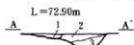
B区5号土坑

B区5号土坑

1. 黒褐色土。砂質。しまりが弱い。

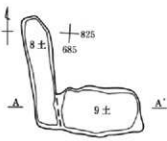


B区6・7号土坑



B区6・7号土坑

1. 褐灰色土。砂質。しまりが弱い。
2. 褐灰色土。砂質。地山の明黄褐色土粒を少量含む。
3. 褐色土。砂質。地山の明黄褐色土粒をやや少量含む。



B区8・9号土坑

B区8・9号土坑

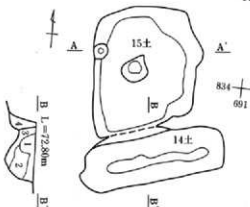
1. 褐灰色土。砂質。しまりが弱い。
2. 褐灰色土。砂質。しまりが弱い。鈍い黄褐色砂質土粒を少量含む。2層まで8号土坑埋没土。
3. 黒褐色土。砂質。しまりが弱い。鈍い黄褐色砂質土粒を少量含む。
4. 黒褐色土。砂質。しまりが弱い。鈍い黄褐色砂質土粒をやや多量含む。



B区10号土坑

B区10号土坑

1. 黒褐色土。しまりが弱い。地山の鈍い黄褐色土ブロック・炭粒を少量含む。



B区14・15号土坑



B区14・15号土坑

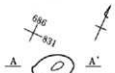
1. 黒褐色土。砂質。
2. 黒褐色土。砂質。鈍い黄褐色砂質土粒を少量含む。
3. 鈍い黄褐色土。砂質。
4. 15号土坑埋没土。
5. 黒褐色土。砂質。炭粒を少量含む。
6. 黒褐色土。砂質。炭粒・焼土粒をやや多量。暗褐色砂質土ブロックを少量含む。
7. 暗褐色土。砂質。炭粒を微量含む。



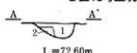
B区16号土坑

B区16号土坑

1. 黒褐色土。しまりが弱い。炭粒・地山の黄褐色土粒を少量含む。
2. 黒褐色土。しまりが弱い。地山の黄褐色土をやや多量。炭粒を少量含む。



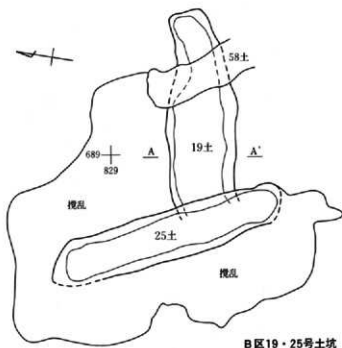
B区18号土坑



B区18号土坑

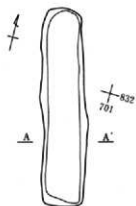
1. 黒褐色土。しまりが弱い。炭粒を少量含む。
2. 褐色土。砂質。褐色土粒を少量含む。

0 1:50 2m



B区19・25号土坑

A L=72.60m A'



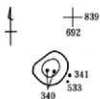
B区22号土坑

A L=72.80m A'

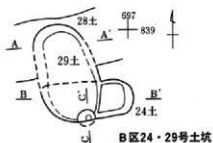


B区22号土坑

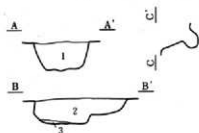
1. 黒褐色土。砂質。
2. 黒褐色土。1層より黒味が強い。砂質。



B区23号土坑

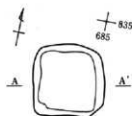


B区24・29号土坑



B区24・29号土坑

1. 灰黄褐色土。径2cm程の礫を少量含む。29号土坑埋没土。
2. 黒褐色土。径1cm程の礫を少量含む。
3. 黒褐色土。炭粒を少量含む。下半は地山の黄褐色土との混土。2・3層は24号土坑埋没土。



B区20号土坑

A L=72.70m A'



B区20号土坑

1. 黒褐色土。黄褐色細砂粒を少量。炭粒を微量含む。
2. 黒褐色土。黄褐色細砂粒を多量。炭粒を微量含む。
3. 黒褐色土。黄褐色細砂粒をやや多量。炭粒を微量含む。



B区26号土坑



B区26号土坑

1. 黒褐色土。黄褐色砂質土粒を少量含む。
2. 黒褐色土。やや粘質。黄褐色砂質土粒を微量含む。



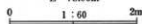
B区27号土坑



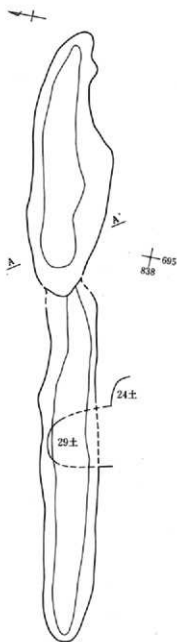
B区27号土坑

1. 黒褐色土。A=Aを多量に含む。
2. 黒褐色土。1層より黄色味が強い。径2cm程のオリブ色粘土ブロックをやや多量。小礫・砂を少量含む。

L=73.00m



5. 土坑

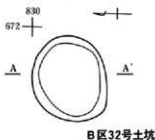


B区28号土坑



B区28号土坑

1. 灰黄褐色土。砂質。黄色土ブロックを含む。
2. 灰黄褐色土。1層より黒味が強い。砂質。
3. 鈍い黄褐色土。砂質。
4. 褐灰色土。キメが粗い。鉄分凝集粒を少量含む。

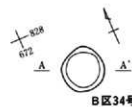


B区32号土坑



B区32号土坑

1. 鈍い黄褐色土。砂質。しまりが強い。
2. 灰黄褐色土。



B区34号土坑



B区34号土坑

1. 灰黄褐色土。しまりが強い。

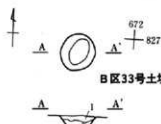


B区37号土坑



B区37号土坑

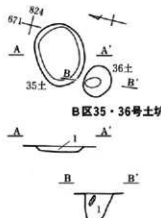
1. 黒褐色土。
2. 黄褐色土。砂質。
3. 黒褐色土。砂質。



B区33号土坑

B区33号土坑

1. 褐色土。
2. 黒褐色土。しまりが弱い。



B区35・36号土坑

B区35・36号土坑

1. 黒褐色土。しまりが弱い。



B区38号土坑

B区38号土坑

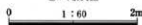
1. 褐色土。砂質。黄色土ブロックを少量含む。
2. 褐色土。砂質。



B区42号土坑

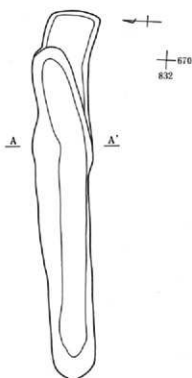
1. 黒褐色土。径3cm程の礫を少量含む。
2. 黒褐色土。径3cm程の礫・明黄褐色土ブロックを少量含む。

L=72.50m

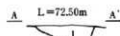


B区42号土坑

上増田島遺跡A・B区

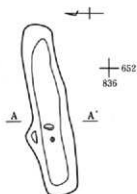


B区39号土坑



B区39号土坑

1. 灰褐色土。砂質。

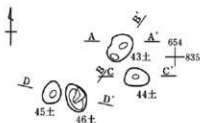


B区41号土坑

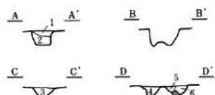


B区41号土坑

1. 黒褐色土。径5cm程の礫・炭粒を微量含む。

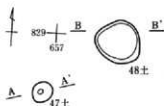


B区43~46号土坑



B区43~46号土坑

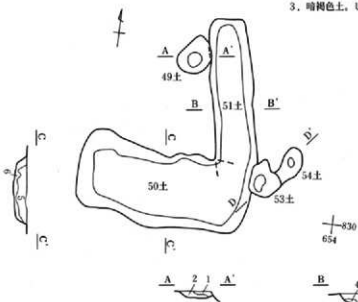
1. 黄灰色土。鈍い黄褐色土ブロックを多量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。明黄褐色土ブロックを少量含む。
3. 黒褐色土。鈍い黄色ブロックを少量含む。
4. 黄灰色土。しまりが強い。浅黄色土ブロックを少量含む。
5. 黄灰色土。しまりが強い。
6. 黒褐色土。浅黄色土ブロックを少量含む。



B区47・48号土坑

B区47・48号土坑

1. 黒褐色土。鈍い黄褐色土ブロック・黄灰色土ブロックをやや多量含む。
2. 黒褐色土。鈍い黄褐色土粒・パリスを微量含む。
3. 暗褐色土。しまりが強い。粗砂を微量含む。



B区49~51・53・54号土坑

B区49~51・53・54号土坑

1. 褐灰色土。黄褐色土粒を多量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。黄褐色土粒を多量含む。
3. 灰褐色土。砂質。
4. 褐灰色土。
5. 明褐灰色土。しまりが強い。
6. 褐灰色土。黄色土ブロックをやや多量含む。
7. 灰黄褐色土と黄褐色土の混土。
8. 灰黄褐色土。粘質。しまりが強い。黄褐色土粒・径5cm程の礫を少量含む。7・8層は53号土坑埋没土。
9. 黄褐色土。粘質。しまりが強い。径5cm程の礫をやや多量含む。

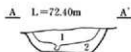


L=73.30m

1:60 2m

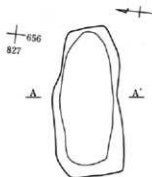


B区52号土坑



B区52号土坑

1. 鈍い褐色土。砂質。しまりが弱い。
2. 灰褐色土。しまりが弱い。

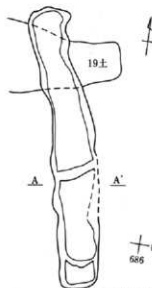


B区57号土坑



B区57号土坑

1. 灰黄褐色土。砂質。
2. 褐灰色土。

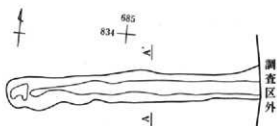


B区58号土坑



B区58号土坑

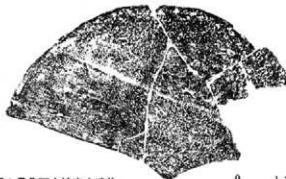
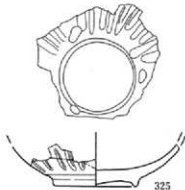
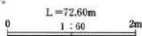
1. 黒褐色土。炭粒を微量含む。



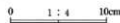
B区59号土坑

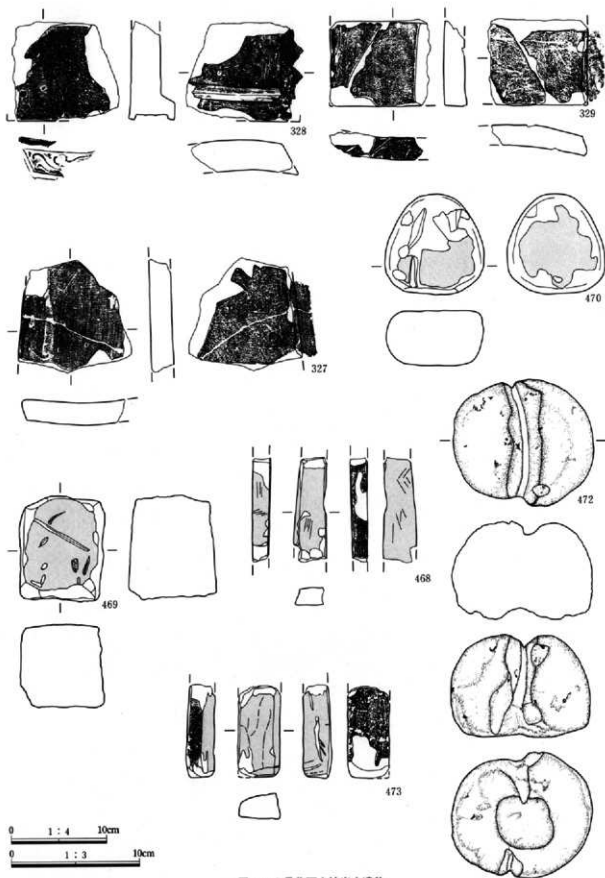
B区59号土坑

1. 黒褐色土。炭粒を微量含む。
2. 黒褐色土。地山の鈍い黄褐色土ブロックを少量含む。



A区1号集石土坑出土遺物





A区1~3号集石土坑出土遺物

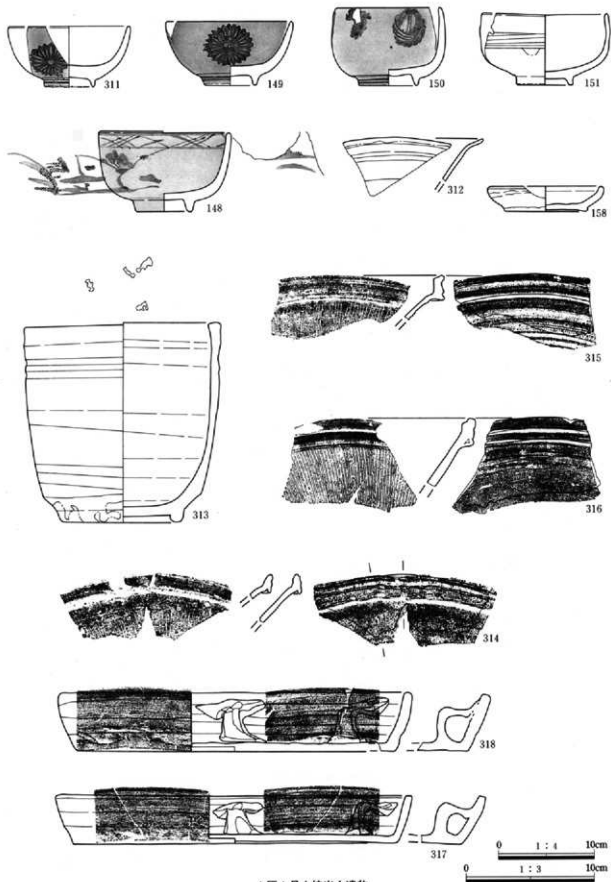


A区2号集石土坑出土遺物

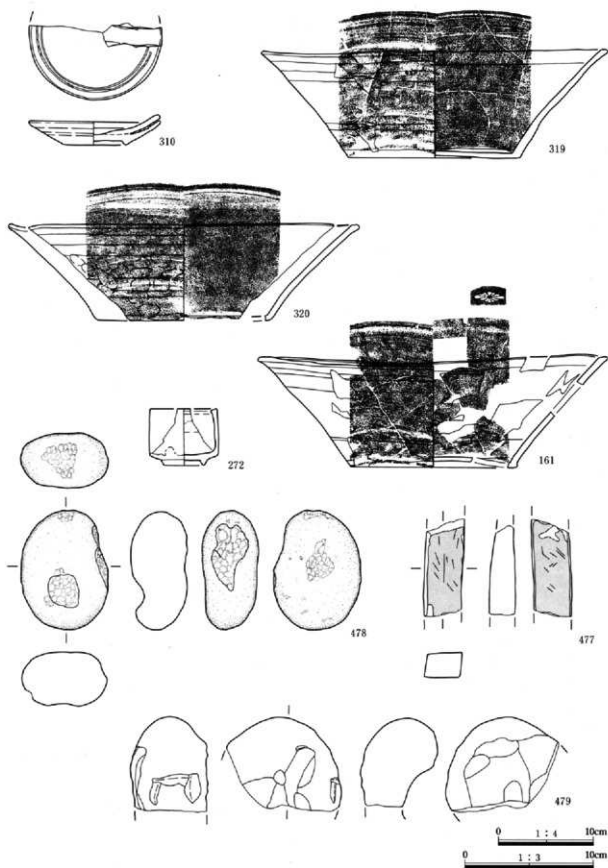
A区1～3号集石土坑遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態備考	
321	陶器 甕	1集石横段土	口径 (10.9) 底径 4.9 器高 7.0	瀬戸・美濃。内面から高台筋に鉄軸を薄く施す。残存する口縁端部は全て小さく剥離する。器体部は虫食い状に剥離する。	体部下半1/2、以上3/4欠。	
322	陶器 小甕	1集石横段土	口径 (8.0) 底径 3.8 器高 3.9	瀬戸・美濃。内面から器体外面下位に錆色の鉄軸を施す。	口縁部7/8、器体3/4欠。	
323	陶器 天目鉢	1集石横段土	口径 — 底径 4.2 器高 1.7+	瀬戸・美濃。高台筋は水平に近く開き、縁を為して器体に至る。内面から器体到天目物を施す。軸は高台端部まで流れる。	底部残。	
324	陶器 志野九郎	1集石横段土	口径 (11.2) 底径 — 器高 2.1+	瀬戸・美濃。軸に気泡を含んでざらつく。	口縁部～高台筋1.6残。焼成不良。17世紀。	
325	陶器 甕皿	1集石横段土	口径 — 底径 6.6 器高 3.3+	瀬戸・美濃。内面から高台筋灰軸。見込み目痕が3ヶ所残る。高台の貼り付けは雑。	体部下～底部残。	
326	土器 埴輪	1集石横段土 2集石+24-30.830-675	口径 (39.2) 底径 (35.1) 器高 5.8	在地系。底部外面から器体中位に摺り痕が残る。器体中位に摺り痕が残る。底部外面に板状圧痕あり。耳1ヶ所残る。	1/4残。	
番号	種類	出土位置	計測値	①粘土 ②胎色 ③焼成 ④重さ 形状等の特徴	残存状態備考	
327	瓦 平	1集石横段土	長さ 11.8+ 幅 11.8+ 厚さ 2.2- 2.4	①黒色胎物 ②灰 ③還元・硬質 ④やや重	布目直。布の縁り合わせ痕なし。粘土板の剥取条痕なし。側面取回数1。裏面砂付着。薄しかかり二次焼成か。1枚作りか。器外蓋。	側部を含む破片。13世紀。
328	瓦 軒平	1集石+20	長さ 10.4+ 幅 11.2+ 厚さ 3.0	①透明～白色胎物胎量 ②灰 ③還元・硬質 ④やや重	唐草文。布目が瓦当部に達する。布の縁り合わせ痕なし。粘土板の接合面なし。粘土板の剥取条痕なし。回転条痕なし。側面取回数1以上。器外蓋。	側部・瓦当部を含む破片。13世紀。
329	瓦 平	1集石横段土	長さ 9.0+ 幅 10.3+ 厚さ 2.2- 2.4	①透明～白色胎物胎量 ②灰 ③還元・硬質 ④やや重	布目細かい。裏面に砂付着し、2条の沈泥あり。布の縁り合わせ痕なし。粘土板の接合面なし。粘土板の剥取条痕なし。側面取回数1, 1枚作りか。器外蓋。	側部・端部を含む破片。13世紀。
番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態備考	
468	石製品 砥石	1集石横段土	長さ 8.2+ 幅 1.7-2.5 厚さ 1.3 重量 46.3 砥石	主に3面を使用し、断面台形を呈する。	両端欠。	
469	石製品 砥石	1集石横段土	長さ 8.3 幅 6.5 厚さ 8.2 重量 82.6 馬見両端状否?	直方体状に加工し、主に1面を使用。短側面が整わず両端欠損の可能性。磨面に煤が付着し、全体が部分的に劣化。	二次的に被熱か。	
470	石製品 磨石	1集石横段土	長さ 7.9 幅 7.7 厚さ 4.4 重量 172.4 磨石	平面隅丸三角形を呈する。2面ある磨面はほぼ平坦で、一部に深い筋状の擦痕が残る。	ほぼ完形。	
471	石製品 ?	2集石横段土	長さ 15.7 幅 11.1 厚さ 6.9 重量 459.1 軽石	2面に1ヶ所ずつ半球状の凹みを、1面に楕円状に両面した凹みを設ける。深い筋状の擦痕や面的な加工痕が残る。	未製品か。	
472	石製品 ?	2集石横段土	長さ 13.3 幅 14.6 厚さ 10.2 重量 1418 ニッ信軽石	平面が楕円の半球状を呈する。平坦に加工した面に浅い凹みを、球面中央に断面扇形状の筋を設ける。	ほぼ完形。	
473	石製品 砥石	3集石横段土	長さ 7.3+ 幅 3.2 厚さ 1.1- 2.2 重量 75.3 砥石	主に2面を使用し、断面台形を呈する。他の2面に製作時の平撃痕が残る。	片端欠。	

上増田高道跡A・B区



A区A号土坑出土遺物

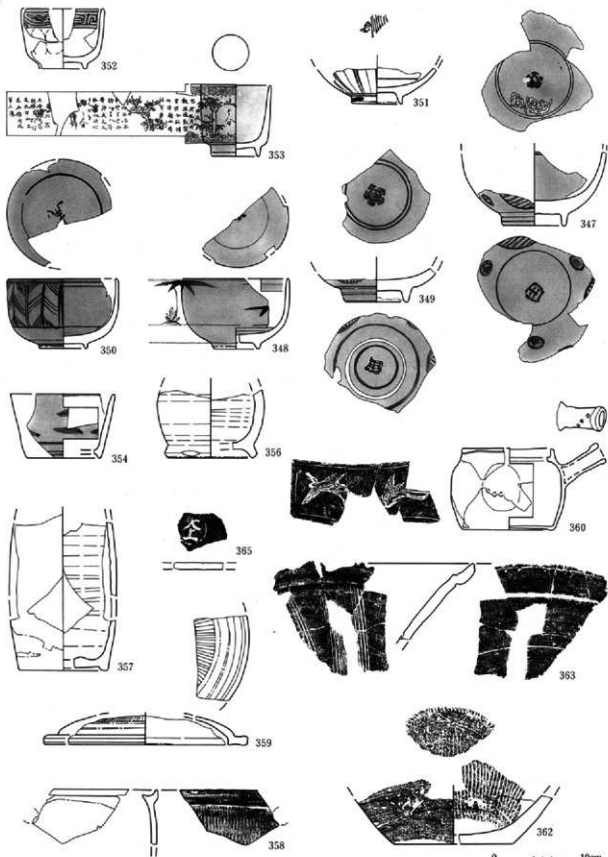


A区A号土坑出土遗物

A区A号土坑遺物観察表

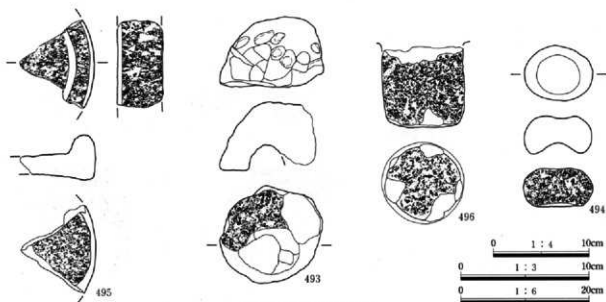
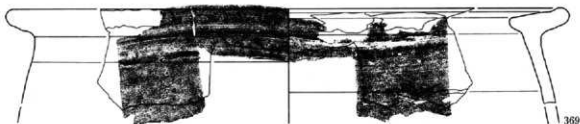
番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
148	陶器 碗	+8~22	口径 (10.4) 底径 4.4 器高 6.4	肥前。外面東屋山水文。高台径小さく、やや狭り込む。陶胎染付。	口径~底部1/2欠。
149	磁器 碗	+13~16	口径 9.9 底径 4.0 器高 5.1	肥前。外面コンニャク判による菊花状文を3方に施す。	口径部1/4欠。
150	磁器 碗	+5~10	口径 (8.2) 底径 4.6 器高 6.1	肥前。口径部は緩く内湾する。高台内狭り込む。外面コンニャク判による不明文様と菊?を交互に染め付ける。	1/2残。 放在見系。
151	陶器 腰掛鉢	+2, A区5溝 埋没土、A 区19土+25	口径 (9.9) 底径 4.4 器高 5.7	瀬戸・美濃。口径部外面下位に螺旋状凹線を巡らす。高台内から凹線まで鉄軸、内面から凹線まで灰軸を施す。鉄軸は胎軸に近い発色。高台端部無軸。	口径~底部5/6欠。
158	土器 皿	+2	口径 (8.8) 底径 (6.4) 器高 2.0	在地系。底部左回転糸切り無調整。	口径~底部1/4、底 部1/2残。
161	土器 碗	+8~16、 A区4溝埋 没土	口径 36.0 底径 17.4 器高 12.1	在地系。鉢形を呈した碗。底部外面から体部下位に壓作り痕を残す。内面調整は丁寧で、口径部上面は平坦に仕上げられる。見込に斐形押印1ヶ所。焼し焼成。	ほぼ完形。
222	陶器 香炉	+27、埋没 土	口径 (5.0) 底径 3.2 器高 4.5	瀬戸・美濃。口径部内面が内側に突き出す。口径部内面から体部外面に灰軸を施す。	口径部一部、体 部1/4、底部残。
310	陶器 灯明皿	+3	口径 10.3 底径 4.8 器高 2.4	瀬戸・美濃。蓋付き灯明皿の身。香筒底位の皿に棧を貼り付ける。蓋との重ね焼き痕残る。棒軸施軸後底面外面の軸を拭う。	棧を含む1/2残。
311	磁器 碗	埋没土	口径 (9.6) 底径 (3.8) 器高 4.8	肥前。外面コンニャク判による菊花状文。	口径~体部一部、 底部1/4残。 放在見系。
312	陶器 青緑釉鉢	埋没土	口径 (21.4) 底径 - 器高 3.4+	肥前。内面に青釉、外面に透明釉を掛け分ける。	破片。 内野山。
313	陶器 半朔葉	+14~33、 埋没土	口径 15.4 底径 9.2 器高 15.8	瀬戸・美濃。内面から外面高合輪に筋軸を施す。外面口径部下に凹線を2条巡らす。	ほぼ完形。
314	陶器 すり鉢	+25	口径 - 底径 - 器高 5.1+	丹波。口径端部は「N」字状を呈し、外面は軸浅い凹線を巡らす。	片口部を含む口径 部破片。
315	陶器 すり鉢	+27	口径 - 底径 - 器高 4.6+	丹波。口径部外反したのち上方に立ち上がり外面に凹線を2条巡らす。口径部縁帯の上下は外反する。	口径部破片。
316	陶器 すり鉢	3~5層	口径 - 底径 - 器高 7.3+	堺・明石。口径部厚みのある縁帯を為し、内面の突帯は丸みを帯びた部分は凹線状に窪む。	口径~体部上位 1/6残。
317	土器 塔塔	+25~31、 埋没土	口径 37.4 底径 34.0 器高 5.3	在地系。底部外面から体部下端まで壓作り痕残す。耳2ヶ所残存。	口径~底部外縁 1/2残。
318	土器 塔塔	底面直上~ 14、3~5 層	口径 37.0 底径 33.0 器高 6.2	在地系。底部外面から体部下端まで壓作り痕残す。体部から口径部外面に軸作り痕残す。耳2ヶ所残存。	口径~底部外縁 1/2残。
319	土器 碗	+1~13、 3~5層	口径 36.3 底径 17.8 器高 11.6	在地系。底部外面から体部下端まで紐作り痕残す。体部内面下輪から底部内面周縁の施では強い。口径部上面取りする。	口径~底部一部 欠。口径~体部外 面厚付き。
320	土器 碗	+25~27、 A区4溝埋 没土	口径 (36.6) 底径 (18.0) 器高 10.2	在地系。体部と口径部は直線的に開く。口径端部は小さく外反し、端部上面は平坦である。底部外面から体部下端に壓作り痕を明確に残す。外面軸作り痕残す。	口径~体部上半 1/4、体部下半~底 部外縁1/6残。
477	石製品 砥石	埋没土	長さ 7.8+ 幅 2.9~3.2 厚さ 0.9~2.0 重量 82.6 砥沢石	上下面を磨面とし、うち片面が使用により湾曲。	両端欠。
478	石製品 凹み石	埋没土	長さ 12.6 幅 9.1 厚さ 5.9 重量 874.1 瀬戸石安山岩	自然礫を用い、4ヶ所使用。	完形。
479	石製品	埋没土	長さ 11.8 幅 10.1 厚さ 8.1 重量 607.2 ニッ岳軽石	1面に半球状の凹みを平滑に仕上げられる。その反対側及び1側面に輪等による平面的な加工痕。	1/2欠。五輪等の未 製品か。

5. 土坑



B区1号灰石土坑出土遗物

上増田島遺跡A・B区



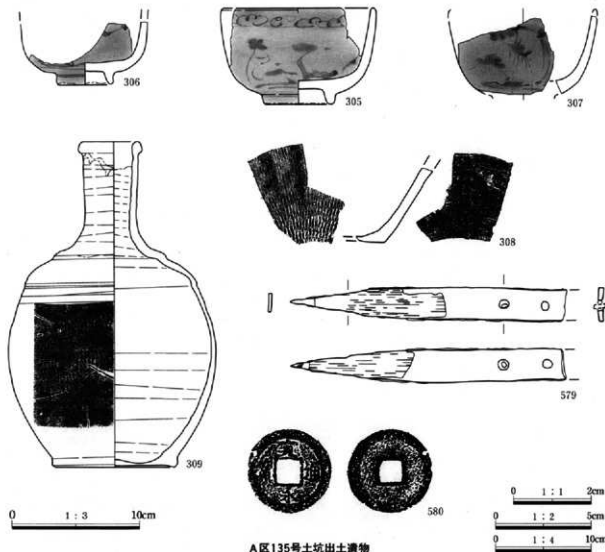
B区1号集石土坑出土遺物

B区1号集石土坑遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態備考
347	磁器 碗	埋没土	口径 — 底径 5.0 器高 5.8+	肥前。外面丸文。見込みコンニャク割による五花弁。高台内不明跡。見込み「岡田」鉤書き。	体部下半以下残。波佐見系。
348	磁器? 碗	埋没土	口径 (8.4) 底径 (3.7) 器高 5.5	瀬戸・美濃。外面に笹状文を、内面2条の帯線と見込みに不明文様を施す。胎土青灰色。高台はシャープな作りで磁器の焼成不良品か。	1/2残。 19世紀。
349	磁器 碗	埋没土	口径 — 底径 5.0 器高 2.6+	肥前。外面丸文。見込みコンニャク割による五花弁。高台内不明跡。	体部下位以下残。波佐見系。

350	磁器 丸瓶	埋没土	口径 底径 器高	8.7 3.8 5.5	肥前。外面に矢羽根文、内面に團扇、見込みに不明文を施す。	2/3残。 19世紀。
351	磁器 瓶	埋没土	口径 底径 器高	— 4.0 2.9+	製作地不詳。外面皮蓋手風。	体部下位以下残。 近現代。
352	磁器 小瓶	埋没土	口径 底径 器高	(6.5) (3.6) 4.7	製作地不詳。体部外面を面取りする。染め付けは高描き。	体部上半以上1/6、 以下1/3残。 幕末頃。
353	磁器 坏	埋没土・B 区11土埋没 土	口径 底径 器高	5.5 3.8 5.6	瀬戸・美濃。外面銅板転写による染め付け。高台内周縁1条凸る。	口径部1/3欠。 近現代。
354	磁器 猪口	埋没土	口径 底径 器高	(8.2) (5.8) 5.1	肥前。外面染め付け。口縁。	口径部1/6、体部へ 底部外縁1/3残。 19世紀。
355	陶器 小香炉?	埋没土・B 区11土埋没 土	口径 底径 器高	(2.6) — 2.8+	瀬戸・美濃。高台内の袈刈は深く、萐荷底状を為す。体部外面に灰軸 を施す。内面と高台縁以下無軸。	体部下半以下1/2残。 19世紀。
356	磁器 青磁瓶	埋没土	口径 底径 器高	— (6.6) 5.3+	肥前。外面に青磁軸を施す。胎土青灰色。器壁厚い。	胴部下半～底部外 縁1/4残。 或在見所。19世紀。
357	陶器 徳利	埋没土	口径 底径 器高	— (7.0) 11.8+	瀬戸・美濃。外面に灰軸を施し、外面体部下位から高台内の軸を拭う。	体部中位以下1/3残。 高田徳利。
358	陶器 行平	埋没土	口径 底径 器高	(18.2) — 4.3+	製作地不詳。注口と内面に鉄泥を厚く施す。外面飛び駒輪文徒鉄泥を 施す。	注口部を含む口径 部破片。 近現代。
359	陶器 行平蓋	埋没土	口径 底径 器高	(16.2) — 2.3+	製作地不詳。天井部内面に鉄軸、天井部外面周縁に鉄泥を施す。天井 部外面に飛び駒を施す。	天井部中央を除いて 1/6残。 近現代。
360	陶器 急須	埋没土・B 区11土埋没 土	口径 底径 器高	7.2 7.1 9.3	製作地不詳。万古風の急須。内面に布痕が残る。外面に飛脚の飛脚文を 押印する。	口径1/3、注口欠。 近現代。
361	陶器 灯明受台	埋没土	受部径 底径 器高	(4.6) (5.1) 5.2+	製作地不詳。脚部は開き、端部は上方に反る。脚底部は鈍角丸磨り。 筒部内面から脚端部に灰軸を施す。貫入入る。	口径部、受け部 3/4欠。
362	陶器 すり鉢	埋没土	口径 底径 器高	— (12.5) 5.1+	瀬戸・美濃。底部網転糸切り無調整。錯軸を施す。使用により一部の すり目が消失する。	体部下位以下1/6残。
363	陶器 すり鉢	埋没土・B 区11土埋没 土	口径 底径 器高	(32.0) — 9.1+	瀬戸・美濃。口径部外方に張り出し、玉縁状を為す。錯軸施軸後、外面 体部下半以下の軸を拭う。	体部中位以上1/6残。
364	土器 ?	埋没土	口径 底径 器高	— — 2.8+	在地系?。外面擦押しにより文様を陽刻する。外面赤色塗彩。	体部?破片。
365	土器 焙烙?	埋没土	口径 底径 器高	— — —	在地系。内面「○」内に「大上」押印あり。	底部破片。
366	土器 火鉢?	埋没土	口径 底径 器高	(26.0) — 7.7+	在地系。外面菊花状の施文。口径部から体部内面に埋付着。	体部以上1/4残。
367	陶器 甕	埋没土	口径 底径 器高	— (19.0) 8.7+	常滑。	体部下位～底部外 縁1/3残。 中世か?。
368	陶器 甕	埋没土	口径 底径 器高	— — 6.5+	常滑。口径部は断面「丁」字状を呈する。	口径部破片。
369	陶器 甕	埋没土	口径 底径 器高	(58.9) — 10.6+	常滑。口径部はほぼ水平に広げ、内外面に突き出る。外面側の踵部は 丸く肥厚する。	口径～体部上位 1/6残。
493	石製品 ?	埋没土	幅 口径 高さ	10.8 長さ 10.3 厚さ 7.4 口径 約5 同深さ 2.7 重量 262.8 軽石	器表の割継や摩滅が顕著で、歪な半球形を呈す。一 部を平坦に仕上げた中央に円錐形の穴を有する。こ の面を下溝とし、突起部に載せる為の造作であらう。	一部欠。
494	石製品 ?	埋没土	幅 長さ 高さ	7.3 長さ 5.8 厚さ 4.0 重量 150.8 粗粒輝石安山岩	端部は丸く磨らる。上下面を窪ませるが、一方は深 い円錐形でもう一方は極浅い。五輪塔水輪に似る。	完形。
495	石製品 粉ひき臼 上臼	埋没土	上面径 口径 高さ	(29.0) 高さ 7.0 上縁幅 2.4 同高さ 2.9 含み 0.9 重量 749.0 粗粒輝石安山岩	器表が一部割継する。すり目は磨滅し、殆ど観察で きない。	1/8残。
496	石製品 碓	埋没土	径 高さ	径 6.5 高さ 6.3+ 重量 274.5 粗粒輝石安山岩	円柱状を呈し、下方に向けてやや窄まる。器表は丁 字車仕上げ。	上欠。 碓の物部。

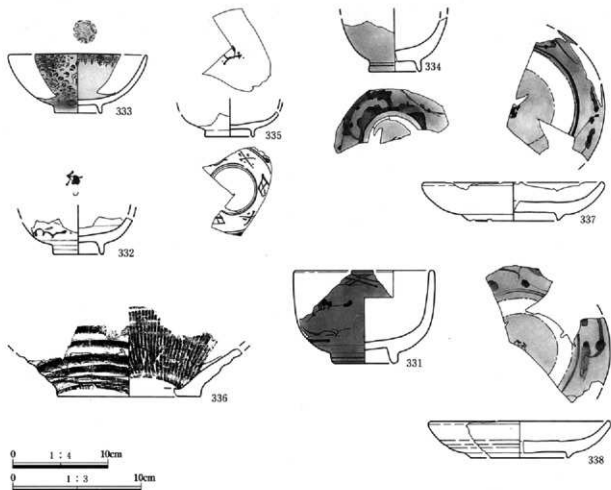
上増田高遺跡A・B区



A区135号土坑出土遺物

A区135号土坑遺物観察表

番号	種別	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態
305	陶器 碗	+35	口径 (12.1) 底径 (5.5) 器高 7.6	肥前。外面東嶺山水文。	口縁～体部上半 3/4欠。
306	陶器 碗	+7	口径 — 底径 4.0 器高 4.8+	肥前。高台径小さい。外面文様不明。陶胎染付。	体部下半以下残。
307	陶器 碗	+42	口径 — 底径 — 器高 6.1+	肥前。外面の染め付け不鮮明。陶胎染付。	体部1/4残。
308	陶器 すり鉢	+51	口径 — 底径 — 器高 7.9+	堺・明石。内面使用により摩滅。すり目はやや幅広く。	体部下位～底部破片。
309	陶器 徳利	+32	口径 5.1 底径 9.8 器高 25.6	製作地不詳。体部外面飛び瘤を巡らす。肩部中央に殺を設け、これより上位に胎輪、下位に灰輪を掛け分ける。底部外面と内面無輪。内部より滲臭が漂う。	口縁部1/4、体部一部欠。関東地方製品か。
番号	種別	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態
579	鉄製品 ?	+43	長さ 14.4+ 幅 1.8 厚さ 0.2 目釘長 0.6+ 同径 0.3 目釘孔径 0.45 重量 31.7	板状で一端が鋭く尖る。目釘孔と思われる小孔二ヶ所。一部に木質の痕跡。	一端欠。
580	銅貨 東水滄寶	+32	直径 2.20～2.23 孔径 0.61～0.62 厚さ 0.09～0.1 重量 1.7	1741年初鑄。背足。	ほぼ完形。十数ヶ所に小孔状の欠。

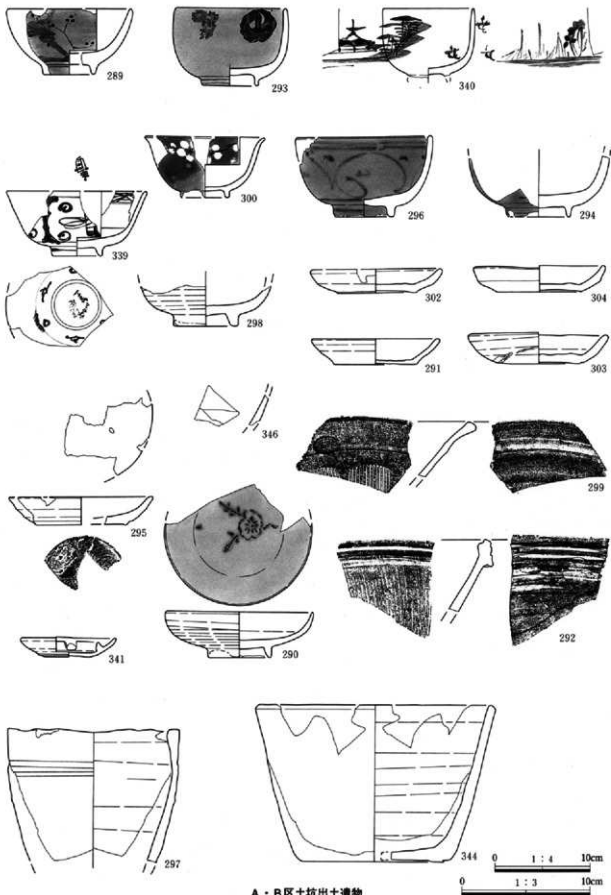


B区11号土坑出土遺物

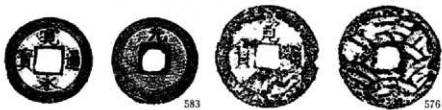
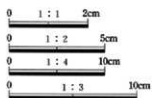
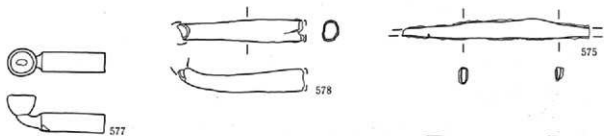
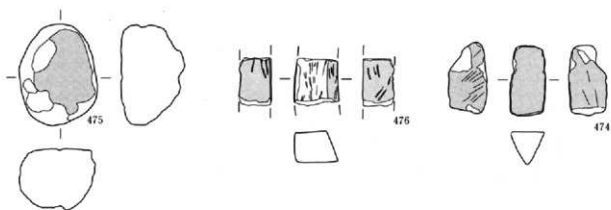
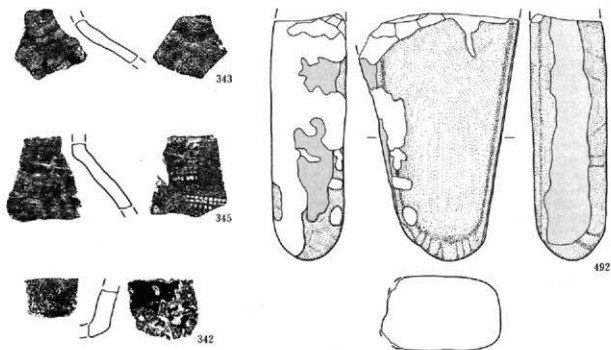
B区11号土坑遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
331	陶器 碗	埋没土	口径 (11.0) 底径 (4.8) 器高 7.5	肥前。高台内挟り込み、底部の器壁やや厚い。外面東屋山水文。陶胎赤付。	口縁部一部、以下1/3残。
332	磁器 端反碗?	埋没土	口径 3.8 底径 3.0+ 器高 3.0+	瀬戸・美濃。内外面染め付け。	体部下位5/8、底部残。焼成不良。
333	磁器 碗	埋没土	口径 (10.8) 底径 3.7 器高 4.6	瀬戸・美濃。体部に丸みをもつ短碗。内外面型紙張り。	口縁～体部上半1/8、以下1/2残。近現代。
334	磁器 碗	埋没土	口径 (4.2) 底径 4.0+ 器高 4.0+	肥前。外面雪輪梅樹文。高台内不明筋。	体部下半以下1/2残。波佐見系。
335	磁器 赤絵碗	埋没土	口径 3.9 底径 1.9+ 器高 1.9+	瀬戸・美濃。内外面に赤絵。	体部下位以下3/4残。幕末～近代。
336	陶器 すり鉢	埋没土、B区1集石埋没土	口径 (15.0) 底径 5.1+ 器高 5.1+	丹波。体部外面縦目顯著。無軸。内面のすり目は使用により摩滅する。	体部下位～底部外面残1/4残。
337	磁器 皿	埋没土、B区1集石埋没土	口径 (14.3) 底径 (7.0) 器高 3.0	肥前。見込み蛇の目輪割ぎ。口縁部内面簡略化した唐草文。見込みコンニャク判による五花弁。	1/4残。波佐見系。
338	磁器 皿	埋没土	口径 (14.2) 底径 (7.6) 器高 2.9	肥前。見込み蛇の目輪割ぎ。口縁部内面簡略化した唐草文。見込みコンニャク判による五花弁か。	1/3残。波佐見系。

上増田島遺跡A・B区



A・B区土坑出土遺物



A·B区土坑出土遗物

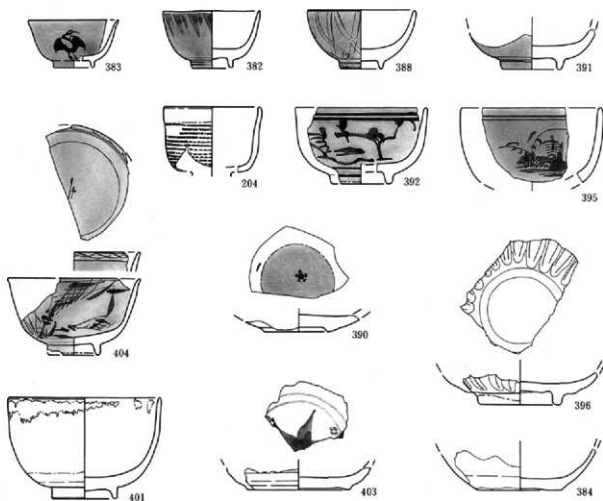
A・B区土坑遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態
289	磁器 碗	A区15土埋 没土、B区1 壘石埋没土	口径 底径 器高 (9.8) (4.1) 5.2	肥前。外面雪輪梅樹文。	口径部1/4、以下 1/2残。 渡佐見系。
290	陶器 皿	A区19土+ 25	口径 底径 器高 11.6 4.9 3.7	瀬戸・美濃。内面口径部下位に小さい段を有する。見込みに須賀を使用した型紙刷りで帯を描く。高台のみ無輪で内面から高台内まで灰輪を施す。粗い貫入入る。	口径～体部1/2残。
291	土器 皿	A区29土埋 没土	口径 底径 器高 (10.0) (6.5) 2.0	在地系。底部左回転承切り無調整。見込み螺旋状の輪軸目が残る。	口径部1/4、以下 1/2残。
292	陶器 すり鉢	A区33土+ 25、埋没土	口径 底径 器高 — — 7.5+	埴・明石。口径部厚みのある縁帯を有す。内面の突帯は丸みを帯び、上部は凹縁状に窪む。	口径部破片。
293	磁器 碗	A区48土+ 25、A区A 土+10	口径 底径 器高 8.6 (4.2) 6.2	肥前。口径部外面にコンキヤケ判による不明文様と輪を各3ヶ所に施す。高台内やや狭り込む。	口径～体部上半 1/4、以下1/2欠。
294	陶器 碗	A区57土埋 没土、灰か き土+5	口径 底径 器高 — (4.8) 4.5+	肥前。文様不明。陶胎染付。	体部下半以下1/4 残。
295	陶器 志野丸皿	A区69・70 土埋没土、 2土+35	口径 底径 器高 (11.2) (7.0) 2.2	瀬戸・美濃。高台は非常に低く台状を有す。全面長石輪。高台内と内面に円縁ピン痕残る。	1/4残。
296	陶器 碗	A区71土+ 4	口径 底径 器高 (10.7) 4.6 6.4	肥前。外面に簡略化した唐草文を描く。陶胎染付。	口径～体部上半 3/8、以下残。 やや焼成不良。
297	陶器 半割盥	A区74土埋 没土、2石 敷+24	口径 底径 器高 (13.4) — 10.5+	瀬戸・美濃。外面口径部下に2条の凹縁を有する。内外面筒色の鉄輪を施す。外面凹縁による自然輪掛かる。	口径～胴部上半 1/4残。
298	陶器 碗	A区84土+ 16	口径 底径 器高 — 5.1 3.1+	瀬戸・美濃。高台内若干狭る。内面から高台外面に筋輪を施す。	体部下半1/2、高台 残。
299	陶器 すり鉢	A区84土+ 19	口径 底径 器高 — — 5.8+	瀬戸・美濃。口径部外形する。筋輪を施す。	口径部破片。
300	陶器 碗	A区117土 埋没土、790 —700	口径 底径 器高 (9.4) 3.8 5.8	瀬戸・美濃。口径部端反り。内面白化粧。外面鉄蛇具で灰を、白土で梅花を描く。内面から高台内透明輪。高台端部のみ無輪。	口径部1/4、以下 3/4残。
302	土器 皿	A区129土 +26、埋没 土	口径 底径 器高 (10.2) 6.2 1.9	在地系。底部右回転承切り無調整。見込み縦線凹縁状に窪む。	口径～体部1/2欠。
303	土器 皿	A区129土+ 21、埋没土、 790—655	口径 底径 器高 11.0 6.6 2.5	在地系。底部左回転承切り無調整。体部から口径部直線的に開く。見込みに螺旋状の輪軸目残り、周縁は凹縁状に窪む。	口径部一部欠。
304	土器 皿	A区129土 埋没土、805 —660	口径 底径 器高 10.4 6.6 2.0	在地系。底部右回転承切り無調整。見込み縦線凹縁状に窪む。	完形。
339	磁器 碗形碗	B区12土埋 没土、820— 700	口径 底径 器高 (11.0) 3.9 5.1	瀬戸・美濃。外面文様不詳。見込みに「寿」字文。高台内に焼き継ぎ時の赤文字「増田」「参百廿三」「参百十一」。口径部付近と高台輪は焼き継ぎ部で欠損。	口径～体部上半の 大部分欠。 焼き継ぎ。
340	磁器 筒形碗	B区23土埋 没土	口径 底径 器高 7.2 — 5.5+	肥前。外面東屋山水文。	口径部の一部、高 台欠。
341	陶器 灯明受皿	B区23土埋 没土	口径 底径 器高 7.5 3.4 1.6	瀬戸・美濃。全面筋輪軸輪後、底部外面から体部の輪を拭う。体部下位に重ね焼き痕。口径部が油溝付近で重む。	完形。
342	陶器 壺	B区26土埋 没土	口径 底径 器高 — — 5.1+	常滑。外面及び底部内面に自然輪が掛かる。	体部下層から底部 破片。 中腹。
343	陶器 壺?	B区29土埋 没土	口径 底径 器高 — — 4.5+	常滑。外面に自然輪が掛かる。頸部の径は小さいと推定され、壺の可能性が高い。	肩部破片。 中腹。
344	土器 楕木鉢?	B区41土埋 没土、835— 654	口径 底径 器高 (18.8) (11.6) 12.4	在地系。平底で体部は直線的に立ち上がる。型作り?輪軸調整。残存部には水抜き穴が認められない。	口径部1/6、体部 1/3、底部外縁の一部 残。
345	陶器 壺	B区50土埋 没土	口径 底径 器高 — — 6.4+	外面格子叩き、自然輪が掛かる。	肩部破片。 中腹、386と同一個 体か?。
346	磁器 青磁碗	B区50土埋 没土	口径 底径 器高 — — 2.6+	龍泉窯系青磁。残存部は無文。	体部破片。 中腹。

6. 遺構外出土遺物

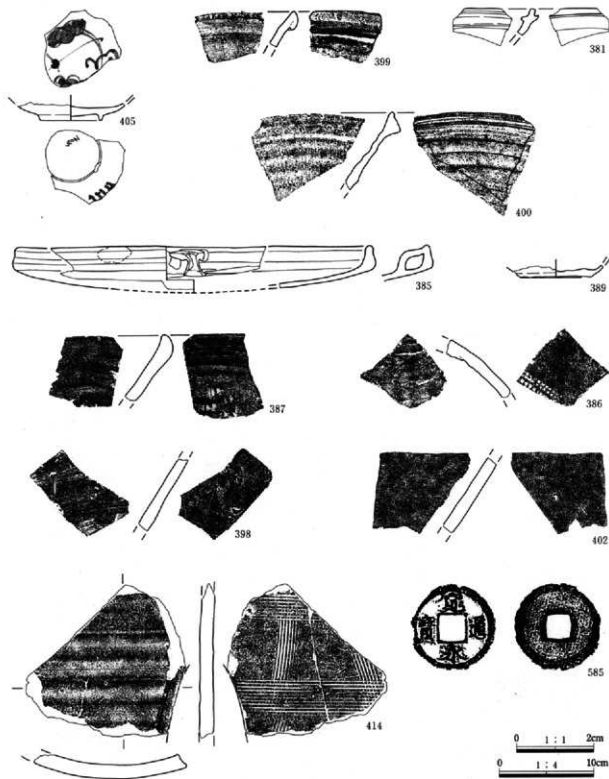
番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態
474	石製品 砥石	A区84土埋没土	長さ 5.5 幅 2.6~2.9 重量 17.6 軽石	断面三角形を呈し、3面を使用。端部は整わず、両端が欠けている可能性もある。	器表の一部が剥離。
475	石製品 磨石	A区126土埋没土	長さ 8.0 幅 6.1 厚さ 4.9 重量 104.1 軽石	円盤を用い、使用により平坦な磨面を形成。	完形。
476	石製品 砥石	A区126土埋没土	長さ 3.7+ 幅 2.5~3.2 厚さ 2.3 重量 49.5 流紋岩	磨面は主に2面で、使用により湾曲し、断面台形を呈す。残りの1面は製作時の駆痕が認められるが、使用による磨痕も認められる。	両端欠。
492	石製品 砥石?	B区12土上+2	長さ 26.0+ 幅 16.8+ 厚さ 8.0 重量 5618 ひん岩	自然磨を用い、両面に磨面をもつ。	片端欠。
575	鉄製品 刀子?	A区5土埋没土	長さ 9.8+ 刀身幅 0.3~1.0 同厚さ 0.3 茎幅 0.5~1.0 同厚さ 0.2 重量 11.5	断面は区画が深く、鋒部の片区か。全体に錆が付着。メタルの劣化が顕著で一部で層状に剥離。	茎尻・鋒欠。
577	真鍮製品 煙管帽首	A区19土+21	長さ 5.1 高さ 2.0 火皿径 1.4 小口径 1.0 重量 6.0	緩やかに屈曲する筋返しから肩の絞に至る。火皿に製作時と思われる横方向の損傷、肩の一部に文様と思われる斜方向格子状の筋彫り。全体に緑青付着。	ほぼ完形。
578	金属製品 煙管帽首	A区19土+22	長さ 6.6+ 高さ 1.3+ 小口径 1.1 重量 6.8	筋返しは緩く湾曲し、肩の意図は少ない。首上面が二次的にやや潰れる。全体に緑青付着。	火皿・小口欠。
576	銅 銭 寛永通寶	A区7土埋没土	銭径 2.75~2.79 孔径 0.59 厚さ 0.12~0.15 重量 3.8	錆付着で判読困難。1768年初鋳。21銭。	ほぼ完形。
583	銅 銭 寛永通寶	B区23土埋没土	銭径 2.28~2.30 孔径 0.63 厚さ 0.11~0.12 重量 2.5	1741年初鋳。背元。	完形。

6. 遺構外出土遺物 (PL61・62)



A・B区遺構外出土遺物

上増田島遺跡A・B区



A・B区遺構外出土遺物

A・B区遺構外遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
204	陶器 箱茶碗	A区	口径 (7.6) 底径 - 器高 5.0+	瀬戸・美濃。筒形を呈し、外面口縁部以下に回転織文具で文様を施す。 内面から口縁部外面に鉄軸を施し、外面口縁部以下は薄く施す。	口径～体部1/4残。

6. 遺構外出土遺物

381	陶器 すり鉢	790-680	口径 底径 器高	- - 2.3+	瀬戸・美濃。筋輪を施す。	口縁部破片。
382	磁器 碗	800-680	口径 底径 器高	(7.7) 3.3 4.5	肥前。口縁部外面型紙による雨降り文。	口縁部～体部中位 58欠。 波佐見系。
383	磁器 坏	805-710- 715	口径 底径 器高	(7.1) (3.2) 3.7	瀬戸・美濃?。外面に刺を描く。器表の光沢が強い。	36残。
384	土器 皿	805-660	口径 底径 器高	- 6.5 3.2+	底部回転糸切り。回転方向不明。	口縁～体部上半 欠。 中費小。
385	土器 焙烙	810-660	口径 底径 器高	(37.0) (37.4) 4.5+	在地系。丸底。酸化縮焼成。底部外面から体部外面下位に保付着。耳1ヶ所残る。	口縁～底部外縁 14残。
386	陶器 甕	A区	口径 底径 器高	- - 6.0+	常滑。外面格子叩きで自然輪が薄く掛かる。	肩部付近破片。 中費.345と同一個 体小。
387	軟質陶器 すり鉢	A区	口径 底径 器高	- - 6.9+	口縁部はやや内湾し、玉縁状を為す。焼成はやや硬質で須恵器質。	口縁部破片。 中費。
388	磁器 碗	A区	口径 底径 器高	8.6 3.3 4.6	肥前。外面二重編目文。	口縁部12欠。 波佐見系。
389	土器 皿	A区	口径 底径 器高	- 5.5 0.9+	在地系。底部右回転糸切り無調整。見込み周縁凹線状に窪む。	体部中位以上欠。
390	磁器 皿	A区	口径 底径 器高	- 5.1 1.4+	肥前。見込み蛇の目軸割ぎ。高台径は小さく、基部形状を呈する。見込みコンニャク割による五弁花は小さい。	波佐見系。
391	磁器 碗	A区	口径 底径 器高	- 4.5 3.2+	肥前。体部最下位及び高台脇に圈線。陶胎染付。	体部下位～底部 12残。
392	陶器 碗	800-675	口径 底径 器高	(10.5) (4.6) 6.0	肥前。器高低い。外面簡略化した東屋山水文。陶胎染付。	36残。
395	陶器 碗	A区	口径 底径 器高	(11.0) - 5.8+	肥前。外面山水文。	口縁～体部中位 14残。
396	陶器 菊皿	A区	口径 底径 器高	- 6.6 2.6+	瀬戸・美濃。高台は大きく厚みを有する。見込みの輪下に布目痕が残る。内面から高台外面に灰輪を施す。軸色は黄瀬戸風。貫入入る。	体部下位12、底部 34残。 17世紀。
398	陶器 甕	820-670	口径 底径 器高	- - 8.5+	常滑系。筋土灰白色。	体部下位破片。 中費。
399	陶器 すり鉢	810-700	口径 底径 器高	- - 3.7+	瀬戸・美濃。口縁部外方に折り返す。筋輪を施す。	口縁部破片。
400	陶器 すり鉢	830-675	口径 底径 器高	- - 8.2+	瀬戸・美濃。口縁部断面三角形を呈する。筋輪を施す。	口縁～体部上手破 片。
401	陶器 尾呂茶碗	830-675	口径 底径 器高	(12.0) 5.2 7.9	瀬戸・美濃。内面から高台脇に動輪を施し、口縁部にウノフ輪を流す。高台脇から高台内は化粧として輪を薄く施す。	口縁～体部上手 34残。
402	陶器 鉢?	B区	口径 底径 器高	- - 7.6+	常滑。断面と外面は鈍い橙色を呈する。内面は使用により器表が平滑となる。	体部破片。 中費.282・283と 同一個体小。
403	陶器 皿	B区	口径 底径 器高	- (8.0) 1.8+	瀬戸・美濃。鉄絵具による見込み二重編目内に蘭竹文を描く。	体部下位～底部 14残。
404	磁器 端碗	B区	口径 底径 器高	(10.5) (3.9) 6.0	瀬戸・美濃。外面植物文の染の付け。見込み不明。	口縁部34、以下 12欠。
405	磁器 皿?	B区	口径 底径 器高	- (4.8) 1.3+	肥前。見込み植物状の文様。高台内に焼き継ぎ時の文字を赤色で示す。	体部下位～底部 14残。
414	土器 甕	790-685	口径 底径 器高	- - 12.2+	在地系。外面に掻き目を施す。	突き口破片。
585	銅鏡 寛永通寶	B区	径径 重量	2.28-2.30 0.66-0.67 0.10 2.1	無背。	外縁一部欠。

Ⅲ C・D区第2面の遺構と遺物

1. 掘立柱建物、柱列

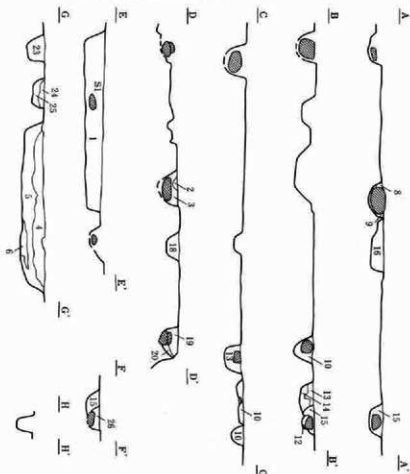
D区2面1号掘立柱建物(PL.31・32・62・63)

位置 785～795～730～745 **重複** 2号掘立柱建物、121・123・132・133・135・143・144・149～151・153・155・181・209・211号土坑、18号溝 **形状・規模** 重複を含めて22基のピットからなり、5間×2間の長方形を呈す。13.88×5.90m P1 53×45×19cm P2 53×47×8cm P3 径55×36cm P4 径52×(32)cm P5 62×60×26cm P6 69×45×17cm P7 59×42×(24)cm P8 61×52×(32)cm P9 73×60×29cm P10 39×25×13cm P11 63×(52)×(28)cm P12 径49×30cm P13 46×40×28cm P14 49×43×32cm P15 径35×11cm P16 30×24×27cm P17 52×32×24cm P18 59×37×34cm P19 119×73×20cm P20 85×41×20cm P21 50×58×26cm P22 56×39×20cm。P12～14の桁とP15～21の桁は半間の距離にあり、南側に庇をもつ構造が考えられる。P2以東と以西で桁方向のピット間距離に開きがあるが、132・133号土坑、209号土坑及び攪乱によって壊されたもの、検出できなかったものがあるとすれば7間×2間が復元できる。P5・6、P19～22は重複し、P19→P20、P21→P22を確認した。建て直しによるものであろう。S1は181号土坑無設土中にあり、切り合い関係が認められない。礎石はP1・3～8・11～14・20～22に残存している。殆どが河床礫を用いるが、P1は五輪塔火輪(517)の上に扁平な河床礫を重ねて、P13は粉ひき白上白(524)を逆位で、P20は方形の加工石を用いている。P1・3・5・12は礫を2段に重ねて高さを調整している。**方位** 85° **埋没土** ピットごとに異なる様相を示す。柱痕は確認できなかった。**遺物** 上記の礎石のほか、1号または2号掘立柱建物より石鉢が出土した。**所見** 礎石建ちの屋敷である。出土遺物及び他の遺構の状況より中世から近世のものであろう。2号掘立柱建物との新旧関係はつかめてい

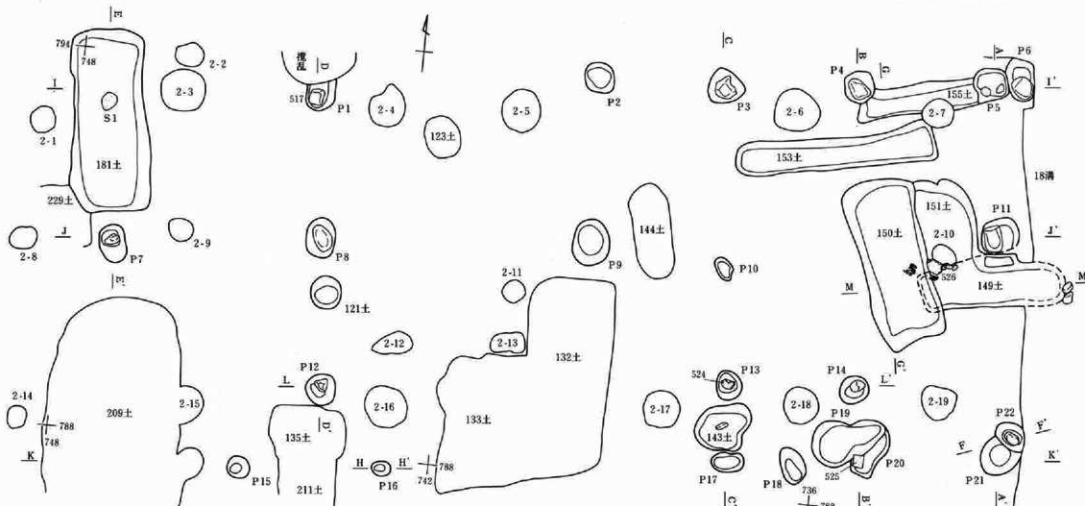
いが、規模・方位が似ており、建て直したものと思われる。135号土坑からえな壺と思われる土器鉢・蓋が出土しており、関係が窺われる。1号は東端で時期の近い18号溝と重複し、2号は1号より西に位置することから、18号溝の埋没時間を考慮すると1号→18号溝→2号の可能性が高い。

D区2面2号掘立柱建物(PL.31・63)

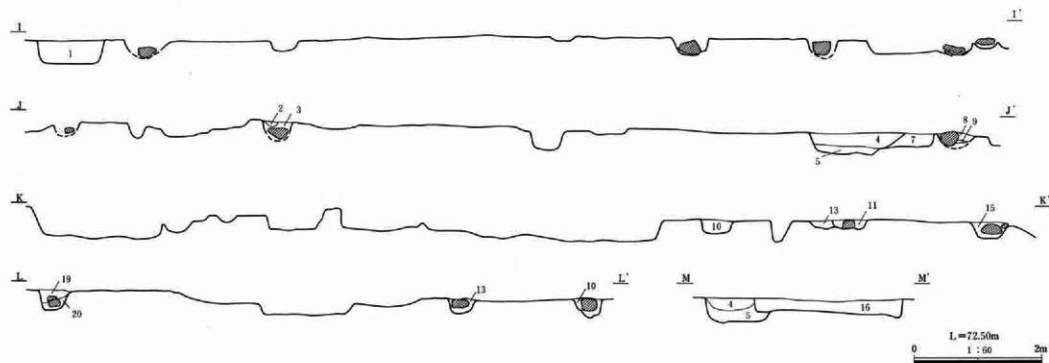
位置 785・790～730～745 **重複** 155号土坑→2号掘立柱建物、1号掘立柱建物、121・123・132・133・135・143・144・149～151・153・155・181・209・229号土坑 **形状・規模** 19基のピットからなり、6間×2間の長方形を呈す。14.42×4.52m P1 43×38×28cm P2 45×37×15cm P3 71×66×30cm P4 67×56×31cm P5 66×62×48cm P6 74×70×31cm P7 50×46×34cm P8 45×36×22cm P9 40×36×31cm P10 42×33×25cm P11 径35×21cm P12 62×35×16cm P13 54×33×16cm P14 37×29×19cm P15 61×49×50cm P16 73×67×52cm P17 60×63×40cm P18 60×55×35cm P19 58×55×42cm。P1は東に、P3は北に寄る。P2は本遺構に伴うか不明である。P12・13の桁は南の桁との距離が短い。1号掘立柱建物の構造から庇付きである可能性もあるが、2基のみの検出であり、判然としない。礎石はP1～6・15～17に残存している。全て河床礫を用い、P15・16では礫を2段に重ねて高さを調整している。**方位** 85° **埋没土** ピットごとに異なる様相を示すが、堆積状況のわかるものは少ない。P6・17で柱痕が観察できる。**遺物** 1号または2号掘立柱建物より石鉢が出土した。**所見** 礎石建ちの屋敷である。他の遺構の状況より中世から近世のものであろう。1号掘立柱建物との新旧関係はつかめていないが、規模・方位が似ており、建て直したものと思われる。135号土坑からえな壺と思われる土器鉢・蓋が出土しており、関係が窺われる。



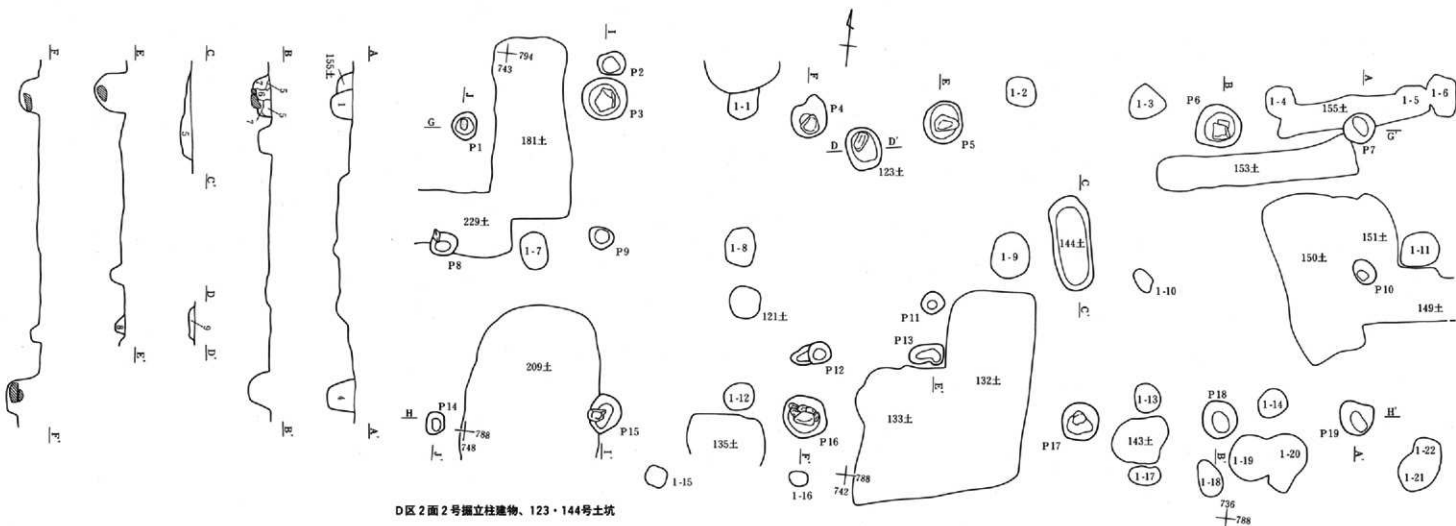
- D区2面1号掘立柱建物、121・143・149~151・153・155・181号土坑
1. 灰褐色土。粘質。灰黄色シルト粒を少量含む。181号土坑埋没土。
 2. 灰褐色土。しまりが強い。炭粒を多量含む。
 3. 灰褐色土。しまりが強い。炭粒を少量含む。
 4. 黒褐色土。褐色・灰色砂粒を少量含む。
 5. 黒褐色土。しまりが強い。褐色・灰色砂粒を少量含む。
 6. 暗灰褐色土。黄色砂質土を多量含む。4~6層は150号土坑埋没土。
 7. 褐色砂。黄色砂質土を少量含む。151号土坑埋没土。
 8. 黒褐色土。黄色砂質土を少量含む。
 9. 黄色土。砂質。黒褐色土をやや多量含む。
 10. 灰褐色土。しまりが中強い。灰黄褐色砂質土粒・炭粒を少量含む。
 11. 暗褐色土。やや粘質。
 12. 灰褐色土。灰黄褐色砂質土を多量含む。
 13. 暗褐色土。
 14. 灰褐色土。灰黄褐色砂質土をやや多量含む。
 15. 暗灰褐色土。
 16. 暗灰褐色土。しまりが強い。褐色土粒を均一に少量含む。149号土坑埋没土。
 17. 灰褐色土。しまりが強い。灰黄褐色砂質土粒・炭粒を少量含む。
 18. 暗灰褐色土。粘質。灰黄褐色砂質土を多量含む。121号土坑埋没土。
 19. 灰褐色土。しまりが強い。白色土粒・炭粒を少量含む。
 20. 暗灰褐色土。しまりが強い。
 21. 黒褐色土。褐色・灰色砂粒を少量含む。
 22. 黒褐色土。砂質。褐色・灰色砂粒を多量含む。
 23. 暗黒褐色土。砂質。しまりが強い。灰色砂粒をやや多量、黄色砂質土粒を少量含む。155号土坑埋没土。
 24. 灰褐色土。褐色砂粒を少量含む。
 25. 暗黒褐色土。褐色砂粒・炭粒を少量含む。24・25層は153号土坑埋没土。
 26. 暗灰褐色土。褐色砂粒を微量含む。



D区2面1号掘立柱建物、121・143・149~151・153・155・181号土坑



L=72.50m
1:50



D区2面2号掘立柱建物、123・144号土坑

D区2面2号掘立柱建物、123・144号土坑

1. 黒褐色土、灰色砂粒を均一に少量含む。
2. 黒色土。粘質。炭粒を少量含む。柱痕。
3. 暗褐色土、黄色砂質土をやや多量含む。
4. 灰褐色土。やや粘質。灰黄褐色砂質土を少量、炭粒を微量含む。
5. 灰黄褐色土。砂質。地山の灰黄色砂質土を多量含む。
6. 灰褐色土。炭粒を微量含む。柱痕。
7. 灰褐色土。地山の灰黄色砂質土を少量含む。
8. 灰黄褐色土。やや粘質。地山の灰褐色砂粒を少量含む。
9. 陶灰色土。炭粒をやや多量含む。

L=72.50m

0 1:60 2m

1. 掘立柱建物、柱列

D区2面1号柱列(PL31-32)

位置 785~795-725・730 重複

20号溝・197・198号土坑→1号柱列

形状・規模 長さ 8.54~9.78m

P1 28×32×30cm P2 51×(43)

×24cm P3 径36×35cm P4 83

×50×52cm P5 54×29×41cm

P6 径42×39cm P7 32×28×16

cm P8 43×39×29cm P9 31

×27×37cm P10 径36×11cm

P11 29×19×15cm P12 径36×

30cm P13 81×62×47cm P14

92×81×62cm P15 32×22×14

cm P16 (56)×49×33cm P17

径33×20cm。P11・12より礎石が

検出された。S1・2も出土位置から

礎石と考えられる。P13の礎は

根固め石であろう。いずれも河床

礫である。方位 -5~8° 埋

没土 ビットごとに異なる様相を

示すが、堆積状況のわかるものは

少ない。柱痕は確認できなかった。

遺物 図示していないが、

P8より在地系土器皿が出土した。

所見 柱列の東西の位置には建物

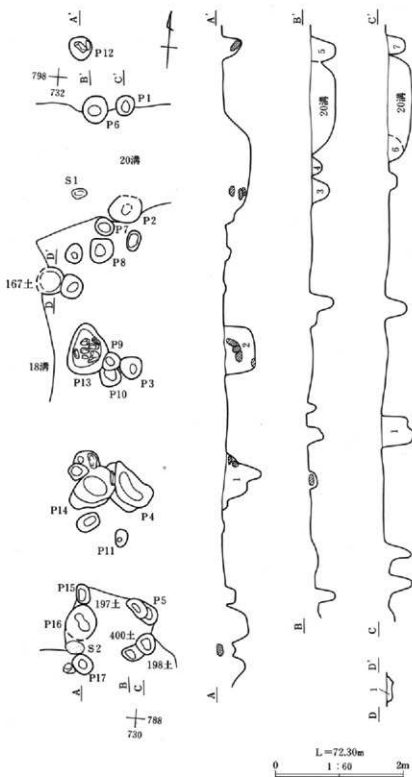
を構成するようなビットが見いだ

せないことから、構になる可能性

がある。その場合、西に位置する

掘立柱建物との関係が予想され

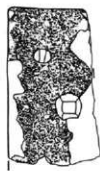
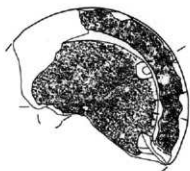
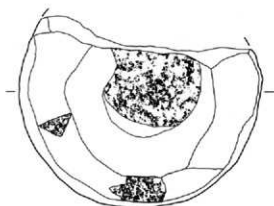
る。



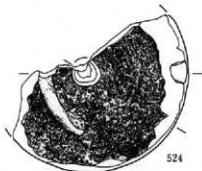
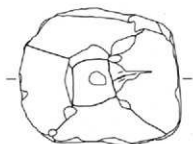
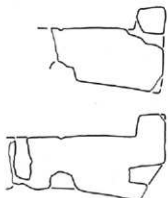
D区2面1号柱列、167号土坑

D区2面1号柱列、167号土坑

1. 暗灰色土。黄色砂質土を多量含む。
2. 灰褐色土。褐色砂粒を少量含む。
3. 暗灰褐色土。黄色砂質土粒をやや多量含む。
4. 暗灰褐色土。褐色砂粒を少量含む。
5. 黒褐色土。やや粘質。黄色砂質土粒を微量含む。
6. 黒色土。やや粘質。灰色粘質土粒を少量含む。
7. 黒褐色土。灰色・褐色砂粒をやや多量含む。



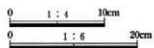
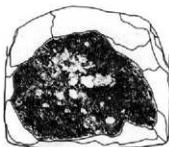
518



524



517



525

D区2面獨立柱建物出土遺物

D区2面掘立柱建物遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形等の特徴	残存状態 備考
517	石製品 五輪塔 火輪	1掘立P1埋没土	最大長 21.5 最大幅 25.3 高さ 12.2 重量 6034 馬見岡礎状岩	器表は剥離し、風化している。摩滅が顕著で、成形面と欠損面の差が不明瞭。上面は欠損がなければ、軸孔でなく、面全体が窪む。側面屈曲部は直線状。	一部欠。 礎石転用。
518	石製品 鉢	1又は2掘立埋没土	口径 22.5 最大径 25.5 底径 16.2 上縁幅 2.7 内面底径 9.8 重量 6840 粗粒輝石安山岩	器表は凹凸が目立つ粗い仕上げ。外面体部は緩く湾曲しながら直に、内面体部は反折して立ち上がる。内面に使用による摩滅は認められない。	56%。 礎石転用。
524	石製品 粉ひき臼 上臼	1掘立P13埋没土	上面径 約31 高さ 14.4 上縁幅 3.6 同高さ 3.4 含み 1.9 芯径 4.4 供給口径 3.7 挽手穴 約3.5四方 同高さ 5.5 重量 9380 粗粒輝石安山岩	器表は磨いた丁寧な仕上げ。底面は使用により摩滅し目は観察できないが、ものくぼりが浅い溝状に残る。側面挽手穴の左右上方から上面に孔が2ヶ所貫通する。平面形は挽き手穴方向に湾曲し、内面がやや摩滅するが用途不明。上面中央に浅い窪みをもつ。	36%。 礎石転用。
525	石製品 ?	1掘立P20埋没土	長さ 21.1 幅 25.7 高さ 17.0 重量 10481 馬見岡礎状岩	欠損が激しいが、直方体状の製品か。破損後被熱し煤が付着。	一部欠。 礎石転用。

2. 溝

全部で16条の溝を検出した。調査区の東半に分布が集中し、東西または南北に走向を描える傾向がある。微高地上に立地し、走向が揃い、同一調査区内で礎石建ちの建物が検出されていることから、殆どが何らかの区画溝と考えられる。しかし、方形を意識したものはD区10・13号溝と南辺が短いC区1号溝のみであり、A区1・2号溝のように単独で屋敷の外周と想定できるものはない。遺物は古代から近現代までのうち、特に18世紀代に集中し、一部中世が目立つ。埋没土の堆積状況や遺物の出土状況に不明なものも多く、明確な遺構の時期は判然としないが、区画溝と考えられることや出土遺物の様相から中世～近世のものであろう。

C区2面1号溝(遺構P.111 遺物P.117 PL.32-63)

位置 800～815～720・725 重複 1号溝→C区13号土坑、D区10号溝→1号溝、C区7・9号土坑、D区224号土坑 形状・規模 長さ 約22m 幅 0.42～1.42m 深さ 0.30m。北から南南東にのびた後、802～722付近で西へ走向を変え、13号土坑以西で2条に分岐する。底面は平坦である。遺物 瀬戸・美濃陶器天目碗、志戸呂陶器灯明受皿が出土した。所見 方形を意識した区画溝と思われる。西端の2条は新旧関係が不明だが、掘り直しによるものであろう。延長上にD区19号溝が位置し、関係が推測される。

D区2面6号溝(遺構P.113 遺物P.116・117 PL.32-63)

位置 810・815～735～750 重複 D区5号溝・77号土坑、D区67号土坑→6号溝→D区72・75号土坑 形状・規模 長さ 15.7m 幅 0.31～1.17m 深さ 0.23m。ほぼ東西にのび、740ライン付近で東南東に走向を変える。遺物 肥前磁器碗、瀬戸・美濃陶器香炉、D区5号溝・76号土坑と接合する軟質陶器すり鉢、板碑、杭のほか、図示していないが瀬戸・美濃陶器碗、在地系焙烙などが出土した。所見 区画溝と思われる。同じく区画溝と思われ、北に併行する7号溝は位置が近く、時期が異なると考えられる。東端で走向を変えるのはD区78号土坑をさけるためと考えられ、D区78号土坑→6号溝が想定できる。5号溝との重複部分より東において5号溝をトレースするかは確認できていない。

D区8・9号溝(遺構P.113 遺物P.117 PL.32-63)

位置 805～810～725～745 重複 なし。形状・規模 長さ 約20.0m 幅 0.42～1.39m 深さ 0.45mで、ほぼ東西にのびる。810ライン付近で2条に分岐する。埋没土 分岐した2条において、北側は褐色土、南側は黒褐色土主体とし、様相を異にする。遺物 幕末以降の植木鉢が出土した。所見 区画溝と思われる。Aライン以外の埋没土の状況がつかめていないため、東端付近で2条となる理由は不明である。

D区2面10号溝(遺構P.113遺物P.116 PL.32-33-63)

位置 795-805-705-760 **重複** 10号溝→C区1号溝・C区14号土坑・D区122・124・205・213号土坑、D区116・206・226号土坑→10号溝、13・17号溝 **形状・規模** 長さ約56m 幅 0.53-1.65m 深さ 0.40m。西から東へのび、735ライン付近でやや北寄りに走向を変え、717ラインでクランクする。**遺物** D区78号土坑と接合する肥前陶器碗、C区15号土坑と接合する瀬戸・美濃腰鉋碗、石鉢、粉ひき臼、板碑のほか、図示していないが、軟質陶器すり鉢・内耳鍋、土器火鉢などが出土した。**所見** 直交するD区13号溝を伴う区画溝と思われる。同じく区画溝と思われるC区1号溝とは新旧があり、地割りに変遷があったことが窺われる。東の延長上にA区2号溝が位置するが、規模が異なることから同一の溝である可能性は低い。重複するD区17

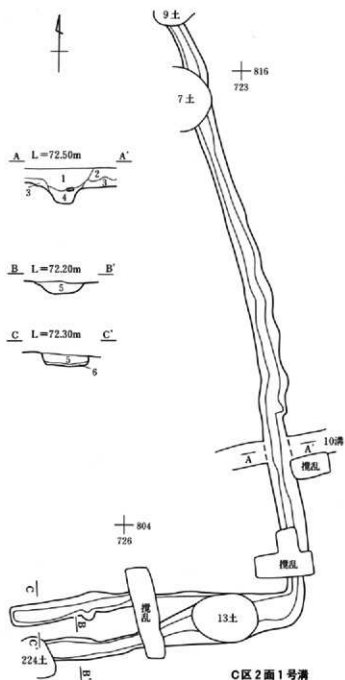
号溝は直交しないため、時期が異なると考えられる。

D区2面20号溝(遺構P.115遺物P.117 PL.33-63)

位置 790・795-725-745 **重複** 20号溝→D区2面1号柱列・D区221・243号土坑、D区220号土坑→20号溝、D区18号溝、D区180・244号土坑 **形状・規模** 長さ約22m 幅 0.98-2.29m 深さ 0.25m。ほぼ東西にのびる。平坦な底面をもち、C・D区の他の溝に比して幅が広い。**遺物** 肥前磁器碗・皿のほか、図示していないがD区183号土坑と接合する板碑が出土した。**所見** 直交するD区18号溝を伴う区画溝と思われる。南側下端付近にビット状の落ち込みが2ヶ所あるが、本遺構に伴うものか不明である。同じく区画溝と思われるC区1号溝とD区19号溝とは位置が近く、時期が異なると考えられる。

C・D区2面溝一覧表

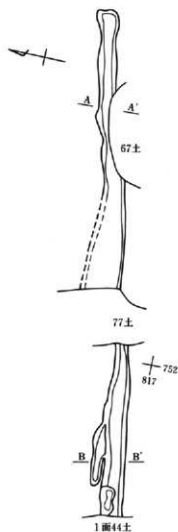
番号	位置	規模(m)	重複	遺構区	遺物区	PL.No	備考
C区1	800-815-720-725	約22×0.42-1.42×0.30	本文参照	P111	P117	32-63	
D区5	810-815-735-755	約23.6×0.38-1.11×0.28	5溝→6溝・72-75土 76土→5溝、103土	P113		32	陶器碗・すり鉢などが出土
D区6	810-815-735-750	約15.7×0.31-1.17×0.23	本文参照	P113	P116-117	32-63	
D区7	815-820-740-755	13.33×0.30-0.95×0.20	7溝→44-67・77土	P111			Bライン付近で2条となる。44土重複部分でビット状の落ち込みあり、出土遺物は不明
D区9	805-810-725-745	約20.0×0.42-1.39×0.45	本文参照	P113	P117	32-63	
D区10	795-805-705-760	約66×0.53-1.65×0.40	本文参照	P113	P116	32-33-63	
D区13	780-800-755-760	約15.9×0.46-0.94×0.19	10溝	P113			遺物は出土しなかった
D区17	795-810-750-760	約13.5×0.7-1.52×0.09	272土→17溝→271土、10溝、113土	P112			遺物は出土しなかった
D区18	785-795-730	約11.2×0.80-1.43×0.78	18溝→149-164-165-167-188-204-241-245土、1掘-20溝	P112		33	出土遺物は不明
D区19	795-735-740	約4.9×0.54-0.75×0.24	19溝→1井戸・241土、180土	P115			出土遺物は不明
D区20	790-795-725-745	約22×0.98-2.29×0.25	本文参照	P115	P117	33-63	
D区23	780-785	5.40×0.42-0.64×0.10	24溝	P112			遺物は出土しなかった
D区24	785-790-780	2.66×0.96×0.27	23溝	P112			遺物は出土しなかった
D区27	825-830-775-780	約7.0×0.26-1.66×0.12	27溝→358-366土	P112			出土遺物は不明
D区28	810-815-765	5.40×0.32-0.48×0.18	なし	P115			河床礫が多数出土
D区29	805-815-765	7.74×0.28-0.68×0.18	29溝→396-2土	P115			813ラインにビット状の落ち込みあり、出土遺物は不明



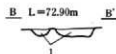
C区2面1号溝

C区2面1号溝

1. 暗褐色土。黒褐色土粒を多量、径2cm程の礫・パミスを微量含む。攪乱。
2. 鈍い黄褐色土。径2cm程の礫を多量含む。
3. 暗褐色土。しまりが強い。径1cm程の礫・パミスを微量含む。2・3層はD区10号溝の埋没土。
4. 暗褐色土。3層より照味が強い。しまりが強い。径1cm程の礫・パミスを微量含む。1号溝埋没土。
5. 褐灰色土。褐色・黄色砂粒を少量含む。
6. 黄色土。砂質。褐灰色土粒を少量含む。

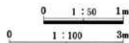


D区2面7号溝

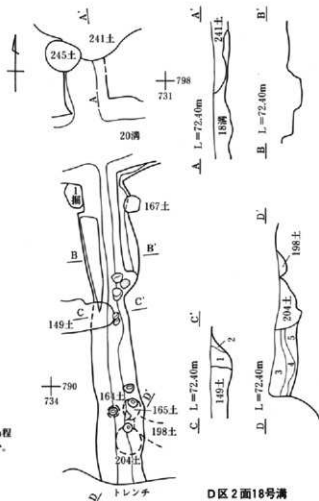
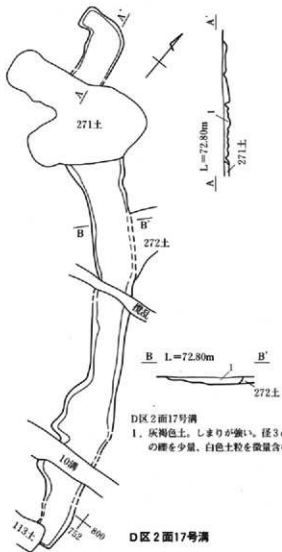


D区2面7号溝

1. 暗褐色土。鉄分凝集粒を多量、径5cm以下の礫・黄褐色土ブロックを少量含む。



上増田島遺跡C・D区第2面

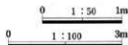
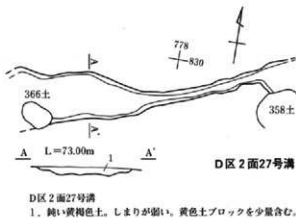


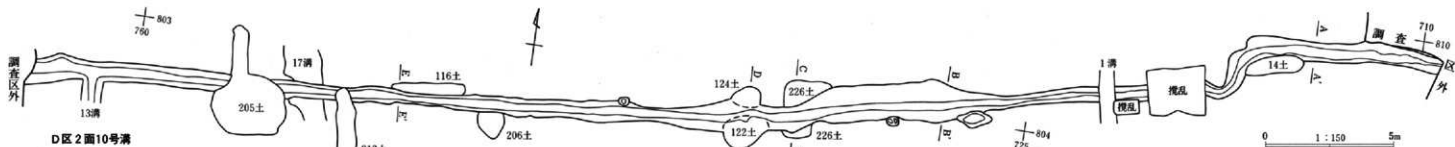
D区2面18号溝

1. 灰褐色土。黒褐色土粒をやや多量含む。
2. 灰褐色土。黄色砂質土粒をやや多量含む。
3. 灰褐色土。砂質。4層土粒を少量含む。
4. 暗黄褐色土。砂質。3層のブロックを少量含む。
5. 灰褐色土。砂質。径1cm程の礫を微量含む。



D区2面23・24号溝

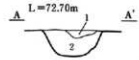
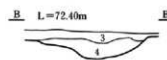
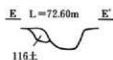




D区 2面 10号溝

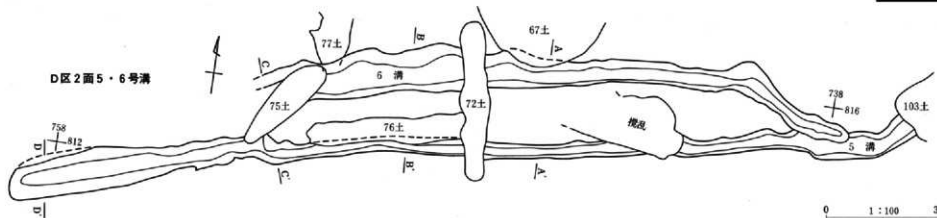
D区 2面 10号溝

1. 暗灰色土。鉄分凝集粒を少量含む。
2. 黒褐色土。粘質土ブロック・砂礫等混入物を多く含む。
3. 暗灰色砂。溝埋没土の上層。
4. 暗灰色土。褐色砂粒をやや多量含む。



0 1:50 1m

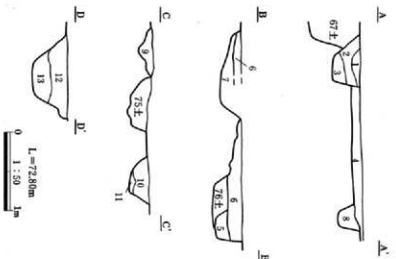
D区 2面 5・6号溝



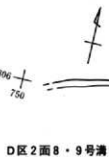
D区 2面 5・6号溝

1. 暗褐色土。砂粒を多量含む。
2. 暗褐色土。径5cm以下の礫を少量含む。
3. 鈍い黄褐色土。鉄分凝集粒をやや多量含む。
4. 暗褐色土。径1cm程度の礫・砂粒を少量含む。埋没。
5. 暗褐色土。シルト質。砂粒を少量含む。5号溝埋没土。
6. 暗褐色土。黄色砂質土粒を少量含む。埋没か。
7. 暗褐色土。黄色・灰色砂粒をやや多量含む。6号溝埋没土。
8. 暗灰色土。鉄分凝集粒を少量含む。
9. 暗褐色土。径1cm程度の礫を少量。黄褐色砂質土粒を微量含む。
10. 暗褐色土。砂質。黄色砂質土粒を少量含む。
11. 暗灰色土。砂質。褐色砂粒を少量含む。
12. 暗褐色土。径1cm程度の礫をやや多量。炭粒を微量含む。
13. 灰褐色土。しまりが強い。径2cm程度の礫を微量含む。

0 1:100 3m



0 1:50 1m

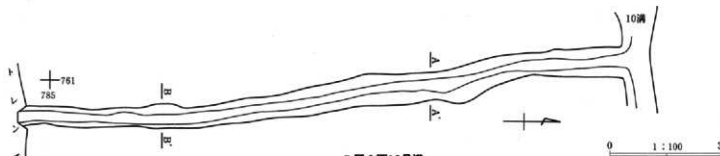
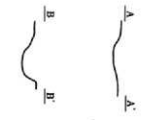


D区 2面 8・9号溝

D区 2面 8・9号溝

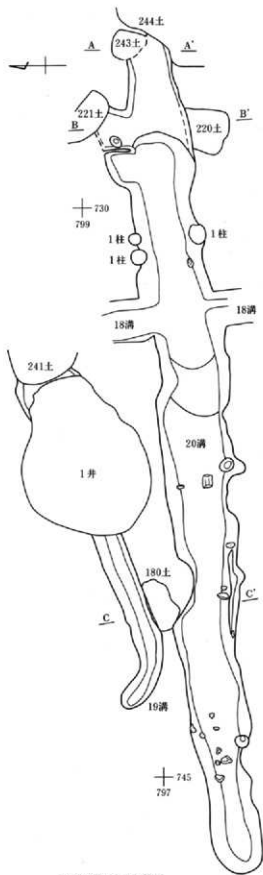
1. 暗灰色土。しまりが強い。褐色・黄色砂粒を少量含む。
2. 暗灰色土。褐色砂粒を少量含む。
3. 暗褐色土。黄色砂質土粒を少量含む。
4. 暗褐色土。黄色砂質土粒をやや多量含む。
5. 暗褐色土。しまりが強い。黄色砂質土粒・灰色砂粒を少量含む。

0 1:50 1m

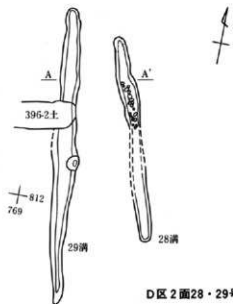


D区 2面 13号溝

0 1:100 3m



D区 2面19・20号溝

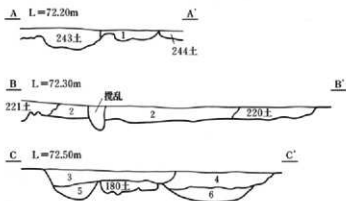


D区 2面28・29号溝



D区 2面28・29号溝

1. 褐灰色土。白色土粒をやや多量、黄色土ブロックを少量含む。
2. 褐灰色土。白色土粒をやや多量、黄色土ブロックを少量、炭粒を微量含む。
3. 褐灰色土。砂質。白色土粒を微量含む。

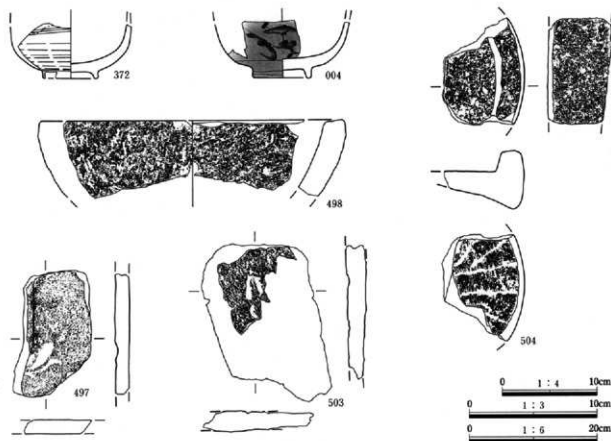


D区 2面19・20号溝

1. 暗褐色砂。
2. 褐灰色土。褐色・灰色砂粒を均一に少量含む。
3. 灰褐色土。しまりが強い。白色土粒を少量含む。攪乱。
4. 灰褐色土。しまりが強い。攪乱。
5. 灰褐色土。白色土粒を少量、径3cm程の礫を微量含む。19号溝埋没土。
6. 黒褐色土。白色土粒を少量含む。しまりがやや弱い。20号溝埋没土。



上増田島遺跡C・D区第2面



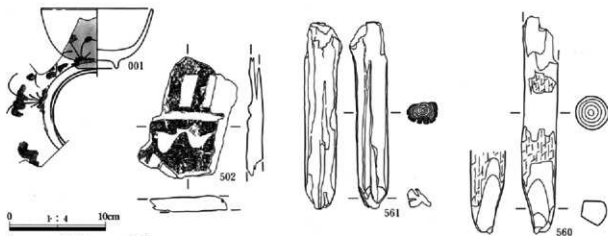
D区2面10号溝出土遺物

D区2面10号溝遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴		残存状態 備考
004	陶器 碗	埋没土・D 区78土埋没 土	口径 - 底径 4.3 器高 4.5+	肥前。外面東屋山水文。		体部下位以下残。
372	陶器 腰輪陶	埋没土・C 区15土埋没 土	口径 - 底径 4.3 器高 4.2+	瀬戸・美濃。口縁部外面下位に螺旋状凹線を巡らす。高台内から凹縁まで鉄輪を、内面から凹縁まで灰輪を施す。		高台端部を一部欠いて体部下位以下残。
496	石製品 鉢	埋没土	口径(31.2) 器高 8.0+ 重量 357.6 粗粒輝石安山岩	体部内外面は斜め方向の平行な調整痕が残る。口縁部上面は平滑。体部内面は使用によりやや平滑化。		口縁～体部上半1/6残。
497	石製品 板碑	埋没土	長さ 134+ 幅 8.2+ 厚さ 1.4 重量 293.8 緑色片岩	主尊は欠損し、蓮座の一部とその上位に「サ」(勢至菩薩)が残る。阿弥陀三尊種子。浅い寒研影を残す。		破片。 14世紀中頃か。
503	石製品 板碑	埋没土	長さ 17.9 幅 11.3 厚さ 2.0 重量 606.4 緑色片岩	紀年銘の一部「月日」の文字が残る。		碑面中央部破片。
504	石製品 粉ひき臼 上 白	埋没土	上面径 約33 高さ 9.2 上縁 幅 2.8 阿高き 3.1 含み 3.3 重量 1586.6 粗粒輝石安山岩	器表はやや粗い仕上げ。底面は使用により摩滅するものの6分割のすり目が残る。やや片減りする。		1/6残。



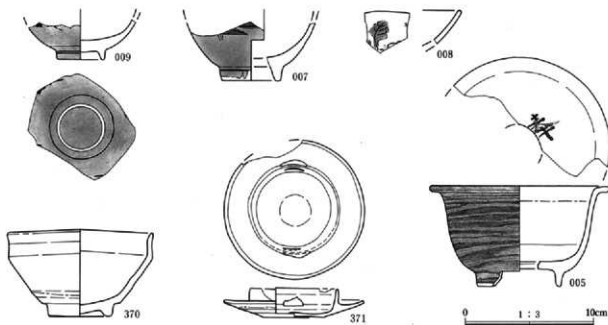
D区2面6号溝出土遺物



D区2面6号溝出土遺物

D区2面6号溝遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
001	磁器 碗	埋没土	口径 (8.7) 底径 3.2 器高 4.7	肥前。外面に花卉文を施す。	口縁～体部上手 1/2欠。
002	陶器 香炉	埋没土	口径 (12.4) 底径 — 器高 5.2+	瀬戸・美濃。口縁部内面から体部外面下端に船輪を施す。外面に螺旋状凹線を施す。口縁端部内傾する。	底部を欠いて1/4残。
003	軟質陶器 すり鉢	埋没土・D 区5溝・76 土埋没土	口径 — 底径 — 器高 6.6+	内面が使用により摩滅。	体部下位破片。
502	石製品 板碑	埋没土	長さ 12.7 幅 9.1 厚さ 1.8 重量 231.8 緑色片岩	大型板碑の主尊蓮座の蓮実部。深くしっかりした葉研り。周囲は種子の一部と思われるが不明。	破片。 14世紀初頭頃か。
560	木製品 杖?	埋没土	長さ 22.9+ 径 約3.8 樹種 マツ属椎輪管葉属属	直な幹を利用し、一部に樹皮が残る。一端を刀物で四角錐状に仕上げる。	一端欠。
561	木製品 杖?	埋没土	長さ 19.5 径 2.5～3.6 樹種 ヤシヤブシ葉属	節のある幹を利用。腐食による欠損面以外は全て樹皮が残る。一端に長軸垂直方向の平坦な切断面が一部に残る。もう一端は刀物で四角錐状に仕上げる。	径の1/3欠。

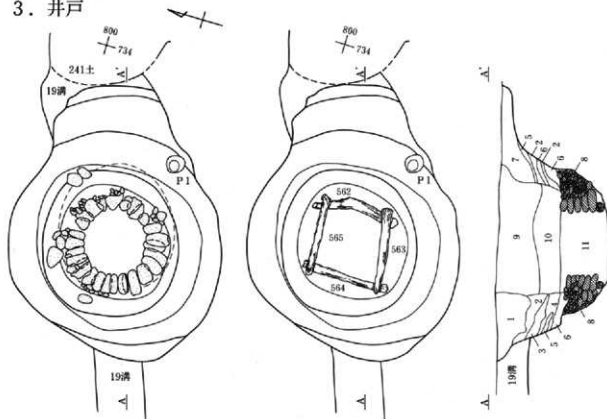


C・D区2面溝出土遺物

C・D区2面溝遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態
006	陶器 榑木鉢	D区9溝埋 没土	口径 (14.1) 底径 6.6 器高 7.9	製作地不詳。器高が低く、水抜き穴の径が大きい。口縁部内面から脚部外面に青釉を施す。胎土は灰器質に焼き締まる。見込みに「奉」の墨書。	3/8残。 幕末～近代か。
007	磁器 碗	D区20溝埋 没土	口径 — 底径 (4.6) 器高 4.6+	肥前。体部はやや内湾し、きつく立ち上がる。外面染め付け。高台端部外面から高台内無軸。	体部下半以下3/8残。 波佐見系。
008	磁器 赤絵皿	D区20溝埋 没土	口径 — 底径 — 器高 2.7+	肥前。内面に黒で雲の輪郭と雲脚を描き、中を緑で埋める。雲の右下に赤による縁書きが認められる。	口縁部破片。
009	磁器 碗	C区1溝埋 没土	口径 — 底径 3.7 器高 3.1+	肥前。一部に染め付けが残るが、文様は不明。	体部下位以下残。 波佐見系。
370	陶器 天目碗	C区1溝埋 没土	口径 (11.4) 底径 5.0 器高 6.9	瀬戸・美濃。体部は直線的に立ち上がる。口縁部は外湾して立ち上がる。釉は全体に薄く、錆色に近い発色。高台内側に盛り上がる。	口縁～体部1/2欠。 17世紀か。
371	陶器 灯明受皿	C区1溝埋 没土	口径 10.8 底径 4.8 器高 2.3	志戸呂。受け部は口縁部より高く延びる。アーチ状流入部を2ヶ所に設ける。内面から口縁部外面に鉄泥を施す。	口縁部の一部、受け部1/4欠。 18世紀後半。

3. 井戸



D区1号井戸検出状況

D区1号井戸

1. 黒褐色土。灰色砂粒・径15cm前後の礫をやや多量含む。攪乱。
2. 褐灰色土。黄色砂質土粒を少量含む。
3. 褐灰色土。黄色砂質土粒をやや多量含む。
4. 褐灰色土。やや粘質。褐色砂粒を微量含む。
5. 鈍い黄褐色土。褐灰色土粒をやや多量含む。

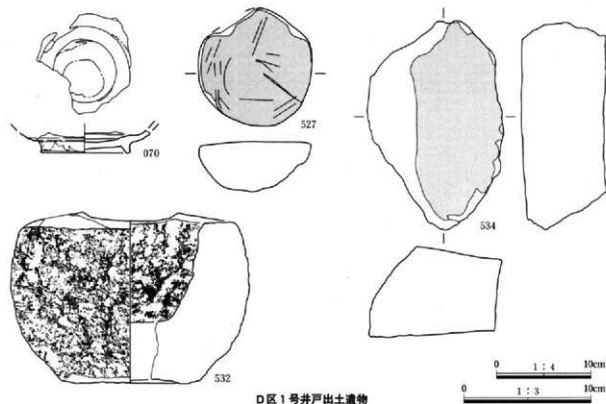
D区1号井戸掘り方

6. 黄色砂質土。
7. 黒褐色土。黄色砂質土粒をやや多量含む。
8. 径10cm前後の礫を主とし、暗褐色粘質土粒・褐色砂粒を充填。
9. 褐灰色土。粘質。褐色砂粒を少量含む。
10. 褐灰色土。15cm前後の礫を多量含む。
11. 黒褐色土。径2mm程度の礫を少量含む。

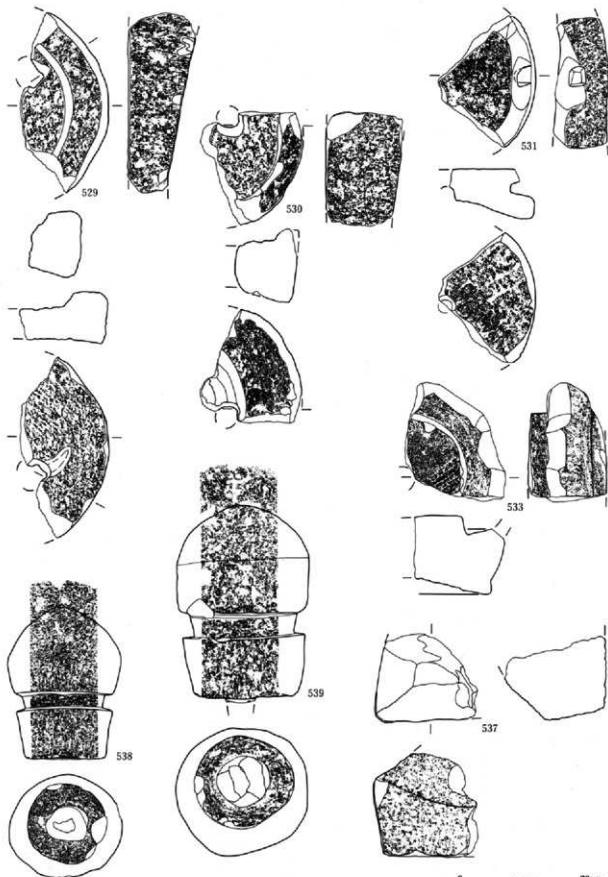
D区1号井戸(PL.33-34-64-65)

位置 795・800-730・735 重複 19号溝→1号井戸
 規模 磔残存部径 約1.6m×深さ0.76m 掘り方4.49×3.35×1.75m 構造 平坦な底面から掘り方壁面へ移行した位置に、基礎となる木製井桁を方形に組む。この上に径20~30cm程の河床礫を残存部で5~6段小口積みして井筒とする。井桁直上は井桁に合わせて平面方形に積み、隅部の礫のみ平積みにしておよそ45°の角度をもたせる。2段目から隅部の礫を徐々に持ち送り、5段目では平面円形となる。掘り方南東上端付近のP1は、径32×28cm、掘り方上端からの深さ50cm程の規模を有する。埋没土の堆積状況が不明なため、遺構に伴うものか判然としないが、何らかの上屋構造に関係する可能性がある。
 掘り方 上端平面は不整形円形で東側に70cmほど張り出す。壁面は底面からやや内湾して立ち上がり、礫の裏込めと土の裏込めの境付近で狭い中段をもつ。中段より上は比較的直に立ち上がる。裏込めは井筒残存部まで径5cm前後の河床礫を主体とし、これより上では土を主体とする。特にセクションの東側で

褐灰色土と黄色砂質土が互層をなす。東張り出し部は黒褐色土で埋め戻し、形状を整える。埋没土 人為的に埋め戻されている。中層(10層)に多くの礫を含み、上層(9層)は粘度がある。遺物 瀬戸・美濃陶器皿、粉ひき白、茶白、15世紀頃の五輪塔・宝篋印塔などのほか、図示していないが陶器碗・すり鉢、用途不明の軽石・粗粒輝石安山岩加工品若しくは加工剥片などが出土した。用途不明加工品と石塔の石材は合致する。陶磁器が少なく、石製品が多い。
 所見 出土遺物より中世から近世のものと思われるが、遺物に陶磁器が少なく、また出土状況が不明なため詳細な時期が押さえられない。確認面まで裏込めがなされていることから、本来は旧地表まで円筒状の井筒が存在し、上部を壊した後に埋め戻したことは確実である。残存部上端で裏込めの材が変わることから、壊した部分は木材など礫以外の材質を用いていた可能性がある。土による裏込めの内壁面に、礫の抜き取り痕はない。これは井筒上部が礫ではなかったか、内壁部分まで壊されたことが理由として考えられる。

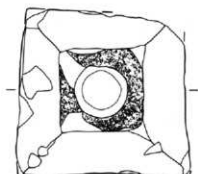
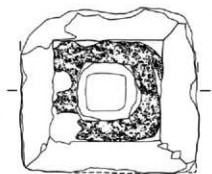


D区1号井戸出土遺物



D区1号井戸出土遺物

0 1:6 20cm

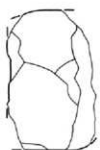


540

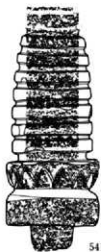
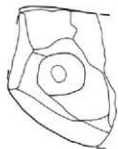
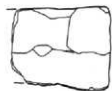
542



528



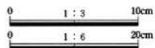
536



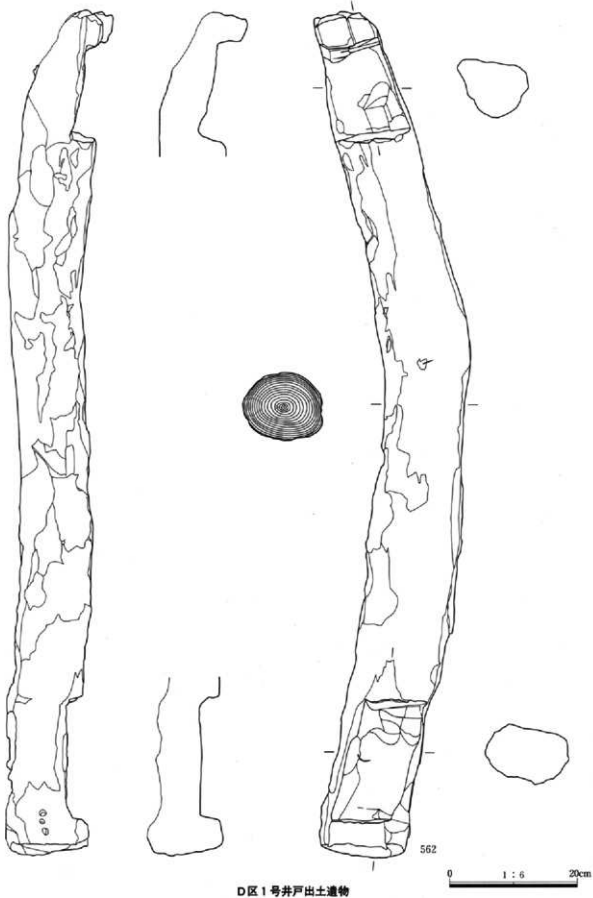
541



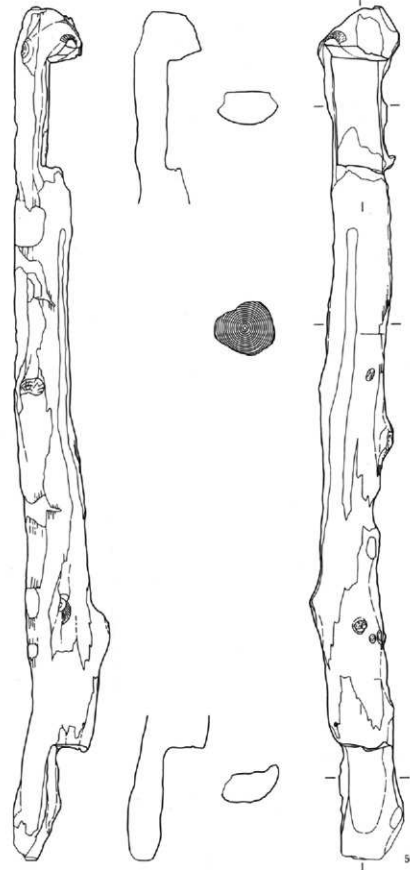
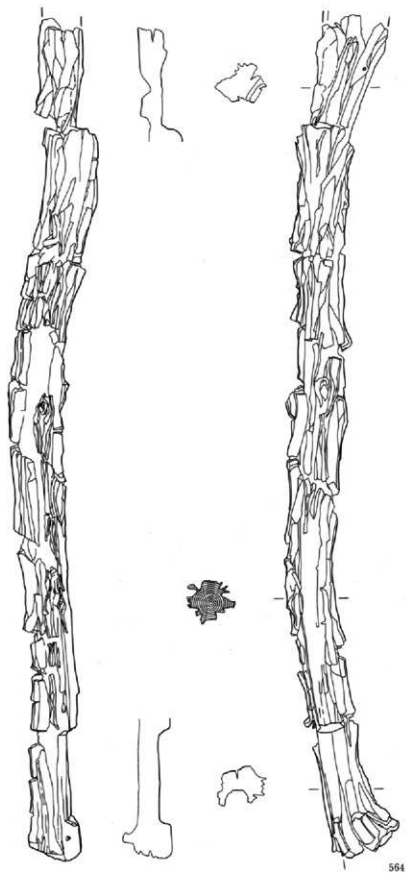
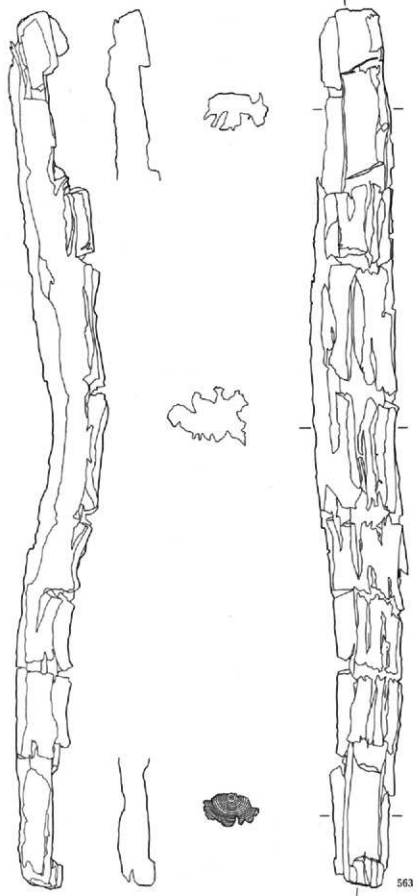
535



D区1号井戸出土遺物



D区1号井戸出土遺物



D区1号井戸遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態
070	陶器 輪軸皿	埋没土	口径 7.1 底径 1.1 器高 1.9+	細戸・美濃。見込み段縁を土手状に高くして軸を掻き取る。内面から台盤に灰輪を施す。見込みの一部と体部内面の一部に黒線輪を施す。	体部下位以下3/4残。
527	石製品 磨石	埋没土	長さ 8.9 幅 9.1 厚さ 3.8 重量 133.8	磨面は極く湾曲して中央が陥り、細い歯痕が残る。磨面以外は自然石のまま使用する。	完成。
528	石製品 磨石	埋没土	長さ 7.6+ 上端径 7.2 下端径 6.1 重量 282.3 ニッ彦軽石	磨面はやや粗く仕上げられる。	塔の駒部破片。
529	石製品 粉ひき臼 上 白	埋没土	上面径 約34 高さ 5.7~10.4 上縁幅 3.8~4.3 同高さ 2.5 含み 2.7 供給口径 約5 重量 2966 粗粒輝石安山岩	磨面は凹凸の目立つ雑な仕上げ。供給口は外方に広がる不正円形で、下面の径は約4.5cm。下面は使用により磨滅して目は観察できないが、浅い溝状のものくぼりが一部に残る。片減りが顕著。	中心を欠いて1/4残。
530	石製品 粉ひき臼 上 白	埋没土	上面径 約30 高さ 10.5~11.6 上縁幅 3.1 同高さ 2.3 含み 1.0 供給口径 4.6 重量 2601 粗粒輝石安山岩	磨面はやや雑な仕上げで、側面の一部に斜方向に平行する工具痕を残す。底面は使用により平滑化して目は観察できないが、最大深約2cmのものくぼりが残る。片減りする。	1/6残。
531	石製品 粉ひき臼 上 白	埋没土	上面径 約28 高さ 7.0~8.5 上縁幅 2.8 含み 0.8 芯穴径 3.2 換手穴幅 3.0 同深さ 2.6 重量 2251 粗粒輝石安山岩	磨面はやや丁寧な仕上げ。上面は平滑化し、上縁穴根もなだらかな曲面となる。一部に斜方向の工具痕を残す。一部が平滑化。目は部分的に僅かに残るが分割数は不明。	上縁を欠いて1/4残。
532	石製品 鉢	埋没土	口径 (22.0) 最大径 (25.2) 底径 (14.8) 器高 17.7 重量 3705 粗粒輝石安山岩	磨面は雑な仕上げ、外面体部は上位付近で内湾する。内面体部は僅かに内湾して立ち上がり、身は浅い。破損後焼熟により赤化。	3/6残。
533	石製品 茶臼 下 白	埋没土	上面径 約18 高さ 12.2 底面径 約28 受皿部幅 4.6+ 挟り 2.2 重量 2863 粗粒輝石安山岩	上面への立ち上がり部と受皿部は丁寧に仕上げる。他はやや雑な仕上げで、一部に斜方向の工具痕を残す。上面は使用により平滑化し、一部に残り跡状の目を残すが分割数は不明。	受皿端部を欠いて1/4残。
534	石製品 砥石	埋没土	長さ 16.2 幅 10.7 高さ 7.0 重量 1787 粗粒輝石安山岩	1面を磨面とし、据え置きで使用。磨面は僅かに湾曲する。	完成。
535	石製品 ?	埋没土	長さ 15.4+ 幅 11.5+ 高さ 14.5 上面高さ 6.0 重量 1868 ニッ彦軽石	外面は平坦で直方体状を呈する。内面はやや外傾して立ち上がる。磨面一部に磨痕が残る。内面は焼熟で炭化着。	破片。 No543に似る。
536	石製品	埋没土	長さ 22.1 幅 16.8+ 厚さ 13.7+ 重量 3876 ニッ彦軽石	1面のみ平坦で、他は湾曲した面で構成される。破片に半球状の窪みをもつ。	破片。
537	石製品 ?	埋没土	長さ 14.8+ 幅 15.7+ 高さ 16.3+ 重量 3202 粗粒輝石安山岩	磨面はやや丁寧な仕上げで、一部に斜方向に平行する磨痕が残る。五輪等火輪に似るが方輪形部以下が高い。	破片。
538	石製品 五輪等 空風輪	埋没土	長さ 24.0+ 最大径 17.8 底面径 12.2 重量 6382 粗粒輝石安山岩	磨面は磨いて丁寧に仕上げるが、一部に細い筋状の工具痕が残る。空輪下半以下は直線的に外傾する。文字は確認できないが、空輪側面が一部割離する。	宝珠先端・駒欠。
539	石製品 五輪等 空風輪	埋没土	長さ 31.1 最大径 20.6 底面径 15.7 軸上端径 8.4 重量 12250 粗粒輝石安山岩	磨面は割離が顕著だが、磨いて丁寧に仕上げる。一部に細い筋状の工具痕を残す。空輪下半以下は直線的に外傾する。空輪下半はやや平坦な面が目立ち、断面不正円形を呈する。両面に文字の可能性のある線状の凹みが観察できる。空輪先端は凹凸が目立ち、宝珠状の面が欠損したか。	駒欠。
540	石製品 五輪等 火輪	埋没土	上面幅 16.0~17.2 最大幅 27.3 底面幅 20.0~22.2 高さ 17.0 駒孔幅 約9 同深さ 5.7 重量 9190 ニッ彦軽石	磨面は丁寧に仕上げるが風化している。最大幅に比して高さ上面幅のある器形。駒孔は四角柱状を呈する。	一部欠。
541	石製品 宝前印塔	埋没土	長さ 34.3 最大径 14.3 軸上端径 6.7 重量 6764 粗粒輝石安山岩	磨面は磨いて丁寧に仕上げるが、風化している。	宝珠・磨花部、軸下端欠。
542	石製品 五輪等 火輪	埋没土	上面幅 13.1 最大幅 27.0 底面幅 24.1 高さ 16.0 駒穴径 8.3 同深さ 5.8~6.9 重量 11440 粗粒輝石安山岩	磨面は磨いて丁寧に仕上げるが、風化している。下位の外反面は斜方向の工具痕が残る。側面の屈曲部は平坦・側面とも四隅に向かって湾曲して圓く。	一部欠。
562	木製品 井戸杵	底面直上	長さ 136.8 幅 15.1 厚さ 12.9 樹種 コナラ節	樹皮のついた材の両端を切断し、端部に2ヶ所切欠きを設けて仕口とする。磨と思われる加工痕が残る。	ほぼ完成。
563	木製品 井戸杵	底面直上	長さ 138.3 幅 13.2 厚さ 10.5 樹種 コナラ節	樹皮のついた材の両端を切断し、端部に2ヶ所切欠きを設けて仕口とする。乾燥により収縮し、樹皮が捲ける。	ほぼ完成。
564	木製品 井戸杵	底面直上	長さ 134.7+ 幅 8.1 厚さ 7.8 樹種 コナラ節	樹皮のついた材の両端を切断し、端部に2ヶ所切欠きを設けて仕口とする。乾燥により収縮し、樹皮が捲ける。	一部欠。
565	木製品 井戸杵	底面直上	長さ 135.5+ 幅 13.8 厚さ 13.2 樹種 コナラ節	樹皮のついた材の両端を切断し、端部に2ヶ所切欠きを設けて仕口とする。	一部欠。

4. 土坑

全部で266基の土坑を検出した。C区、D区7・8号溝間及び780ライン以西は分布密度が低い。形状は様々であるが、溝状または楕円形状のものは東西または南北に主軸をそろえる傾向がある。遺物の出土状況や埋設土の堆積状況が不明なものも多く、遺構の時期は判然としない。遺物は古代から近現代までのうち、特に18世紀代に集中する。

C区4号土坑(遺構P.137 PL.35)

位置 795・800-710 **重複** なし。 **形状** 溝状の落ち込みが半円に巡る。 **規模** 長さ約3.0m 幅0.45-0.75m 深さ0.18m **埋設土** 暗褐色砂質土を主体とする。 **遺物** 出土しなかった。 **所見** 遺構の半分以上が調査区外にあると思われる。土坑として調査したが、溝状の落ち込みに囲まれた部分には何ら遺物が見られず、溝である可能性がある。北側断面の延長上にはA区1号溝が位置し、同一の溝であれば北西コーナー部分と考えることもできるが、規模が異なる。

C区7号土坑(遺構P.138 遺物P.174 PL.35-36-71)

位置 810・815-720・725 **重複** C区1号溝、7号土坑→1面1号柱列2号ピット、確認面レベルでC区8号土坑と接する。 **形状** 平面不整形円形で、平底から壁面が直に立ち上がる。 **規模** 1.73×1.48×0.56m **埋設土** 上層(1・2層)は暗灰黄色砂質土、下層(4層)は黒褐色砂質土を主体とし、下層上面に河床礫が集中する。 **遺物** 磁器碗などが出土した。 **所見** 河床礫は人為に廃棄されたものである。底面からの出土ではないことから埋設過程で二次的に利用したものと考えられる。隣接する8号土坑と上層の土が異なることから、時期差がある可能性がある。他の遺構の状況と重複する2号ピットから、中世～近世のものであろう。

C区8号土坑(遺構P.138 遺物P.177 PL.36-73)

位置 810・815-725 **重複** 8号土坑→1面1号柱列2号ピット、確認面レベルでC区7号土坑と接する。 **形状** 平面円形で、平底から壁面は直に立ち上がる。底面外縁が深さ5cm程の溝状に落ち込む。 **規模** 1.20×1.08×0.31m **埋設土** 上層は粘度のある暗褐色土、下層は黒褐色砂質土を主体とし、下層上面に河床礫が集中する。 **遺物** 図示していないが磁器皿、肥前陶胎染付碗、在地系焙烙、煙管のほか近現代瓦などが出土した。瀬戸・美濃陶器鉢はD区78号土坑D49と接合する。 **所見** 河床礫は人為に廃棄されたものである。底面からの出土ではないことから、埋設過程で二次的に利用したと考えられる。底面外縁の落ち込みは桶等を据えるための造作と思われる。隣接する7号土坑と上層の土が異なることから、時期差がある可能性がある。遺構外の南に並ぶ河床礫の性格は不明であり、本遺構に伴わない可能性もある。他の遺構の状況と重複する2号ピットから、中世～近世のものであろう。

C区14号土坑(遺構P.138 遺物P.162 PL.36-65)

位置 805-710・715 **重複** D区10号溝→14号土坑 **形状** 平面楕円形で、底面から壁面へ湾曲しながら立ち上がる。 **規模** 2.34×0.69×0.33m **埋設土** 河床礫を多量に含む人為堆積。地山由来と思われる黄褐色土と混合しており、礫のみが密集している状況ではない。 **遺物** 肥前陶器碗、瀬戸・美濃陶器皿、粉ひき白などが出土した。 **所見** 堆積土が分層できず、初めから礫を処分するための土坑として掘削されたものであろう。出土遺物も一括廃棄と考えられる。また、遺物の時期が江戸時代に集中し、近現代のものを含まないことから、本遺構も江戸時代のものである可能性が高い。

D区67号土坑(遺構P.140 遺物P.173-174-176 PL.37-71-72)

位置 815-740・745 **重複** 7号溝→67号土坑→

6号溝 形状 平面円形で、平坦な底部から壁が直に立ち上がる。規模 径3.51×0.79m 埋没土 上層(1層)に多量の河床礫を含む。遺物 中世常滑陶器甕、在地系土器皿、窪み石のほか、図示していないが須恵器甕などが出土した。所見 セクションより、自然堆積の2・3層を掘り返して1層の礫を廃棄したと考えられる。

D区78号土坑(遺構P.142 遺物P.163~166 PL.32・38・65~69)

位置 815-735 重複 91号土坑→78号土坑 形状 平面円形で平坦な底面から壁が直に立ち上がる。規模 径3.12×0.70m 埋没土 砂質土を主体とする。底面付近の土層堆積が不明で、3層が2層の下位になだらかに堆積する可能性もある。遺物 多くの遺物が出土し、D区10号溝、C区8号土坑、D区5号溝、D区1面28号土坑、D区207号土坑と接合する。全体的に18世紀前半から後半が主体である。049は17世紀末頃か、034~036・057は18世紀前半~中頃、021~023は18世紀前半、025は18世紀後半頃と思われる。また、図示していないがD区10号溝と接合する在地系土器鍋が出土した。所見 遺物の出土状況が不明であるが、中世以降のものであろう。

D区103号土坑(遺構P.145 PL.39)

位置 810~820-725~735 重複 101・102号土坑→103号土坑 形状 平面は不定形で、浅い壁面がなだらかに立ち上がる。底面は僅かに湾曲し、部分的にピット状の落ち込みをもつ。規模 8.39×4.36×0.33m 埋没土 灰褐色土を主体とする。遺物 図示していないが101~103号土坑のいずれかから在地系焙烙が出土した。所見 底面形状から複数の土坑よりなることが予想されるが、埋没土の堆積状況が不明なために判断できない。

D区112号土坑(遺構P.144 遺物P.169 PL.69)

位置 790・795-745 重複 なし。形状 平面円形で平坦な底面をもつ。規模 0.61×0.65×0.20m 埋没土 褐色土を主体とし、人為埋没である。遺

物 177~179号土坑のいずれかと接合する磁器徳利、在地系土器釜輪、硯、砥石のほか、図示していないが瀬戸・美濃陶器皿、土器鉢などが出土した。所見 遺物の出土状況が不明だが、遺物量が多いこと及び土層の堆積状況から、一括廃棄されたものと考えられ、江戸時代の遺構である可能性が高い。

D区122号土坑(遺構P.146 遺物P.175-176 PL.39-73)

位置 800-730・735 重複 10号溝→122号土坑 形状 平面楕円形で平坦な底面をもつ。規模 (1.70)×(1.30)×0.21m 埋没土 粘度のある黒褐色土を主体とする。底面付近に河床礫が集中する。遺物 河床礫に混じって五輪塔水輪?、石鉢?が出土した。所見 礫が底面付近にあり、土層が単層であることから、礫を処分する為に掘削された土坑であろう。礫と共に何らかの有機物が廃棄された結果、上記の埋没土になったと考えられる。

D区135号土坑(遺構P.147 遺物P.169-170 PL.39-69・70)

位置 785-740 重複 211号土坑→135号土坑、1・2号掘立柱建物 形状 隅丸長方形 規模 1.24×0.81×0.50m 埋没土 黒褐色土を主体とする。遺物 セットになる在地系土器鉢・蓋2組、在地系土器植木鉢、D区287号土坑と接合する肥前磁器皿のほか、図示していないが在地系焙烙・鍋などが出土した。鉢・蓋は、えな壺として使われたと思われる。所見 セットの鉢・蓋は少なくとも1組が底面直上に据え置かれた状態で出土した。重複する掘立柱建物との関係が考えられる。出土遺物より江戸時代以降のものである可能性が高い。

D区183号土坑(遺構P.149 遺物P.171 PL.40・70)

位置 780・785-755 重複 なし。形状 平面楕円形で、湾曲しながら底面から壁面へと続く。規模 2.91×1.51×0.52m 埋没土 暗褐色土を主体とする。遺物 瀬戸・美濃陶器皿、中世土器皿、軟質陶器内耳鍋などのほか、図示していないがD区20号溝と接合する板碑、在地系焙烙、土師器高杯が出土し

上増田島遺跡C・D区第2面

た。073・074は17世紀のものである。所見 出土遺物及び他の遺構の状況から中世以降のものであろう。

D区241号土坑(遺構 P.152 遺物 P.172 PL.70-71)

位置 795・800-730 重複 18号溝→245号土坑→241号土坑、19溝→241号土坑 形状 平面は不定形で、底面は比較的平坦だが凹凸が目立つ。東側は攪乱により破壊される。規模 4.90×(2.92)×0.42

m 埋没土 上層(2層)は灰褐色土、下層(3層)は粘度のある暗灰色土を主体とする。遺物 1・2層中間付近から軟質陶器すり鉢、粉ひき臼、茶臼、五輪塔空風輪、多数の河床礫などが出土した。南側下層に沿って河床礫が一列に並ぶような状況が認められるが、意図したものか不明である。所見 遺物の出土位置から、埋没過程で短期間の内に廃棄されたことが考えられる。

C・D区2面土坑一覧表

番号	位置	平面形	規模(m)	重複	遺構 区	遺物区	PL.No	備考
C区1	800-715	溝状	2.01×0.43×0.21		P157		35	
C区2	800-715-720	溝状	2.99×0.72×0.21		P157		35	
C区3	815-720	楕円形	1.53×1.25×0.49		P157		35	
C区4	795-800-710	溝状	3.01×0.75×0.18		P157		35	
C区5	795-800-720	溝状	2.30×0.66×0.22		P157		35	
C区6	815-820-720-725	円形	径1.16×0.59	6土→12土	P157	P173	35-71	京・信楽系陶器脚付灯明受皿が出土
C区7	810-815-720-725	円形	1.73×1.48×0.56	1溝、8土	P158	P174	35-36-71	肥前磁器碗、焙烙などが出土
C区8	810-815-725	円形	1.20×1.08×0.31	7土	P158	P177	36-73	磁器皿、肥前陶胎碗、焙烙、煙管、近代瓦などが出土
C区9	815-720-725	楕円形	1.51×1.06×0.46	1溝	P158		36	
C区10	815-725	隅丸長方形	(1.31)×0.83×0.39	11土→10土、12土	P158		36	肥前陶胎碗などが出土
C区11	815-725	?	1.20×0.49×0.24	11土→10土、12土	P158		36	
C区12	815-820-720-725	長方形?	2.96×1.21×0.25	6土→12土、10-11土	P157		36	
C区13	800-720	楕円形	1.72×1.33×0.52	1溝→13土	P158			
C区14	805-710-715	楕円形	2.34×0.69×0.53	10溝→14土	P158	P162	36-65	肥前陶器碗、瀬戸・美濃陶器皿、石臼などが出土
C区15	800-805-710-715	溝状	4.69×1.03×0.19	16土	P158	P174	36-71	肥前磁器皿・陶胎碗などが出土
C区16	795-800-710-715	溝状	7.85×1.03×0.29	15土	P159	P172-174	36-71-72-口絵	天目碗、龍泉窯系青磁碗などが出土
C区18	810-720-725	楕円形	2.27×1.43×0.81		P158			焙烙などが出土
C区20	800-710	楕円形?	1.31×0.81×0.21		P159			
C区B	810-725	円形	(1.17)×(1.06)×0.41		P159			底面より桶底部木製品出土
D区60	825-755	不整形	1.07×0.56×0.15	61土	P159		37	

4. 土坑

D区61	820-825-750-755	溝状	3.40×0.83×0.35	60・62土	P139		37	
D区62	820-825-750-755	L字状	3.41×2.18×0.47	62土→63土、61土	P139		37	西辺に河津礫が埋まる
D区63	820-825-750	隅丸長方形	1.29×(0.82)×0.34	62土→63土	P139			
D区64	820-750	不整形	1.10×0.98×0.36		P140	P173	37	中世土器皿が出土
D区65	815-820-750-755	不整形	5.50×3.23×0.42		P139		37	複数の土坑より成るか
D区66	815-820-740-745	溝状	5.04×1.32×0.56	88土	P140	P174-175	37-39・71-73	東端に方形の中段をもつが遺構に伴うか不明、古瀬戸甕が出土
D区67	815-740-745	円形	径約3.51×0.79	7溝→67土→6溝	P140	P173-174-176	37-71・72	底面が平坦、中世常滑窯、土器皿などが出土
D区69	810-815-750-755	不整形	3.64×1.96×0.38		P141		37	複数の土坑より成るか
D区70	805-745	楕円形	1.43×0.83×0.19		P141		37	
D区71	810-745-750	溝状	5.57×1.01×0.21		P141		38	東側が幅広
D区72	810-815-745	溝状	4.19×0.81×0.40	5・6溝→72土、76土	P141	P175	73	陶器すり鉢、砥沢砥石が出土
D区73	815-740	長方形	0.98×0.82×0.15		P141			
D区74	815-740	溝状	2.55×0.54×0.37	83土	P141			
D区75	810-815-750	楕円形	2.85×0.82×0.34	5・6溝→75土	P141			
D区76	810-745-750	溝状	4.19×0.68×0.21	76土→5溝	P142	P174	71	瀬戸・美濃陶器皿が出土
D区77	815-820-750	不整形	5.39×(1.52)×0.30	7溝→77土、6溝	P142	P174	71	
D区78	815-735	円形	径3.12×(0.70)	91土→78土	P142	P163~166	32-38・65-69	底面が平坦、遺物多数
D区79	825-740-745	不整形	1.35×1.16×0.58		P142		38	
D区80	820-740	(長方形)	1.48×1.18×0.21	80土→84土	P143		38	
D区81	820-825-740	楕円形	1.31×0.56×0.16		P143		35	在地系土器皿が出土
D区82	820-735-740	隅丸方形	1.29×1.08×0.20		P143		38	ビットを1基もつ
D区83	815-820-735-740	長方形	6.15×(1.68)×0.58	91土→78・83土、86土→83土、74土	P142	P174	71	南西隅に中段をもつ、在地系土器皿などが出土
D区84	820-740	不整形	1.98×(1.27)×0.25	80土→84土	P143		38	
D区85	820-735-740	隅丸長方形	(3.5)×(1.9)×0.86	86土→85土	P143		38	
D区86	815-820-740	不整形	3.44×1.72×0.82	86土→83・85土	P143	P174	38-71	Cラインの張り出し部は遺構に伴うか不明、中世常滑窯？が出土
D区87	820-735	隅丸方形	1.50×0.96×0.26		P143			ビットを2基もつ
D区88	815-825-745	長楕円形	7.43×1.76×0.61	66・94・95土	P140		39	
D区89	805-730	楕円形	1.58×1.00×0.33		P144		41	北に中段、2基のビットは遺構に伴うか不明
D区90	820-745	隅丸長方形	1.42×(1.01)×0.42	90土→95土、96土	P140		39	

上増田島遺跡C・D区第2面

DEK91	815-735	長方形	3.89×1.10×0.58	91土→78-83土	P142			83土と同深
DEK92	805-810-750	長方形	1.80×1.10×0.30		P144			西辺に中段
DEK93	805-810-745	長方形	1.14×0.47×0.25		P143			
DEK94	820-745	不整形	?	94土→95土、88土	P140		39	
DEK95	830-745-750	不整形	(3.08)×2.04×0.32	90-94土→95土、88土	P140		39	
DEK96	820-745-750	隅丸方形	(1.37)×1.18×?	90-95土	P140		39	
DEK97	810-730	楕円形	1.50×1.24×0.20		P144			
DEK99	810-725	不整形	2.12×1.14×0.30		P144			東側円形部分は同一遺構か不明
DEK101	815-730	長方形	4.52×1.40×0.67	101・102土→103土	P145		39	半円形で深さ約45cm 中段3ヶ所
DEK102	815-730	長方形	3.65×0.50×0.69	101・102土→103土	P145		39	
DEK103	810-820-725-735	不整形	8.08×(5.50)×0.19	101・102土→103土、5溝	P145		39	複数の土坑より成るか
DEK104	805-735	不整形	1.68×1.14×0.27		P144			
DEK105	805-730	円形	1.22×(1.20)×0.22		P144			
DEK110	800-805-750	楕円形	2.24×0.70×0.16		P144			
DEK111	790-750	円形	0.84×0.81×0.15		P144	P173	72	114・150・184土と接合する内耳溝、土器釜輪などが出土
DEK112	790-795-745	円形	0.65×0.61×0.22		P144	P169	69	磁器壺利、硯、砥石などが出土
DEK113	795-750-755	隅丸長方形	3.54×0.97×0.49	17溝、205土	P144			
DEK114	795-745	円形?	0.78×0.50×0.36	127・218土	P145	P173	39-72	111・150・184土と接合する内耳溝が出土
DEK115	800-745-750	長方形	1.82×1.49×0.17	399土→115土、116土	P146	P177	73	尾呂網、鉄製釜輪などが出土
DEK116	800-745	溝状	2.93×0.49×0.20	116土→10溝、115土	P146			
DEK119	800-740-745	楕円形	1.68×0.56×0.14		P146			
DEK121	790-740	円形	径0.53×0.21	1・2掘立	P103			
DEK122	800-730-735	楕円形	(1.70)×(1.30)×0.21	10溝→122土	P146	P175・176	39-73	多量の河床礫などが出土
DEK123	790-740	楕円形	0.68×0.54×0.12	1・2掘立	P105			
DEK124	800-735	楕円形	1.19×(0.84)×0.16	10溝→124土	P146			
DEK125	805-740	不整形円形	1.00×0.91×0.19		P146			
DEK126	805-740	楕円形	0.82×0.56×0.18		P146			
DEK127	795-740-750	溝状	5.76×0.95×0.36	127土→129土、114土	P146			焙烙などが出土
DEK128	795-745-750	隅丸長方形	2.63×1.01×0.22		P146			

4. 土坑

D区129	795-740-745	不整形	3.26×1.21×0.25	127土→129土	P146			
D区132	785-790-735-740	隅丸長方形	3.21×(1.40)×0.33	1・2掘立、133土→132土	P147			
D区133	785-740	隅丸長方形	2.29×1.44×0.18	1・2掘立、133土→132土	P147			
D区138	785-740	隅丸長方形	1.23×0.82×0.49	1・2掘立、211土→135土	P147	P169-170	39-69-70	土器鉢・壺などが出土
D区136	785-730	楕円形	0.78×0.56×0.11		P147			
D区143	785-735	不整形	0.94×0.81×0.13	1・2掘立	P103			
D区144	790-735	楕円形	1.50×0.60×0.18	1・2掘立	P105			
D区149	790-730	隅丸長方形	2.34×0.84×0.28	151土→150土→149土、1・2掘立、18溝→149土	P103	P177	73	149又は150土から板碑が出土
D区150	790-730-735	隅丸長方形	2.68×1.06×0.36	151土→150土→149土、1・2掘立	P103	P173-177	72-73	111-114・150土と接合する内耳跡が出土
D区151	790-730	?	1.44×0.90×0.24	151土→150土→149土、1・2掘立	P103			
D区153	790-730-735	溝状	3.16×0.66×0.21	1・2掘立	P103			
D区155	790-730-735	溝状	1.94×0.51×0.22	1・2掘立	P103			
D区164	785-730	円形	0.33×0.26×0.25	18溝→164土	P147			
D区165	785-730	円形	(0.54)×(0.46)×0.31	18溝→165土、198土	P147			
D区169	790-750-755	不整形	1.06×0.88×0.39	169土→170土	P148		39	
D区170	790-750	隅丸長方形	0.62×0.48×0.32	169土→170土	P148		39	
D区172	785-755	隅丸長方形	2.21×1.17×0.38		P148			
D区173	795-755	不整形	3.67×1.49×0.66	182土	P148	P173	39-72	東辺に深さ不明のピットをもつ、中世瓦が出土
D区175	795-750-755	隅丸長方形	(3.42)×0.68×0.24	175土→176土、182土	P148			
D区176	795-750	楕円形	4.14×1.68×0.54	175土→176土→177土	P148			西・南に中段をもつ
D区177	790-795-750	不整形	(2.45)×2.32×0.47	176・179土→177土→178土	P148	P174-176	40-71-73	177-179土で瀬戸・美濃陶器などが出土
D区178	790-750	円形	径(0.65)×0.40	177土→178土	P148	P174	71	177-179土で瀬戸・美濃陶器などが出土
D区179	790-745-750	溝状	3.56×0.74×0.73	179土→177土	P148	P174	71	177-179土で瀬戸・美濃陶器などが出土
D区180	795-735-740	楕円形	(1.41)×(0.75)×0.32	19溝、20溝	P149			
D区181	790-745	隅丸長方形	2.86×1.29	1・2掘立、229土	P103			
D区182	795-750-755	隅丸長方形 ?	1.50×(0.89)×0.21	173土、175土	P148	P175	40-72	
D区183	780-785-755	楕円形	2.91×1.51×0.52		P149	P171	40-70	中世土器皿、瀬戸・美濃陶器などが出土
D区184	795-740	不整形	2.32×1.65×0.34		P149	P173	72	111-114・150土と接合する内耳跡が出土
D区185	790-725	溝状	3.55×0.60×0.25	186土→185土→193土	P149		40	
D区186	790-725	溝状	3.46×0.67×0.25	187土→186土→185・193土	P149		40	

上増田高遺跡C・D区第2面

D区187	790-725	楕円形	1.46×0.60×0.41	187土→186土	P 149		40	
D区188	790-725	溝状	3.47×0.79×0.24		P 149		40	南側に中成をもつ、西辺の土坑状の落ち込みは遺構に伴うか不明
D区192	790-725	円形	φ0.35×0.42		P 149		40	
D区193	785-790-725	不整形	2.64×1.54×0.40	185-186-194土→193土→195土	P 149		40	
D区194	790-725	?	0.47×0.47×0.32	194土→193土	P 149		40	
D区195	785-790-725	楕円形	(0.86)×0.57×0.26	183土→195土	P 149		40	
D区196	785-735	隅丸方形?	1.32×0.73×0.49		P 150			2基のピットをもつ
D区197	785-790-725-730	隅丸台形	1.29×(0.90)×0.10	197土→198土、1柱列、400土	P 150			
D区198	785-725-730	不整形	(2.44)×(1.01)×0.22	188-197土-199土→198土、1柱列、165-204-400土	P 150			
D区199	785-725-730	不整形	2.10×1.10×0.24	199土→198-203土、18溝	P 150			
D区200	810-785-790	楕円形	0.83×(0.64)×0.25	201土→200土	P 150	P 172	42-71	肥前磁器碗などが出土
D区201	810-785	隅丸長方形?	1.06×0.76×0.33	201土→200土	P 150	P 172	42-71	肥前磁器碗などが出土
D区202	810-815-790-795	楕円形	(3.64)×(1.56)×0.46		P 150	P 177	42-73	平坦な底面、焙烙、刀子などが出土
D区203	785-725-730	楕円形?	1.50×0.30×0.53	199土→203土	P 150			
D区204	785-730	円形	(0.76)×(0.56)×0.34	18溝→204土、198土	P 150			
D区205	785-800-750-735	円形	3.01×2.26×0.32	10溝、113土	P 144			北側に取り付く溝状の落ち込みは遺構に伴うか不明
D区206	800-745	楕円形?	1.06×1.04×0.11	10溝→206土	P 150			
D区207	785-790-755	隅丸長方形	(2.90)×1.57×0.54		P 150	P 173-175-176	72	中世瓦、石製すり鉢などが出土
D区208	785-800-745	円形	1.38×1.14×0.24		P 150	P 174	71	208又は216土から瀬戸・美濃磁器碗・瓶などが出土
D区209	785-790-745	楕円形	4.18×2.19×0.51	210土→209土、1・2掘立	P 147	P 173	40-72	平坦な底面、209又は210土から中世瓦、焙烙などが出土
D区210	785-740-750	隅丸長方形	6.32×1.02×0.55	210土→209土	P 147	P 173	72	209又は210土から中世瓦が出土
D区211	785-740	?	1.59×1.19×0.44	1掘立、211土→135土	P 147			
D区213	795-800-750	溝状	2.84×0.80×0.46	10溝→213土	P 151	P 173	72	土器類が出土
D区216	785-790-750	不整形	2.26×1.46×0.46		P 151			
D区217	795-740-745	溝状	2.26×0.86×0.44	218土→217土	P 145			在地系土器類などが出土
D区218	795-740-745	溝状	4.94×0.72×0.38	218土→217土、114土	P 145	P 174	71	208又は218土から瀬戸・美濃磁器碗・瓶が出土
D区220	795-725	隅丸方形?	1.24×1.16×0.20	220土→20溝	P 151			
D区221	795-725	楕円形	1.42×(0.74)×0.26	20溝→223土→221土	P 151			

4. 土坑

D区223	795-725	隅丸長方形	1.36×0.66×0.16	223土→221・224土	P151			
D区224	795-800-725	隅丸長方形	(1.20)×0.89×0.25	223土→224土、22溝	P151			
D区226	800-730	隅丸台形	(2.35)×(1.82)×0.34	226土→10溝	P151			焙漆などが出土
D区227	805-730-735	円形	径0.48×0.18		P151	40		中段をもつ
D区228	800-760	隅丸方形?	1.46×1.64×0.23		P151			
D区229	790-745-750	長方形	3.48×1.01×0.24	2掘立、181土	P152			平坦な底面
D区231	800-745	円形	径0.67×0.16		P151	40		
D区232	800-745	楕円形	0.64×0.42×0.26		P152			中段をもつ
D区233	800-740	楕円形	1.14×(0.88)×0.48	234土→233土	P152			
D区234	800-740	隅丸方形	1.27×1.14×0.28	234土→233土	P152	41		
D区235	800-735	円形	0.72×0.60×0.16		P152	41		
D区236	800-805-735	楕円形	1.06×0.56×0.22	237土→236土	P152			
D区237	800-735	不整形	1.04×0.92×0.09	237土→236土	P152	41		
D区238	800-735	円形	0.53×0.47×0.19		P151	41		
D区239	800-805-730-735	楕円形	1.54×0.51×0.11		P151	40		焙漆などが出土
D区240	800-805-735-740	溝状	3.46×0.94×0.42		P152	40		ビットを1基もつ、焙漆などが出土
D区241	795-800-730	不整形	4.90×(2.92)×0.42	18溝→245土→241土、19溝→241土	P152	P172	70-71	軟質陶器すり鉢、石臼、五輪寺などが出土
D区242	795-725	不整形	0.84×0.72×0.13	242土→243土	P153			
D区243	795-725	円形	0.93×0.81×0.28	20溝・242土→243土	P153			
D区244	795-720-725	不整形	3.74×2.01×0.38	20溝	P153	37		
D区245	795-730	円形	0.92×0.74×0.23	18溝→245土→241土	P152			
D区246	805-730	楕円形	1.76×0.56×0.14		P153	41		
D区247	805-735	楕円形	0.63×0.42×0.13		P153	P172-174	41・71	肥前磁器類・陶胎碗などが出土
D区250	800-735-740	不整形円形	0.81×0.70×0.22		P153	41		
D区260	810-760	楕円形	1.12×0.72×0.10		P153	41		
D区261	810-760	楕円形	1.94×0.86×0.12		P153	41		
D区262	810-760	楕円形	1.80×0.69×0.08		P153	41		
D区263	810-760-765	隅丸方形	2.06×0.96×0.16		P153	43		
D区264	805-810-760	楕円形	1.32×(0.72)×0.16	265土→264土	P153	P175	43・72	尾呂瓶などが出土
D区265	805-810-760	楕円形	1.92×0.70×0.36	265土→264土	P153	P175	43・72	尾呂瓶などが出土

上増田島遺跡C・D区第2面

D区266	805-790-765	楕円形	1.88×0.72×0.22		P154		42	
D区267	805-790	楕円形	1.62×0.48×0.06		P154		42	
D区271	805-755-780	不整形	3.88×(2.42)×0.15	17溝→271土	P154	P174		中国製青磁碗が出土
D区272	805-750-755	不整形	1.66×1.76×0.14	272土→17溝	P154			
D区280	805-775-780	楕円形	1.91×1.13×0.16		P154	P173	42-71	瀬戸・美濃陶器灯明皿が出土
D区281	805-780	不整形	0.84×0.80×0.16		P154		42	肥前磁器碗などが出土
D区282	805-785	楕円形	1.21×0.81×0.14		P154			
D区283	810-775	隅丸長方形	2.54×(1.37)×0.46	283土→284土	P154			北辺に中段をもつ
D区284	805-810-770-775	不整形	2.09×(1.50)×0.38	283土→284土	P154			
D区285	805-770-775	円形	径0.63×0.16		P154			
D区287	810-780-785	長方形	3.10×1.26×0.67		P155	P174-177	43-71-73	平坦な底面、瀬戸・美濃陶器碗などが出土
D区289	796-780	円形	1.55×1.42×0.36		P154		43	底面にピット状の掘り込みをもつ、焙烙などが出土
D区290	790-795-770-775	不整形	5.11×1.52×0.25	299土→290土	P155		43	肥前陶胎碗などが出土
D区291	796-775	円形	1.27×1.19×0.23		P155		43	
D区292	790-770	楕円形	1.24×0.99×0.14		P155		43	
D区293	790-775	不整形	2.62×0.94×0.18		P155			
D区294	790-770	不整形	(0.91)×(0.81)×0.31		P155			
D区296	810-775-780	楕円形?	1.48×0.98×0.72		P155			西端に中段をもつ
D区298	780-775-780	楕円形	3.68×1.67×0.41		P155			
D区299	790-770	隅丸長方形	1.81×(1.31)×0.34	299土→290土	P155		43	
D区300	805-780	円形	0.46×0.52×0.58		P156			焙烙などが出土
D区301	805-775	不整形	1.41×(1.30)×0.48		P156			北東隅にピット状の掘り込みをもつ
D区302	790-775-780	不整形	径0.94×0.16		P156		43	
D区303	785-770-775	?	2.45×1.39×0.46	305土→304土→303土→307土	P156			西側に中段をもつか
D区304	785-770-775	?	2.17×2.02×0.24	305土→304土→303土	P156			
D区305	780-785-775	?	2.17×3.30×0.34	305土→304土→303土、312土	P156			
D区306	785-765-770	不整形	2.99×1.11×0.39	307土→306土	P156			焙烙、在地系土器皿が出土
D区307	785-770	不整形	4.81×1.99×0.51	303土→307土→306土	P156			
D区308	780-785-770	溝状	3.27×0.82×0.60	309土→308土→313土、315-316土	P157	P174	43-71	308又は313土から瀬戸・美濃陶器片口が出土

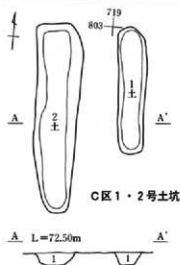
4. 土坑

D区309	780-770-775	溝状	1.97×(0.81)×0.47	309土→308土→313土、315土	P157			
D区310	780-770-775	溝状	2.95×0.72×0.47	311土→310土、312土	P156			
D区311	780-775	溝丸方形?	2.27×1.08×0.12	311土→310土	P156			西端にピット状の落ち込みをもつが遺構に伴うか不明
D区312	780-785-775	溝丸長方形	2.01×1.12×0.22	305-310土	P156			
D区313	780-785-770	溝丸長方形?	3.80×(1.58)×0.33	309土→308・315土→313土、314土	P157	P174	43-71	308又は313土から瀬戸・美濃陶器片が出土
D区314	780-770	溝丸方形?	2.00×0.63×?	313土	P157			
D区315	785-770	?	0.66×0.34×?	315土→313土、309土	P157			
D区316	785-770	?	0.90×0.63×?	308土	P157			
D区325	815-780	円形	(1.90)×1.81×0.34	341土→325土	P157		44	
D区326	830-770-775	不整円形	1.16×1.08×0.25		P157		44	
D区328	810-815-780	不整形	2.52×1.84×0.36		P157	P177	44-74	焙器、金属製注口が出土
D区331	815-775	溝丸長方形	0.97×0.72×0.08	331土→332土	P157		44	
D区332	815-775	?	径0.54×0.31	331土→332土	P157		44	焙器が出土
D区333	825-830-775	楕円形	1.26×1.08×0.13		P157			底面外縁がC字状に落ち込む
D区334	830-775	楕円形	1.46×1.20×0.11		P157			中段をもつ
D区335	830-775	楕円形	2.11×0.95×0.12		P157		44	肥前陶胎磁などが出土
D区336	835-775	不整円形	1.26×1.12×0.24		P158	P173	44-71	京・信楽系陶器灯明皿・灯明受皿が出土
D区337	830-790	円形	0.92×0.77×0.13		P158			
D区339	830-790	楕円形	1.24×0.90×0.15		P158			
D区341	815-820-780	?	1.64×1.58×0.33	341土→325-383土	P157	P177	73	不明鉄製品が出土
D区345	830-835-780	溝丸長方形	0.96×0.59×0.22		P158			
D区346	830-775-780	溝丸長方形	1.08×0.72×0.11		P158		44	
D区347	830-775-780	楕円形	0.95×0.42×0.21		P158		44	
D区348	830-785	円形	0.75×0.64×0.26		P158		44	
D区349	825-790	円形	0.65×0.60×0.20		P158		45	
D区350	825-790	?	0.72×0.60×0.17		P158		45	
D区351	825-790	楕円形	1.09×0.37×0.27		P158		45	
D区352	830-775	楕円形	0.93×0.38×0.20		P158			
D区353	830-775	楕円形	0.74×0.31×0.14		P158			
D区356	820-775-780	溝丸長方形	1.14×0.60×0.15		P158		45	

上増田島遺跡C・D区第2面

D区357	820-765	楕円形	2.14×0.60×0.19		P 158		46	
D区358	825-770-775	楕円形	1.25×0.83×0.46	27溝→358土、361土	P 159		45	
D区359	825-770	隅丸長方形	2.81×1.09×0.72		P 158		45	
D区360	825-775	楕円形	0.77×0.58×0.07	361土→360土	P 159			
D区361	820-825-775-780	溝状	7.20×2.11×0.13	361土→360土、358土	P 159			
D区362	820-825-765	楕円形	2.22×0.79×0.45		P 158		45	
D区363	820-765	隅丸長方形	2.00×1.28×0.54		P 159		45	
D区364	820-765	楕円形	1.24×0.90×0.26		P 159	P 176	45-72	石白が出土
D区365	825-830-795-800	楕円形	3.24×1.64×0.27		P 159			
D区366	825-780	楕円形	0.83×0.57×0.12	27溝	P 159			
D区367	815-770-775	不整形	2.43×1.70×0.17		P 159		45	
D区368	815-770	円形	0.87×0.83×0.15		P 159		46	
D区369	815-775	楕円形	0.78×0.36×0.24		P 159		46	北側に中段をもつ
D区373	825-775	不整形	1.83×1.05×0.22		P 159			
D区374	820-765-770	隅丸長方形？	(2.16)×(1.28)×0.76	375土→374土	P 160		46	
D区375	815-820-770	隅丸長方形？	(3.08)×2.51×0.56	376土→375土→374土	P 160		46	東辺のピット状の落ち込みは遺構に伴うか不明
D区376	820-825-770	隅丸長方形？	4.67×1.74×0.80	376土→375土	P 160		46	東辺のピット状の落ち込みは遺構に伴うか不明
D区377	820-825-770	楕円形	1.54×0.64×0.54		P 160		46	
D区378	820-825-770-775	楕円形	1.69×0.57×0.19		P 160		46	
D区379	835-775	不整形	1.64×1.12×0.26		P 160			西側に中段をもつ
D区382	820-775	楕円形	0.64×0.46×0.17		P 160			
D区383	815-820-780	楕円形	1.06×0.76×0.52	341土→383土	P 157			
D区384	820-775	隅丸長方形	3.21×0.84×0.22		P 160	P 177	46-74	寛永通寶が出土
D区385	810-770-775	円形？	1.69×1.47×0.38	386土	P 161		46	
D区386	810-770	隅丸長方形？	2.12×1.42×0.39	387土→391土→386土→392-2土、385土	P 161		46	
D区387	810-770	長方形？	2.06×0.72×0.30	387土→391土→386-388土、395土	P 161	P 175-177	46-73-74	砥石、不明鉄製品が出土
D区388	810-770	長方形？	1.76×1.09×0.32	387土→391土→388土、390土	P 161		46	瀬戸・美濃陶器捏ね鉢などが出土
D区389	810-770	隅丸長方形？	0.79×0.68×？	389土→396-2土、390-392-1土	P 161	P 177	46-73	土器壺、不明鉄製品が出土
D区390	810-770	長方形？	1.15×1.19×0.30	392-1土→390土、388-389-395土	P 161		46	
D区391	810-770	長方形？	1.95×0.78×0.36	387土→391土→386-388土	P 161		46	
D区392-1	810-815-770	隅丸長方形	1.29×0.73×0.40	392-1土→390土、389土	P 161		46	
D区392-2	810-770-775	隅丸長方形	1.17×0.90×？	386土→392-2土	P 161		46	

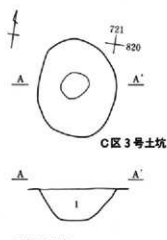
D区395	810-770	楕円形	1.71×0.90×0.42	393土→394土	P160			
D区394	810-770	隅丸長方形	3.28×1.95×0.30	393土→394土	P160			南側中段部分は別の土坑か
D区395	810-770	楕円形	1.77×0.97×0.40	387-390-396-1土	P161			
D区396-1	810-770	?	0.83×0.55×?	395土	P161			
D区396-2	810-765-770	隅丸長方形	2.39×0.70×0.31	299溝-389土→396-2	P161			
D区397	780-780-785	隅丸長方形	2.34×0.61×0.32		P161			
D区398	780-780	隅丸長方形	1.48×0.92×0.41		P161	43		
D区399	800-745-750	溝状	5.43×0.60×0.24	399土→115土	P146			
D区400	785-725-730	楕円形	0.59×0.42×0.42	197土、198土	P161	P173	72	土器品が出土



C区1・2号土坑

C区1・2号土坑

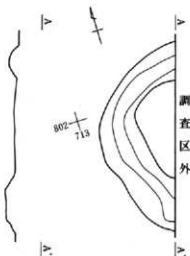
1. 灰オリーブ色土。しまりが強い。砂質。鉄分凝集粒を多量含む。



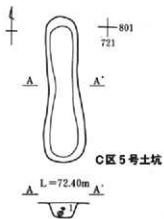
C区3号土坑

C区3号土坑

1. 暗灰黄色土。やや粘質。径2cm程の礫・灰褐色土ブロックを微量含む。



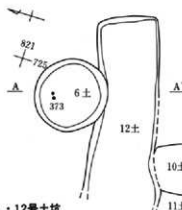
C区4号土坑



C区5号土坑

C区5号土坑

1. 灰オリーブ色土。しまりが強い。砂質。鉄分凝集粒を多量。径2cm程の礫を微量含む。



C区6・12号土坑

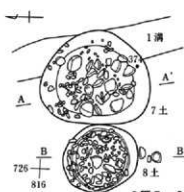
C区6・12号土坑

1. 黒褐色土。やや粘質。径2cm程の礫・黄褐色土粒を微量含む。12号土坑埋没土。
2. 黒褐色土。やや粘質。径2cm程の礫を少量含む。
3. 黄褐色砂質土と1層の混土。
4. 黒褐色土。しまりが強い。黄褐色土粒を少量含む。
5. 黄褐色砂質土と暗褐色粘質土の混土。一部でウミナ状を呈する。2～5層は6号土坑埋没土。

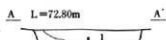


L=72.90m

0 1:60 2m

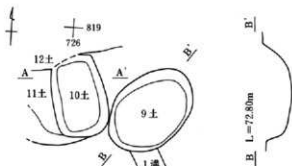


C区7・8号土坑

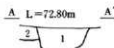


C区7・8号土坑

1. 暗灰黄色土。砂質。黄色砂を均一にやや多量含む。
2. 暗灰黄色土。砂質。黄色砂を均一に、灰色粘質土粒を下層に少量含む。
3. 暗褐色土。やや粘質。径3cm程度の礫を上層に少量含む。
4. 黒褐色土。砂質。

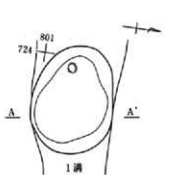


C区9～11号土坑

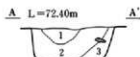


C区10・11号土坑

1. 黒褐色土。やや粘質。粒径が不均一。径2cm程度の礫・砂ブロック・炭粒などの雑多な混入物をやや多量含む。10号土坑埋没土。
2. 黒褐色土。やや粘質。粒径が1層より均一。1層の混入物を少量含む。11号土坑埋没土。

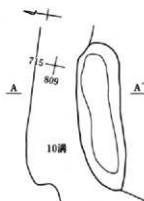


C区13号土坑



C区13号土坑

1. 黒褐色土。しまりが弱い。粗砂を多量、径2cm程度の礫・パミスを少量含む。
2. 黒褐色土。径10cm前後の礫・粗砂を多量含む。
3. 鈍い黄褐色土。粗砂を多量、径3cm前後の礫を少量含む。

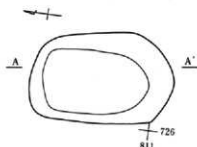


C区14号土坑

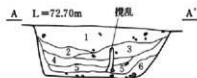


C区14号土坑

1. 径10cm前後の礫を黄褐色土で充填。

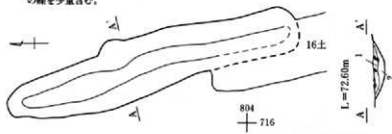


C区18号土坑



C区18号土坑

1. 暗灰黄色土。やや粘質。径4cm前後の礫を少量含む。
2. 灰オリブ砂。一部にラミナ状を呈する。
3. 暗オリブ砂。
4. 黒褐色土。やや粘質。砂を均一に多量含む。
5. 灰オリブ色砂。黄色砂・径2cmほどの礫を多量含む。
6. 黒褐色土。やや粘質。砂・径4cm前後の礫を多量含む。



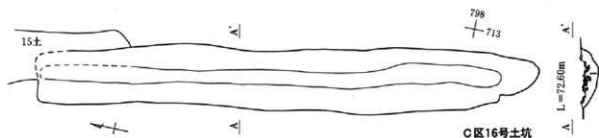
C区15号土坑

C区15号土坑

1. 暗灰黄色土。やや粘質。径10cm程度の礫を上層に多量、地山の黄褐色土を均一にやや多量含む。
2. 黄褐色土。砂質。地山に似るが、地山より黒味が強い。

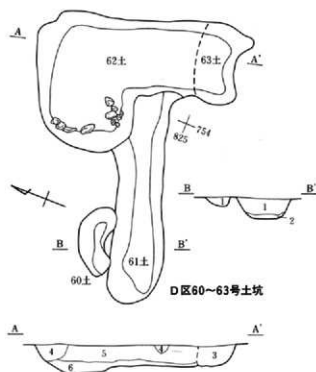
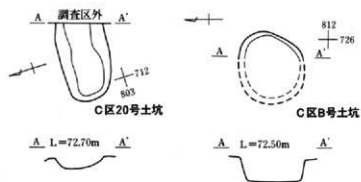


4. 土坑



C区16号土坑

1. 暗灰黄色土。やや粘質。径10cm程の礫を上層に多量含む。地山の黄褐色土を特に下層に均一に含む。



D区60~63号土坑

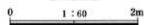
1. 灰褐色土。鉄分凝集粒をやや多量、暗黄褐色土ブロックを少量含む。
2. 暗黄褐色土。
3. 暗灰褐色土。63号土坑埋没土。
4. 暗褐色土。
5. 暗褐色土。径2mm程の礫を少量含む。
6. 灰褐色土。径5mm程の礫を少量含む。



D区65号土坑

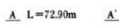
1. 黒褐色土。やや粘質。炭粒を少量含む。
2. 暗褐色土。しまりが強い。暗黄褐色土ブロック・径1cm程の礫を少量含む。
3. 暗褐色土。2層と同一だがやや黒味が強い。
4. 灰褐色土。しまりが弱い。径4cm以下の礫を少量含む。

L=72.90m





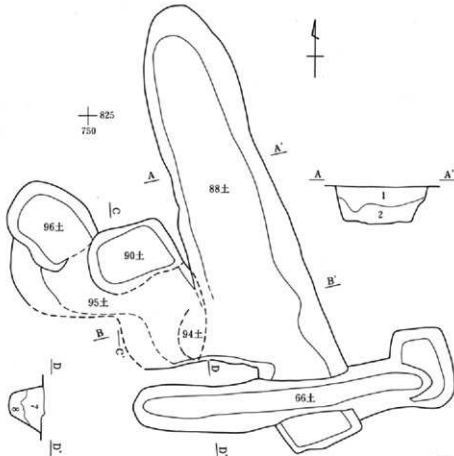
D区64号土坑



L=72.90m



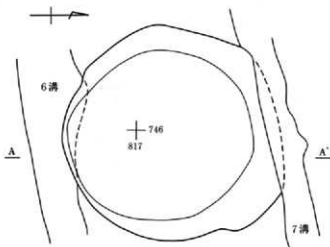
6



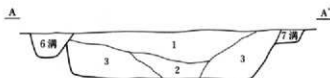
D区66・88・90・94~96号土坑



- D区66・88・90・94・95号土坑
1. 黒褐色土。黄色砂質土を少量含む。
 2. 暗褐色土。やや砂質。褐色砂をやや多量含む。1・2層は88号土坑埋没土。
 3. 黒褐色土。しまりがやや強い。褐色砂・黄色砂を少量含む。95号土坑埋没土。
 4. 黒褐色土。黄色砂を少量含む。
 5. 暗褐色土。砂質。褐色砂をやや多量含む。4・5層は94号土坑埋没土。
 6. 暗褐色土。褐色砂をやや多量含む。90号土坑埋没土。
 7. 黒褐色土。やや砂質。径10cmほどの礫をやや多量含む。
 8. 黒褐色土。砂質。褐色砂を多量含む。7・8層は66号土坑埋没土。



D区67号土坑



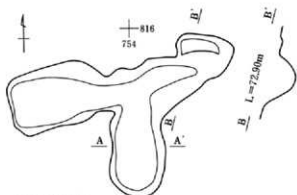
D区67号土坑

1. 暗褐色土。径10cm程の礫を多量含む。
2. 黒褐色土。径3cmほどの礫をやや多量含む。
3. 暗褐色土。鉄分を含む褐色砂質土をやや多量。径2cmほどの礫を少量含む。

L=72.80m

0 1:60 2m

4. 土坑

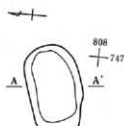


D区69号土坑

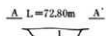


D区69号土坑

1. 暗褐色土。しまりが強い。径1cm程の礫を少量、黄褐色土ブロック・炭粒を微量含む。

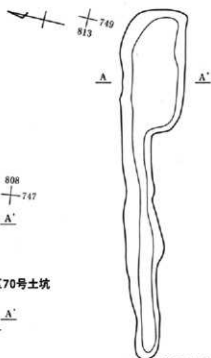


D区70号土坑

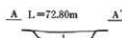


D区70号土坑

1. 黒褐色土。しまりが強い。黄色砂質土を少量含む。

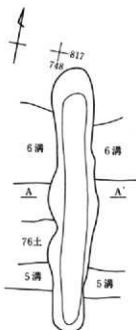


D区71号土坑

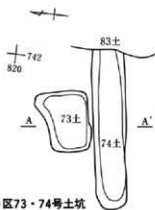
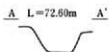


D区71号土坑

1. 黒褐色土。しまりが強い。黄色砂質土を少量含む。



D区72号土坑



D区73・74号土坑

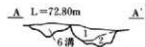


D区73・74号土坑

1. 明黒褐色土。砂質。黄褐色砂をやや多量含む。
2. 暗褐色土。径5mm程の礫・炭粒を少量含む。
3. 暗褐色土。褐色砂粒を均一に少量含む。
4. 暗褐色土。褐色砂粒を均一にやや多量含む。



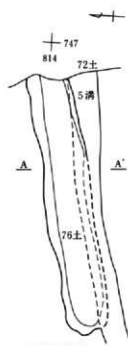
D区75号土坑



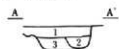
D区75号土坑

1. 黒褐色土。緻密。黄色砂質土を微量含む。
2. 灰褐色土。砂質。褐色砂粒を均一に少量含む。

0 1:60 2m



D区76号土坑

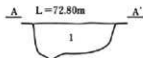


D区76号土坑

1. 黒褐色土。砂質。黄色砂質土をやや多量含む。攪乱。
2. 5号溝埋没土。
3. 暗灰褐色土。砂質。褐色砂粒をやや多量含む。76号土坑埋没土。

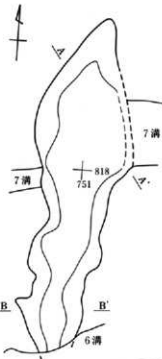


D区79号土坑

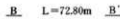


D区79号土坑

1. 黒褐色土。しまりが強い。径2cm以下の礫を少量含む。

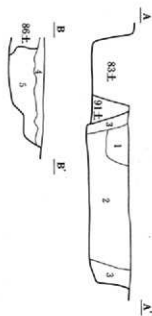


D区77号土坑



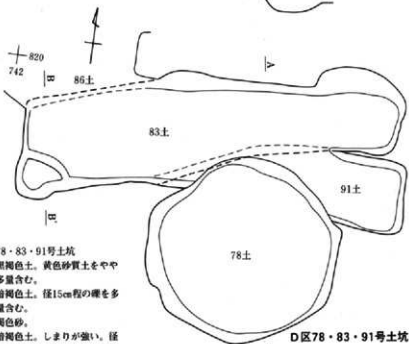
D区77号土坑

1. 暗褐色土。砂質。黄色砂質土を少量含む。



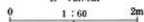
D区78・83・91号土坑

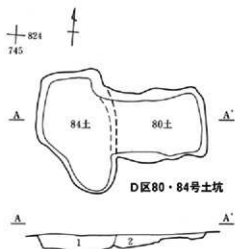
1. 黒褐色土。黄色砂質土をやや多量含む。
2. 暗褐色土。径15cm程の礫を多量含む。
3. 褐色砂。
4. 暗褐色土。しまりが強い。径1cm程の礫・炭粒を少量含む。85・86号土坑1層に同じ。
5. 暗灰褐色土。砂質。褐色砂粒をやや多量含む。



D区78・83・91号土坑

L=72.70m





D区80・84号土坑

D区80・84号土坑

1. 黒褐色土。径1cm程の礫をやや多量、黄色砂質土を少量含む。84号土坑埋没土。
2. 黒褐色土。径1cm程の礫・黄色砂質土を少量含む。80号土坑埋没土。



D区87号土坑

D区87号土坑

1. 黒灰色土。やや粘質。黄色砂質土を少量含む。
2. 黒灰色土。やや粘質。褐色砂・黄色砂を少量含む。
3. 黒褐色土。黄色粘質土を少量含む。
4. 明褐色土。3層に對するが黄色粘質土をやや多量含む。



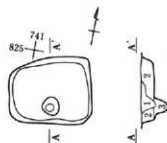
D区93号土坑



D区81号土坑

D区81号土坑

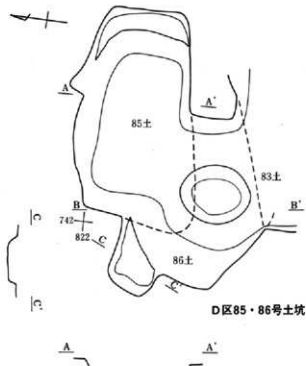
1. 暗褐色土。しまりが強い。径5mm以下の礫を少量含む。



D区82号土坑

D区82号土坑

1. 暗灰褐色土。しまりが強い。灰白色土粒を少量、炭粒を微量含む。
2. 暗褐色土。
3. 灰褐色土。粘質。

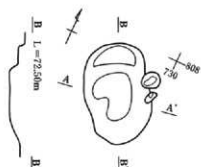


D区85・86号土坑

D区85・86号土坑

1. 暗褐色土。しまりが強い。径1cm程の礫・炭粒を少量含む。
2. 暗褐色土。暗灰褐色土粒を少量含む。
3. 暗灰褐色土。砂質。褐色砂をやや多量含む。
4. 灰褐色土。砂質。褐色砂をやや多量含む。2・3・4層は85号土坑埋没土。
5. 暗灰褐色土。褐色砂をやや多量含む。
6. 灰褐色土。褐色砂粒を少量含む。
7. 暗褐色土。径15mm程の礫をやや多量含む。
8. 暗褐色砂。径15mm程の礫を微量含む。

上増田島遺跡C・D区第2面

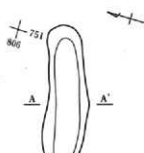


D区89号土坑



D区89号土坑

1. 灰白色砂。緻密。

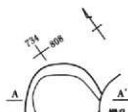


D区110号土坑



D区110号土坑

1. 黒褐色土。しまりが強い。
黄褐色土粒を微量含む。

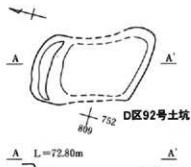


D区105号土坑



D区105号土坑

1. 灰褐色土。しまりが強い。
径2cm程の礫を少量含む。



D区92号土坑



D区99号土坑

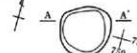


D区99号土坑

1. 灰褐色砂。褐色砂・灰色砂の混土。



D区97号土坑



D区111号土坑



D区111号土坑

1. 黒褐色土。しまりが強い。
黄褐色土粒を微量含む。
2. 褐灰色土。やや粘質。

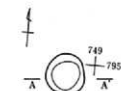


D区104号土坑



D区104号土坑

1. 灰褐色土。しまりが強い。
径2cm程の礫を少量含む。

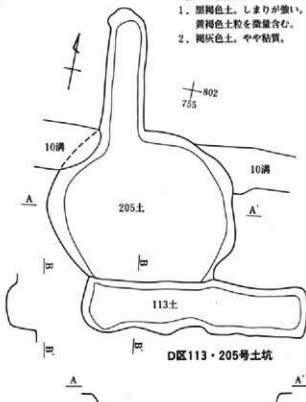


D区112号土坑



D区112号土坑

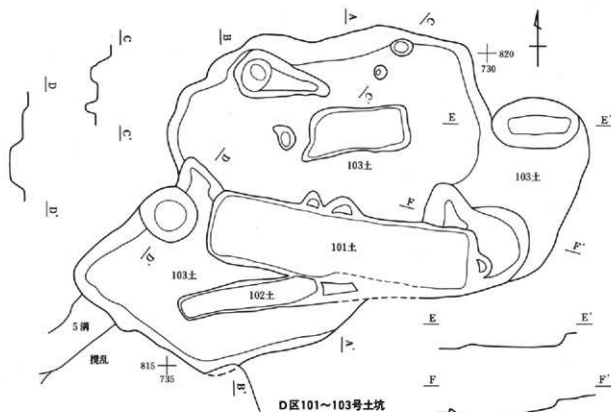
1. 褐灰色土。白色粘質土
粒を微量含む。
2. 褐灰色土。白色粘質土
粒を少量含む。



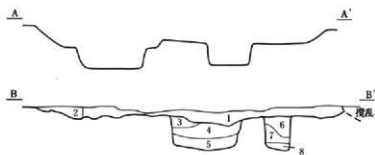
D区113・205号土坑



4. 土坑



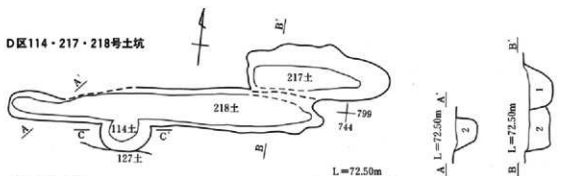
D区101~103号土坑



D区101~103号土坑

1. 灰褐色土。灰色砂粒を少量含む。
2. 明灰褐色土。シルト質。褐色砂粒を微量含む。
1・2層は103号土坑埋没土。
3. 灰褐色土。灰色砂粒を少量含むが1層より多い。
4. 暗灰色砂。
5. 暗灰色砂。白色粘質土粒を少量含む。3~5層は101号土坑埋没土。
6. 暗灰褐色土。しまりが強い。褐色砂粒を少量含む。
7. 黒灰色土。白色粘質土を少量含む。
8. 黒灰色土。白色粘質土を少量含むが7層より多い。6~8層は102号土坑埋没土。

D区114・217・218号土坑

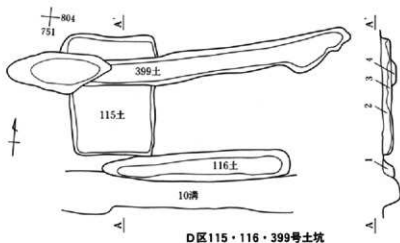


D区114・217・218号土坑

1. 暗灰褐色土。やや粘質。径3cm程の礫を少量含む。217号土坑埋没土。
2. 暗灰褐色土。粘質。地山の黄褐色土粒を多量含む。218号土坑埋没土。
3. 黒褐色土。しまりが強い。黄褐色土粒を微量含む。
4. 灰色土。粘質。暗褐色砂粒を少量含む。
5. 暗褐色砂。灰色粘質土粒を少量含む。3~5層は114号土坑埋没土。

L=72.70m
0 1:60 2m

上増田高遺跡C・D区第2面



D区115・116・399号土坑

D区115・116・399号土坑

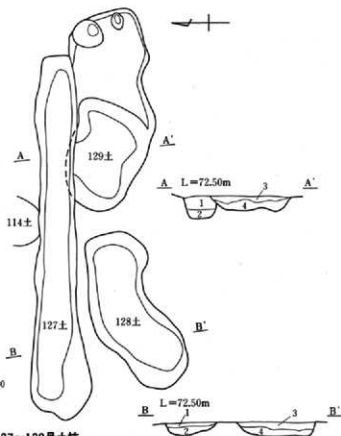
1. 黒褐色土。やや粘質。黄色砂質土粒を微量含む。116号土坑埋没土。
2. 黒褐色土。やや粘質。黄色砂質土粒を微量含む。
3. 黒褐色土。黄色砂質土粒を少量含む。2・3層は115号土坑埋没土。
4. 褐灰色土。砂質。褐色砂粒を少量含む。399号土坑埋没土。



D区125・126号土坑

D区125・126号土坑

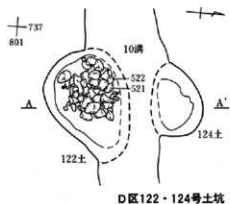
1. 黒褐色土。やや粘質。暗黄褐色土粒をやや多量含む。



D区127～129号土坑

D区127～129号土坑

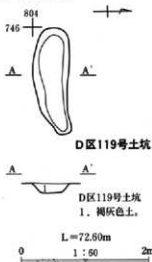
1. 暗灰褐色土。褐色粘土ブロックを微量含む。
2. 暗灰褐色土。褐色砂粒を少量含む。
3. 灰褐色土。灰色粘土ブロックを均一に少量含む。
4. 暗灰褐色土。灰色粘土ブロックを均一に微量含む。



D区122・124号土坑

D区122・124号土坑

1. 黒褐色土。やや粘質。礫を多量。地山の灰黄褐色砂質土を少量含む。122号土坑埋没土。
2. 黒褐色土。粘質。炭粒を少量含む。124号土坑埋没土。
3. 暗褐色土。地山の灰黄褐色砂質土ブロックをやや多量含む。10号溝埋没土。



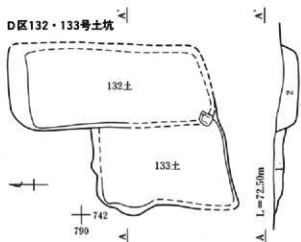
D区119号土坑

1. 褐灰色土。

L=72.50m

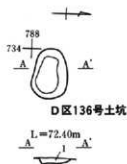
1:50 2m

4. 土坑



D区132・133号土坑

1. 暗褐色土。褐色砂を主体に黒褐色土を少量含む。133号土坑埋没土。
2. 暗灰褐色土。灰色粘質土をやや多量、黄色砂質土を少量含む。132号土坑埋没土。



D区136号土坑

D区136号土坑

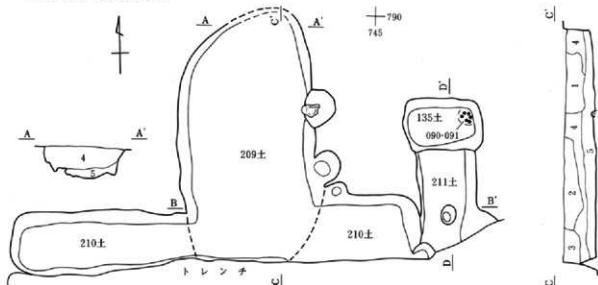
1. 灰褐色土。やや粘質。灰黄褐色砂質土粒を少量、炭粒を微量含む。



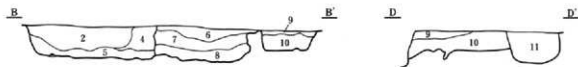
D区164・165号土坑

D区164・165号土坑

1. 黒褐色土。黄色砂質土粒、褐色砂粒を少量含む。
2. 黒褐色土。黄色砂質土粒をやや多量含む。

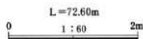


D区135・209～211号土坑

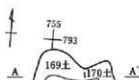


D区135・209～211号土坑

1. 黒褐色土。暗黄褐色粘質土粒を少量含む。
2. 黒褐色土。1層より明るい、暗黄褐色砂質土を少量含む。
3. 黒褐色土。しまりが強い、黄色砂質土を少量含む。
4. 暗褐色土。黄褐色粘質土粒をやや多量、灰色粘質土を少量含む。
5. 暗灰褐色土。褐色砂粒を均一にやや多量、灰色粘質土を少量含む。1～5層は209号土坑埋没土。
6. 黒褐色土。しまりが強い、白色砂粒を微量含む。
7. 暗褐色土。褐色砂粒を均一にやや多量、白色砂粒・炭粒を微量含む。
8. 暗褐色土。褐色砂粒を均一にやや多量含む。6～8層は210号土坑埋没土。
9. 黒褐色土。灰色砂粒を少量含む。
10. 暗褐色土。褐色砂粒・黄色砂質土をやや多量含む。9・10層は211号土坑埋没土。
11. 黒褐色土。傘大の礫を少量含む。135号土坑埋没土。



上増田島遺跡C・D区第2面

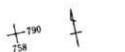


D区169・170号土坑



D区169・170号土坑

1. 灰黄褐色土。径5cm程の礫を多量含む。170号土坑埋没土。
2. 灰黄褐色土。砂質。白色土粒を微量含む。169号土坑埋没土。

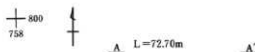


D区172号土坑



D区172号土坑

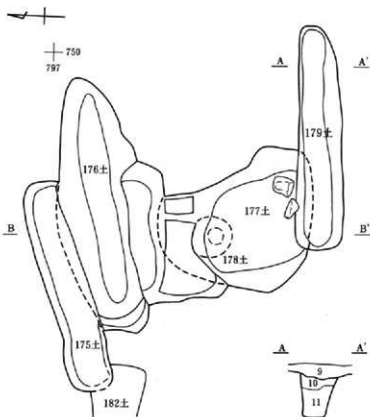
1. 暗褐色土。径1cm程の礫を少量含む。



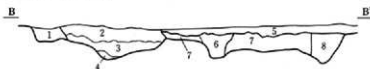
D区173・182号土坑

D区173・182号土坑

1. 灰褐色土。砂質。径1cm程の礫を多量含む。
2. 灰褐色土。砂質。



D区175~179号土坑



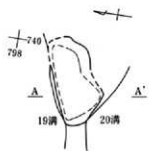
D区175~179号土坑

1. 暗褐色土。径2cm程の礫を少量含む。175号土坑埋没土。
2. 灰褐色土。しまりが強い。白色土粒・径2cm以下の礫を少量含む。
3. 灰褐色土。径2cm以下の礫を少量含む。
4. 暗褐色土。径2cm以下の礫を少量含む。2~4層は176号土坑埋没土。
5. 暗灰褐色土。しまりが強い。攪乱。
6. 灰褐色土。白色土粒を微量含む。178号土坑埋没土。
7. 灰褐色土。白色土粒・径2cm程の礫を少量。炭粒を微量含む。177号土坑埋没土。
8. 灰褐色土。白色土粒を微量含む。6層より黒味が強。
9. 黒褐色土。黄色砂質土粒・白色砂粒を少量含む。攪乱。
10. 黒褐色土。灰色砂粒・径2cm程の礫を少量含む。
11. 暗褐色土。灰色砂粒・径2cm程の礫をやや多量含む。8・10・11層は179号土坑埋没土。

L=72.60m

0 1:60 2m

4. 土坑

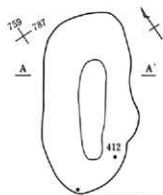


D区180号土坑



D区180号土坑

1. 灰褐色土。しまりが強い。白色土粒を少量含む。攪乱。
2. 暗灰褐色土。白色土粒・地山の灰黄褐色砂質土を少量含む。

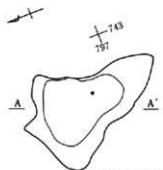


D区183号土坑



D区183号土坑

1. 暗褐色土。径10cm前後の礫を多量含む。
2. 暗褐色土。しまりが弱い。粗砂・径3cm程の礫を多量含む。

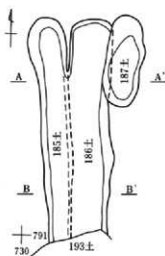


D区184号土坑

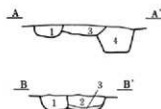


D区184号土坑

1. 灰褐色土。やや粘質。
2. 灰褐色土。やや粘質。灰黄褐色砂質土粒を少量含む。

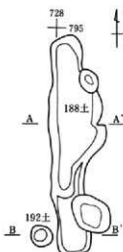


D区185～187号土坑

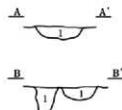


D区185～187号土坑

1. 暗灰色土。砂質。褐色・灰色砂粒を多量含む。185号土坑埋没土。
2. 暗黄褐色土。黄色砂質土を主体に、褐色・灰色砂粒を少量含む。
3. 灰褐色土。やや粘質。黄色砂質土を少量含む。2・3層は186号土坑埋没土。
4. 黒褐色土。褐色・灰色砂粒を少量含む。187号土坑埋没土。

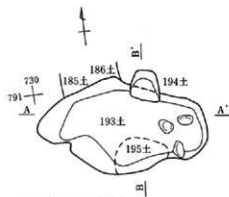


D区188・192号土坑

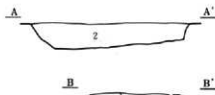


D区188・192号土坑

1. 灰褐色土。褐色砂粒・黄色砂粒・炭粒を少量含む。



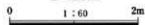
D区193～195号土坑

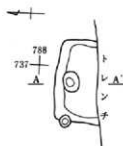


D区193～195号土坑

1. 暗赤褐色土。焼土粒・炭粒を多量含む。195号土坑埋没土。
2. 黒褐色土。灰色砂粒を均一にやや多量含む。193号土坑埋没土。
3. 黒褐色土。褐色砂粒を多量含む。194号土坑埋没土。

L=72.30m





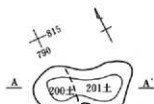
D区196号土坑

A L=72.40m A'



D区196号土坑

1. 暗褐色土。砂質。2層土のブロックを少量、炭粒を微量含む。
2. 灰黄褐色土。厚4cm程の礫を少量含む。

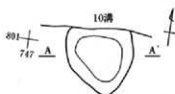


D区200・201号土坑



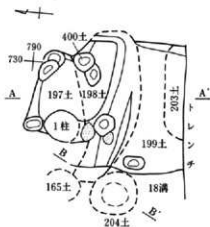
D区200・201号土坑

1. 暗褐色土。しまりが強い。白色土粒・炭粒を少量含む。
2. 暗褐色土。炭粒を少量含む。1・2層は200号土坑埋没土。
3. 黒褐色土。しまりが強い。白色土粒をやや多量含む。
4. 黒褐色土。炭粒を少量含む。
5. 暗褐色土。しまりが強い。黄褐色砂質土を多量、炭粒を少量含む。3～5層は201号土坑埋没土。



D区206号土坑

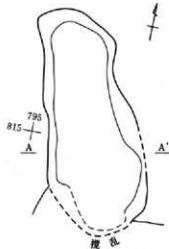
A L=72.50m A'



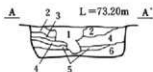
D区197～199・203・204号土坑



B L=72.40m B'



D区202号土坑

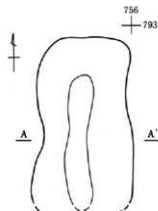


D区202号土坑

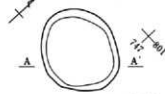
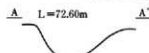
1. 暗灰色土。炭粒をやや多量、暗黄褐色土粒を少量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。焼土・炭粒を微量含む。
3. 黒褐色土。暗黄褐色土粒を少量含む。
4. 黒褐色土。
5. 黒褐色土。灰を均一に少量含む。
6. 暗褐色土。暗黄褐色土を多量、炭粒を少量含む。

D区197～199・203・204号土坑

1. 黒褐色土。しまりが強い。白色土粒・黄褐色土ブロックを少量含む。197号土坑埋没土。
2. 灰褐色土。しまりが強い。黄褐色土ブロックを微量含む。198号土坑埋没土。
3. 暗褐色土。黄褐色土ブロックを少量含む。
4. 暗褐色土。黄褐色土ブロックをやや多量含む。3・4層は199号土坑埋没土。
5. 黒褐色土。やや粘質。黄褐色土ブロックを少量。厚1cm程の礫を微量含む。203号土坑埋没土。
6. 灰褐色土。黄褐色土ブロックを多量含む。



D区207号土坑



D区208号土坑

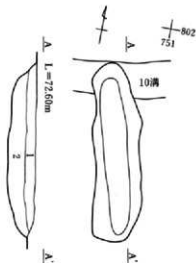


D区208号土坑

1. 暗褐色土。しまりが弱い。砂礫を少量含む。
2. 暗褐色土。黄褐色土粒を多量含む。
3. 黒褐色土。灰白色粘質土粒を少量含む。
4. 灰褐色土。砂礫を多く含む。
5. 灰色土。しまりが強い。砂質。
6. 暗褐色土。白色土粒を少量含む。

0 1:60 2m

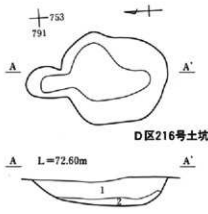
4. 土坑



D区213号土坑

D区213号土坑

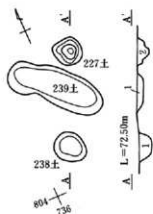
1. 暗褐色土。しまりが強い。暗黄褐色砂質土ブロック・白色土粒を少量含む。
2. 灰褐色土。白色土粒・径5cm以下の礫を少量含む。



D区216号土坑

D区216号土坑

1. 黒褐色土。砂礫を微量含む。
2. 暗褐色土。砂礫を少量含む。



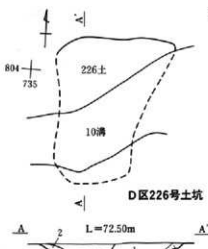
D区227・238・239号土坑

D区227・238・239号土坑

1. 灰褐色土。灰黄褐色土粒・白色土粒を少量含む。
2. 黒褐色土。しまりが強い。灰黄褐色砂質土粒を多量含む。



20溝



D区226号土坑

D区226号土坑

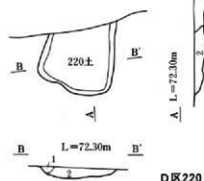
1. 黒褐色土。灰黄褐色土粒・白色土粒を少量含む。
2. 黒褐色土。灰黄褐色土粒を多量、白色土粒を少量含む。
3. 灰褐色土。鉄分凝集粒を多量、白色土粒を少量含む。



D区228号土坑

D区228号土坑

1. 暗灰褐色土。砂礫を多量含む。
2. 暗灰褐色土。砂礫をやや多量含む。



20溝

D区220・221・223・224号土坑

1. 暗黒褐色土。灰色砂粒を少量含む。
2. 暗灰褐色土。砂質。褐色・灰色砂粒を多量含む。1・2層は220号土坑埋没土。
3. 黒褐色土。やや粘質。炭粒を少量含む。221号土坑埋没土。
4. 黄色土。砂質。5層の土粒を少量含む。
5. 暗灰褐色土。砂質。褐色砂粒を少量含む。4・5層は223号土坑埋没土。
6. 暗灰褐色土。砂質。褐色砂粒を均一に少量含む。224号土坑埋没土。

D区220・221・223・224号土坑



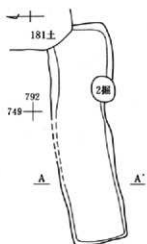
D区231号土坑

D区231号土坑

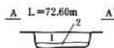
1. 灰黄褐色土。灰黄褐色土粒・白色土粒を少量含む。

0 1:60 2m

上増田島遺跡C・D区第2面



D区229号土坑



D区229号土坑

1. 暗褐色土。黄色砂質土粒をやや多量、白色砂粒を少量含む。
2. 暗灰色土。白色砂粒を少量含む。

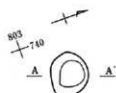


D区232号土坑



D区232号土坑

1. 灰褐色土。
2. 灰褐色土。やや粘質。灰黄褐色土粒を少量含む。

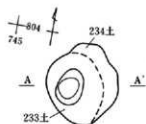


D区235号土坑



D区235号土坑

1. 黒褐色土。やや粘質。灰黄褐色土粒を微量含む。
2. 灰褐色土。砂質。

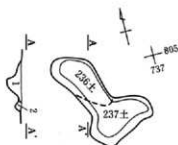


D区233・234号土坑



D区233・234号土坑

1. 黒褐色土。灰黄褐色砂質土ブロックを少量含む。233号土坑埋没土。
2. 黒褐色土。灰黄褐色砂質土粒を均一に少量含む。234号土坑埋没土。



D区236・237号土坑

D区236・237号土坑

1. 灰褐色土。しまりが強い。灰黄褐色砂質土粒・径1cm程の礫を少量含む。236号土坑埋没土。
2. 黒褐色土。灰黄褐色土粒・白色土粒を少量含む。

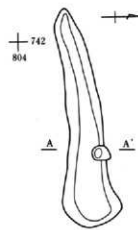
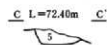


D区241・245号土坑



D区241・245号土坑

1. 暗灰色土。灰白色粘質土粒をやや多量含む。
2. 灰褐色土。褐色砂粒を少量含む。
3. 暗灰色土。しまりが強い。やや粘質。
4. 灰褐色土。砂質。褐色砂粒・黄色砂質土粒を少量含む。
5. 黒褐色土。やや粘質。黄色砂質土粒を少量含む。

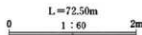


D区240号土坑

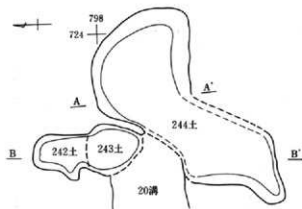


D区240号土坑

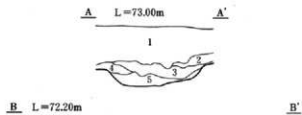
1. 灰褐色土。径1cm以下の礫・白色土粒を少量含む。
2. 灰褐色土。やや粘質。灰黄褐色土ブロックを少量含む。
3. 灰褐色土。灰黄褐色土ブロックを微量含む。



4. 土坑

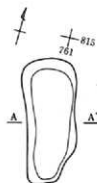


D区242~244号土坑



D区242~244号土坑

1. 表土。
2. 暗褐色砂質土。
3. 暗褐色砂質土。2層より黄味が強い。
4. 暗褐色砂質土。3層より黄味が強い。
5. 黄褐色砂質土。244号土坑埋没土。
6. 暗灰色土。しまりが弱い。炭粒をやや多量含む。242号土坑埋没土。
7. 暗灰褐色土。砂質。褐色砂粒をやや多量含む。243号土坑埋没土。
8. 褐色砂。20号溝埋没土。

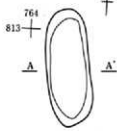


D区261号土坑



D区261号土坑

1. 黒褐色土。しまりがやや弱い。径1cm程の礫を少量、炭粒を微量含む。

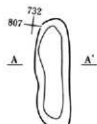


D区262号土坑



D区262号土坑

1. 暗黄褐色土。しまりが強い。黒褐色砂質土粒を均一にやや多量、炭粒・白色土粒を微量含む。

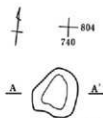


D区246号土坑

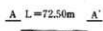


D区246号土坑

1. 暗褐色土。暗灰色砂粒を少量含む。

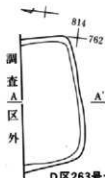


D区250号土坑



D区250号土坑

1. 暗黒褐色土。黄褐色砂質土粒・灰色粘質土粒を少量含む。



D区263号土坑



D区263号土坑

1. 暗黄褐色土。しまりが強い。黒褐色砂質土粒を均一にやや多量、炭粒・白色土粒を微量含む。

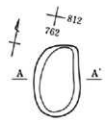


D区247号土坑



D区247号土坑

1. 暗黒褐色土。径3cm以下の礫をやや多量含む。

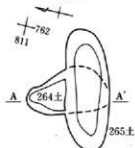


D区260号土坑



D区260号土坑

1. 黒褐色土。しまりがやや弱い。径1cm程の礫を少量、炭粒を微量含む。



D区264・265号土坑

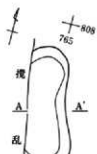


D区264・265号土坑

1. 暗黄褐色土。しまりが強い。径4cm以下の礫をやや多量含む。白色土粒を微量含む。264号土坑埋没土。
2. 黒褐色土。しまりが弱い。径4cm程の礫をやや多量含む。
3. 暗灰褐色土。しまりが弱い。径4cm程の礫を少量含む。2・3層は265号土坑埋没土。



上増田高道路C・D区第2画

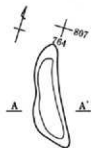


D区266号土坑



D区266号土坑

1. 暗黄褐色土。黒褐色砂質土粒を均一にやや多量、炭粒・白色土粒を微量含む。



D区267号土坑



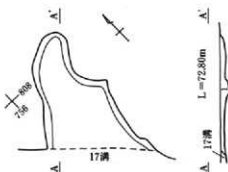
D区267号土坑

1. 暗黄褐色土。黒褐色砂質土粒を均一にやや多量、炭粒・白色土粒を微量含む。



D区271号土坑

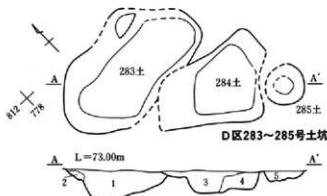
1. 暗褐色土。しまりが強い、径3cm以下の礫を少量含む。



D区272号土坑

D区272号土坑

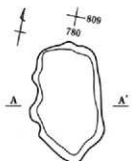
1. 暗褐色土。しまりが強い、径1cm程の礫を少量含む。



D区283~285号土坑

D区283~285号土坑

1. 暗褐色土。白色土粒・炭粒を少量、焼土粒・径1cm程の礫を微量含む。
2. 暗黄褐色土。白色土粒を少量含む。1・2層は283号土坑埋没土。
3. 暗褐色土。しまりが強い。炭粒を少量含む。
4. 川砂と暗褐色土の互層。しまりが強い。3・4層は284号土坑埋没土。
5. 暗黄褐色土。しまりが強い。2cm以下の礫を少量、焼土粒・炭粒を微量含む。



D区280号土坑

D区280号土坑

1. 暗褐色土。しまりが強い、焼土粒・炭粒を少量含む。



D区281号土坑

D区281号土坑

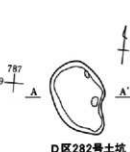
1. 暗褐色土。径15cm程の礫を多量、黄色砂質土を少量含む。



D区289号土坑

D区289号土坑

1. 黒褐色土。黄褐色砂質土が均一に少量含む。
2. 灰褐色土。しまりが強い、川砂を多量含む。
3. 灰褐色土。川砂を微量含む。

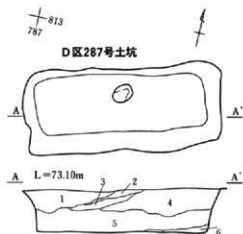


D区282号土坑

D区282号土坑

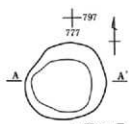
1. 暗黄褐色土。焼土粒・炭を多量、黄色砂質土粒を多量含む。



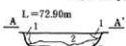


D区287号土坑

1. 灰褐色土。暗灰褐色砂質土粒を多量、白色土粒を少量含む。
2. 暗褐色土。炭粒を少量含む。
3. 灰褐色土。白色土粒・炭粒を微量含む。下層は粘質土から成る。
4. 暗褐色土。白色土粒・暗褐色土粒を少量、炭粒を微量含む。
5. 灰褐色土。しまりが弱い。白色土粒を多量含む。
6. 暗灰褐色土。粘質。



D区291号土坑

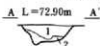


D区291号土坑

1. 灰褐色土。粘質。
2. 暗褐色土。砂質。白色土粒を少量含む。
3. 暗褐色土。灰褐色砂質土ブロックを少量含む。

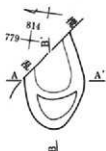


D区294号土坑



D区294号土坑

1. 暗灰褐色土。炭粒・白色土粒を微量含む。
2. 灰褐色土。砂質。



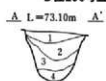
D区292号土坑



D区292号土坑

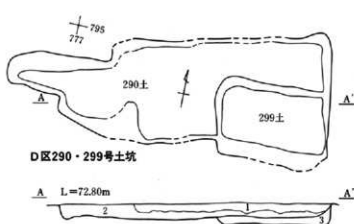
1. 黒褐色土。2層の灰褐色土粒を少量含む。
2. 灰褐色土。暗灰褐色土ブロックを少量、径2cm程度の礫を微量含む。

D区296号土坑



D区296号土坑

1. 暗灰色土。しまりが弱い。白色土粒を少量含む。
2. 灰褐色土。やや粘質。1層の暗褐色土粒をやや多量含む。
3. 灰褐色土。やや粘質。炭粒を少量含む。
4. 暗褐色土。粘質。砂礫を少量含む。

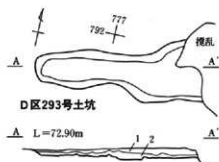


D区290・299号土坑

L=72.80m

D区290・299号土坑

1. 暗灰褐色土。暗褐色土粒を均一に少量含む。
2. 暗褐色土。白色土粒を少量含む。1・2層は290号土坑埋没土。
3. 暗褐色土。しまりが強い。砂礫を少量含む。299号土坑埋没土。



D区293号土坑



D区293号土坑

1. 暗褐色土。炭粒・白色土粒を少量含む。
2. 暗褐色土。砂礫を多量含む。



D区298号土坑

D区298号土坑

1. 暗褐色土。やや粘質。白色土粒を少量含む。
2. 暗褐色土。灰色粘質土粒をやや多量含む。



L=72.80m

0 1:60 2m

上増田高遺跡C・D区第2面



D区300号土坑

1. 黒褐色土。やや粘質。白色土粒・黄色砂質土粒を少量含む。
2. 黒色土。やや粘質。黄色砂質土粒を少量含む。
3. 黒色土。やや粘質。黄色砂質土粒を少量含む。



D区301号土坑

D区301号土坑

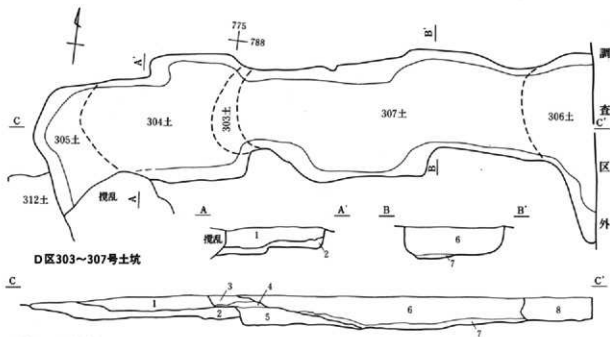
1. 暗褐色土。硬土粒・炭粒を均一に少量含む。



D区302号土坑

D区302号土坑

1. 暗灰褐色土。灰粘質土粒を少量含む。



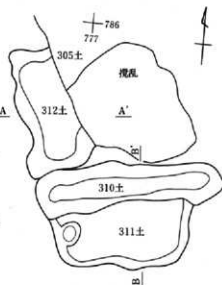
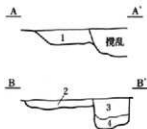
D区303～307号土坑

D区303～307号土坑

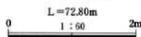
1. 暗褐色土。褐色砂粒を少量含む。304号土坑埋没土。
2. 暗灰褐色土。褐色砂粒をやや多量含む。305号土坑埋没土。
3. 黄褐色土。しまりが強い。白色土粒を少量含む。
4. 暗灰褐色土。やや粘質。褐色砂粒を少量含む。
5. 灰褐色土。褐色砂粒を少量含む。3～5層は303号土坑埋没土。
6. 黒褐色土。しまりが弱い。白色土粒・黄色砂質土粒を少量含む。
7. 黒褐色土。しまりが強い。白色土粒・黄色砂質土粒を少量含む。6・7層は307号土坑埋没土。
8. 黒褐色土。粘質。白色土粒・黄色砂質土粒を少量含む。306号土坑埋没土。

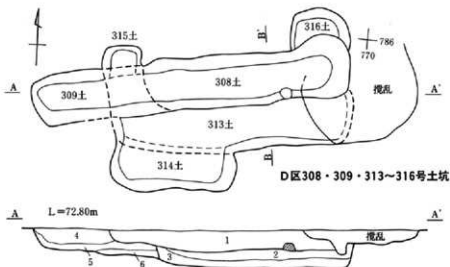
D区310～312号土坑

1. 暗褐色土。しまりが強い。黄色砂粒を多量含む。
2. 黄色砂。黒褐色土粒を少量含む。311号土坑埋没土。
3. 暗褐色土。黄色砂質土を少量含む。
4. 暗褐色土。黄色砂質土をやや多量含む。3・4層は310号土坑埋没土。



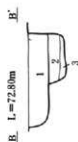
D区310～312号土坑





D区308・309・313号土坑

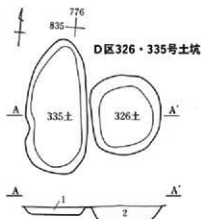
1. 黒褐色土。粘質。白色土粒を少量、黄色砂質土粒を微量含む。313号土坑埋没土。
2. 黒褐色土。粘質。白色土粒・黄色砂質土粒を少量含む。
3. 黒褐色土。粘質。黄色砂質土粒をやや多量、白色土粒を少量含む。2・3層は308号土坑埋没土。
4. 暗褐色土。黒色粘質土粒を少量、白色土粒を微量含む。
5. 暗褐色土。粘質。黄色砂質土粒を少量含む。
6. 暗褐色土。粘質。黄色砂質土粒をやや多量含む。4～6層は309号土坑埋没土。



D区331・332号土坑

D区331・332号土坑

1. 黒褐色土。しまりが強い。白色土粒を少量含む。332号土坑埋没土。
2. 暗褐色土。白色土粒を少量含む。331号土坑埋没土。



D区326・335号土坑

D区326・335号土坑

1. 暗褐色土。黄色砂質土粒をやや多量含む。
2. 暗褐色土。黄色砂質土粒を少量、炭粒を微量含む。



D区328号土坑

D区328号土坑

1. 暗褐色土。黄色砂質土粒を少量、炭粒・灰色粘質土粒を微量含む。



D区333・334号土坑

D区333・334号土坑

1. 黒褐色土。白色土粒・黄色砂質土粒をやや多量含む。
2. 暗褐色土。白色土粒・黄色砂質土粒を少量含む。



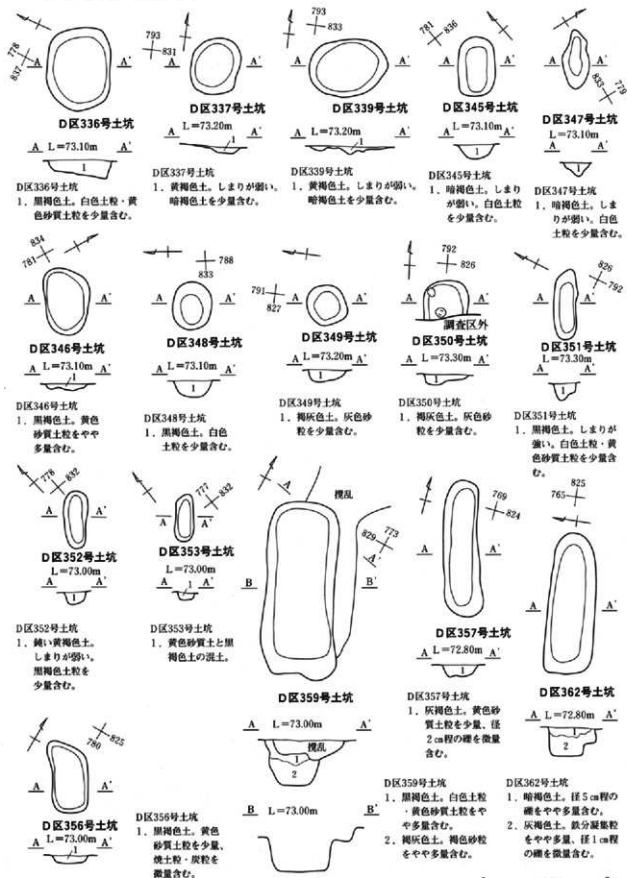
D区325・341・383号土坑

D区325・341・383号土坑

1. 黄褐色土。しまりが強い。暗褐色土粒を均一に少量含む。383号土坑埋没土。
2. 灰褐色土。黄色砂質土粒・褐色砂質土粒を少量含む。341号土坑埋没土。
3. 黄色砂質土。白色土粒を少量含む。
4. 黒褐色土。黄色砂質土を少量、白色土粒を微量含む。

L=73.10m
0 1:60 2m

上増田島遺跡C・D区第2面



D区358・360・361号土坑



D区358・360・361号土坑

1. 灰褐色土。
2. 灰褐色土。黄色土粒を少量、白色土粒を微量含む。
3. 灰褐色土。白色土粒・黄色土粒を少量含む。1～3層は358号土坑埋没土。
4. 黒褐色土。しまりが強い。焼土粒を多量、炭粒を少量含む。360号土坑埋没土。
5. 暗褐色土。しまりがやや弱い。白色土粒を微量含む。361号土坑埋没土。

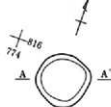


D区366号土坑

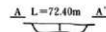


D区366号土坑

1. 黄褐色土。しまりが強い。黒色土粒を微量含む。



D区368号土坑



D区368号土坑

1. 黒褐色土。しまりが強い。白色土粒を少量含む。



D区367号土坑

1. 黄褐色土。白色土粒・黄褐色砂質土粒を少量含む。

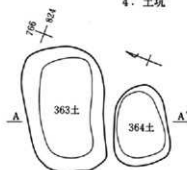


D区373号土坑

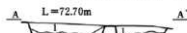


D区373号土坑

1. 暗黄褐色土。黄色土粒をやや多量含む。
2. 灰褐色土。黄色土粒を少量含む。
3. 灰褐色土。

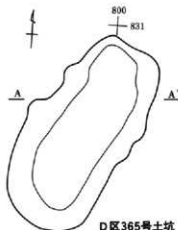


D区363・364号土坑

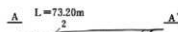


D区363・364号土坑

1. 灰黄褐色土。黄色砂質土粒を少量、径1cmほどの礫を微量含む。
2. 灰黄褐色土。径10cmの礫を少量含む。
3. 灰褐色土。粒分選粒粒をやや多量、径1cm程の礫を微量含む。



D区365号土坑



D区365号土坑

1. 黒褐色土。粘質。
2. 黄褐色土。しまりがやや弱い。灰黄褐色土粒をやや多量含む。

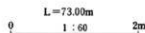


D区369号土坑

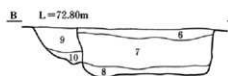
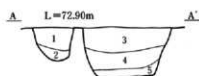
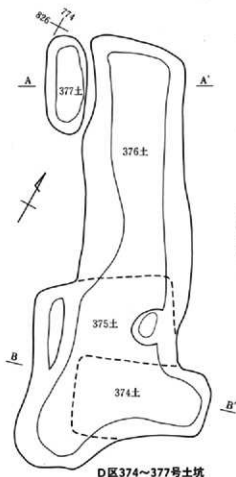


D区369号土坑

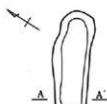
1. 黒褐色土。白色土粒・黄色砂質土粒を微量含む。
2. 黄褐色土。白色土粒・黄色砂質土粒を少量含む。



上増田鳥遺跡C・D区第2面

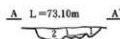
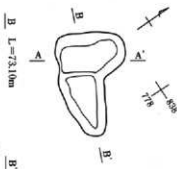


- D区374~377号土坑
1. 暗褐色土。やや粘質。黄色砂質土粒を少量含む。
 2. 暗褐色土。灰色粘質土粒を少量含む。
 3. 黒褐色土。しまりが強い。白色土粒を少量含む。
 4. 暗褐色土。やや粘質。黄色砂質土粒を少量含む。
 5. 暗褐色土。やや砂質。灰色粘質土粒を少量含む。
 6. 灰褐色土。砂質。褐色砂粒・白色土粒を少量含む。
 7. 灰白色土。砂質。褐色砂粒を微量含む。
 8. 暗褐色土。砂質。灰色粘質土粒を少量含む。6~8層は374号土坑埋没土。
 9. 暗褐色土。白色土粒・黄色砂質土粒を少量含む。
 10. 暗褐色土。灰色砂粒を少量含む。9・10層は375号土坑埋没土。



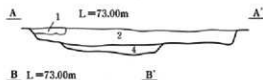
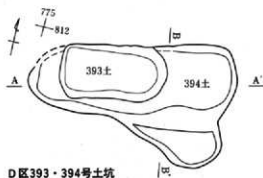
D区378号土坑

1. 灰褐色土。白色土粒・炭粒を微量含む。
2. 灰白色土。白色土粒を少量含む。



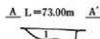
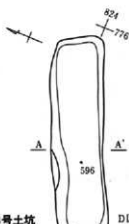
D区379号土坑

1. 暗褐色土。しまりが強い。黄色土粒を少量含む。
2. 暗褐色土。黄色土粒を微量含む。



D区393・394号土坑

1. 灰白色土。粘質。
2. 黒褐色土。白色土粒をやや多量。黄色砂質土粒を少量含む。
3. 暗褐色土。砂礫をやや多量含む。1~3層は394号土坑埋没土。
4. 灰褐色土。粘質。砂礫を少量含む。393号土坑埋没土。



D区384号土坑

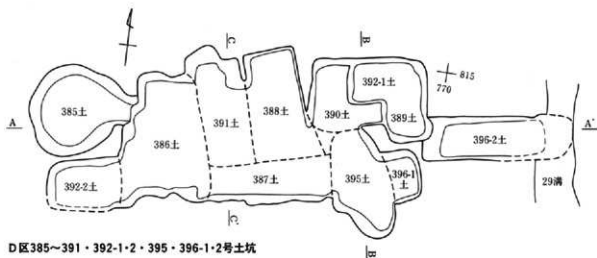
1. 暗褐色土。粘質。白色土粒を少量含む。



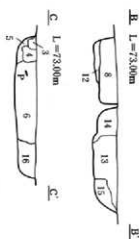
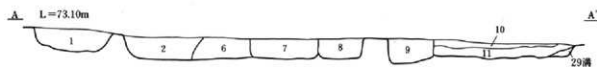
D区382号土坑

1. 鈍い黄褐色土。白色土粒を少量含む。



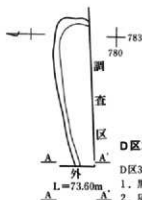


D区385~391・392-1・2・395・396-1・2号土坑



D区385~391・392-1・2・395・396-1・2号土坑

1. 黒褐色土。白色土粒・黄色砂質土粒をやや多量、径2cm程の礫を少量含む。385号土坑埋没土。
2. 暗褐色土。白色土粒・黄色砂質土粒を少量、褐灰色粘質土粒を均一に少量含む。386号土坑埋没土。
3. 黒褐色土。黄色砂質土をブロック状にやや多量含む。
4. 黄褐色土。黄色砂質土を主体として、灰色砂粒を多量含む。3・4層は攪乱小。
5. 暗褐色土。灰色砂粒を多量含む。
6. 褐灰色土。やや粘質。白色土粒・黄色砂質土粒を少量含む。5・6層は391号土坑埋没土。
7. 黒褐色土。やや粘質。白色土粒・黄色砂質土粒を少量含む。388号土坑埋没土。
8. 褐灰色土。白色砂粒・黄色砂質土粒を少量含む。390号土坑埋没土。
9. 黒褐色土。黄色粘質土粒をやや多量含む。389号土坑埋没土。
10. 暗褐色土。白色土粒・黄色砂質土粒をやや多量含む。
11. 暗褐色土。黄色砂質土粒を少量含む。10・11層は369-2号土坑埋没土。
12. 褐灰色土。8層より暗い。灰色砂粒・黄色砂質土粒を少量含む。392-1号土坑埋没土。
13. 黒褐色土。黄色砂質土粒をやや多量、白色土粒を少量含む。
14. 褐灰色土。黄色砂質土粒・灰色粘質土粒をやや多量、白色土粒を少量含む。
15. 暗黒褐色土。黄色粘質土ブロックをやや多量含む。13~15層は395号土坑埋没土。
16. 褐灰色土。白色土粒・褐色砂粒を少量含む。387号土坑埋没土。



D区397号土坑

- D区397号土坑
1. 黒色土。表土。
 2. 灰褐色土。白色土粒・炭土粒・炭粒を微量含む。
 3. 暗褐色土。砂礫を均一に少量含む。
 4. 397号土坑埋没土。



D区398号土坑

調査区外

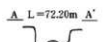


D区398号土坑

1. 黒褐色土。攪乱を伴う表土。
2. 灰褐色土。白色土粒・焼土粒・炭粒を微量含む。
3. 暗褐色土。砂礫を均一に少量含む。
4. 暗黄褐色土。しまりが強い。
5. 暗褐色土。黄色砂粒を微量含む。4・5層は398号土坑埋没土。



D区400号土坑



0 1:60 2m

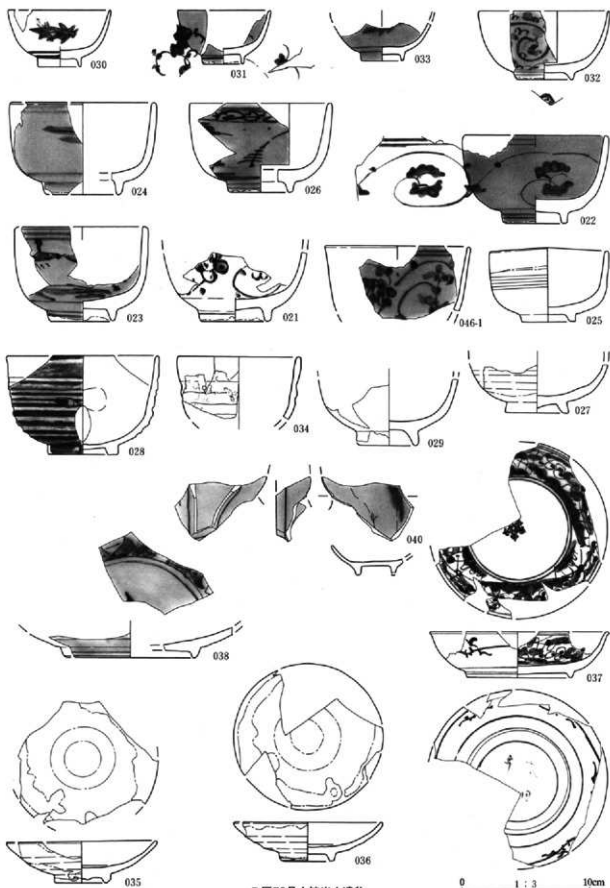


C区14号土坑出土遺物

C区14号土坑遺物観察表

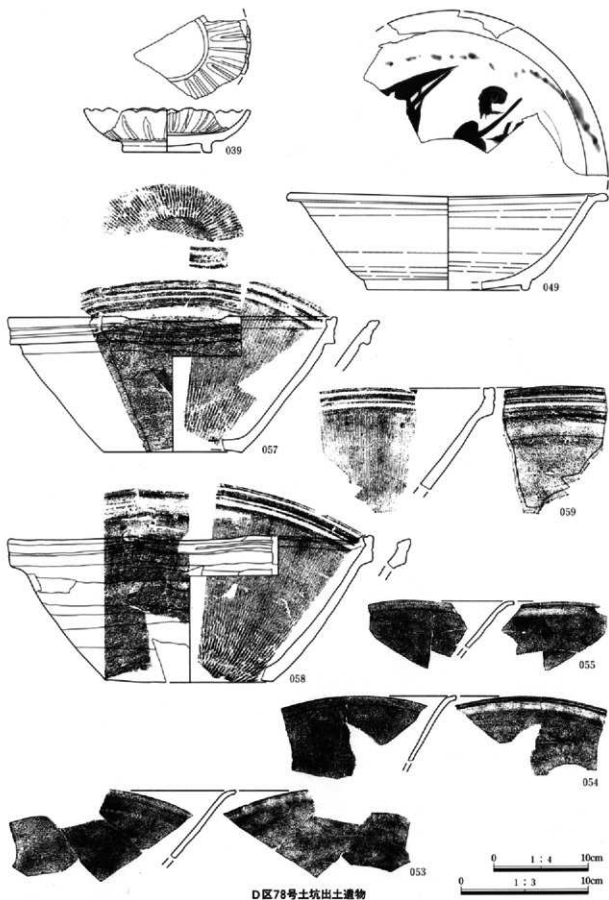
番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴		残存状態
375	陶器 供器手碗	埋没土	口径 - 底径 (5.1) 器高 4.7+	肥前。高台の扱りは浅い。高台肩部摩滅する。細かい貫入の入る透明釉を施す。		体部下位以下3/4残。17世紀。
376	陶器 菊皿	埋没土	口径 (6.4) 底径 (6.4) 器高 2.2	瀬戸・美濃。内面から高台輪に灰釉を施す。見込みに目取2ヶ所残る。		体部下位以下1/2残。17世紀-18世紀初期。
377	磁器 小碗	埋没土・D区10溝埋没土	口径 (6.3) 底径 - 器高 3.6+	製作地不詳。外面不明文様の染め付け。		口縁-体部中位1/3残。
番号	種類	出土位置	計測値	①胎土 ②焼成 ③色調	器形、成・整形等の特徴	残存状態
407	埴筒 円筒	埋没土・16土層没土	器高 4.2+ 口径 1.5- 器厚 3.0	①白色灰物・石英・粗砂 ②普通 ③外 緑5YR 6/5 内 黄い赤黒5YR4/4	器表の摩滅が顕著。外面 タテハケ後突帯貼り付け、突帯台形で下機が突出。内面 ナデ。最下位に指押さえと思われる圧痕が残る。	突帯破片。
408	埴筒 円筒	埋没土	器高 7.3+ 口径 1.6- 器厚 2.1	①粗砂・白色灰物、微量の石英・赤褐色灰物 ②普通 ③灰白10YR8/2	外面 2cm 9本のタテハケ後突帯貼り付け、突帯M字形で上機が突出。内面 ナメ方向ナデ。	突帯を含む胴部破片。
番号	種類	出土位置	計測値	器形等の特徴		残存状態
499	石製品 粉ひき白上白	埋没土	上面径 約28 高さ 8.2-12.9 上縁幅 24 両高さ 2.5 呑み 1.2 重量 1856.6 粗粒輝石安山岩	器表はやや雑な仕上げ。上縁上面は摩滅する。底面は摩滅し、片減りが著しい。		1/8残。
500	石製品 砥石	埋没土	長さ 14.7 幅 7.2 厚さ 4.5-5.0 重量 925.8 砂岩	磨面は主に1面で使用により湾曲するが、他の面にも筋状の磨痕がある。		完形。

4. 土坑



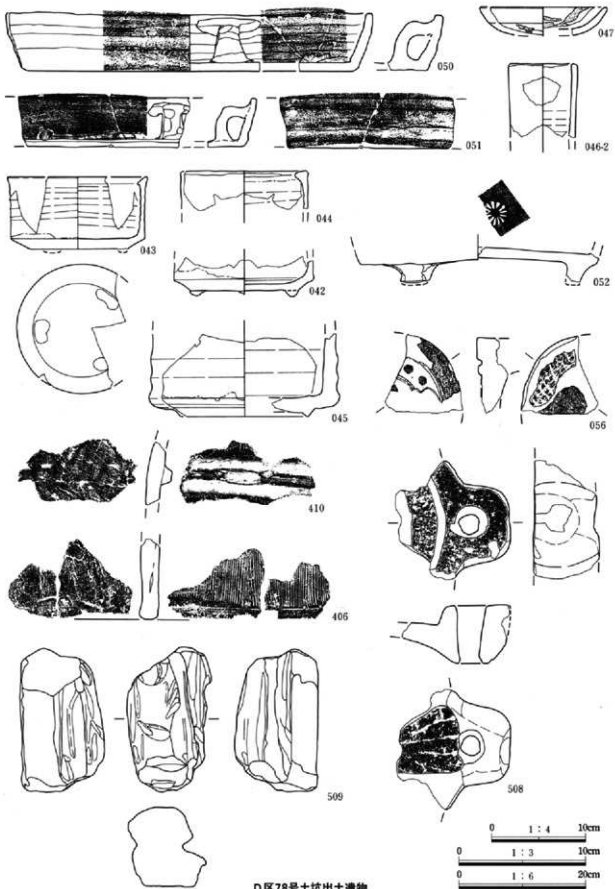
D区78号土坑出土遗物

0 1:3 10cm

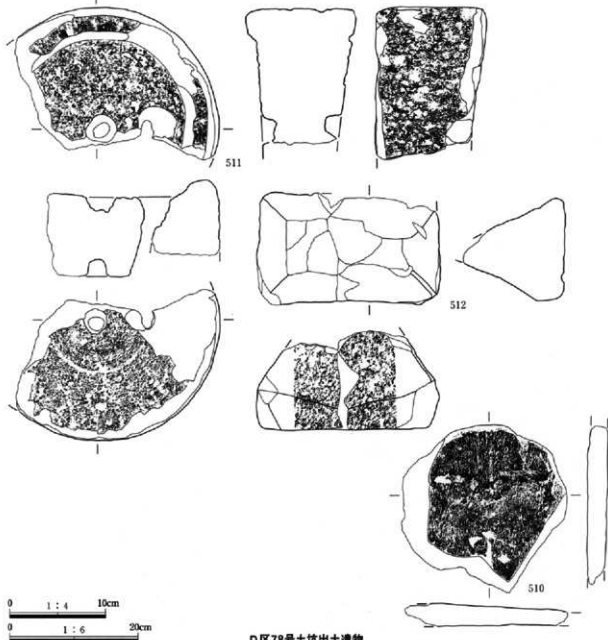


D区78号土坑出土遺物

4. 土坑



D区78号土坑出土遗物



D区78号土坑出土遺物

D区78号土坑遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態備考
021	陶器 碗	埋没土	口径 — 底径 5.6 器高 5.5+	肥前。外面に唐草文と花卉文を描く。外面の軸は白濁する。陶胎染付。	体部下位以下残。 18世紀前半。
022	陶器 碗	埋没土	口径 11.4 底径 5.0 器高 6.9	肥前。外面に唐草文を大きく描く。高台径大きい。陶胎染付。	高台1/2、体部1/4欠。 18世紀前半。
023	陶器 碗	埋没土	口径 (10.4) 底径 5.0 器高 7.4	肥前。外面東屋山水文。陶胎染付。	体部上半以上7/8欠。 18世紀前半。
024	陶器 碗	埋没土	口径 (11.5) 底径 (5.9) 器高 7.3	肥前。文様不明。陶胎染付。	口縁部 1/8、体部 1/4残。
025	陶器 腰筒碗	埋没土	口径 (9.4) 底径 4.2 器高 5.9	瀬戸・美濃。口縁部外面に螺旋状凹線を巡らす。内面から凹線のやや上に灰軸、以下に錫軸を施す。高台端部無軸。灰軸に軽い貫入する。	口縁～体部中位 1/2欠。 18世紀後半。

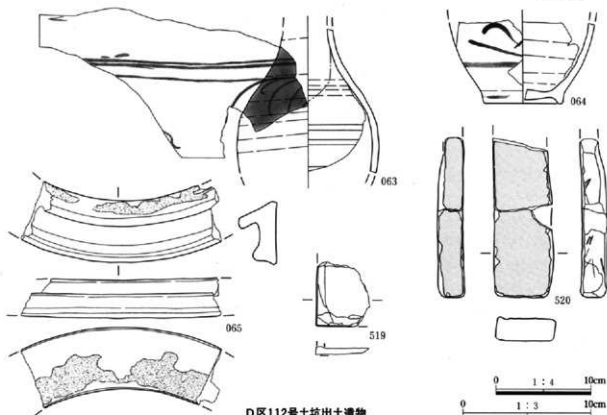
4. 土坑

026	陶器 碗	埋没土	口径 (11.2) 底径 (5.0) 器高 7.1	肥前。外面山水文。陶胎染付。	口縁部の一部、以下1/4残。
027	陶器 碗	埋没土	口径 — 底径 4.8 器高 3.8+	瀬戸・美濃。内面から高台脇に胎輪を施す。軸に貫入が入る。	体部下位以下残。
028	陶器 碗	埋没土	口径 (11.8) 底径 5.5 器高 7.8	瀬戸・美濃。口縁部から体部外面に螺旋状凹線を高くし、体部の4ヶ所を外方から覆ませる。全面に鉄化粒を施す。口縁部から体部に鉄輪を拵けたと思われ、白濁している。	口縁部の一部、体部1/4、底部残。
029	陶器 呉器手碗	埋没土・ D区5溝 埋没土	口径 — 底径 4.6 器高 5.8+	肥前。高台の挟りは浅い。高台端部を除き透明釉。	高台端部を1/2欠いて体部下位以下残。
030	磁器 碗	埋没土	口径 (8.1) 底径 (3.4) 器高 4.5	肥前。体部外面にコンニャク判による染め付け、高台脇に2条の圈線。高台は薄く、やや高い。	口縁～体部中位 5/8、高台1/2欠。
031	磁器 小碗	埋没土	口径 7.3 底径 3.2 器高 4.3	肥前。外面の一方に朝顔状の文様を施す。	口縁～体部1/4欠。
032	磁器 碗	埋没土	口径 (10.1) 底径 (4.2) 器高 5.4	肥前。外面唐草文、高台内欠損の為、銘不明。呉領の発色はやや紫がかかる。	口縁～体部の一部、底部1/4残。
033	磁器 小碗	埋没土	口径 — 底径 3.2 器高 2.8+	肥前。外面不明主文様はコンニャク判。体部下位に2条の圈線。	体部下位1/4、底部1/2残。
034	陶器 腰掛碗	埋没土	口径 (9.6) — 底径 — 器高 4.9+	瀬戸・美濃。内面から口縁部外面に灰輪を、体部外面に踏輪を施す。体部外面に長石輪を深状に施す。	口縁部の一部、体部中位以上1/6残。 18世紀前半。
035	陶器 青緑輪皿	埋没土	口径 (11.8) 底径 4.0 器高 3.3	肥前。見込み蛇の目輪割ぎ。内面から高台脇に胎輪。	口縁～体部上半 5/6欠。内野山。 18世紀前半。
036	陶器 青緑輪皿	埋没土	口径 11.7 底径 4.1 器高 3.1	肥前。見込み蛇の目輪割ぎ。内面から高台脇に胎輪。	体部上半以上1/2、 以下1/4欠。内野山。 18世紀前半。
037	磁器 皿	埋没土・ D区5溝 埋没土	口径 (14.1) 底径 8.2 器高 3.7	肥前。口縁部内面不明文様。見込み丁寧な五弁弁。外面唐草文。高台内一重圈線内に「大明年製」。呉領の発色は良。やや焼成不良で粗い貫入が入る。	口縁部3/4、以下1/4欠。
038	磁器 中皿	埋没土	口径 — 底径 10.0 器高 2.4+	肥前。胎土灰白色。呉領の発色はやや薄い。外面に粗い貫入が入る。	体部下半以下1/4残。
039	陶器 菊皿	埋没土	口径 (13.0) 底径 7.0 器高 3.5	瀬戸・美濃。内面から高台脇に胎輪を施す。口縁部に銅緑輪を施した為か、白濁する。	口縁部1/9、以下3/6残。
040	磁器 皿	埋没土	長さ 5.0+ 幅 7.3+ 器高 2.7+	肥前。摺押し成形の變形皿。内面は山水文か。	口縁～底部破片。
042	陶器 香炉	埋没土	口径 — 底径 8.4 器高 3.2+	瀬戸・美濃。底部に3ヶ所脚を貼り付ける。体部外面に胎輪を施す。	体部最下位以下5/6残。
043	陶器 香炉	埋没土	口径 (11.0) 底径 7.6 器高 5.7+	瀬戸・美濃。底部に3ヶ所脚の貼り付けが残る。口縁部内面から体部外面に胎輪を施す。	口縁～体部1/6、 底部5/6残。
044	陶器 香炉?	埋没土	口径 (10.1) — 底径 — 器高 3.0+	瀬戸・美濃。口縁部内面から体部外面に胎輪を施す。口縁端部内外面に小さい割線があり、灰濁として使用された可能性がある。	口縁～体部上位1/4残。
045	陶器 ?	埋没土	口径 — 底径 (10.0) 器高 6.6+	瀬戸・美濃。体部外面に幅広い凹線が走る。体部外面に胎輪を施す。内面鉄化粒。高台は低い。	体部下位以下1/4残。
046-1	陶器 碗	埋没土	口径 (11.4) — 底径 — 器高 5.7+	肥前。外面に唐草文をやや丁寧に描く。軸裏がやや白濁する。陶胎染付。	口縁部の一部、体部中位以上1/4残。
046-2	陶器 灰帯とし	埋没土	口径 (5.5) — 底径 — 器高 5.9+	瀬戸・美濃。口縁部と体部はやや内傾し、直線的に立ち上がる。口縁端部内面から外面に細かい貫入の入る透明釉を施す。口縁端部は叩打により器表が割断する。	体部上半以上1/4残。
047	陶器 灯明皿	埋没土	口径 (10.0) — 底径 — 器高 2.2+	志戸呂。内面から体部外面に鉄泡を施す。内外面に油煤付着。	口縁～体部中位1/4残。
049	陶器 鉢	埋没土・ C区8土 埋没土	口径 (33.8) 底径 (17.0) 器高 10.2	瀬戸・美濃。口縁部反し、口縁端部内面は低い尖帯が走る。見込みを中心に鉄粒を播き、口縁部から体部内面に銅緑輪を散らす。高台端部と高台内の一部を除き灰輪を施す。	3/8残。 17世紀末頃か。

上増田島遺跡C・D区第2面

050	土器 埴輪	埋没土・ D区土坑 埋没土	口径 底径 器高	(38.2) (33.8) 6.1	在地系。外面底部から体部下位に製作痕が残る。体部から口縁部外面に継作り痕が残る。横し焼成。体部外面に煤が付着。耳が1ヶ所残存。	1/4残。	
051	土器 埴輪	埋没土	口径 底径 器高	(38.4) (36.0) 5.2	在地系。外面底部から体部下位に製作痕が残る。横し焼成。耳が1ヶ所残存。	口縁～底部外縁1/4残。	
052	土器 火鉢	埋没土	口径 底径 器高	— (24.8) 3.7+	在地系。底部外面に製作痕を残す。方形の脚を貼り付け、1ヶ所残存。足込みに靑い菊花状押印が1ヶ所残存。	底部1/4残。	
053	土器 鍋	埋没土	口径 底径 器高	(38.4) — 7.1+	在地系。外面に継作り痕が残る。口縁部は小さく外方に開く。外面に煤が付着。	口縁～体部上半破片。	
054	土器 鍋	埋没土	口径 底径 器高	(34.4) — 5.9+	在地系。外面に継作り痕が残る。口縁部は小さく外方に開く。外面に煤が付着。	口縁～体部上半破片。	
055	土器 鍋	埋没土	口径 底径 器高	— — 4.9+	在地系。外面に継作り痕が残る。口縁部は小さく外方に開く。外面に煤が付着。	口縁～体部上位破片。	
057	陶器 すり鉢	埋没土・ D区2区土 埋没土	口径 底径 器高	(34.3) (14.6) 14.3	塚。底部外面縁低い高台状を為す。口縁部内面の突帯はシャープな断面三角形。片口部内面唇形内に「長?上」の押印1ヶ所あり。底部内面は使用により摩滅する。	片口を含む1/3残。 18世紀前半。	
058	陶器 すり鉢	埋没土・ D区2区土 埋没土	口径 底径 器高	(38.2) (17.4) 15.7	塚。口縁部縁帯とし、内面に断面三角形の突帯を為す。外面口縁部下削り。口縁部上面を押さえ、片口部を大きく作る。内面体部下位から底部使用により摩滅する。	口縁～体部1/4、 底部欠。	
059	陶器 すり鉢	埋没土	口径 底径 器高	— — 10.7	塚・明石。口縁部は厚みのない縁帯をなし、内面の突帯は断面三角形を呈する。	口縁～体部中位破片。	
番号	種類 瓦 軒丸	出土 位置	計測値		①胎土 ②胎色 ③焼成 ④重さ	形状等の特徴	残存状態 備考
056	瓦 軒丸	埋没土	瓦角部径 外縁幅 文様区深さ	14.2 2.1 0.5	①透明～白色底物 ②灰 ③還元・差 ④やや軽	カキヤブリ刻目あり。底内底か。	瓦角部1/6残。
番号	種類 埴輪 円筒	出土 位置	計測値		①胎土 ②焼成 ③色調	器形、成・整形等の特徴	残存状態 備考
406	埴輪 円筒	埋没土・ D区表採	器高 器厚	8.4+ 2.0～2.2	①白色底物・粗砂、微量の赤褐色底物・石英 ②普通 ③外 褐灰 7.5YR4/2 内 明赤 褐2.5YR5/6	外面 2cm 9本のタテハケ後底面に接する位置をヨコナテ。 内面 ナメメ方方向ナテ。底面付近が重む。	基底部破片。
410	埴輪 円筒	埋没土	器高 器厚	6.8+ 1.5～2.6	①黒色底物・粗砂、白色・赤褐色底物微量②普通 ③鈍い貫粒10YR7/3	外面 2cm 9本のタテハケ後突帯貼り付け、突帯M字形で上下の横の突出が同等。 内面 ナメメコ方向ナテ。	突帯を含む胴部破片。
番号	種類 器種	出土 位置	計測値		器形等の特徴		残存状態 備考
508	石製品 粉きり白 上白	埋没土	長さ 上縁幅 穴径 重量	17.8 幅 18.7 高さ 10.3 3.2 同高さ 2.7 挽き手 約3～5 含み 4.1 2363 粗粒輝石安山岩	器表はやや粗な仕上げだが、上面挽き手穴周辺は平滑。側面端部の磨表は剥離する。底面は使用により摩滅し、目はやや残存。		挽き手部周辺破片。
509	石製品 ?	埋没土	長さ 重量	15.2 幅 8.1 高さ 8.4 911.6 馬見層湖灰岩	平坦に仕上げた1面が底面か。この面にやや平行して中段面をもつ。器表全体に平坦な工具痕をもつ。		一部欠。
510	石製品 板碑	埋没土	長さ 重量	17.7 幅 17.4 厚さ 2.2 1060.3 緑色片岩	キリク種子の一部が残る阿弥陀種子。下部欠損の為、尊数不明。二条線・枠線はなし。頂部山形の上縁と右側面の2ヶ所に磨表が見られ、二次的な使用痕か。種子は彫り込みの浅い蓋形彫り。		破片。 14世紀中頃か。
511	石製品 粉きり白 上白	埋没土	上面径 同高さ 芯穴径 重量	約38 高さ 17.1 上縁幅 2.4 同高さ 1.0～2.0 含み 2.1 約3.5 供給口径 約5 1221 粗粒輝石安山岩	器表は細な仕上げだが、上縁上面は平滑。供給口は上面楕円形で、下がるに促って穿てる。上面中央に径約5cmの窪みをもつ。底面はやや平滑で、目は確認できない。縦浅い縁状のものかばりが残存部全体に認められる。		3/8残。
512	石製品 ?	埋没土	長さ 高さ 重量	17.8 幅 28.3 底面幅 25.5 高さ 15.6+ 重量 6967 粗粒輝石安山岩	五輪等火輪に似るが、平面長方形を呈す。器表はやや粗な仕上げ。全体に密着し赤化。		上面欠。

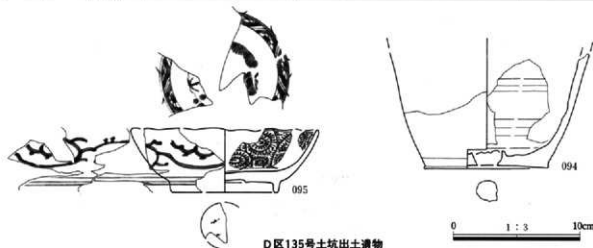
4. 土坑



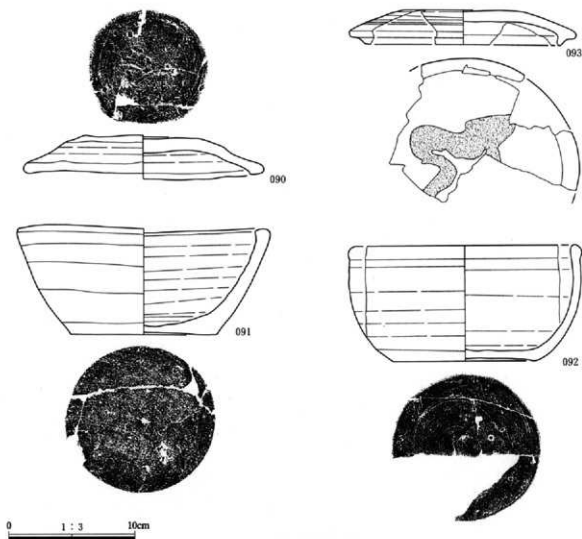
D区112号土坑出土遺物

D区112号土坑遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態
063	磁器 徳利	埋没土・ 177~179土	口径 — 底径 — 器高 11.2+	肥前?。文様不明。	胴~胴部1/2残。 流注見系。
064	磁器 徳利	埋没土・ 177~179土	口径 — 底径 (6.1) 器高 6.5+	肥前?。外面に植物文を染め付ける。内面は無釉。外面の釉は白濁する。	胴部下手以下1/2残。焼成不良。 流注見系?。
065	土器 釜輪	埋没土	外径 約37 幅 4.8 器高 3.0	在地系。幅は広く、釜を据える部分は外傾する。断面と器表が灰黒色、その間が灰白色を呈する。底部から内面に架附着。	1/6残。
519	石製品 硯	埋没土	長さ 4.9+ 幅 4.1+ 高さ 0.7+ 重量 18.7 頁岩	器表は磨いて丁寧に仕上げる。硯に細かい擦痕が残る。	硯一隅の破片。
520	石製品 砥石	埋没土・ 177~179土	長さ 12.4+ 幅 4.2~4.7 厚さ 1.9 重量 177.4 砂岩	主に2面を磨面とする。幅が広く、据え置いて使用か。	一端欠。



D区135号土坑出土遺物

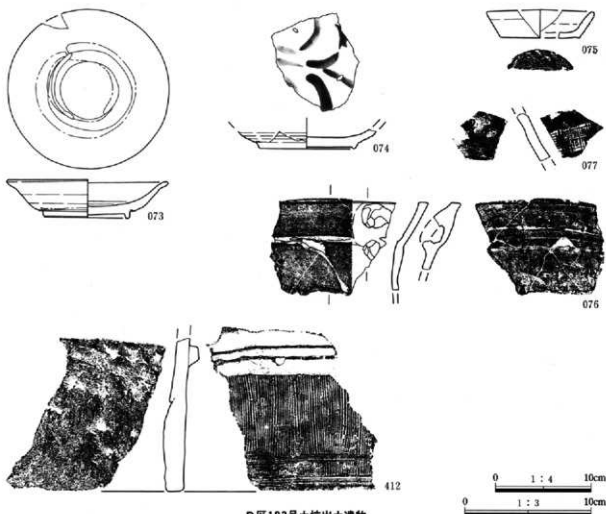


D区135号土坑出土遺物

D区135号土坑遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態
090	土器 壺	底面直上	天井径 8.8 口径 18.8 器高 3.3	在地系。天井部外面周縁彫り後回転調整。轆轤調整。えな壺か。	定形。 091の壺。
091	土器 鉢	底面直上	口径 19.9 底径 11.5 器高 8.7	在地系。底部外面余切りか。轆轤調整。えな壺か。	定形。 090の身。
092	土器 鉢	埋没土	口径 (17.2) 底径 11.1 器高 9.1	在地系?。底部外面から体部下端左回転彫り。轆轤調整。口径部玉縁状を為す。えな壺か。	口径~体部3/4、 底部1/4欠。 093の身。
093	土器 壺	埋没土	天井径 (8.7) 口径 (17.9) 器高 2.7	在地系?。形状は帆倉器壺と同様。えな壺か。	1/4残。 092の壺。
094	土器 横木鉢	埋没土	口径 - 底径 9.8 器高 9.1+	在地系。轆轤調整。底部中央に外方から木抜き穴をあける。押し焼成。	体部下位以下残。
095	磁器 皿	埋没土・D区289土埋没土・表層	口径 (14.8) 底径 (8.5) 器高 5.0	肥前。蛇の目凹型高台。口径部から底部外面いむゆる納密草。見込み三友。高台内「大明年製」か。	口径~体部1/4、 底部1/2残。

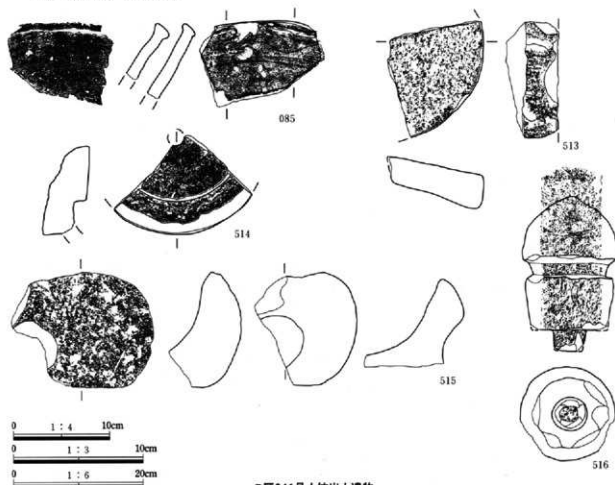
4. 土坑



D区183号土坑出土遺物

D区183号土坑遺物観察表

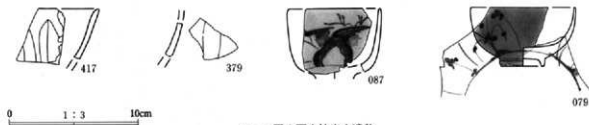
番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考	
073	陶器 輪壳皿	埋没土	口径 12.6 底径 6.6 器高 3.0	瀬戸・美濃。断面方形のシャープな高台を有する。口縁部は外反する。見込み周縁を僅かに高くし、その部分の軸を掻き取る。鉄軸をやや薄く施す。	ほぼ完形。 17世紀。	
074	陶器 皿	埋没土	口径 — 底径 7.4 器高 1.6+	瀬戸・美濃。内面に鉄給具で蘭竹文を掻く。見込みと高台内に2ヶ所目痕が残る。内面から高台外面鉄軸を撫す。	体部下位～底部 1/2残。 17世紀。	
075	土器 皿	埋没土	口径 (8.4) 底径 (6.2) 器高 2.1	在地系。底部左回転糸切り無調整。見込み周縁から体部下位内面を回転撫でにより凹線状に窪ませる。	底部中央を欠いて 1/4残。 中世。	
076	飲食陶器 内耳鍋	埋没土	口径 — 底径 — 器高 9.6+	口縁部内面下に段を有する。段差部分は強い滑でを高らす。口縁部中位外面に縫作り痕が残る。耳が1ヶ所残存。	口縁～体部上半破片。 中世。	
077	陶器 壺?	埋没土	口径 — 底径 — 器高 5.2+	常滑。外面に叩きあり。	体部破片。 中世。	
番号	種類 器種	出土 位置	計測値	①胎土 ②焼成 ③色調 器形、成・整形等の特徴	残存状態 備考	
412	埴輪 円筒	+37cm	器高 7.3+ 器厚 1.3 ~ 2.4	①粗砂・軽石・白色産物 ②普通 ③外 鈍い赤褐5YR5/4 内 鈍い赤褐2.5YR5/4	外面 2cm9本のタテハケ後底面に撥する位置と下位を施す工具でヨコナデ・突帯貼り付け。突帯M字形で上下の後の突出が同等。 内面 最下位に粘土板製作時の工作台の圧痕と指押さえと思われる圧痕が残る。下位ヨコ方向ナゲ後タテ方向ナゲ突帯に対応する位置付近をヨコ・ナゲヨコ方向ナゲ。	基底部～側部第1段破片。



D区214号土坑出土遺物

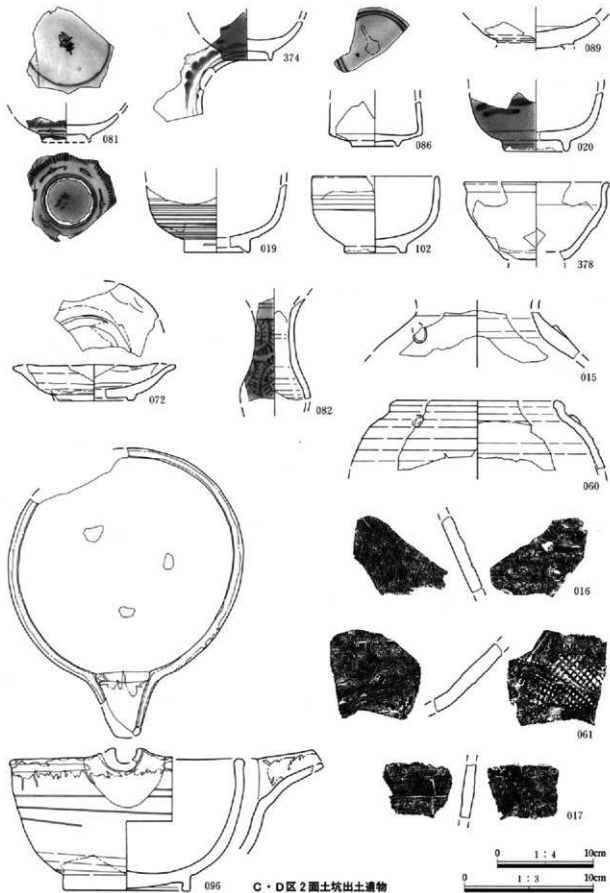
D区214号土坑遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
085	軟質陶器 すり鉢	+9	口径 — 底径 — 器高 7.7+	口縁端部は内外面に張り出す。焼成は酸化焰の須恵器に近いが、器表は焼し仕上げ。体部中位は使用によりやや摩滅する。	片口部を含む口縁—体部中位破片。中位。
513	石製品 粉ひき臼	埋没土	上面径 約29.5 高さ 8.0+ 含み 2.9 挟り 3.9 重量 1758 粗粒輝石安山岩	器表は丁寧に仕上げるが、側面端部に割離が顕著。上面はやや摩滅し、目は観察できない。	中心を欠いて1/4残。
514	石製品 茶臼	+7	上面径 約19 高台径 約28 受皿部幅 5.1+ 金高 7.1 高台高 2.9 含み 0.5 芯穴径 2.7 重量 1621 粗粒輝石安山岩	底面は工具痕を多く残す。他の器表は丁寧に仕上げるも、一部磨損が強く残る。上面は使用で摩滅し、目は観察できない。残存部は受け皿を高台へ続く屈曲部から欠く。	受け皿を欠いて1/4残。
515	石製品 鉢?	埋没土	長さ 7.7 幅 14.7 高さ 12.0 重量 712 粗粒輝石安山岩	器表はやや丁寧に仕上げる。底面と思われる平組部の器表は平滑化。外面体部に半球状の凹みを設ける。	底部中心を欠いて1/4残。
516	石製品 五輪塔 空風輪	+17	高さ 24.1 最大径 14.8 底面径 軸長 3.3 軸径 5.3 重量 4617 粗粒輝石安山岩	器表はやや丁寧な仕上げで、風化する。宝珠頂部はあまり尖らず、空輪から空風間の溝へはなだらかに移行する。	一部欠。



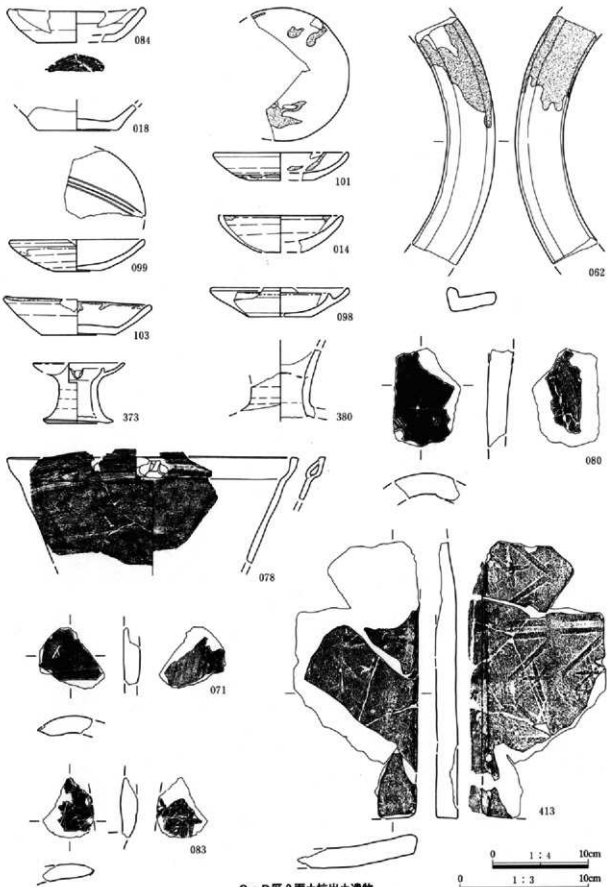
C・D区2面土坑出土遺物

4. 土坑



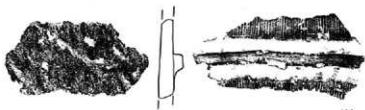
C·D区2面土坑出土遗物

上増田島遺跡C・D区第2面

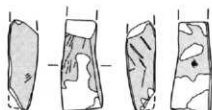


C・D区2面土坑出土遺物

4. 土坑



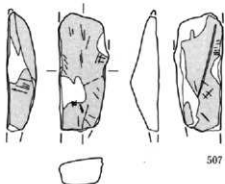
411



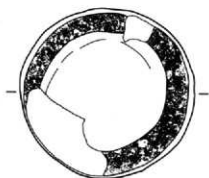
561



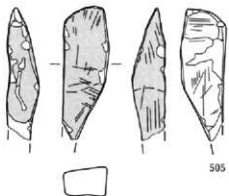
088



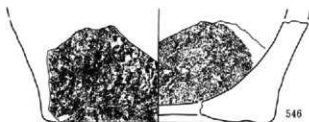
507



521



505

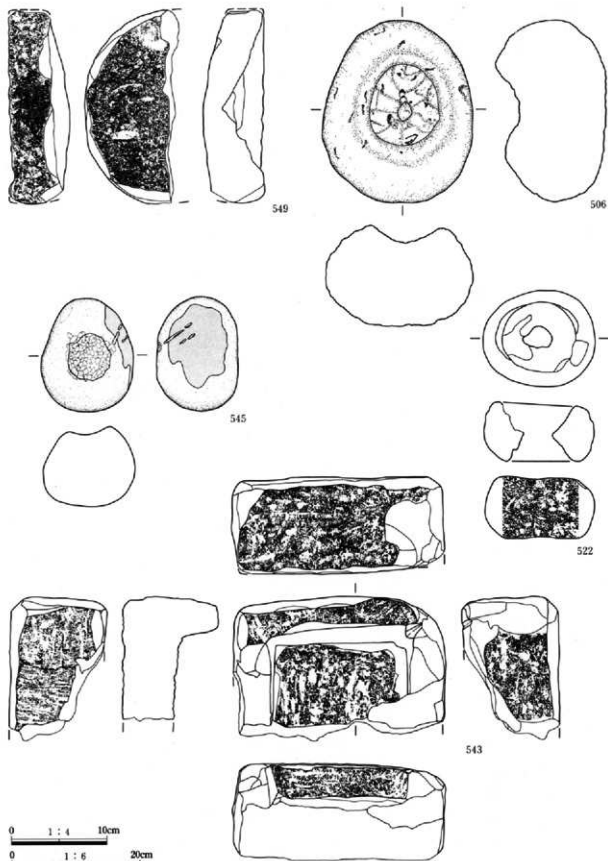


546

0 1:4 10cm

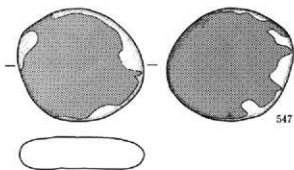
0 1:3 10cm

C·D区2面土坑出土遗物



C・D区2面土坑出土遺物

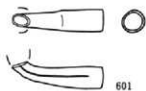
4. 土坑



547



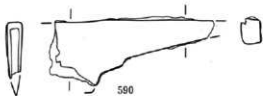
526



601



596



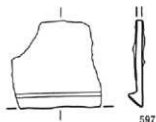
590



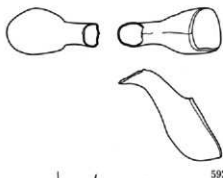
598



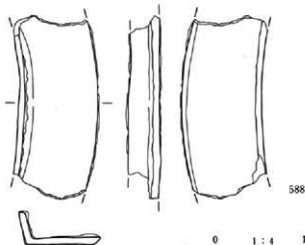
595



597



592



588



C·D区2面土坑出土遗物



C・D区2面土坑遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	器形などの特徴	残存状態備考
014	土器 土器	D区64土埋没土	口径(9.8) 底径— 器高2.9+	在地系。体部から口縁部内肉刃味に立ち上がる。口縁部に1ヶ所油泥が付着。調整時の轆轤は右回転。	底部を欠いて1/5残。中世。
015	陶器 耳壺	D区66土埋没土	口径— 底径— 器高3.8+	瀬戸・美濃。外面に胎輪を施す。耳が1ヶ所残存。	頸部・肩部破片。古瀬戸。
016	陶器 壺	D区67土埋没土	口径— 底径— 器高8.0+	常滑。	体部上位破片。中世。
017	陶器 壺	D区67土埋没土	口径— 底径— 器高5.7+	常滑。	体部破片。中世。
018	土器 土器	D区67土埋没土	口径(6.2) 底径— 器高2.0+	在地系。底部左回転糸切り無調整。見込み中央が盛り上がり、周縁が低い。内面底部と体部の境はやや不明瞭。	体部下半～底部1/2残。
019	陶器 碗	D区76土・D区5溝埋没土	口径(5.2) 底径5.3+	瀬戸・美濃。高台径は小さく、腰部の張りは強い。体部から高台縁の回転痕削りは全無。内面から高台縁に胎輪を施す。高台縁から高台内に胎輪を化粧風に薄く施す。残存部にウノフ輪は認められない。	体部下半以下1/4残。
020	陶器 碗	D区77土埋没土	口径— 底径4.8 器高4.6+	肥前。外面に染め付け。文様不明。胎輪染付。	体部下半以下1/2残。
060	陶器 耳壺	D区83土埋没土	口径(12.6) 底径— 器高5.5+	瀬戸・美濃。短頸で口縁短部の輪は薄く、無輪に近い。口縁部内面から外面に胎輪に近い胎輪を施す。耳が1ヶ所残存。	口縁部から体部上位1/6残。
061	陶器 甕?	D区86土埋没土	口径— 底径— 器高7.0+	常滑系。外面は格子印。内面に降灰が認められる。	体部下位破片。中世。
062	土器 釜	D区111土埋没土	口径約33 幅3.8 器高1.9	製作地不詳。無輪。釜と接する内面上部は小さく面取りする。破損後復付着。	1/6残。
072	陶器 輪文皿	D区177～179土埋没土	口径(12.7) 底径(6.3) 器高3.0	瀬戸・美濃。口縁部は開く。見込み周縁を土手状に高くして輪を焼き取るが、ずれる部分がある。内面から高台縁に胎輪を施す。	口縁部1/6、体部以下1/4残。
078	土器 内耳罎	D区111-114・150-184土埋没土	口径(30.6) 底径— 器高11.3+	在地系。口縁部は小さく屈曲する。口縁部内面に退化した耳を貼り付ける。口縁部下と体部外面に紐付痕が明瞭に残る。焼し焼成。	口縁～体部中位1/4残。
079	磁器 碗	D区200-201土埋没土・800-785	口径(8.3) 底径3.4 器高4.6	肥前。外面花卉文。	口縁～体部上手5/6欠。波位見系。
081	磁器 碗	D区208-218土埋没土	口径— 底径— 器高2.1+	瀬戸・美濃。見込み「寿」字文。体部下位に焼き継ぎ。高台内焼き継ぎ時の文字を透明と赤の2色で書く。赤文字は「増田」、19世紀中頃。	高台底部を欠いて体部下位以下残。焼き継ぎ。
082	磁器 皿	D区208-218土埋没土	口径— 底径— 器高8.3+	肥前。外面はいわゆる輪唐草文。内面は無輪。	頸～肩部3/4残。
084	土器 土器	D区213土埋没土	口径(10.8) 底径(6.0) 器高2.2	在地系。底部回転糸切り無調整。	底部中央を欠いて1/4残。中世?
086	磁器 筒形碗	D区247土埋没土	口径— 底径3.9 器高3.5+	肥前。青磁染め付け。外面に青磁輪を施す。内面染め付け。	体部下位1/4、底部1/2残。
087	磁器 小碗	D区247土埋没土	口径(7.2) 底径— 器高5.2+	瀬戸・美濃。外面山水文。	口縁～体部下位1/4残。
088	土器 ?	D区264-265土埋没土	口径(44.6) 幅8.1 器高3.9+	龍入系?。他の製品に比して胎土は緻密で、調整は丁寧。残存部は石臼のはんざりの様な形状を呈する。酸化焙焼成。一部器表が剥離。	破片。
089	磁器 青磁碗	D区271土埋没土	口径— 底径— 器高2.5+	中国製。内面から高台外面に青磁輪を施す。高台内は無輪。	高台を欠いて体部下位～底部1/4。焼成不良。
096	陶器 片口鉢	D区308-313土埋没土	口径18.4 底径10.0 器高11.2	瀬戸・美濃。口縁部を玉縁状に肥厚させ、片口部は外方に大きく突き出す。高台縁から内面に胎輪を、口縁部にウノフ輪を施す。見込みに3ヶ所の目度。	口縁部・片口部一部欠。18世紀前半～中世。
098	陶器 灯明受皿	D区338土埋没土	口径(11.0) 底径(5.0) 器高2.3	京・信楽系。内面から口縁端部外面に細かい貫入の透明輪を施す。外面は丁寧な回転痕削り。	口縁部1/8、以下1/4残。墨表～明治。
099	陶器 灯明皿	D区338土埋没土	口径(10.6) 底径(3.5) 器高2.5	京・信楽系。底径が小さい。内面に3本1單位の掻き目を入れる。内面から口縁端部外面に細かい貫入の透明輪を施す。外面は丁寧な回転痕削り。	1/4残。墨表～明治。

4. 土坑

101	陶器 灯明瓦	D区280土 壇没土	口径 底径 器高	10.6 5.1 2.2	瀬戸・美濃。全面輪軸輪軸状、底部外面から体部の軸を拭う。	1/2残。	
102	陶器 腰調碗	D区287土 壇没土 810-785	口径 底径 器高	(9.8) 4.9 6.1	瀬戸・美濃。口径部外面下に環状凹線を巡らす。高台内から凹線まで鉄軸を内面から凹線まで灰軸を施す。	口径部5/6欠。	
103	土器 皿	D区400土 周辺	口径 底径 器高	11.6 5.8 3.1	在地系。底部左回転糸切り無調整。体部は直線的に開く。口径部が一部脱落。	口径部1/2欠。	
373	陶器 脚付灯明 受皿	C区6土 +41	口径 底径 器高	(7.2) 5.5 4.8	京・信楽系。底部右回転糸切り無調整。底部外面を除き灰軸。胎土淡黄色。	口径部3/4欠。 19世紀中頃～後半。	
374	磁器 碗	C区7土 壇没土	口径 底径 器高	— (3.7) 3.7	肥前。外面に花卉文を描く。	体部下位以下3/4 残。波佐見系。 焼成不良。	
378	陶器 天目碗	C区15・16 土壇没土	口径 底径 器高	(11.2) (4.4) 6.2+	瀬戸・美濃。体部直線的に開き、口径部は直立した後に外反する。軸は僅かに木目状となる。	口径部1/4、体部 1/2残。	
379	磁器 青磁碗	C区16土 壇没土	口径 底径 器高	— — 2.7	龍泉窯系青磁。外面輪軸文。	体部破片。 中散。	
380	須恵系 長調碗	C区16土 壇没土	口径 底径 器高	— — 5.3+	外面 輪軸整形。内面 頸部輪軸整形。輪軸み痕あり。肩部推で。頸部を中心に自然輪軸付着。	頸部下位～肩部 残。	
417	磁器 青磁碗	D区114土 壇没土	口径 底径 器高	— — 3.9+	龍泉窯系青磁。外面輪軸文。内外面とも使用によるとと思われる摩滅が顕著。	口径部～体部上平破 片。 中散。	
番号	種類 器種	出土 位置	計測値		①胎土 ②胎色 ③焼成 ④重さ	形状等の特徴	残存状態 備考
071	瓦 丸	D区173土 壇没土	長さ 幅 厚さ	6.4+ 6.9+ 1.4～1.7	①透明～白色磁物 微量 ②灰 ③濃 元・硬質 ④並	布目細かい。布の磨り合わせ痕なし。粘土板の接合面なし。粘土板の割継条痕なし。回転条痕あり。側面面取回数3。芯型2枚制。鼎外産。	側部を含む瓦部破 片。 13世紀。
080	瓦 丸	D区207土 壇没土	長さ 幅 厚さ	10.5+ 7.0+ 1.8～2.4	①透明～白色磁物 微量 ②灰 ③濃 元・硬質 ④並	布目細かい。布の磨り合わせ痕あり。粘土板の接合面なし。粘土板の割継条痕なし。回転条痕あり。芯型2枚制。鼎外産。	側部を含まない破 片。 13世紀。
083	瓦 丸	D区209・ 210土壇没 土	長さ 幅 厚さ	6.3+ 5.2+ 1.5	①透明～白色磁物 微量 ②灰 ③濃 元・硬質 ④並	有段。布目細かい。布の磨り合わせ痕なし。粘土板の接合面なし。粘土板の割継条痕なし。回転条痕あり。鼎外産。	側部を含む瓦部破 片。 13世紀。
413	瓦 平	D区207土 壇没土	長さ 幅 厚さ	29.1+ 13.0+ 2.1	①赤胎、透明～白色 磁物微量 ②淡褐 ③磁化④やや重	布目見えず。裏・裏面砂付着。裏面格子～菱目状圧痕。側面面取回数2。1枚作りか。鼎外産。	側部・端部を含む 破片。 13世紀。
番号	種類 器種	出土 位置	計測値		①胎土 ②焼成 ③色 調	器形、成・整形等の特徴	残存状態 備考
411	埴輪 円筒	D区182土 壇没土	器高 器厚	8.3+ 1.5～ 3.0	①白色磁物・粗砂、微 量の石灰 ②普通 ③ 外 灰黒75YR42 内 黄い赤黒5YR5/4	外面 2cm9本のタテハケ後突帯貼り付け、突帯台形で上下の縁の突出が同等。内面 タテ方向ナダ後突帯に対応する位置をヨコ方向ナダ。	突帯を含む胴部破 片。
番号	種類 器種	出土 位置	計測値		器形などの特徴		残存状態 備考
505	石製品 砥石	D区66土 壇没土	長さ 幅 重量	10.5+ 2.4 11.3	砥石	4面を使用し、使用により湾曲・屈曲する。	一隅欠。
506	石製品 凹み石	D区67土 壇没土	長さ 幅 重量	19.1 15.7 33.7	粗粒輝石安山岩	円縁の平面頂部が叩打により凹む。反対面は磨いた為かやや滑潤する。	完形。
507	石製品 砥石	D区72土 壇没土	長さ 幅 重量	9.3+ 3.8 2.3	粗粒輝石安山岩	主に3面を磨面とし、使用により湾曲・屈曲する。磨面の割継が顕著。	円端欠。
521	石製品 鉢?	D区122土 +6～10	外径 内径 高さ 重量	18.2 12.5 5.3 29.4	粗粒輝石安山岩	径が小さく、身は浅い。体部は直に立ち上がり、円柱形を呈する。器表はやや丁寧に仕上げられるが、側面に横方向の工具痕が残る。上縁は平坦な部分と丸みをもつ部分がある。底部は器表が平滑化し、中央に径1cm位の浅い窪みをもつ。	口径部1/4欠。
522	石製品 五輪塔? 水輪	D区122土 +19	長さ 重量	10.1 296.4	輝石	外面の器表は磨いて丁寧に仕上げられる。上下両面より穿孔し貫通させる。	一部欠。
526	石製品 板碑	D区149・ 150土 +22～32	長さ 上縁幅 重量	38.4 約4 5367	25.2 厚さ 2.5 緑色片岩	キリク種子の一部が残る。阿弥陀種子。下部欠損の為、尊数不明。種子は浅い竹節りで粗粒。2条線・脊線はなし。	破片。14世紀中頃～ 15世紀初頭か。
543	石製品 ?	D区177土 壇没土	長さ 上縁幅 重量	33.2 約4 5367	22.7+ 高さ 5.5 緑石	直方体状を呈し、面は全て平坦。器表は粗に仕上げ、工具痕を残す。上面?周囲には縁が巡り、隅に断面「V」字状の形り込み。破損後全体に赤化。	破片。
545	石製品 凹み石	D区207土 壇没土	長さ 幅 重量	11.9 9.7 1196	粗粒輝石安山岩	自然磨を使用し、頂部が叩打により窪む。側面を磨面とし、磨面の磨痕が残る。	完形。

上増田島遺跡C・D区第2面

546	石製品 すり鉢	D区207土 埋没土	底径 24.0 器高 10.8+ 重量 741 粗粒輝石安山岩	器表は雑な仕上げ。内面は使用により摩耗する。被 熱により煤が付着するが、割れ口には認められない。	体部中位～底部 1/6残。
547	石製品? ?	D区287土 埋没土	長さ 10.1 幅 9.0 厚さ 2.6 重量 351.3 石英閃緑岩	両平面がやや摩滅するが、使用によるか不明。全体 に被熱により赤化する。	完形。
549	石製品 磨りきび 下白	D区364土 埋没土	上面径 約30 高さ 9.5 含み 約3 挟り 6.5 重量 4564 牛伏砂岩	器表は雑な仕上げ。側面の一部に磨いたと思わ れる平滑面がある。上面はやや平滑だが使用による 摩滅が不明。目は観察できない。平製品の可能性。	1/2残。
551	石製品 砥石	D区387土 埋没土	長さ 7.2+ 幅 2.4~3.1 厚さ 1.9~2.3 重量 69.9 流紋岩	4面を磨面とし、使用により湾曲する。	一磨欠。
588	鉄製品 差輪	D区115土 埋没土	外径 (14.6) 幅 4.2 高さ 1.7 厚さ 0.3 重量 60.2	全体に錆の付着が顕著で、一部磨耗に剥離。	破片。
590	鉄製品 刀子	D区202土 埋没土	長さ 8.7+ 刀身幅 3.5+ 同種 厚さ 0.8 重量 50.3	片区二段。刀身断面三角形。鋼を軟鉄で包み込むか。	区周辺破片。
592	金属製品 住口	D区326土 埋没土	長さ 9.1 注口口縁部長 2.1+ 同幅 1.7 胴部接合部長 4.7 同幅 3.1+ 重量 32.5	金属板を上面で接合。内外面に緑青付着後煤付着。 胴部との接合部がありこの部分に煤は付着しない。 口縁と胴部接合部が一部二次的にやや潰れる。	木製の住口。
595	鉄製品 ?	D区341土 埋没土	長さ 7.6 幅 1.8 厚さ 0.3~0.4 重量 24.0	緑が断面三角の破片。全体に錆付着。	破片。
597	鉄製品 ?	D区387土 埋没土	長さ 4.6+ 幅 4.6+ 縁部厚さ 0.7 板状部厚さ 0.3 重量 36.2	縁が断面三角の破片。全体に錆付着。	破片。
598	鉄製品 鎌?	D区389土 埋没土	長さ 8.2+ 幅 1.4~3.2 厚度 0.25 重量 21.2	刃部は僅かに、横は大きく屈曲する。断面三角形。	破片。
601	金属製品 煙管煙首	C区8土埋 没土	長さ 4.7+ 小口径 1.0~1.2 高さ 1.4+ 重量 5.9	胴部及び火皿との境に接合部。上面が二次的にやや 潰れる。	火皿欠。
596	鋼 寛水湯煎	D区384土 埋没土	口径 2.31~2.34 孔径 0.61~0.63 厚さ 0.1 重量 1.9	無青。	外縁一部欠。

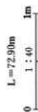
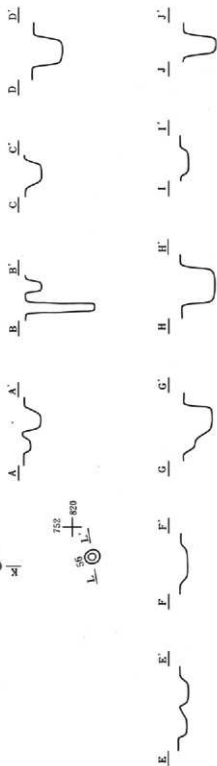
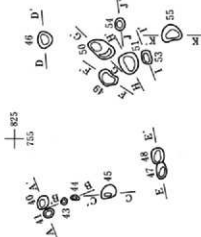
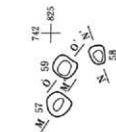
5. ピット

D区北東付近でピットを18基検出した。大きく743・753・756ラインの3群にまとまっており、743ラインの群は他の群より離れて位置し、数も少ない。重複しているのはP47・48の2基のみである。平面形は不整形円形から楕円形で、長軸の向きはいずれの群も不揃いである。規模は長軸が16~57cmの幅があり、深さも7~72cmまで様々である。壁面は46・51・54号ピットのように比較的直に立ち上がるものと、40・45・49号ピットのように緩やかに立ち上が

るものがあり、50号ピットのみ中段をもつ。743ラインの57~59号ピットは形状・規模が似るが、他の2群には特定の傾向が見られない。40・46・55・56号ピットは直交する位置にあり、建物の桁と梁を構成する可能性があるが、全てのピットについて堆積土の状況、柱痕の有無等が確認できておらず、遺構の性格は不明である。時期や性格の異なるものが集中しているのであろう。遺物は出土していないが、他の遺構の状況から中世以降と思われる。

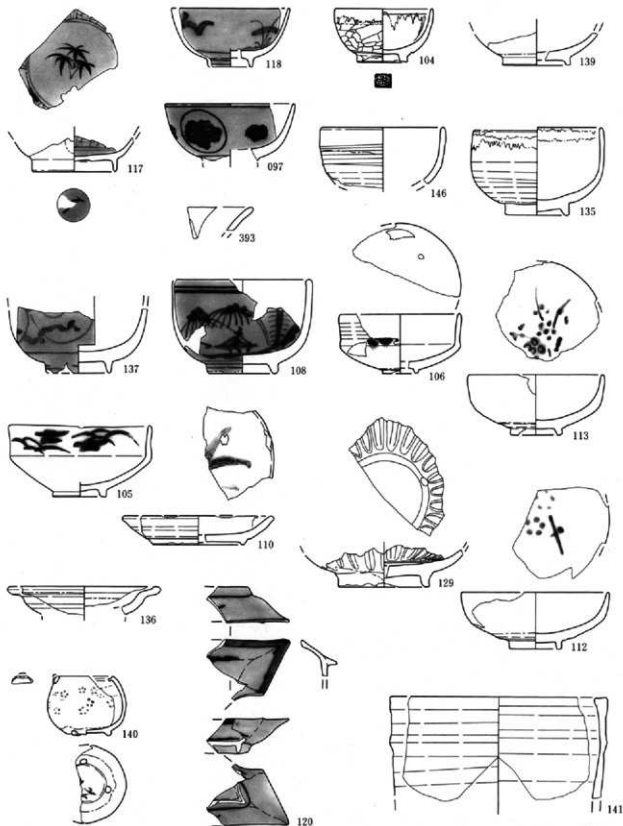
D区2面ピット一覧表

番号	位置	平面形	規模 (cm)	重複	備考	番号	位置	平面形	規模 (cm)	重複	備考
40	820-755	楕円形	31×21×17	なし		50	820-750	不整形円形	57×35×27	なし	中段をもつ
41	820-755	楕円形	23×20×9	なし		51	820-750	不整形円形	45×39×34	なし	
43	820-755	不整形円形	16×13×19	なし		53	820-750	楕円形	32×21×15	なし	
44	820-755	楕円形	19×12×72	なし		54	820-750	不整形円形	26×22×34	なし	
45	820-755	楕円形	37×27×16	なし		55	820-750	不整形円形	43×34×8	なし	
46	820-750	不整形円形	37×32×34	なし		56	815-750	円形	32×29×34	なし	
47	820-755	楕円形	36×21×7	P48		57	820・825 -740	不整形円形	53×51×15	なし	
48	820-755	不整形円形	34×26×8	P47		58	820-740	不整形円形	40×31×11	なし	
49	820-750	不整形円形	42×30×9	なし		59	820-740	不整形円形	51×50×17	なし	



D区2面40・41・43～51・53～59号ビット

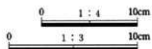
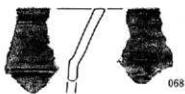
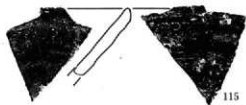
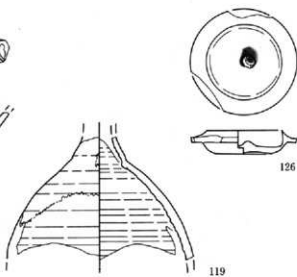
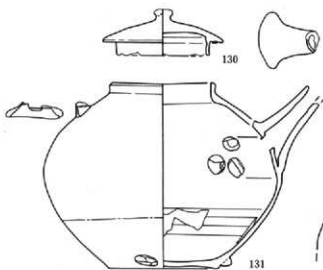
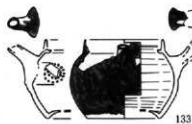
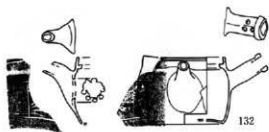
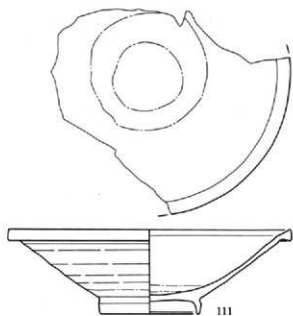
6. 遺構外出土遺物 (PL74~78)



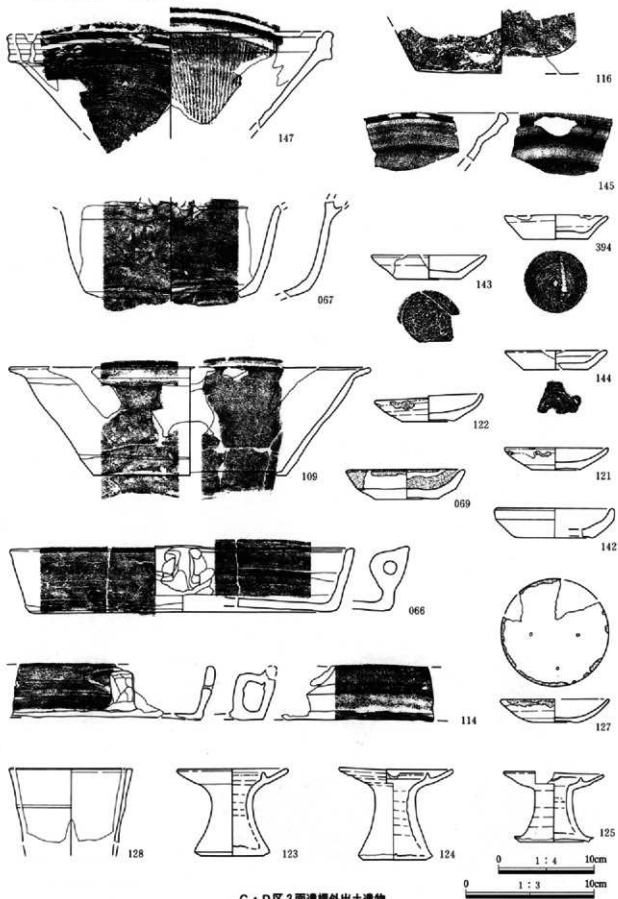
C・D区2面遺構外出土遺物

0 1:3 10cm

6. 遺構外出土遺物

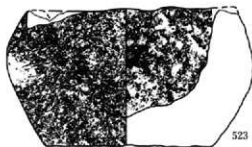
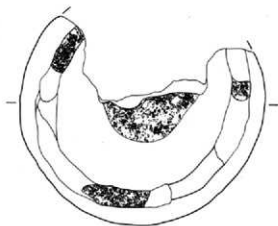
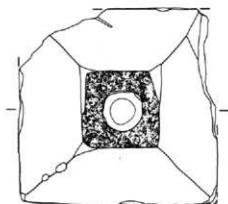
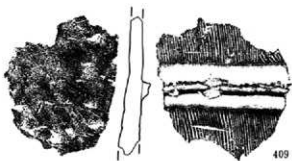
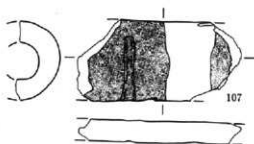
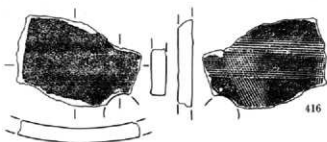
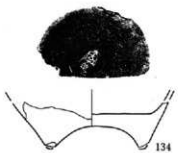
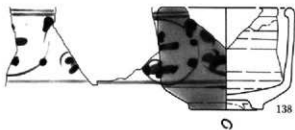


C·D区2面遺構外出土遺物

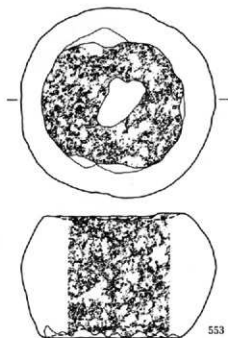


C・D区2面遺構外出土遺物

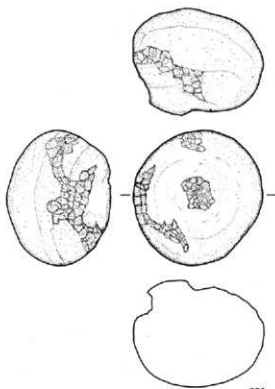
6. 遺構外出土遺物



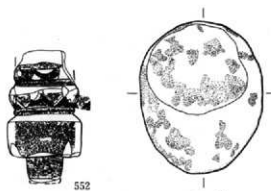
C・D区2面遺構外出土遺物



553



550



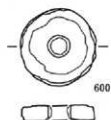
552



548



547



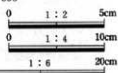
600



599



593



C・D区2面遺構外出土遺物

C・D区2面遺構外遺物観察表

番号	種器 器種	出土 位置	計測値	器形などの特徴	残存状態 備考
066	土器 土器	790-745	口径 35.9 底径 32.0 器高 6.8	在地系。器高が高い。体部内面に縦い段差をもつ。外面の調整は丁寧。耳は1ヶ所残存し、体部内面に貼り付ける。	残存状態 1/2残。 17世紀。
067	軟質陶器 内耳鉢	790-745	口径 — 底径 (18.0) 器高 9.6+	丸底。器高は鉄め。口縁部下の段差部分で欠損。耳の貼り付け部が1ヶ所残存。	体部1/4残。 14世紀後半～15世紀。
068	軟質陶器 内耳鉢	790-745	口径 — 底径 — 器高 5.5+	口縁部内面下位に段差を有し、口縁部は外傾する。	口縁部破片。
069	土器 皿	790-745	口径 (9.2) 底径 5.0 器高 2.3	在地系。底部左回転糸切り無調整。見込み中央と周縁が窪む。	口縁～体部1/2欠。
097	磁器 碗	790-745	口径 (10.2) 底径 — 器高 4.6+	肥前。外面コンニャク判による割文。円と圓縁が手書き。	口縁～体部1/2残。 波佐見系。
100	陶器 すり鉢	835-780	口径 — 底径 — 器高 6.6+	丹波?。外面回転模様で調整。内面下部は使用により摩滅する。	体部下位破片。
104	陶器 小碗	800-740	口径 7.6 底径 7.0 器高 4.3	製作地不詳。体部から高台内に鉄泥を施し、口縁部から内面に灰釉を施す。内面の釉は白色不透明となる。高台内小形内に「志剛」の押印。	口縁～体部3/4欠。
105	陶器 碗	810-765	口径 11.3 底径 4.1 器高 5.8	肥前。京焼風。口縁部外面に1ヶ所鉄絵具で文様を描く。内面から高台縁に透明釉を施す。細かい貫入が入る。	口縁～体部中位 1/4欠。
106	陶器 碗	810-785	口径 (9.3) 底径 (2.8) 器高 4.7	京・信楽系。体部は直線的に開き、口縁部は直立。口縁部外面に6条の凹線を巡らす。高台径は小さく、シャープに削り出す。口縁部外面に鉄絵が認められる。内面から高台縁に細かい貫入の入り透明釉を施す。	口縁部1/4、以下 1/2残。
107	土製品 羽口	810-785	外径 6.3 内径 2.9 長さ 12.8+	外面主軸に直行して浅い溝状の窪みを有する。部分的に被熱により地の黄褐色が外面青灰色、内面赤褐色に変色、ガラス化は認められない。	破片。
108	陶器 碗	810-785	口径 (11.0) 底径 5.6 器高 7.4	肥前。外面東屋山水文。呉須の発色はよい。陶胎染付。	体部中位以上5/6 欠。
109	土器 鉢	810-785	口径 (37.8) 底径 (20.2) 器高 11.4	在地系。外型成形、輪轆調整。外面轆作り痕が残る。口縁部はほぼ水平に開き、端部は肥厚する。口縁部端上面に凹縁が巡る。外面に雫が付着。	体部上位以上1/4、 以下1/2残。
110	陶器 皿	790-780	口径 (11.8) 底径 (7.3) 器高 2.3	瀬戸・美濃。内面に鉄絵具で蘭竹文を描く。内面から高台に薄く灰釉を施す。見込みと高台内に目裏が1ヶ所ずつ残る。	1/6残。 17世紀。
111	陶器 鉢	810-785	口径 (22.2) 底径 7.8 器高 6.6	瀬戸・美濃。見込み蛇の目轆調整。丁寧な高台から体部が直線的に開く。口縁部は外反し、端部は玉縁状にする。内面から高台縁に灰釉を施す。粗い貫入が入る。	口縁～体部1/4底 部残。
112	陶器 皿	810-785	口径 (11.6) 底径 4.0 器高 4.5	瀬戸・美濃。内面鉄絵具?による梅花文と呉須による蓋?を描く。内面から高台縁に灰釉を施す。	口縁部の一部、以下 1/2残。
113	陶器 碗	810-785	口径 (10.6) 底径 4.0 器高 4.7	瀬戸・美濃。高台の成形はシャープ。内面に鉄絵具で花卉を、呉須で蓋を描く。内面から高台縁に灰釉を施す。細かい貫入が入る。	口縁～体部5/6欠。
114	土器 焙烙	810-785	口径 — 底径 — 器高 5.6	在地系。底部外面から体部中位に削り作り痕が残る。外面体部下端と口縁部下に施し残り痕が残る。耳が1ヶ所残存。口縁部に補修孔が1ヶ所残る。	破片。
115	軟質陶器 すり鉢		口径 — 底径 — 器高 7.0+	口縁部はやや内湾し、端部は尖り気味。体部外面下位は使用により摩滅する。	口縁部破片。
116	軟質陶器 すり鉢		口径 底径 (13.4) 器高 4.0+	内面に使用による摩滅有り。	体部下位～底部外 縁1/3残。
117	磁器 鉢		口径 6.6 底径 2.7+	肥前。口縁部と体部が八角を呈する鉢であろう。蛇の目四型高台。見込み割文。体部下端に焼き継ぎ。高台凹型部に焼き継ぎ時の付丁を赤で書く。	体部下位～底部 5/6残。 焼き継ぎ。
118	磁器 碗		口径 (9.3) 底径 (3.4) 器高 4.5	肥前。外面横物文の染の付け。	3/6残。
119	陶器 尾呂巻利		口径 — 底径 — 器高 9.8	瀬戸・美濃。外面にウノフ輪を、内面に拍輪を薄く施す。	蓋～体部上半1/2 残。
120	磁器 皿		長さ 6.5+ 幅 4.8+ 器高 2.9	肥前。打ち蓋による変形皿。高台貼り付け。	両を含む破片。

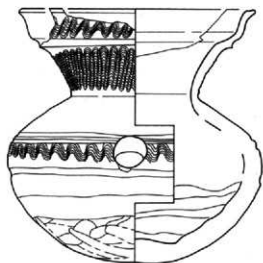
上増田島遺跡C・D区第2面

121	陶器 灯明皿	810-730	口径 底径 器高	8.1 3.8 2.1	製作地不詳。底部外面から体部下位丁寧な回転彫り。内面から口縁 端部外面に灰輪を施す。軸に貫入が入る。口縁部無輪部分に油塗が付 着。	ほぼ完成。
122	陶器 灯明皿		口径 底径 器高	6.1 3.8 1.7	京・信楽系。器壁がやや厚い。外面は丁寧な回転彫り。内面から口 縁端部外面に細かい貫入の入る透明軸を施す。口縁部一部成形後に施 軸。口縁部外面無輪部分に油塗付着。	口縁部1/6欠。
123	陶器 灯明受台		口径 底径 器高	8.7 5.0 6.8	製作地不詳。脚端部の間きは弱い。受け部の切り込みは無い。脚部右 回転軸切り無調整。受け部端部を除いて内面から脚部外面に灰輪を施 す。貫入が入る。	ほぼ完成。
124	陶器 灯明受台		口径 底径 器高	9.0 4.8 7.9	益子・空閑。脚部は開かず、高く延びる。受け部に「U」字状流入部 を1ヶ所設ける。脚部右回転軸切り無調整。受け部を除いて内面 から脚部外面に灰輪を施す。貫入が入る。	口縁部1/3欠。 近現代。
125	陶器 灯明受台	810-815- 730-735	口径 底径 器高	7.3 5.4 5.5	京・信楽系。脚部外面回転彫り。受け部に「U」字状の流入部を設 ける。脚部内面から脚部面に透明軸を施す。細かい貫入が入る。胎 土が緻密。	口縁→受け部3/8 欠。
126	陶器 蓋	810-815- 730-735	口径 柄み径 器高	8.4 1.0 1.8	製作地不詳。落とし蓋。天井部内面右回転軸切り無調整。柄みは粘土 粒を貼り付ける。天井部外面白化後後に灰輪を施す。柄み部の小銅輪 軸を施す。重ね焼きの為に天井部外面上端の軸を削る。汁じぎの裏か。	天井端部1/8欠。
127	陶器 灯明皿	810-815- 730-735	口径 底径 器高	8.4 3.5 1.8	京・信楽系。外面は丁寧な回転彫り。内面から口縁端部外面に細か い貫入の入る透明軸を施す。見込み3ヶ所に円錐状凹痕が残る。口縁 部に油塗が付着。	口縁→体部1/4欠。
128	陶器 ?	810-815- 730-735	口径 底径 器高	(9.6) — 5.8+	製作地不詳。胎土は緻密。光沢を有し、細かい貫入の入る緑色軸を内 面に施す。外面を竹の節状に盛り上げ、中央凹部を三角形の沈凹を 施す。	口縁部1/4を含む 破片。眼平焼き又は 類似の産製品。 口縁部を欠いて 1/2残。
129	陶器 壺	810-815- 730-735	口径 底径 器高	(7.1) — 5.5+	瀬戸・美濃。内型により花卉を成形する。見込み付近に布痕が残る。 高台は貼り付け。内面から高台脇に灰輪を施す。輪軸は黄銅系果。	天井端部1/4、柄み を施す。軸が乳白色を呈するが、方向性が認められる為、焼成時の降灰 によるものであろう。土質の裏か。
130	陶器 蓋		天井径 柄み径 器高	9.4 1.8 4.3	製作地不詳。胎土は或る程度を有し、外面に透明軸を 施す。軸が乳白色を呈するが、方向性が認められる為、焼成時の降灰 によるものであろう。土質の裏か。	天井端部1/4、柄み を施す。軸が乳白色を呈するが、方向性が認められる為、焼成時の降灰 によるものであろう。土質の裏か。
131	陶器 土瓶	810-815- 730-735	口径 底径 器高	8.4 8.5 14.7	製作地不詳。胎土はやや白く白色磁物を含む。高台脇から口縁部外面 に白濁した軸を施す。体部下端3ヶ所に退化した脚を貼り付ける。	口縁部3/4、釣り手、 体部上位1/2欠。 幕末→近代。
132	陶器 急須	810-815- 730-735	口径 底径 器高	(6.5) 6.2 5.5	製作地不詳。万古風。内面に布痕が残る。外面は細かい地文を有し、 底部の2面に文様を施すが、欠損の為不明。口縁部・注口端部・取 っ手基部にのみ塗り施す。	口縁→体部1/2、 底部中央欠。 近現代。
133	陶器 急須	810-815- 730-735	口径 底径 器高	6.2 5.8 6.5+	製作地不詳。万古風の胎土。白土を打り刷毛し、灰輪を施す。高台脇 以下と内面は無輪。	口縁→体部の一 部、取手先端、底 部中央欠。近現代。
134	土器 香炉		口径 底径 器高	— (9.0) 3.6+	瀬入系。三足。徳成はやや硬質で外面にベンガラを塗布する。見込み に藍草彫りに「大平造」の押印。「大平造」印は他遺跡に於いて陶器 より銘が出土しており、陶器産地に於いて生産された製品であろう。	体部最下位→底部 1/2残。
135	陶器 尾呂系網		口径 底径 器高	10.2 5.0 7.0	高台脇から内面に輪軸を施し、口縁部にワノフ軸を施す。ワノフ軸の 発色は薄い。	口縁部→体部上半 1/3欠。
136	陶器 折縁皿		口径 底径 器高	(12.0) — 2.2+	瀬戸・美濃。口縁は折縁をなし、灰輪を口縁部に施す。	底部を欠いて1/6 残。 17世紀。
137	陶器 碗		口径 底径 器高	(5.0) — 5.3+	肥前。外面に大きく唐草文を描く。陶胎未付。	口縁部を欠いて 1/2残。
138	陶器 香炉		口径 底径 器高	(10.7) 5.8 8.1	肥前。口縁部内面に折り高す。高台は蛇の目状で幅広い。内面口縁部 以下と高台端部無輪。外面に唐草文を描く。陶胎未付。	口縁→体部1/4、 底部1/2残。
139	陶器 碗		口径 底径 器高	(5.3) — 2.5+	肥前。京焼風。高台の削り出しはシャープで、高台内の持ちが浅い。 内面から高台内に透明軸を施す。軸に貫入が入る。	体部下位→底部 1/2残。
140	陶器 ?		口径 底径 器高	(4.0) 3.1 4.7+	京・信楽系。器形・施輪範囲は土瓶と同様。底部は幕筒状を為し、 小さい脚を3ヶ所貼り付ける。外面体部下位以下と受け部から内面体 部上位は無輪。釣り手1ヶ所残存。細かい貫入の入る透明軸を施す。 外面に赤と藍で梅花状の文様を上絵付けする。底部外面書「石口」	1/2残。 圖書。
141	陶器 平脚壺		口径 底径 器高	(17.0) — 8.2+	瀬戸・美濃。外面口縁部下に凹縁を1条施し、上部は突帯状を為す。 口縁端部は内面側に肥厚する。口縁端部上面が僅かに窪む。内外面に 磨輪を施す。	口縁→体部上半 1/4残。
142	土器 皿		口径 底径 器高	(9.0) (6.0) 2.3	在地系。底部回転軸切り無調整。口縁部外面を直立させる。	底部中央を欠いて 1/2残。
143	土器 皿		口径 底径 器高	(8.9) (5.0) 1.9	在地系。底部左回転軸切り無調整。体部から口縁部が直線的に開く。	口縁→体部の一 部、底部1/3残。 中世。

6. 遺構外出土遺物

144	土器 皿		口径 (8.0) 底径 (5.0) 器高 1.5	在地系。底部回転糸切り無調整。器壁がやや厚く、器高が低い。	1/6残。 中世。	
145	陶器 すり鉢		口径 — 底径 — 器高 4.9+	瀬戸・美濃。踏輪を施す。	口縁部破片。	
146	陶器 腰磨碗		口径 9.4 底径 — 器高 4.4+	瀬戸・美濃。内面から口縁部外面に灰軸を、体外外面に踏輪を施す。外面輪縁に螺旋状凹線を巡らす。	体部中位以上1/2残。	
147	陶器 すり鉢		口径 (33.6) 底径 — 器高 10.0+	専・明石。口縁部は縁帯をなし、内面の突起は丸みを帯びて低くなる。口縁部外面下は彫削り。	口縁～体部中位1/4残。	
393	磁器 青磁碗		口径 — 底径 — 器高 1.8+	龍泉京系青磁。外面に幅の狭い蓮弁文を施し、口縁部は外反する。軸は厚い。	口縁部破片。 中世。	
394	土器 皿		口径 8.1 底径 5.0 器高 1.9	在地系。底部左回転糸切り無調整。口縁部が僅かに外反する。見込み周縁が隆む。	体部中位以上1/2残。 中世。	
416	土器 甕		口径 — 底径 — 器高 6.5+	在地系。外面に掻き目を施す。突き口反対側の小孔部が認められる。	体部上位破片。	
番号	種類 器種	出土 位置	計測値	①胎土 ②焼成 ③色調	器形、成・整形等の特徴	残存状態 備考
409	埴輪 円筒	815-835- 775-780	器高 14.6+ 器厚 1.3- 2.3	①粗砂、白色・赤褐色紅 骨 ②普通 ③粒 5YR 6/6	外面 2cm 8本のタテハケ状突起付、 突起M字形で上縁が突出、2ヶ所に彫削工具 圧痕あり。内面 ナメ方向ナデ。	突起を含む側部破 片。
番号	種類 器種	出土 位置	計測値	器形等の特徴		残存状態 備考
523	石製品 鉢	790-745	口径 21.5 外径 25.5 内径 18.1 底径 17.2 器高 14.0 重量 5314 複転輝石安山岩	外面体部上半が内湾する。外面口縁～体部は磨いて 丁寧に仕上げる。内面は一部平滑も、全体に凹凸が 顕著。		口縁部3/4、以下 1/2残。
548	石製品 凹み石?	815-830- 780	長さ 16.2 幅 12.9 厚さ 12.2 重量 1960 ニッ岳軽石	円盤を使用する。全体に叩打によると思われる凹み があり、部分的に集中する。		完形。
550	石製品 凹み石	830-780- 785	長さ 14.2 幅 13.6 厚さ 11.2 重量 1662 複転輝石安山岩	円盤を使用する。叩打の集中による凹みが円状・帯 状を為す。		完形。
552	石製品 宝篋印塔 相輪		長さ 21.0+ 最大径 11.7 柄上 幅径 6.2 重量 2771 複転輝石安山岩	器表は磨いて丁寧に仕上げる。彫り込みはやや浅め。		下位残。
553	石製品 五輪寺 木輪		上面径 21.9 最大径 30.2 下面 径 21.0 重量 18390 複転輝石安山岩	器表は縁を仕上げで、風化する。最大径はやや上位 に位置する。上面中央に楕円状の窪みを有する。上 下面境部に割線が目立つ。		ほぼ完形。
554	石製品 五輪寺 火輪		上面径 12.0 底面幅 31.0 高さ 15.5 物穴径 6.05 割深さ 4.5 重量 11930 ニッ岳軽石	器表は磨いて丁寧に仕上げる。各辺は直線的で四隅が やや内反る。物穴は円盤状を呈する。		一隅欠。
555	石製品 五輪寺 木輪		上面径 20.7 下面径 20.0 高さ 22.1 重量 21000 複転輝石安山岩	器表は凹凸の目立つ雑な仕上げで風化する。一部器 表が剥離する。上下面とも窪みは浅い。		ほぼ完形。
593	鉄製品	815-820- 775-780	高さ 5.9+ 幅 1.3-1.5 厚さ 0.6-0.7 重量 67.4	板を2ヶ所で屈曲させる。全体に錆が付着し、表面 が曇状に剥離。		端部欠。
599	金属製品 磨管吸口		長さ 6.9 最小径 0.4 口付け径 0.5 重量 8.1	屑はなく、口付けから一度括れて緩やかに湾曲し小 口に至る。小口が二次的に潰れ、接合部が割れる。 華字と思われる本質が一部残る。		ほぼ完形。
600	鉄製品 戸車?		外径 4.0 孔径 1.2 厚さ 0.8 外縁幅 0.4 同径さ 0.7 重量 53.7	中心に孔をもつ円盤状で、片面は外縁より内側が厚 い。		ほぼ完形。

下増田常木遺跡

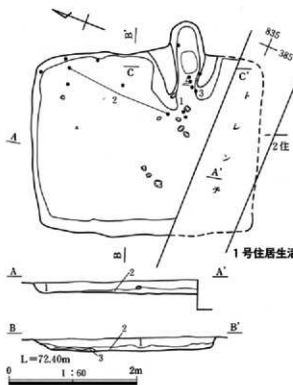


1. 住居

1号住居(PL. 80-97)

位置 830・835-385 重複 2号住居→1号住居
 形状 長方形 規模 (3.52)×2.75m 面積 6.6㎡
 方位 -24° 床面 確認面から22cm下で床面となる。掘り方はなく、全体を平坦に掘り下げてそのまま床面とする。砂質で、硬化面は確認できない。
 壁溝 確認できなかった。竈 東壁南寄りに設置する。焚き口及び火床を楕円状に5-10cmほど掘り窪め、黒褐色土を充填して形状を整える。袖は粒子

の細かい暗灰黄色土を用いて構築し、上端の長さが北73cm、南51cm残存する。燃焼部は長さ50cm、幅35cmで壁内に位置し、約5cmほど窪む。煙道は約35°で2段に立ち上がる。貯蔵穴 確認できなかった。トレンチにより破壊された可能性がある。柱穴 確認できなかった。遺物 竈周辺と東壁寄りに多く分布する。須恵器杯、土師器小型甕のほか、河床礫、古墳時代前期の台付甕、鉄滓などが出土した。所見 出土遺物より9世紀中葉と考えられる。

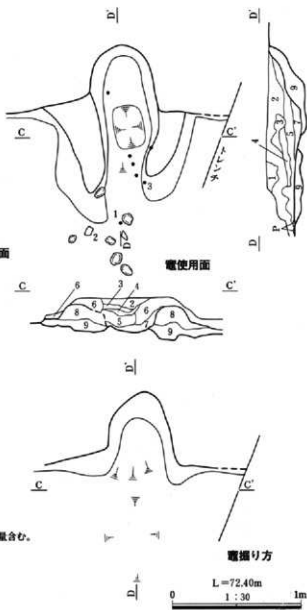


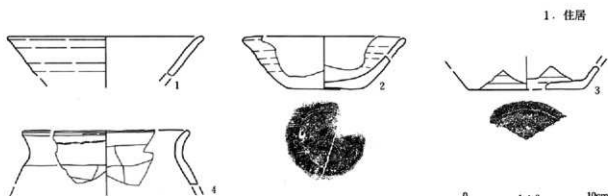
1号住居

1. 黒褐色土。灰褐色ブロックを少量、パミスを微量含む。
2. 黒褐色土。パミスを微量含む。
3. 黒褐色土。粗砂を少量含む。

1号住居竈

1. 鈍い黄色土。シルト質。しまりが強い。焼土・灰微量含む。
2. 灰黄褐色土。土粒が細かい。炭粒・FPを微量含む。
3. 鈍い黄色土。焼土・灰を微量含む。
4. 黄褐色土。やや粘質。しまりが強い。3層のブロック土をやや多量含む。
5. 黒褐色土。しまりが強い。黒色の灰を多量、焼土粒を少量含む。
6. 暗灰黄色土。土粒が細かい。崩落した電機築土。
7. 黒褐色土。黒色の灰・炭粒をやや多量含む。
8. 暗灰黄色土。土粒が細かい。しまりがやや強い。袖部。
9. 暗褐色土。しまりが強い。





1号住居出土遺物

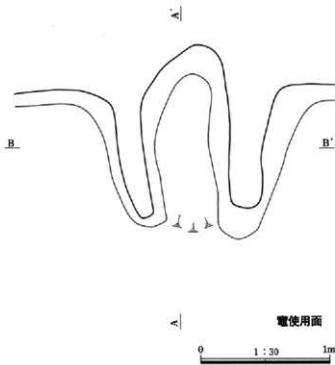
1号住居遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値	①胎土 ②焼成 ③色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状態 備考
1	須恵器 杯	竈+4	口径 (15.2) 底径 — 器高 3.1+	①礫、粗砂、白色鉱物 ②還元焰 ③灰白2.5Y7/1	摩滅が顕著。口縁端部僅かに外反。 外面 糠糠成形後推で。 内面 糠糠整形。	口縁～体部 1/4残。
2	須恵器 杯	+12、 竈+11、 埋没土	口径 (12.8) 底径 5.6 器高 4.2+	①粗砂、石英、白色鉱物 ②還元焰気味 ③灰黄褐10YR6/2	口縁部外反。 外面 体部糠糠整形。底部右回転糸切り未調整。 内面 糠糠整形。	口縁～体部 7/8欠。
3	須恵器 杯	竈+8	口径 — 底径 (9.0) 器高 1.8+	①白色鉱物 ②還元焰 ③黄灰2.5Y6/1	外面 糠糠整形。 内面 底部右回転糸切り後推で。	体部下～底 部1/4残。
4	土師器 小型甕	埋没土	口径 (13.1) 底径 — 器高 4.3+	①粗砂、白色鉱物 ②普通 ③褐7.5YR4/4	口縁弱い「コ」の字状。口唇部に緩やかな面を、口縁端部外面側に弱い沈線をもち、外面 体部左方向跳割り後口縁部横推で。内面 体部腹推で後口縁部横推で。	口縁～体部上 端1/8残。

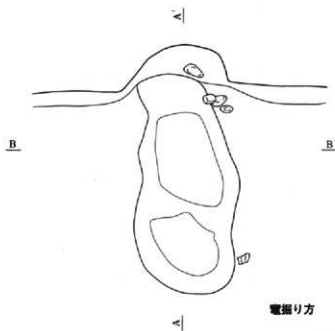
2号住居(PL. 80-81-97-98)

位置 825・830-380-390 **重複** 2号住居→1・3号住居 **形状** 方形 **規模** 6.26×6.56m **面積** 40.7㎡ **方位** -26° **床面** 確認面より29cm下で床面となる。掘り方はなく、全体を平坦に掘り下げてそのまま床面とする。北壁側から南壁側に向かって約10cmほどなだらかに低くなる。 **壁溝** 確認できなかった。 **竈** 東壁南寄りに設置する。細長い長方形の掘り方を黒褐色土で埋め戻して形状を整える。壁付近から芯材にしたと思われる円礫が出土した。竈は焼土粒などを含む黒褐色土で構築し、上端の長さが北100cm、南96cm残存する。燃焼部は長さ103cm、幅42cmで壁内に位置し、焚き口側の火床が約10cm窪む。煙道は約35°で立ち上がる。 **貯蔵穴** 確認できなかった。 **柱穴** 4基検出した。住居プランの対角線上に位置する。規模は P1 39×36×16cm P2 79×54×26cm P3 67×51×23cm P4 58×48×25cmで、P2は北側に浅く平坦な中段をもつ。 **遺物** 東壁寄りに分布する。須恵器匙・杯、

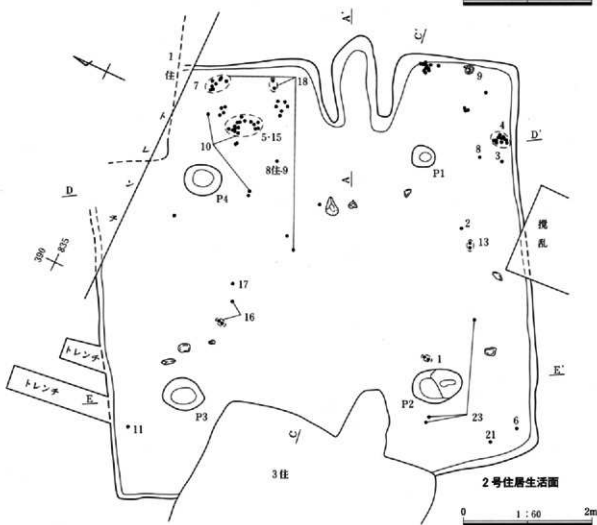
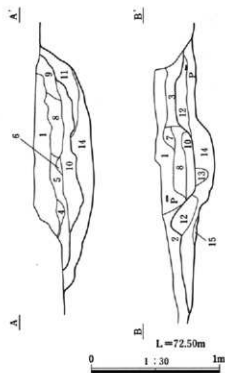
土師器杯・壺・甕、8号住居と接合する土師甕破片、鉄製刀子、河床礫などが出土した。 **所見** 出土遺物より5世紀後半と考えられる。



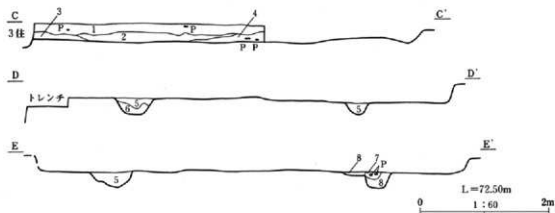
下増田常木遺跡



電掘り方



1. 住居



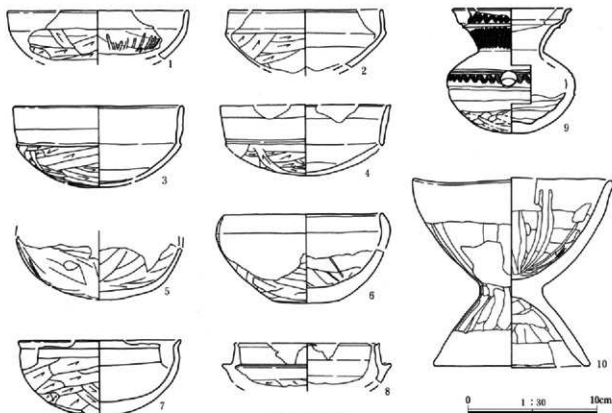
2号住居

1. 暗褐色土。しまりがやや強い。径5mm程のバミスを微量含む。
2. 黒褐色土。径2mm程のバミスを微量含む。
3. 暗褐色土。径5mm程のバミスを微量含む。
4. 黒褐色土。しまりがやや強い。径2mm程のバミス・5mm前後の赤褐色焼粘土粒を微量含む。
5. 暗褐色土。焼土粒・径2mm程のバミスを微量含む。
6. 暗褐色土。
7. 褐色土。暗褐色土粒を均一に少量含む。
8. 黒褐色土。暗褐色土粒を均一に少量含む。

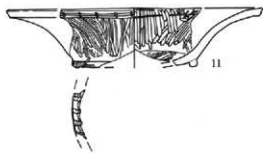
2号住居竈

1. 暗赤褐色土。粘質土。径1mm程のバミス・焼土粒を少量含む。
2. 黒土。焼土粒をやや多量、炭粒を少量含む。
3. 黒褐色土。径1mm程のバミスを微量含む。

4. 黒褐色土。粒子の細かい鈍い或褐色土ブロックを多量含む。
5. 暗赤褐色土。粘質土。焼土ブロックをやや多量含む。
6. 黒褐色土。しまりが強い。
7. 暗赤褐色土。粘質土。しまりが強い。焼土ブロックをやや多量含む。
8. 赤褐色土。粘質土。しまりが強い。天井の崩落。
9. 黒褐色土。やや粘質。焼土粒を少量含む。
10. 黒土。径3mm以下のバミスを少量含む。
11. 黒褐色土。焼土粒を微量含む。
12. 黒褐色土。しまりが強い。褐色土粒・焼土粒・径10mm程のバミスを少量含む。袖部。
13. 暗赤褐色土。粘質土。径1mm程のバミスを少量含む。
14. 黒褐色土。粒子が強い。径20mm程のバミスを少量含む。
15. 鈍い褐色土。



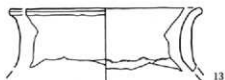
2号住居出土遺物



11



12



13



14



17



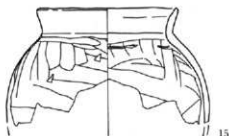
19



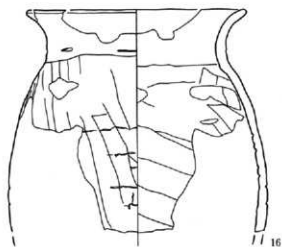
20



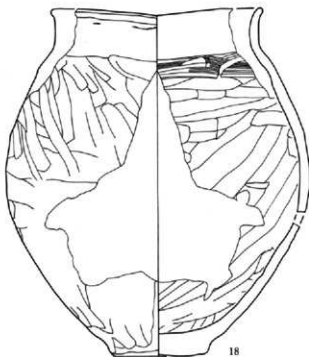
21



15



16



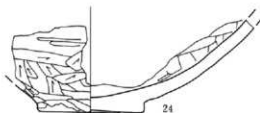
18



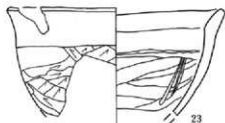
1. 住居



22



24



23



5cm

0 1 : 2 10cm

2号住居出土遺物

2号住居遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	①胎土 ②焼成 ③色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状態備考
1	土師器杯	+27	口径 (14.0) 底径 - 器高 3.8+	①粗砂、白色・黒色 ②良好 ③垂黒5YR4/6	外面 口縁部横線で、体部彫削り後施す。 内面 口縁部横線で、体部彫削り後放射状磨き。	口縁部1/8、体部上半1/4残。
2	土師器杯	+6	口径 (11.9) 底径 - 器高 4.5+	①粗砂、白色 ②普通 ③鈍い黄橙10YR6/4	外面 口縁部横線で、体部彫削り後施す。 内面 口縁部横線で、体部彫削り後上半横線で。	口縁部・体部上半1/5残。
3	土師器杯	床面直上、+7	口径 (13.2) 底径 - 器高 6.0+	①粗砂、微密 ②良好 ③橙2.5YR6/6	口縁上部に外積する面を、口縁下部にやや浅い4つ明瞭な横をもつ。外面 口縁部横線で、体部彫削り後施す。 内面 口縁・体部上半横線で、体部下半横線で。	3/8残。
4	土師器杯	床面直上、 覆瓦段上、 820-390	口径 13.1 底径 - 器高 5.5	①緻密、細砂、粗砂 ②良好 ③橙5YR6/5	口縁は直線的に立ち上がり、上部に面をもつ。 外面 口縁部横線で体部上半横線で、下部彫削り工具による様、体部彫削り後施す。内面 口縁部横線で体部上半横線で、体部彫削り後上半横線で。	口縁部1/2、体部1/8残。
5	土師器杯	+2-7、 覆瓦段上	口径 - 底径 - 器高 4.2+	①粗砂、粗砂、石英、 白色 ②普通 ③鈍い赤黒5YR4/4	外面 左・左上方向彫削り後施す。 内面 右上方向彫削り後施す。	体部3/4残。
6	土師器杯	+2	口径 (13.2) 底径 - 器高 6.0+	①粗砂、粗砂、石英、 白色 ②普通 ③暗黒7.5YR4/4	器内厚い。口縁部縁やかに内彫し、湾曲する底部をもつ。 外面 口縁・体部載上横線で、体部彫削り後施す。 内面 体部左上方向彫削り後口縁部横線で。	口縁・体部上半7/8残。
7	土師器杯	+5、 覆瓦段上	口径 (12.6) 底径 - 器高 5.9+	①粗砂、白色 ②普通 ③明赤黒5YR5/6	口縁内彫。 外面 体部彫削り後口縁部横線で。 内面 体部彫削り後口縁部横線で。	体部上半・口縁部3/4残。
8	須恵器杯	+13	口径 (11.2) 底径 - 器高 3.1+	①粗砂、白色 ②還元焰、やや硬質 ③灰 NSV	口縁端部を鋭く積み上げ、沈積状の面を成す。 外面 口縁部彫削り後、体部上半彫削り後、下半左方向彫削り。内面 同軸線で。	口縁・体部上半1/4残。
9	須恵器 碗	床面直上	口径 (9.2) 底径 2.1 器高 9.9+	①粗砂、白色 ②還元焰 堅軟 ③灰 NSV	外面 口縁端部が外湾し上部に面をもつ。口縁部同軸線で後状文、下部に沈線を施し段を成す。頸部同軸線で後状文、胴部上半同軸線で後状文と上2条下1条の沈線、胴部下半同軸線で後不定方向磨きで。内面 口縁部・胴部上半同軸線で、胴部下半横線成形痕を残す。	口縁部7/8、頸部1/4残。
10	土師器高杯	+1-3、 覆瓦段上、 825-400	口径 15.4 脚径 12.1 器高 14.8	①粗砂、白色・黒色 ②粗砂、石英 ③普通 ④鈍い橙7.5YR6/4	外面 杯部下方彫削り後口縁部横線で、脚部上方彫削り後下半横線で。 内面 杯部横方向彫削り後口縁部横線で、後放射状の粗い磨き。脚部彫削り後下半横線で、端部折り返し。	口縁・脚部下半各1/4残。
11	土師器高杯	+4	口径 (20.1) 底径 - 器高 4.7+	①粗砂、石英 ②普通 ④鈍い橙7.5YR6/4	口縁が大きく外湾し、杯下部に垂下帯を有する。 外面 口縁部横線で後部状工具の刺突、体部彫削り後縦方向磨き。垂下帯横線による彫削り後下面に彫削り工具の刺突。内面 口縁部横線で後縦方向磨き。体部横方向彫削り後縦方向磨き。	口縁・杯体部1/4残。遺構外出土遺物No14と同一器種か。
12	赤土器 壺	覆瓦段上、 820-830- 390-400	口径 (17.2) 底径 - 器高 2.8+	①粗砂 ②良好 ③鈍い黄橙10YR6/4	口縁部が大きく外反。外面 口縁部上半に輪軸面を2段残し横線で後斜突、下半横線で後縦方向磨き。 内面 横線で後縦方向磨き。	口縁部上半1/4残。
13	土師器壺	床面直上、 覆瓦段上	口径 (15.0) 底径 - 器高 5.0+	①粗砂、粗砂、白色 ②粗砂、石英 ③良好 ④橙5YR6/4	外面 口縁部横線で、胴部彫削り。 内面 口縁部横線で、胴部右方向彫削り。	口縁・胴部載上端1/4残。

下増田常木遺跡

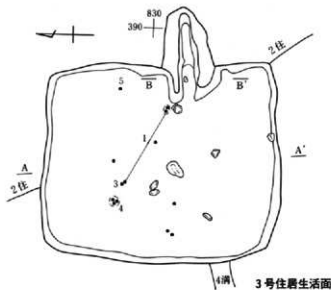
14	土師器 壺	床面直上、 埋没土、甍 埋没土	口径 (18.1) 底径 - 器高 6.5+	①粗砂、粗砂、白色鉱物、キメ粗い②普通 ③埋赤褐色10YR6/6	口縁端部に面をもつ。外面 口縁部上半強横撫でによる高い段、下半指頭圧痕後横撫で、胴部左上方向匏削り。内面 口縁部横撫で、胴部横撫で。	口縁部1/2、胴部上端1/8残。
15	土師器 壺	+2、埋没土	口径 11.1 底径 - 器高 9.1+	①粗砂、白色・黒色鉱物 ②普通 ③鈍い赤褐色5YR4/4	外面 口縁部横撫で、胴部左・左上方向匏削り後撫で。内面 口縁部横撫で、胴部最上位に輪積み痕。	口縁～胴部上半1/2残。
16	土師器 壺	床面直上 ～+2、埋没土	口径 (17.2) 底径 - 器高 17.5+	①粗砂、粗砂、白色鉱物、石英 ②酸化焙 ③鈍い褐色7.5Y5/4	外面に一部輪積み痕を残し、内面匏削りによる径2mm程の砂粒移動痕が顕著。外面 胴部上方向匏削り後口縁部横撫で。内面 口縁部横撫で、胴部左上方向匏削り。	口縁部1/4、胴部上位1/2、胴部中位1/8残。
17	土師器 壺	+7	口径 - 底径 10.4 器高 3.4+	①粗砂、礫、石英 ②普通 ③褐色7.5YR7/6	外面 縦方向匏削り後撫で、底部木葉痕。内面 横方向研目後右上方向粗い磨き、底部撫で。	胴部最下位～底部残。
18	土師器 壺	床面直上～ +3、埋没土、 埋没土、 825-400	口径 16.8 底径 7.2 器高 17.5+	①粗砂、粗砂、白色・黒色鉱物、石英 ②普通 ③埋赤褐色2.5YR5/6	外面 口縁部横撫で、胴部上半左上方向・下半左方向・最下位上方向匏削り。内面 口縁部横撫で、胴部上位左方向一部研目状の匏削り、中位以下右上方向・底部上方向匏削り。	口縁部一部、胴部1/4、底部残。
19	土師器 壺	甍埋没土	口径 - 底径 (9.0) 器高 5.4+	①粗砂、白色鉱物、石英 ②普通 ③外鈍い赤褐色5YR4/6 内 灰褐色7.5YR5/2	外面 匏削り、摩滅が激しく単位不明。内面 匏削り。	胴部下位～底部1/4残。
20	土師器 壺	床面直上	口径 - 底径 (6.4) 器高 3.0+	①粗砂、軽石、石英 ②普通 ③埋赤褐色2.5YR5/6	外面 胴部上方向匏削り、底部匏削り。内面 匏削り。	胴部最下位～底部1/2残。
21	土師器 鉢	+4	口径 - 底径 7.0 器高 3.6+	①粗砂、石英 ②普通 ③鈍い褐色7.5YR7/4	外面 胴～底部匏削り後撫で。内面 横方向匏削り後粗い放射状磨き。	胴部最上位～底部3/4残。
22	土師器 壺	床面直上、 甍埋没土、 埋没土	口径 - 底径 7.6 器高 6.2+	①石英、軽石 ②普通 ③埋赤褐色5YR5/6	器壁の摩滅が顕著。外面 胴部上方向匏削り、底部撫で。内面 右方向匏削り。	胴部下位～底部1/2残。
23	土師器 甌	床面直上 ～+1、埋没土	口径 16.9 底径 - 器高 8.5+	①粗砂、石英、白色鉱物 ②良好 ③埋赤褐色5YR5/6	外面 口縁～胴部最上位横撫で、胴部匏削り。内面 口縁～胴部最上位横撫で、胴部横撫で。	口縁～胴部3/4残。
24	土師器 壺	床面直上、 甍埋没土、 埋没土	口径 - 底径 8.2 器高 7.4+	①粗砂、粗砂、軽石 ②普通 ③褐色2.5YR6/6	器壁の摩滅が顕著。外面 胴部匏削り後横方向粗い磨き、底部木葉痕。内面 匏削り。	胴部下1/2、底部残。
25	鉄製品 刀子?	埋没土	長さ 4.8+ 厚さ 0.5-0.7 重量 5.2	幅0.5-0.7	錆化が顕著。方形のつくり。一部にはかの鉄片が付着。	基部一部残。

3号住居(PL. 81-82-98)

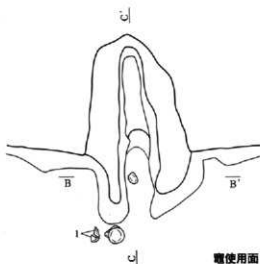
位置 825・830-385・390 重複 2号住居→3号住居、プラン確認により4号溝→3号住居 形状 長方形 規模 3.76×3.13m 面積 9.8㎡ 方位 -5° 埋没土 北側より流入する。床面 確認面より32cm下で床面となる。掘り方はなく、全体を平坦に掘り下げてそのまま床面とする。壁溝 確認できなかった。甍 東壁南寄りに位置する。壁外に張り出す楕円状の掘り方を埋め戻して形状を整える。掘り方上面は粘質土(11層)を用いる。西の外縁部に薄く焼土が分布し、北・東・南の外縁付近に芯材に用いたと思われる河床礫が出土した。袖は上端の長さが北36cm、南34cm残存する。構築土が南袖はし

まりの強い粘質土(9層)であるのに対し、北袖は質の異なる土(8層)からなる。北袖内部出土の杯と外部出土の杯が接合することから、8層は崩落土等の可能性がある。燃焼部は長さ65cm、幅20cmで壁付近に位置する。煙道は55°で立ち上がった後5°で55cm進み、再び55°で立ち上がる。底面は被熱により一部硬化する。天井は崩落していたが(4・6層)、住居の壁外では高さが確認面から約15cm残存する。貯蔵穴 確認できなかった。柱穴 確認できなかった。遺物中央付近に散在する。土師器杯、須臾器杯、河床礫のほか、古墳時代前期の台付甕などが出土した。所見 出土遺物より8世紀後半と考えられる。

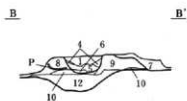
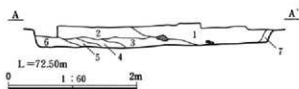
1. 住居



3号住居生活面



竈使用面

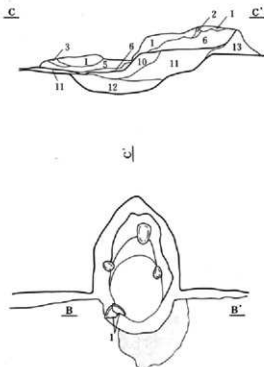


3号住居

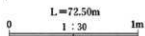
1. 暗褐色土。パミス・炭粒を少量、明褐色土・褐色土を均一に少量、南側を中心に径10cm程の礫を多量含む。
2. 暗褐色土。パミス・炭粒を少量含む。
3. 黒色土。炭粒・褐色土ブロックを少量含む。
4. 黒褐色土。径5mm程のパミスを少量含む。
5. 暗褐色土。径1mm程のパミスを少量含む。
6. 黒褐色土。径1mm程のパミスを少量含む。
7. 暗褐色土。パミスを微量含む。

3号住居竈

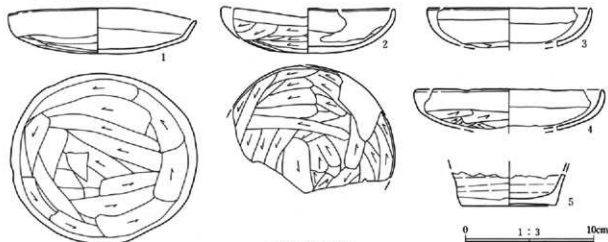
1. 黒褐色土。パミス・焼土粒を微量含む。
2. 黒褐色土。焼土粒をやや多量、パミスを微量含む。
3. 灰褐色土。やや粘質。パミスを少量含む。
4. 鈍い黄褐色土。粘質。粒子が細かい。天井の崩落。
5. 灰褐色土。しまりが強い。焼土粒を少量含む。
6. 鈍い黄褐色土。粘質。焼土ブロックを少量含む。天井の崩落。
7. 黒褐色土。パミス・焼土粒を微量含む。
8. 黒褐色土。しまりがやや弱い。パミス・焼土粒を微量含む。袖部。
9. 灰黄褐色土。粘質。しまりが強い。袖部。
10. 暗褐色土。灰をやや多量含む。
11. 暗褐色土。粘質。上面付近は被熱で硬化。焼土ブロックをやや多量含む。
12. 掘り方埋め土。
13. 2号住居埋没土。



竈掘り方



下増田常木遺跡



3号住居出土遺物

3号住居遺物観察表

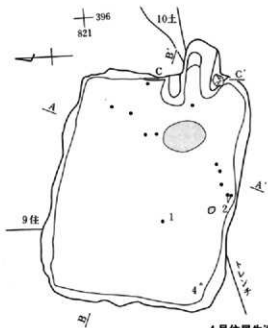
番号	種類	出土位置	計測値	①胎土 ③色調	器形、或・整形、文様等の特徴	残存状態 備考
1	土師器 杯	+6~10、 壺軸内	口径 14.7 底径 - 器高 3.6	①細砂、粗砂、軽石、 礫 ②良好 ③規5YR6/6	外面 □縁部横溝で、底部彫削り。 内面 □縁部~底部上半横溝で、底部下半横溝で。	ほぼ完形。
2	土師器 杯	埋没土	口径 (13.5) 底径 - 器高 3.5	①粗砂、白色灰物、 石英 ②普通 ③規5YR6/6	外面 □縁部横溝で、底部彫削り。 内面 □縁部横溝で、底部強で。	1/2残。
3	土師器 杯	+6、 埋没土	口径 (12.9) 底径 - 器高 3.0+	①細砂、粗砂 ②普通 ③規7.5YR4/6	外面 □縁部横溝で、体部彫削り後溝で、底部彫削り。 内面 □縁部横溝で、底部強で。	口縁~底部上 半1/4残。
4	土師器 杯	+22	口径 (14.6) 底径 - 器高 3.1+	①粗砂、白色灰物、 石英 ②普通 ③規赤褐色5YR4/6	外面 □縁部横溝で、底部彫削り。 内面 □縁部横溝で、底部強で。	口縁~底部上 半1/4残。
5	須恵器 杯	+32	口径 - 底径 7.3 器高 2.6+	①粗砂、礫、白色灰物、 石英 ①濃光輝 ②灰白2.5Y7/1	外面 体部輪軸整形、体部最下位右方向回転彫削り、底部 左回転彫削り。 内面 輪軸整形。	体部下半~底 部残。

4号住居(PL. 82-83-96)

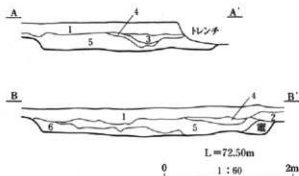
位置 815・820-395・400 重複 セクションにより9号住居→4号住居、15号土坑→4号住居、プラン確認により4号住居→10号土坑 形状 隅丸長方形、東壁は竈の北と南でラインが異なる。南側の上端はトレンチで破壊される。規模 3.76×2.87m 面積 8.9㎡ 方位 6° 床面 確認面より22cm下で床面となる。掘り方はなく、全体を平坦に掘り下げてそのまま床面とする。壺付近に焼土が分布する。壁溝 確認できなかった。竈 壁外に張り出す楕円状の掘り方を、黄褐色土と黒褐色土で埋め戻して

形状を整える。袖は粘質土で構築し、上端の長さが北67cm、南49cm残存する。南袖内ではビット内に河床礫を据えて芯材とする。焼土部は長さ75cm、幅25cmで壁付近に位置し、外部に向かって約5°の傾斜をもつ。焚き口付近の底面は灰が確認され、外部寄りの底面は被熱により一部赤化する。貯蔵穴 確認できなかった。柱穴 確認できなかった。遺物 東寄りに散在する。須恵器杯、土師器壺・台付壺、鉄滓が出土した。また、壺掘り方より土師器壺の破片が出土した。所見 出土遺物より9世紀と考えられる。

1. 住居

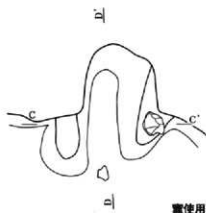


4号住居生活面

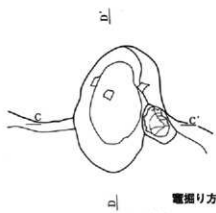
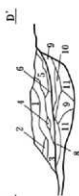


4号住居

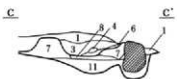
1. 黒褐色土。粒子が細かい。径2mm程のバミスを少量含む。
2. 黒褐色土。粒子が粗い。径2mm程のバミスを少量含む。
3. 黒褐色土。炭粒を微量含む。
4. 黒褐色土。粒子が粗い。炭粒・焼土粒を微量含む。
5. 黒褐色土。褐色砂質土ブロックを少量、径1mm程のバミスを微量含む。
6. 黒褐色土。



電使用面



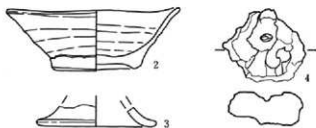
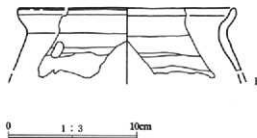
電配り方



4号住居跡

1. 灰黄褐色土。粒子が細かい。焼土ブロック・粒を微量含む。
2. 暗灰黄色土。粘質。
3. 灰黄褐色土。灰褐色土粒を少量含む。
4. 黒褐色土。

5. 暗灰黄色土。粘質。焼土ブロックを少量、径3mm程の炭化材を微量含む。
6. 黄褐色土。粘質。しまりが強い。下面に炭粒・焼土粒を少量含む。崩落した壱輪築土。
7. 暗灰黄色土。粘質。しまりが強い。袖部。
8. 黒褐色土。灰・炭化材を少量含む。
9. 赤褐色土。黄色のシルト質土中に被熱で硬化した赤色土ブロックをやや多量含む。
10. 鈍い黄褐色土。焼土ブロックを少量含む。
11. 黒褐色土。灰を少量、焼土粒を微量含む。



4号住居出土遺物

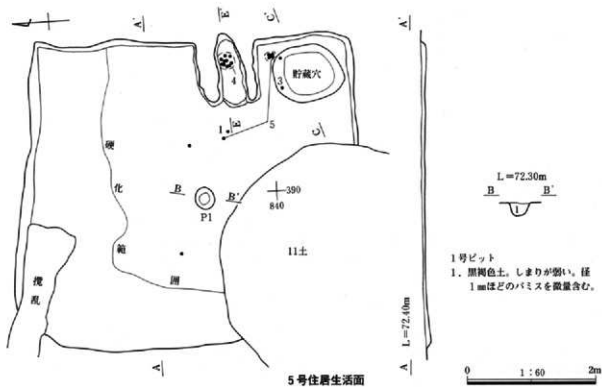
4号住居遺物観察表

番号	種別	出土位置	計測値	①胎土 ②焼成 ③色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状態 備考
1	土師器 甕	+31	口径 (17.0) 底径 - 器高 5.5+	①粗砂、白色胎物 ②普通 ③紺7.5YR4/6	口径が内湾しながら受け口状に立ち上がる。 外面 胴部左方向宛削り後口径~胴部最上位横撫で。 内面 口径部横撫で、胴部横方向撫で。	口径部~胴部 最上位1/6残。
2	須恵器 椀	+5	口径 (13.6) 底径 7.0 器高 5.1	①粗砂、緑 ②酸化塩気味 ③鈍い黄褐色10YR6/4	外面 体部離離整形、底部右回転未切削未調整、高台同縁貼付時の離な回転撫で。 内面 離離整形。	口径部~体部 1/2欠。
3	土師器 台付甕	龍甲没土、 9世紀没土、遺物外土	口径 - 底径 (9.4) 器高 1.5+	①粗砂 ②普通 ③紺5YR6/6	外面 横撫で。 内面 横撫で。	台部下平1/2 残。
4	鉄鉤形滓	+1	長さ 5.8+ 重量 101.5	幅 6.5 厚さ 2.7	底面・側面に砂付着。	一部欠。

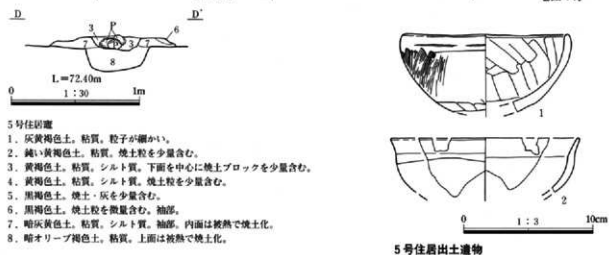
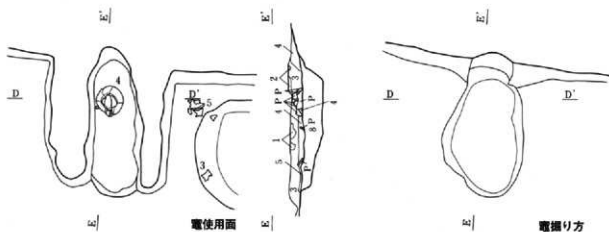
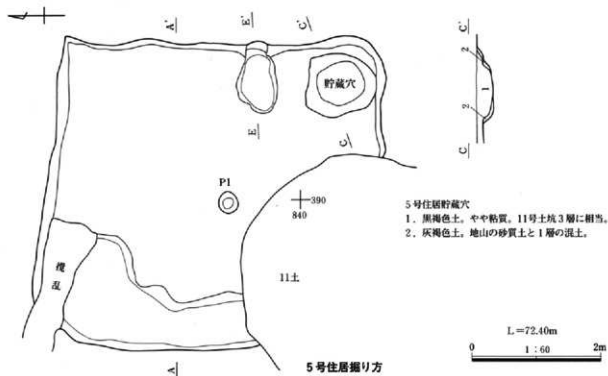
5号住居(PL. 83-95-98)

位置 835・840-385・390 **重複** セクションにより5号住居→11号土坑 **形状** 方形、南西は11号土坑に切られ、西壁は確認面と床面との差がない。**規模** 4.95×5.13m **面積** 18.0㎡ **方位** 2° **床面** 確認面より8cm下で床面となる。西壁沿いに深さ約10cm、全体に5cm前後の掘り方を設ける。硬化範囲内は概して掘り方が浅く黄褐色、範囲外は黒褐色を呈す。**壁溝** 確認できなかった。**竈** 東壁南寄りに設置する。上端が一部壁外にのびる楕円状の掘り形を設け、粘質土で形状を整える。袖は粘質土で構築し、上端の長さが北94cm、南93cm残存する。燃焼

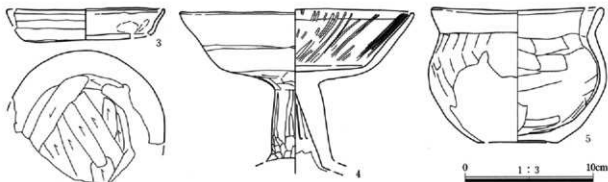
部は長さ105cm、幅31cm、深さ3cmで壁内に位置し、内壁は被熱により赤化する。壁寄りに裾部を欠いた高杯が逆位で出土し、支脚として利用されていたと思われる。**貯蔵穴** 南東隅に設ける。110×88×16cmの南北に長い楕円形で、貼り土等を施さずに掘り上げたまま使用する。埋没土は11号土坑と共通する。**柱穴** 中央付近に35×29×20cmのピットを1基検出した。1号掘立柱建物に伴う可能性も考えられる。**遺物** 竈の周辺に散在する。土師器高杯・杯・甕のほか、古墳時代前期の台付甕が出土した。**所見** 出土遺物より5世紀後半~6世紀前半と考えられる。



1. 住居



下増田常木遺跡



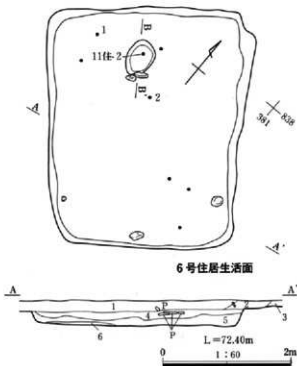
5号住居出土遺物

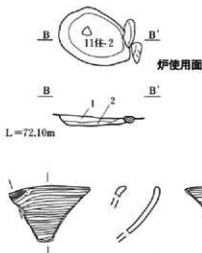
5号住居遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	①粘土 ②焼成	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状態 備考
1	土師器 杯	+3	口径 (12.9) 底径 - 器高 6.2+	①細砂、白色・黒色 灰物 ②普通 ③概7.5YR6/6	外面 体部縁で後口縁部横撫で後体部刷毛目、底部右方 向直削り。 内面 左上方向縁で後口縁部横撫で。 外面 口縁部横撫で。体部縁で。 内面 口縁部横撫で、体部横方向撫で。	1/4残。 口縁部～体部 上位1/4残。
2	土師器 杯	床面直上	口径 (14.7) 底径 - 器高 4.3+	①細砂 ②良好 ③明赤褐色2.5YR5/6	口縁部が強く内湾。 外面 体部縁で後口縁部横撫で、底部直削り。 内面 口縁～体部横撫で、指強直あり、底部縁で。	口縁～体部 1/2、底部1/4 欠。
3	土師器 杯	貯蔵穴一 6、 835-395	口径 (12.4) 底径 (9.8) 器高 2.6+	①細砂、白色灰物 ②普通 ③鈍い赤7.5YR5/4	外面 口縁部横撫で、杯体部下半横撫で、杯底部不定方 向指撫で、脚部縦方向撫で、脚部折部付近不定方向撫で。 内面 口縁部横撫で、杯体部横方向撫で後放射状直削り、 杯底部縁で、脚部直による絞り込み。	口縁～体部 1/2、底部1/4 欠。
4	土師器 高杯	電燈用直上、電 燈没土	口径 18.5 底径 - 器高 12.6+	①細砂、粗砂、礫 ②良好 ③概5YR6/8	外面 口縁部横撫で、胴部縦方向直削り後撫で、底部直削り後撫で。 内面 口縁部横撫で、胴部縦方向直削り後撫で、底部直削り後撫で。	脚部短欠。 1/2欠。
5	土師器 壺	床面直上 ～+3、 埋没土	口径 13.6 底径 6.2 器高 10.6	①粗砂、礫、石英、 白色灰物 ②普通 ③明赤褐色5YR5/8	外面 口縁部横撫で、胴部縦方向直削り後撫で、底部直削り後撫で。 内面 口縁部横撫で、胴部縦方向直削り後撫で、底部直削り後撫で。	1/2欠。

6号住居(PL. 84-98)

位置 830・835-380 重複 6号住居→1号土器
集積。土器集積は6号住居確認面より上位で検出。
形状 隅丸長方形 規模 3.82×3.28m 面積 9.9
㎡ 方位 -36° 埋没土 住居内堆積(4～6層)
が削られて1～3層が堆積。確認面は1層下面。
床面 確認面より34cm下で床面となる。掘り方はなく、
全体を平坦に掘り下げてそのまま床面とする。
南壁中央と、東壁南東隅付近に扁平な礎を据え置く。
壁溝 確認できなかった。炉 主軸付近の北壁寄
りに設置する。60×42×7cmの地床炉で、灰層を検
出した。炉石として、南の縁に細長の礎を据える。
貯蔵穴 確認できなかった。柱穴 確認できな
かった。遺物 土師器壺、土師器の様をもつ片口が
出土した。炉より出土の土師器壺破片は11号住居出
土遺物と接合。所見 出土遺物及び住居形態より
弥生時代後期～古墳時代前期前葉と考えられる。





6号住居

1. 黒褐色土。径1m程のバミスを少量含む。
2. 黒褐色土。
3. 暗褐色土。
4. 暗褐色土。やや粘質。しまりが強い。炭粒を不均等に少量含む。
5. 暗褐色土。やや粘質。しまりが強い。径5-20mmほどの炭粒をやや多量含む。
6. 暗褐色土。地山の砂質土をやや多量、炭粒を少量含む。

6号住居伊

1. 黒褐色土。シルト質。微細な炭粒をやや多量含む。
2. 黒褐色土。砂質土の多いシルト質土。灰・炭化物を多量、上面付近に焼土粒を少量含む。

6号住居出土遺物

6号住居遺物観察表

番号	種類	出土位置	計測値	①胎土 ②焼成 ③色澤	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状態 備考
1	弥生土器 片口	+12	口径 - 底径 3.7+ 器高 3.7+	①粗砂、白色炭物、石英 ②普通 ③褐7.5YR4/1	外面 口縁部磨擦で後縁方向密な艶磨き。 内面 口縁部磨擦で後縁方向密な艶磨き、赤採。	口縁~胴部破片。赤採。
2	土師器 壺	+9	口径 - 底径 5.6 器高 3.4+	①裸、粗砂、白色炭物 ②普通 ③鈍い褐7.5YR5/4	外面 胴部上方向刷毛目、底部艶磨り後推で。 内面 艶磨で。	胴部截下位~底部残。

7号住居(PL. 84-85-98~102)

位置 825~835・390~400 **重複** なし。**形状** 隅丸方形、東壁が外方に影らみ、北東隅が弧を描く。**規模** 7.66×8.25m **面積** (51.7)m² **方位** -9°**床面** 確認面より39cm下で床面となる。掘り方に粘質土で貼床を施すほかは、全体を平坦に掘り下げてそのまま床面とする。砂質で硬化部分はない。西壁から東壁に向かって10cmほど低くなる。**壁溝** 確認できなかつた。**炉** 中央やや東寄りに設置する。北半をトレンチで破壊されるが、残存部は長さ67cmで、深さ5cmほどの掘り方に黒色土を充填して炉面とし、炉石として南の縁に細長の礫を2石据える。炉石に被熱痕はなく、焼土や灰は検出されなかつた。**貯蔵穴** 確認できなかつた。**柱穴** 確認できなかつた。**掘り方** 中央東寄りの炉を含む位置に、南北に長い掘り方を設ける。深さは10cm前後だが、一部がピット状に深くなる。**遺物** 土師器壺・壺・鉢・高杯・器台、11号住居と接合する弥生土器壺破片、カナグムラ文の壺破片などが出土した。**所見** 出土遺物より古墳時代前期中葉と考えられる。



7号住居掘り方

1. 灰黄褐色土。砂質土と粘質土の混土。バミスを不均等に微量含む。
2. 暗灰黄色土。砂質。バミスを不均等に微量含む。
3. 黒褐色土。やや粘質。バミスを不均等に微量含む。